

本案内は、経済学部第3学年、第4学年の履修の方法、手続きと講義内容を記載したものです。

また、履修要項は、実際に適用される「学則」の運用について解説したものであり、学則に明示されていない細則もこの要項によります。学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を決定し、指定された期間に必ず申告してください。履修申告後の履修授業科目の変更・追加・取り消しは認められません。

本案内を読んでなお疑問や不明な点があれば、指定の日時・場所（掲示・塾生用 Web サイト参照）において学習指導主任または副主任より説明を受けることができます。

学習指導主任	教授	大沼	あゆみ
同 副主任	助教授	河井	啓希
同 同	助教授	駒形	哲哉

目 次

履修案内の配布に際して（経済学部長）	4
履修選択にあたって（三田学習指導主任）	5
学事関連スケジュール	6
一般注意事項	7
履修申告のしかた	14
1. 履修申告について	14
2. 外国語科目（選択必修）の事前登録について	14
3. 登録番号および分野について	14
4. 学事 Web システムによる履修申告について	15
学事 Web システムの利用方法	16
1. 学事 Web システムについて	16
2. 学事 Web システム操作上の注意	16
3. 学事 Web システムの操作説明	17
履 修 要 項	23
第 1 適用学則	23
1. 99 ～ 学則	23
2. 05 ～ 学則	23
3. 学則第 156 条	23
4. 学則第 188 条	23
5. 学則の移行	23
第 2 成績の評語	23
第 3 卒業所要単位・履修上限単位・進級所要単位	24
1. 卒業所要総単位	24
2. 履修上限単位	26
3. 第 3 学年における進級必要単位	27
4. 第 4 学年における卒業必要単位	27
第 4 開講科目と単位数	28
1. 総合教育科目	28
2. 基礎教育科目	28
3. 外国語科目	29
(1) 選択必修科目	29
(2) 外国語 における語種変更（外国語 ）	29
(3) 選択必修科目の事前登録	29
(4) 選択必修科目の事前登録決定後の履修本登録	30
(5) 選択必修科目のクラス未決定者	30
(6) 選択必修科目エントリーコード表（三田設置科目）	31
(7) 選択科目（選択 A）	31
(8) 必修科目（日吉設置）	31
4. 専門教育科目	31
(1) 基礎科目	31
(2) 基本科目	31
(3) 特殊科目	32
(4) 関連科目	33
5. 体育科目	33
6. 自由科目	33

第5	履修上の注意	34
	1. 分野	34
	2. 重複履修について	34
	3. 他学部・他地区設置科目の履修について	34
	4. 研究所・センター設置科目の履修について	35
第6	認定用紙および申告用紙について	35
第7	休学・留学・退学	36
	1. 休学（学則第 152 条）	36
	2. 留学（学則第 153 条）	36
	3. 退学（学則第 154 条）	36
	4. 退学処分（学則第 156 条・第 188 条）	36
講義要綱		37
	専門教育科目	39
	(1) 基本科目	39
	(2) 特殊科目	51
	（研究会）	72
	（研究プロジェクト）	85
	（プロフェッショナル・キャリア・プログラム（PCP））	86
	(3) 関連科目	92
	総合教育科目	96
	外国語科目	99
	(1) 外国語	99
	(2) 外国語	101
	（選択 A）	104
	研究所・センター設置科目	106
	(1) 教職課程	107
	(2) 言語文化研究所	113
	(3) メディア・コミュニケーション研究所	130
	(4) 体育研究所	130
	(5) 福澤研究センター	138
	(6) 外国語教育研究センター	141
	(7) 慶應義塾大学在外研修プログラム	143
	(8) 国際センター	145
	(9) 情報処理教育室	183
	(10) 知的資産センター	185

履修案内の配布に際して

経済学部長 塩澤修平

履修案内を配布するこの機会を利用して、三田で学ぶ経済学部の諸君にいくつか重要なメッセージを伝えておきます。慶應義塾大学経済学部における教育は、精緻な知的訓練と広範な議論を通じて、つねに変化する現実の経済社会を認識し評価する知性を磨くこと、を主要な目的としています。

その目的を達成するための、本塾経済学部の専門課程のカリキュラムは以下の点で他の大学を圧倒しています。第一は、中心的な核として設置されている科目群がきわめて充実しているということです。「慶應の経済」という伝統の中で定着してきた、理論・計量、歴史、政策の三つの領域は経済学部のカリキュラムの中心的存在であり、諸君の積極的な学習を待ち受けています。第二は、核となる科目以外にも様々な科目が用意されており、多様な学問が習得できるということも他の大学には見られない本塾経済学部の特長です。さらにいえば、このコアと多様性がうまくバランスしているということが、経済学部のカリキュラムの重要な特徴づけとなっています。そして、講義、研究会、PCP、研究プロジェクトといったさまざまな形態で、これらの科目が用意されています。

履修するにあたっては、こうした特長を十分に認識してください。コアとなる科目を集中的に学習するというのも可能であり、またコアとなる科目と学際的あるいは周辺分野の科目をほどよくバランスさせて学習するというやり方もあり得ます。どのような形の履修をするか、そこには学習する者の設計能力あるいは見識が問われているのです。履修の前には、自分が何を学びたいのか、どのような能力を身に付けたいのか、明確にしておく必要があります。それは、冷静に自分を見つめ、自分自身を分析することによってはじめて可能になるのです。

慶應義塾の建学の精神はいうまでもなく「独立自尊」です。長いようで短い三田の二年間でどのような学習をするのか、あるいはどのような研究を展開するのか、それは諸君の意志と意欲にかかっています。「慶應の経済」を卒業する人間として誇れるようになるか否か、そこには今この時点における諸君の選択が大きくものをいいます。そのことを良く考えて履修に臨んでください。

経済を学ぶためには、現実社会の中で何が解決されるべきかを見出す「温かい心」と、そうして見出された問題を解決する「冷たい頭」のどちらも必要だといわれています。諸君の一人一人が、その「温かい心」と「冷たい頭」をもち、気概に満ちながらもバランス感覚ある紳士淑女として社会に出ていかれるよう期待しています。

履修選択にあたって

三田学習指導主任 大 沼 あゆみ

この履修案内では、一般的な注意事項と履修の仕方に始まり、第3学年および第4学年の学生諸君の進級や卒業に必要な単位数が示されている。また、三田キャンパスにおいて設置されているそれぞれの科目の内容が簡潔に記されている。学生諸君が年度始めにあたってまずこの履修案内を熟読し、支障なく単位を取得する計画を立てて三田において充実した学習生活を送ることを期待している。

三田における学習プログラムは、10分野からなる基本科目および特殊科目・関連科目による専門教育科目を中心に展開され、さらに学習の利便性を考慮して総合教育科目や外国語科目も設置されている。経済学部が設置している基本科目と特殊科目は、経済学の伝統的な部分とその最新の動向とがともに学習できるように十分配慮されたものである。また学際的な内容を扱う科目も多く配置され、専門教育科目全体がカバーする領域は多岐に渡っている。

経済学部の三田設置科目は多様であるがゆえに、三田でどのような学習生活を送るかは学生諸君の自主的・積極的な学習計画にかかっている。学生諸君自らこの履修案内を熟読し、他の学生に同調するのではなく、各自の問題関心に照らして主体的な履修選択を行ってほしい。

残念ながら、例年履修上の不注意が多く、そのために単位を取得できないケースがあとを絶たない。進級および卒業の条件を正確に把握し、履修上の間違いや遺漏などのないように細心の注意をはかるべきである。この履修案内を読んでもなお疑問があれば、必ず学習指導担当者または学事センターの窓口において質問して疑問点を解消するように心がけてほしい。

三田における学生生活を真に充実させられるかどうかは、諸君自身の履修計画に大きく依存している。後で後悔することのないように、万全な履修選択を行うことを期待する。

平成18(2006)年度学事関連スケジュール

学事Webシステムパスワード変更締切	4月7日(金)学事センター
春学期授業開始	4月8日(土)
外国語選択必修科目授業開始	4月15日(土)
Webによる履修申告期間	4月14日(金)8時30分～ 4月15日(土)15時 17日(月)8時30分～15時
履修申告用紙による履修申告日	4月14日(金)学事センター前受付ボックス
開校記念日【休講】	4月23日(日)
授業料等納入期限(全納・春学期分納)	4月28日(金)
履修申告科目確認表送付(本人宛)	5月上旬(詳細後日掲示)
定期健康診断	5月上・中旬
履修申告修正受付	5月8日(月)～5月10日(水)(詳細後日掲示)
早慶野球戦	5月下旬
春学期末試験時間割発表	7月上旬(詳細後日掲示)
春学期補講日	7月10日(月)・11日(火)
春学期授業終了	7月15日(土)
春学期末試験	7月18日(火)～7月26日(水)
春学期末追加試験申込受付	7月中(詳細後日掲示)
夏季休業	7月27日(木)～9月21日(木)
春学期末追加試験	8月3日(木)・8月4日(金)
三田一斉休暇	8月9日(水)～8月15日(火)
春学期学業成績表送付(保証人宛)	9月中旬
秋学期授業開始	9月25日(月)
授業料等納入期限(秋学期分納)	10月31日(火)
早慶野球戦	10月下旬
秋学期補講日(1)	11月21日(火)午前
三田祭(準備・本祭・片付けを含む)【休講】	11月21日(火)午後～11月27日(月)
休学願提出期限	11月30日(木)
冬季休業	12月23日(土)～1月5日(金)
三田一斉休暇	12月28日(木)～1月5日(金)
授業開始	1月6日(土)
秋学期末試験時間割発表	1月上旬(詳細後日掲示)
福澤先生誕生記念日【休講】	1月10日(水)
秋学期補講日(2)	1月16日(火), 18日(木)
秋学期授業終了	1月22日(月)
秋学期末試験	1月23日(火)～2月5日(月)
秋学期末追加試験申込受付	1月中(詳細後日掲示)
福澤先生命日	2月3日(土)
春季休業	2月上旬～3月下旬
秋学期末追加試験	2月下旬(詳細後日掲示)
卒業者発表	3月9日(金)
学業成績表送付(保証人宛)	3月中旬
卒業式	3月23日(金)

(注1) 印の期間には学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。

(注2) 事情により日時・教室等は変更があり得ますので、掲示板等に注意してください。

一般注意事項

学生証（身分証明書）

1. 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦4cm、横3cm カラー光沢仕上げ、3ヶ月以内に撮影されたもの）1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により、当日発行できないこともありますのでご了承ください。学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料2,000円が必要です。
4. 返却
再交付後、前の学生証が見つかった場合や退学・卒業などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

掲示板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて西校舎正面入口の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が不利益を被ることもあります。
なお、他学部設置科目を履修した場合はその科目を設置している学部の掲示板を、他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を確認してください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については共通掲示板にも注意してください。
2. 主な掲示事項は、授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各種試験の実施要領、学事日程、呼出し等です。
休講・補講、呼出しについてはインターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話により学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) においても確認できます。
また、定期試験の実施要領、各種発表・通達の一部については塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) において確認できます。
3. 研究会に関する掲示は、西校舎地下2階掲示板を利用してください。

試験・レポート・成績

定期試験はもとよりレポート・授業中に行われる小テストにおいても、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には、不正行為とみなされ学則第188条により厳しく処分されます。このようなことが絶対ないように学生諸君の自戒を強く要望します。

1. 定期試験
定期試験は、学期末に行われます。試験時間割や注意事項は、掲示により発表します。定期試験の時間割は授業の時間割と異なります。
春学期末：7月18日（火）～26日（水）実施（春学期に終了する科目および通年科目の中間試験が対象）
秋学期末：1月23日（火）～2月5日（月）実施（秋学期に終了する科目および通年科目が対象）

試験に関する注意事項

定期試験の振鈴時間は、三田と日吉で異なりますので注意してください。

受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。

答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。

学生証を必ず携帯し、提示してください。

試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証（発行当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可）の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。

学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。

仮学生証発行手続きにより、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。

答案用紙の担当者および科目名並びに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がない場合、成績はつきません。

試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるもの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのかは、本人の判断に依ります。電車遅延等により遅刻をしても試験開始20分以内で入室した場合は追加試験の対象となりません。また、試験時間の延長もありません。

試験開始後の体調不良などの場合で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2. 平常試験（授業内試験）

随時授業時間内に行われます。

3. 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等、やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった科目に対して行うものです。ただし、外国語科目、演習科目、体育実技、その他定期試験期間中に定期試験を行わず、レポート・平常点・授業内試験等により評価の定まる科目、ならびに研究会については行いません。

他学部設置の授業科目を履修した場合、その実施の有無を含めて取扱いは当該学部の方針によります。他学部・研究所が設置主体である併設科目についてもこれに準じます。

追加試験の申請には、試験欠席の理由を明示できる医師の診断書（加療期間の明記されたもの）、電車の事故（遅延）証明書、あるいは学習指導担当教員の受験許可書のいずれかが必要です。詳細は、定期試験時間割発表の際に掲示します。

日吉において履修した授業科目の追加試験の申請は、所定の手続きを日吉で行う必要があります。なお、試験場は原則として日吉になります。

定期試験では、授業時間割と異なる時間割で試験が行われますが、試験時間が重複することがあります。その場合の追加試験取扱いは、定期試験時間割発表時の掲示を確認のうえ、手続きをしてください。ただし、三田と日吉の試験が重複した場合は、原則として三田の試験を追試とします。

以上の手続きを怠って試験を受けても無効です。

なお、定期試験期間中、当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験が認められません。

その他、履修要項も参照してください。

4. レポート

三田では、レポートが最終試験と同様に取り扱われますので、提出にあたっては次の手続きを厳守してください。

(1) 指定された日時に、指定された場所に提出してください。特に学事センターでは、指定日時以外は一切受け付けませんので掲示で確認してください。

学事センターレポートボックス受付時間

火・水曜日、木・金曜日…… 8時45分～16時45分

受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

休業期間中は土曜日の受付は行いません。

(2) 学事センターへの提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターおよび西校舎内の掲示板前に備えてあります。

(3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

5. 成績通知

春学期終了科目は9月中旬、それ以外の科目は3月中旬に保証人宛に学業成績表を発送し成績を通知します。それ以前には一切通知しません。なお、成績証明書に取得した科目の成績が記載されるのは、翌年度の4月以降となります。ただし、卒業決定者の証明書については申請方法を1月に掲示します。

6. 評点の疑義について

経済学部では、評点の疑義についての問い合わせがある場合、科目設置地区の学事センターで質問用紙（所定用紙：学事センター設置）にて受け付けます。この他の方法では一切受け付けません。（科目担当者が個別には対応しません）詳細は掲示を確認してください。

諸 届

以下の事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・就学届・退学届（p.36 参照）

「病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には、保証人連署の上願い出で必要の期間休学することができる。」

（学則第152条）

「休学の事由が消滅したならば、休学者は速やかに就学届を提出しなければならない。」（学則第152条）

「病気その他の事由により退学したい者は、保証人連署の上退学届を提出しなければならない。」（学則第154条）

2. 国外留学申請（p.36 参照）

「本大学が教育上有益と認めるときは休学することなく、外国の大学に留学することを許可することがある。」（学則第153条）

3. 住所変更届（本人・保証人）・保証人変更届・改姓（名）届

各届とも所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センター窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。なお、郵便および電話による届け出は受け付けません。

必要書類（所定用紙は学事センターにあります）

住所変更届：在学カード

保証人変更届：変更届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、保証人住民票

改姓（名）届：改姓（名）届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、戸籍抄本、学生証再交付願

また、学生総合センター-学生生活支援窓口へ提出する「学生カード」に新住所等を記入しても、正式な届け出とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

各種証明書

証明書の発行、申込み、受取、いずれの場合でも学生証が必要です。授業料等が未納の場合、すべての証明書が発行できません。

1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書（和文）

証明書	発行開始日	発行手数料（1通あたり）
在学証明書	4月3日12時30分～	200円
成績証明書	4月3日12時30分～	200円
卒業見込証明書	5月8日～	200円
卒業見込付成績証明書	5月8日～	400円
履修科目証明書	6月1日～	200円
学割証	4月3日12時30分～	無料
健康診断証明書	6月中旬（年度末まで）	200円

料金は改定されることがあります。

稼働時間

学事センター事務室内発行機：学事センター事務取扱い時間内

南校舎1階設置発行機：9時～20時〔休日、大学休業日および授業期間外の土曜日は除く〕

メンテナンス、故障等により、証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し、あらかじめ早めに準備してください。

学割証（JR各社共通学校学生生徒旅客運賃割引証：片道101km以上の区間を乗車または乗船する場合は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内（有効期限内でも離籍した場合は無効）。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお、定期健康診断を未受診の場合には、学割証の発行はできません。

各種証明書等で厳封を必要とする場合には、学事センターに申し出てください。（自動発行機で発行した証明書は厳封できません。）健康診断証明書は6月中旬以降、定期診断受診者を対象に発行されます。

なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、保健管理センター三田分室受付に相談してください。

2. 学事センター窓口で即時発行する証明書（英文）

証明書	発行開始日	発行手数料（1通あたり）
英文在学証明書	4月3日12時30分～	200円
英文卒業見込証明書	5月8日～	200円
英文成績証明書	4月3日12時30分～	200円

料金は改定されることがあります。

2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。その他の学生については従来どおり窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で一度英文証明書の申請・交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

3. 学事センター窓口で申し込み、日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等（例：司法試験用単位取得証明書、英文履修科目証明書、他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては、余裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお、交付には和文書類は申請後標準3日、英文書類は申請後標準1週間日数を要します。

教室使用申請について

1. 受付窓口

	利用者		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	学事センター	学生総合センター-学生生活支援	管財部管財課
休業期間	学事センター	使用できません	管財部管財課

2. 授業期間中の教室使用申請

(1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。

(2) 学生団体の場合は、学生総合センター-学生生活支援窓口にて「学内集会届」を提出してください。

(3) 申請は使用予定日の2週間前から3日前まで受け付けます。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期

間を除いた3日前とします。

(注)土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として使用できません。

- (4)「申請者控」は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。
- (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。

3. 休業期間中の教室使用申請

(1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄(3枚複写の3枚とも)に研究会担当教員の印またはサインが必要となります。

(2) 学生団体は原則として、使用できません。

(3) 申請は使用予定日の3日前まで受け付けます。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。

(注)土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中(8月中旬および年末年始)は原則として使用できません。

(4)「申請者控」は、学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。

(5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。

学事センターの窓口

1. 学事センター事務取扱時間

月～金曜日……8時45分～16時45分

土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

事務取扱時間を変更する場合は、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

2. 窓口業務

(1) 学籍・成績・履修に関すること

(2) 授業・試験・レポート等に関すること

(3) 時間割に関すること

(4) 休講・補講に関すること

(5) 追加試験の申込み

(6) 休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓(名)届等

(7) 学生証の発行

(8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行(和文はおもに証明書自動発行機)

(9) 公認会計士・司法試験等受験のための単位取得証明書の発行

(10) 教室に関すること(ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います)

(11) 通学証明書の発行

落とし物、学生カード提出は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います。

教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

専門科目担当専任教員(教授・助教授・専任講師)……研究室(三田研究室棟または南館)

日吉専任教員および塾外からの出講者(講師)……教員室(南校舎2階)

(注)授業期間終了後に塾外からの出講者(講師)と連絡をとることはできません。学事センターで仲介、連絡等は行いません。

学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

学生生活支援

教室等の使用申込み受付

公認学生団体が会合のために教室を使用したい時は、使用希望日の3日前(休日を除く)までに申し込んでください。休日・試験期間中・休業期間中の使用はできません。(「教室使用申請について」も参照)

使用できる時間は次のとおりです。

月～金曜日 9:00～20:00

土曜日 9:00～18:00

音楽団体指定時間 平日 18:10～20:10

土曜日 13:00～18:00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室A・Bと音楽練習室がありますので、使用したい場合は学生生活支援窓口

に問い合わせてください。

山食・西校舎学生食堂ホール・北館学生食堂の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食や西校舎学生食堂ホール・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生生活支援窓口で使用申込みをし、予約してください。さらに、予約後2週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合は予約は取り消されますので注意してください。なお日曜日・祝日は利用できません。

学外行事届の受付

公認学生団体や研究会で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前までに届け出てください(学生教育研究災害傷害保険の項参照)。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。

合宿等で団体割引が必要な場合についても学生生活支援窓口で受け付けています。

組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続を行うことはできません。公認申請の詳細については学生生活支援窓口にご自分で問い合わせをしてください。

学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、場所等の指示を受ける必要があります。

備品使用申請の受付

公認学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前までに申請してください。

郵便物の取扱い

外部から送付される各公認学生団体宛の郵便物は、学生生活支援窓口備え付けのメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむをえず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前までに申請してください。

学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人での利用ができます。開室時間は8:45~21:00です。室内での飲食はできません。

伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。

その他

学生総合センター「大学生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生生活支援窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生生活支援の受付窓口で取り扱っています。

奨学金

学生生活支援窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

慶應義塾大学奨学金〔給費〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾大学特別奨学金〔給費〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

日本学生支援機構奨学金〔貸費〕

4月中旬に出願受付を行います。第一種(無利子)と1999年度から設置された、第二種(きぼう21プラン)(有利子)があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用(第一種)・応急採用(第二種)があります。

地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

指定寄付奨学金〔給費〕

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

奨学融資制度〔利子給付奨学金付き学費ローン〕

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借り入れに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は学生生活支援窓口までお問い合わせください。

学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので、口座登録が必要です。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月 20 日に、入院は翌々月 20 日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で 1 か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の 3 点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4 か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月 20 日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配布した「健保の手引き」(学生総合センター窓口にも置いてあります)をご参照ください。

就職・進路支援

就職担当は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG 情報などを、南校舎地下 1 階の就職担当事務室、1 階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職担当のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として 3 年生を対象に、10 月から 2 月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OG や内定者によるパネルディスカッションなどを開催しています。

就職担当は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3 年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職担当を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室(西校舎地下 2 階)

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります(電話予約可)。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。

また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

学生総合センター窓口取扱時間

学生生活支援、就職・進路支援

月～金曜日…… 8 時 45 分～16 時 45 分 都合により閉室することがあります。

土曜日……閉室

学生相談室

月～金曜日…… 9 時 30 分～16 時 30 分

土曜日……閉室

昼休み……11 時 30 分～12 時 30 分

学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業(総称して以下「授業」といいます)を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングラライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人(被保険者)の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるよう、ゼミ合宿を学外で行う場合、および学内学生団体が

学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は、(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に、「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先：(株)慶應学術事業会 Tel. 03-3453-6098，慶應生活協同組合 Tel. 045-563-8489

学生カード・大学に対する要望カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません。）

次に従って提出してください。

1. 提出学年

3・4年（文学部は2・3・4年）

2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生生活支援窓口

3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも、後日必ず学生生活支援窓口に出してください。）

大学に対する要望カードは、大学における今後の研究・教育・学生生活において、改善のための参考に資するものです。諸君がこれまでの学生生活の中で、教育一般・カリキュラム・課外活動・施設・その他感じたこと、思ったことで大学に対する要望がありましたら、学生カードに連なる同カードに記入し、学生生活支援窓口に出してください。

定期健康診断について

定期健康診断は、学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。

学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので、必ず受診してください。

未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

履修申告のしかた

1. 履修申告について

(1) 履修申告方法について

学事 Web システムを使用して下記の日程で申告を行います。学事 Web システムによる履修申告を行うと、即時にエラーチェックおよび学則による履修判定が行われ、メッセージが表示されます。(科目を選択せずに登録ボタンを押すと、昨年度までの取得状況による学則判定が行われ、卒業単位に不足している科目がわかります。)ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください。

やむをえない場合は履修申告用紙で申告できますが、Web 履修申告と併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

(2) 履修申告上の注意

履修申告にあたっては、学業成績表(保証人宛に送付済)にて、取得した科目を確認し、「履修申告のしかた」(本項)および「履修要項」(次項)を熟読のうえ、申告してください。特に、誤登録・申告漏れ等によって不都合が生じることがないように(進級・卒業に影響する場合があります)十分に注意してください。

原則として、申告期間後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録後、登録科目一覧画面を印刷、あるいは履修申告用紙をコピーし、時間割とともに控えとして保管してください。

期日までに申告しない場合は、修学の意志がないものとして退学処分となる場合があります(学則第 188 条)。

(3) 学事 Web システムによる申告日程

期間 4月14日(金) 8:30 ~ 4月15日(土) 15:00, 17日(月) 8:30 ~ 15:00

(毎日 4:00 ~ 5:00 はメンテナンスのため稼働を停止します。)

期間中は何回でも履修科目の修正が可能です。

やむをえず履修申告用紙により申告を行う場合(理由を問う場合があります)

用紙提出日 4月14日(金) 学事センター前受付ボックス

(4) 履修に関する疑問点、その他については履修申告の前日までに、学習指導担当または学事センターに問い合わせてください。

(5) 履修申告科目確認表は 5 月上旬本人宛に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題(登録番号ミスによる申告漏れ、科目間違い等)については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間(詳しくは掲示により指示します)とし、この期間経過後は確認が終了したものとみなします。

(6) 時間割は変更されることがありますので、掲示で確認のうえ申告してください。

(7) 登録されていない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。

2. 外国語科目(選択必修)および一部の専門教育科目の事前登録について

外国語科目(選択必修)および一部の専門教育科目については、履修申告の前に事前登録(p.29 参照)が必要です。事前登録を怠ると履修できませんので十分注意してください。

3. 登録番号および分野について

(1) 授業科目名、担当者名と登録番号(5桁)を十分確認してください。

(2) 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義、実験を伴う科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、1か所の登録番号を登録することで、全ての時限についても登録されます。

ただし、他学部、諸研究所、センター等と併設している科目については、それぞれに登録番号が付いていますので経済学部の時間割で登録番号を確認してください。

(3) 履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合と、各自分野を選択しなければならない場合(申告の際は2桁のB欄分野番号を登録)があります。他学部設置の専門教育科目を履修する場合などは、2桁のB欄分野番号を登録しなければなりません。第3「卒業所要単位・履修上限単位・進級所要単位」(p.24)および第5「履修上の注意」(p.34 参照)を確認してください。

<登録番号のみ申告する科目（履修申告用紙では「A欄」）>

経済学部1～4年（三田・日吉）設置の授業科目（経済学部設置関連科目を含む）
「全学部共通外国語科目履修案内（三田）」に掲載の外国語科目（他学部設置科目を含む）
経済学部の時間割に掲載の諸研究所・センター等設置科目 （言語文化研究所，メディア・コミュニケーション研究所，体育研究所，外国語教育研究センター，国際センター， 情報処理教育室，知的資産センター）
教職課程センター設置科目

<B欄分野を申告する科目（履修申告用紙では「B欄」）>

他学部設置の授業科目（ を除く）
他学部設置の総合教育科目を自由科目で履修する場合
重複履修の科目を自由科目で履修する場合
メディア・コミュニケーション研究所の研究生は，履修上限外で履修する同研究所のオープン科目
教職課程登録手続者は，教育免許取得のために履修上限外で履修する他学部設置の授業科目（ を除く）

4. 学事 Web システムによる履修申告について

操作方法・操作上の注意は次項「学事 Web システムの利用方法」を参照してください。

やむをえない理由で履修申告用紙（マークシート）により履修申告を行う場合について

履修申告用紙記入の際は，以下の点に注意してください。なお，Webシステムによる申告が行えない理由を問う場合があります。

- (1) HB か B の鉛筆を使用してください。誤記，記入漏れがないように，丁寧に記入してください。特に，「0」と「1」のマークミス等に注意してください。
- (2) 学籍等の記入方法
学部，学年，組，氏名，学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに，該当する数字をマークしてください。（学科および専攻の欄の記入は不要です。）
- (3) A 欄記入上の注意事項
形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を で囲み，曜日・時限を記入します。
科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は，時間割上段に記載されている教員名を記入します。
登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し，マークします。
- (4) B 欄記入上の注意事項
形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を で囲み，曜日・時限を記入します。
科目名・教員名を記入します。
登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し，マークします。
分野欄：第 3「卒業所要単位・履修上限単位・進級所要単位」より 2 桁の B 欄分野番号を記入し，マークします。
- (5) 「無効マーク」（A 欄・B 欄に共通）にマークすると，その枠内について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが，跡が残ったり，黒くこすれたりした場合は，この「無効マーク」を利用してください。
- (6) 履修申告用紙の再交付について
無効マーク欄を使用して無効にしても訂正し切れない場合は用紙を交換しますので，その履修申告用紙を持参のうえ，学事センターに申し出てください。
交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

学事 Web システムの利用方法

1. 学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) について

学内のパソコンからは無論のこと、自宅などからでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認、休講・補講情報の確認などができます。

学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間使用することになります。全て個人管理になるので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の 5 つの機能があります。

履修申告

登録済科目確認

休講・補講情報

パスワード変更

受付確認メールの送付先アドレス変更

学生呼出情報

また、携帯電話では、休講・補講情報の確認、パスワード変更、学生呼出情報の確認が可能です。

... 注 意 ...

学事 Web システムは、4 月 3 日 (月) から休講・補講情報の確認ができます。必ず 4 月 7 日 (金) までにログインできることを確認してください。

もし**学事 Web システムのパスワード**を忘れてしまった場合には、4 月 7 日 (金) までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。(2005 年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合、2006 年 3 月に送付した学業成績表に印字されています。)

また、学内のパソコンを利用するための **Windows パスワード**を忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター (ITC: 大学院棟地階) で変更申請の手続きを行ってください。

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは異なりますので注意してください。

学事 Web システムのユーザー名: 学籍番号 Windows アカウントのユーザー名: f*****

2. 学事 Web システム操作上の注意

複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。

学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には [更新] ボタンを押してリロードしてください。

学事 Web システムは 30 分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。

ブラウザの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押ししたり、30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。

氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。

学事 Web システムは、各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わないと、ログインできない場合があります。

各種設定方法については、学事 Web システムのブラウザ用トップページ (http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html) からのリンクを参照してください。

3. 学事 Web システムの操作説明

(1) 履修申告

学事 Web システムを利用しての 2006 年度の履修申告期間と学事 Web システムの URL は以下の通りです。

履修申告期間：4 月 14 日(金) 8:30 ~ 15 日(土) 15:00, 17 日(月) 8:30 ~ 15:00

(毎日 4:00 ~ 5:00 はメンテナンスのため稼働を停止します)

学事 Web システムの URL <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割が変更される場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締め切りまでに再申告(申告の修正)を行ってください。

学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし [ブラウザー用] をクリックしてください。履修申告は「Internet Explorer」や「Netscape Navigator」などの標準ブラウザーを使用してください。携帯端末からは操作できません。



学事 Web システムブラウザー用トップページ

学事 Web システムの操作方法(特にログインできない場合などの説明)や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。



ログイン

「ID(学籍番号)」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。

画面がうまく表示されない場合は、前述の画面の「ログインできない時は」のリンク先で、ブラウザーの設定方法等を確認してください。

この画面以降ブラウザーの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

複数のブラウザーを起動して同時にログインしないでください。



トップメニュー画面

「メールアドレス登録・変更」から履修申告後に送信される受付確認メールの送信先の登録・変更ができます。アドレスを確認してください。履修登録後に自動送信される受付確認メールの宛先となります。必要に応じ確認できるメールのアドレスを登録してください。変更する場合には、新たに登録するメールアドレスを2箇所入力(再入力欄にも同じものを入力)し,[登録]ボタンをクリックしてください。

【注意】

メールアドレスの登録間違いにより、受付確認メールが届かないケースが多発しています。

学事 Web システムには大学配付のメールアドレス(*****@mita.cc.keio.ac.jp 等)を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は転送設定を利用してください。

メールアドレスのユーザー名(例:「*****@mita.cc.keio.ac.jp」の*****の部分)は変更できません。またユーザー名(例:「*****@mita.cc.keio.ac.jp」の*****の部分)のみ登録しても届きません。



履修申告メイン画面

[履修申告]ボタンをクリック後,[Webによる履修申告上の注意]をクリックし,必ず注意文を熟読してください。その後,[履修申告メイン画面へ進む]ボタンをクリックしてください。



科目の選択

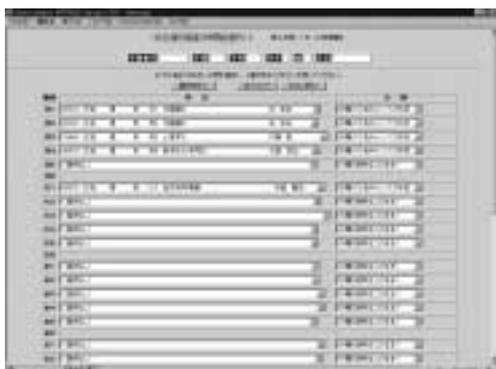
(a) と (b) の 2 通りの方法で科目の選択ができます。

(a) 時間割から科目を選択する場合

履修申告メイン画面で,[時間割から選択]ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから,[時間割から選択]ボタンをクリックしてください。(初期設定では,所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています。)

科目選択画面(時間割選択)が表示されますので,曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。

他学部の科目を履修する場合など,B欄分野を選択しなければならない場合は前項「履修申告のしかた」の「3.登録番号および分野について」をよく読んでください。選択が完了したら,[選択を終了]ボタンをクリックしてください。



(b) 登録番号から科目を選択する場合

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面（登録番号）が表示されますので、時間割表に記載されている5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、科目情報 欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に[選択を終了] を押ししてください。

他学部の科目を履修する場合など、B欄分野を選択しなければならない場合は前項「履修申告のしかた」の「3. 登録番号および分野について」をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。



(a) (b) の手順は、連続して行うことができます。

「すでに登録されています」と表示される「研究会」については過年度分です。新学年分の研究会は新たに登録しなければなりません。

「すでに登録されています」と表示される外国語選択必修科目は、事前登録により決定した科目です。

同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度[選択を終了] を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

選択した科目の確認

で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。ただし、[登録] ボタンを押すまで有効になりません。（各科目の右端の 状態 欄に「未登録」と表示されています。）



選択した科目を取り消す場合

の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。ただし、[登録] ボタンを押さなければ完全に削除されません。

選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の [登録] ボタンを押してください。

（選択）および（取消）で行った内容はこの [登録] ボタンを押すまで有効になりません。

登録結果表示の確認

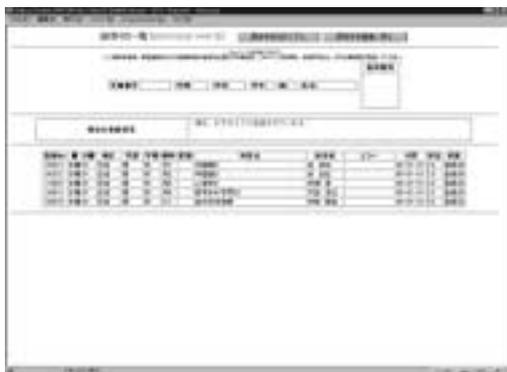
[登録] ボタンを押すと、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。各科目の「エラー」の欄にメッセージが表示されていないか確認してください。（エラーメッセージの詳細については、の「履修申告メイン画面」のSTEP 2の右側にある [エラーの詳細説明] をクリックし、参照してください。）

次に、各科目の右端の「状態」欄が「登録済」と表示されていることを確認してください。「状態」欄が「保留中」と表示されている場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録です。エラー内容を確認し登録し直してください。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。

さらに、上部の「現在の登録状況」に必要な条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合は登録し直してください。この画面を控としてプリントアウトしておくことをお勧めします。

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、からの手続きを再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。

ここで Web ブラウザーを終了しないでください。(ブラウザの右上の×印をクリックして閉じないでください。)



受付確認メール

[登録] ボタンを押した後、正常にログアウトする際、で登録されているメールアドレスに受付確認メールが自動送信されます。

でメールアドレスの登録を行っていない場合は、今回の受付確認メールのみの一時的な送信先を指定できる画面が表示されますので、メールアドレスを入力し [指定する] ボタンを押してください。受付確認メールの送信先が表示され、そのアドレス宛に送信されます。メールアドレスの間違いにより受付確認メールが届かないことがあります。入力する際は注意してください。(この場合、メールアドレスは登録されません。)

今回のみの一時的な指定を行わずで登録を行っているメールアドレスに送信する場合は、[指定しない] ボタンを押してください。

なお、Web メール等を使用した場合、受付確認メールが文字化けすることがあります。他のプロバイダーのアドレスを指定するか大学配付のアドレスを指定してください。また、携帯電話のメールアドレスを指定すると正しく送信されない場合がありますので、使用を避けてください。

ログアウト

[ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

(2) 登録済科目の確認

履修申告で登録された科目は、4月20日(木)9:00(予定)より、学事 Web システムを利用して再度確認することができます。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述(1)の(トップメニュー画面)までは、同様の操作です。画面上の[登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

(3) 休講・補講情報の確認

学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を確認することができます。またこのサービスは、携帯電話からも同様に見ることができます。

ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。

代替講義日の休講は、通常講義と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので、塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) および科目設置の各キャンパスの掲示板で確認してください。

[ブラウザー編]

(1) の から までを参照して、学事 Web システムにログインしてください。

(1) の の画面 (トップメニュー画面) から [休講補講情報] ボタンをクリックしてください。

自分の履修科目、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンをクリックしてください。



休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された (したがって通常通り実施する) 科目 となりますので注意してください。確認後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

[携帯端末編]

学事 Web システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の画面から入力し、(1) の の画面上で [携帯端末用メニュー] を選択してください。以後、Web 休講・補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL をブックマーク等に登録しておくくと便利です。(詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください)

[サーバー 1] もしくは [サーバー 2] のどちらかを選択してください。選択は任意です。[i-mode 専用] もしくは [i-mode 以外の携帯端末] のいずれかを選択してください。

「学籍番号」と (1) で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。

この画面から [休講情報] [補講情報] ボタンを押してください。

自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から 1 週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

(4) パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

前述 (1) の の画面 (トップメニュー画面) から、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を 2 箇所入力後 (再入力欄にも同じものを入力する)、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください (大文字 / 小文字を区別します)。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に、学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。



経済学部

履修要項

第 1 適用学則

1 99～学則

2006 年度第 3・4 学年に在籍するすべての者に適用される学則を示します。(2006 年度学士入学者にも適用されます。)

2 05～学則

2005 年度以降に第 1 学年に入学した者、2006 年度に第 2 学年に編入学した者に適用される学則を示します。

3 学則第 156 条

4 年間で第 3 学年に進級し得ない者および第 3・4 学年併せて 4 年在学し卒業し得ない者は退学処分となります。

なお、学則が移行された場合でも在学年数等は通算されます。

また、休学・留学の期間は在学年数に含めません。

4 学則第 188 条

大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには退学処分となります。

5 学則の移行

(1) 2004 年度以前入学者(99～学則適用者)の適用学則は、以下のとおり 2005 年度以降入学者用適用学則(05～学則)に移行します。

・2006 年度末において第 1・2 学年にとどまった場合、2007 年 3 月末日をもって移行します。

・2008 年度末において第 3・4 学年にとどまった場合、2009 年 3 月末日をもって移行します。

休学および留学を予定している者は、就学時に適用される学則について留意が必要です。

99～学則により原級にとどまった者が、05～学則移行により進級・卒業に必要な条件を満たす場合がありますが、この場合でも原級にとどめるものとし、別途履修についての指示がなされます。

(2) 学則の移行が行われる際に、取得済みの科目を 05～学則用の科目に読み替えます。読み替え等の詳細は移行時に通知します。

第 2 成績の評語

1. 評語について

履修申告しながら定期試験を受験しなかった科目や途中放棄した科目には「D(不合格)」の評価がつけます。2003 年度より、従来の「放棄(未受験:)」は廃止されました。ただし、2002 年度以前の成績評語の修正(D)は行いません。

学則第 70 条に基づき、成績の評語は、「A・B・C・D」とし、「A・B・C」は合格、「D」は不合格となります。ただし、体育科目のうち「体育実技 B」に関しては、その評語を「P・F」とし、「P」は合格、「F」は不合格となります。

2. 追加試験の評語について

2006 年度より、追加試験による成績評語は、定期試験の場合のその一段階下の評語となります。(ただし、定期試験の時間割が重複した場合、電車の遅延が証明された場合、公認会計士試験のような国家試験の受験を理由とした場合、文部科学省が指定する学校伝染病にかかり、出席停止期間が明示された診断書を用意した場合、二親等以内の葬儀の場合、その他学習指導が特に認めた場合はこの限りではありません。)

1 卒業所要総単位

学士入学者の卒業必要単位数等については別途指示します。

履修すべき 学年	種類	(詳細)	分野	科目名(単位)	最低必要単位		卒業必要 単位 (種類毎)	卒業単位 認定科目		
1	2	3	4							
	総合教育科目 (P28)	系	10-20-01	[自然・数理系](2または4)	6	4	20			
			10-20-11	[自然・数理系(生物・物理・化学)](6)						
		系	10-20-02	[人文・社会系](2または4)	10					
			10-20-03	[総合・関連系](2または4)						
			10-20-13	[総合・関連系(自由研究セミナー)](2または4)						
	基礎教育科目 (P28)	履修 タイプ	必修	20-20-07	微分積分(2)	2	10			
				20-20-08	線形代数(2)			2		
				20-10-01	統計学(2)統計学(2)			4		
			選択必修	20-21-01	情報処理(2)			2		
				20-21-02	情報処理(2)					
			選択	20-30-01	日本経済の現状と問題(2) 世界経済の現状と問題(2)			2		
		20-30-03		情報処理(2)						
		20-30-04		微分積分演習(1)						
		20-30-05		線形代数演習(1)						
		20-30-11		微分積分入門(2)線形代数統論(2)						
		履修 タイプ	必修	20-10-01	統計学(2)統計学(2)	4				
				20-20-05	数学概論(2)					
			選択必修	20-20-06	数学概論(2)日本経済の現状と問題(2) 世界経済の現状と問題(2)	4				
				20-21-01	情報処理(2)					
	選択		20-21-02	情報処理(2)	2					
			20-30-02	微分積分(2)線形代数(2) 微分積分演習(1)線形代数演習(1)						
		20-30-03	情報処理(2)							
			20-30-11	微分積分入門(2)線形代数統論(2)						
	外国語科目 (P29)	必修	30-10-01	英語 Study Skills(2)	2	6	14			
			外国語	30-10-02				ドイツ語(2)		
				30-10-03				フランス語(2)		
				30-10-04				中国語(2)		
				30-10-05				スペイン語(2)		
			30-10-31	日本語(2)(外国人留学生対象) B欄「11」で履修						
		選択必修	30-20-01	英語セミナー(2)英語リーディング(2)	2			2		
			外国語	30-20-02					ドイツ語(2)	
				30-20-03					フランス語(2)	
				30-20-04					中国語(2)	
				30-20-05					スペイン語(2)	
				30-20-31					日本語(2)(外国人留学生対象)	
		外国語 語種変更者	30-20-06	ロシア語(2)	(4) 語種変更した 場合、の 代わりに必要					
			30-20-12	ドイツ語(2) 語種変更者 B欄「07」で履修						
			30-20-13	フランス語(2) 語種変更者 B欄「08」で履修						
			30-20-14	中国語(2) 語種変更者						
			30-20-15	スペイン語(2) 語種変更者						
		選択	選択 A	30-30-01	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ロシア語 朝鮮語 ラテン語 ギリシャ語 ポルトガル語 アラビア語 イタリア語 トルコ語 ペルシャ語	2				
				30-30-31	日本語 B欄「44」で履修					
	専門教育科目 (P31)	必修	40-10-01	経済史(2)経済史(2)マクロ経済学初級(2) マクロ経済学初級(2)	8	32	68			
			40-10-02	ミクロ経済学初級(2)ミクロ経済学初級(2)				4		
		選択必修	40-15-01	経済と環境(2)計量経済学概論(2)経済思想の歴史(2) 経済思想の歴史(2)マルクス経済学(2) マルクス経済学(2)経済数学(2)	4					
			40-15-02	経済数学 A(2)						
			40-15-03	経済数学 B(2)						
			40-15-11	社会問題(2)社会問題(2)						
		基本科目 (P31)	A 経済理論	40-20-51	ミクロ経済学(4)ミクロ経済学(4) マクロ経済学(4)マクロ経済学(4) 独占資本主義論(4)			20 (3分野以上)		
				B 計量・統計	40-20-52				計量経済学(4)計量経済学(4)経済資料論(4) 確率・統計(4)社会科学基礎論(4)	
					C 学史・思想史				40-20-53	経済学史(4)経済学史(4) 社会思想(4)社会思想史(4)
									D 経済史	40-20-54

履修すべき学年				種類	(詳細)	分野	科目名(単位)	最低必要単位	卒業必要単位(種類毎)	卒業単位認定科目	
1	2	3	4								
				専門教育科目(P31)	基本科目(P31)	E 産業・労働	40-20-55	工業経済論(4) 農業経済論(4) 産業組織論(4) 労働経済論(4) 社会政策論(4)	20 (3分野以上)	32	68
						F 制度・政策	40-20-56	経済政策論(4) 財政論(4) 金融論(4) 日本経済システム論(4)			
						G 現代経済	40-20-57	現代日本経済論(4) 日本資本主義発達史(4) 現代資本主義論(4) 経済体制論(4)			
						H 国際経済	40-20-58	世界経済論(4) 国際貿易論(4) 国際金融論(4) 経済発展論(4)			
						I 環境関連	40-20-59	経済地理(4) 環境経済論(4) 都市経済論(4)			
						J 社会関連	40-20-60	人口論(4) 産業社会学(4) 社会史(4)			
					特殊科目(P32)	研究プロジェクト	40-30-01	研究プロジェクト(誘導展開型)(4)			
							40-30-02	研究プロジェクト(自発展開型)(4)			
							40-30-03	研究プロジェクトC(2)			
						PCP	40-30-41	MICROECONOMICS(2) MACROECONOMICS(2)			
							40-30-51	ECONOMIC ANALYSIS OF LAW(2) INTERNATIONAL LAW AND ECONOMY(2) PUBLIC DECISION MAKING(2) LAW AND ECONOMICS(2)			
							40-30-52	INTRODUCTION TO FINANCE(2) JAPANESE FINANCIAL MARKETS AND INSTITUTIONS(2)			
							40-30-54	INTERNATIONAL TRADE(2) INTERNATIONAL ECONOMIC POLICY(2) OPEN ECONOMY MACROECONOMICS(2)			
							40-30-55	ENVIRONMENTAL ECONOMIC THEORY(2) ENVIRONMENTAL ECONOMIC POLICY(2)			
							40-30-61	APPLIED ECONOMETRICS(2) READING AND COMPOSITION(2) PRESENTATION AND DISCUSSION SKILLS(2) ACADEMIC WRITING(2) FIELD WORK(2) INDEPENDENT STUDY(2)			
							(日吉)	40-30-71	簿記(4) 解析学入門(2) 解析学入門(2) 確率論入門(2) 確率論入門(2)		
						(三田)	40-30-71	ゲームの理論(4) 解析学(4) 解析学(2) 契約理論(4) 公共経済学(4) 数理経済学(4) 数理経済学特論 [微分方程式論](4) 数理経済学特論 [確率論](4) 代数学(4) 市場と法(2) 時系列分析(4) ベイズ統計学(4) 近代日本社会思想史(2) 現代日本社会思想史(2) 東欧・ロシア社会思想史(4) 日本経済思想史(4) ドイツ社会史(4) 近代日本と東アジア(4) 現代労働経済理論(4) 経済と法(4) ゲーム理論と産業組織(4) 経済政策のミクロ分析(4) ファイナンス入門(4) 公共選択論(4) NPO経済論(2) NPO経済論(2) 格差と援助の経済学(4) 現代中国経済論(2) 開発経済学(4) EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS(2) 廃棄と汚染の経済学(4) 地域経済論(2) 地球環境問題(4) 環境評価論(2) 資源経済論(2) 現代社会史(4) アジア社会史(4) ラテンアメリカ社会史(4) 地方分権論(2) 簿記(4) 金融資産市場論(4) 企業金融論(4)			
							40-30-72	専門外国書講読(4) ¹			
							40-30-73	演習(2または1) ²			
							40-30-74	研究会(3年)			
					40-30-75		研究会(4年)				
					関連科目1(P33)	40-30-81	民法(4) 民法(4) 商法(4) 商法(4) 労働法(4) 租税法(4) 会計学(4) 経営学(4) 近代日本研究(2) 近代日本研究(2) 近代日本研究演習(2) 近代日本研究演習(2) 明治期日本女性論と福澤諭吉(2) 明治期日本女性論と福澤諭吉(2)(以上経済学部設置)				
						B欄「51」で履修	他学部設置の専門教育科目				
						B欄「52」で履修	他学部研究会(商学部研究会3年)				
				B欄「53」で履修		他学部研究会(商・理工学部研究会4年)					
				B欄「54」で履修		他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会3年)					
				B欄「55」で履修	他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会4年)						
				卒業単位認定科目	ガイダンス科目	10-30-01	経済学の視点と方法(2)(2004年度以前設置)	14			
					右記合計2単位までカウント	51-30-11	体育学講義(2)				
						51-30-12	体育学演習(1)				
					右記合計2単位までカウント	51-30-21	保健衛生(1)(旧保健体育科目)				
						51-30-22	体育理論(1)(旧保健体育科目)				
					51-30-13	体育実技A(1)					
					51-30-14	体育実技B(1)					
					51-30-23	体育実技(1)(旧保健体育科目)					
				51-30-24	体育実技(1)(旧保健体育科目)						
合計								126			

1: 最大8単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
2: 最大4単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
□: 履修上限単位に含まれないもの(卒業必要単位に満たないために履修する不足単位分のみ) (自由科目については次ページ参照)

種類 (詳細)	分野	内容
自由科目 (P33)	履修上限内	< B欄「91」で履修申告するもの > ・前年度までに取得した科目を再度履修する場合 ・今年度同一科目を複数履修申告する場合 (卒業単位に含めないものを B欄「91」で申告する) ・他学部設置の総合教育科目 < 上記以外 > ・言語文化研究所特殊講座 ・メディア・コミュニケーション研究所設置科目 (研究生以外がオープン科目を履修する場合と研究生が上限内で履修する場合) ・教職課程センター設置科目(教職課程生が上限内で履修する場合) ・外国語教育研究センター設置講座のうち、経済学部で自由科目として認定しているもの ・慶應義塾大学在外研修プログラム ・国際センター設置講座 ・保健管理センター設置講座 ・情報処理教育室設置講座 ・知的資産センター設置講座
		メディアコム研究生のみ 60-39-01 メディア・コミュニケーション研究所研究生が、上限外で履修する同研究所設置科目
	教職課程登録者のみ 60-39-02 教職課程登録者が上限外で履修する・教職課程センター設置科目 ・教職免許取得のための他学部設置科目	

メディアコミュニケーション研究所研究生、教職課程登録生の履修について

メディアコム研究生がメディアコム修了に必要なため履修する科目、教職課程登録生が教職免許取得に必要なため履修する科目は、その科目を履修上限内で履修するか履修上限外で履修するか選択することが可能です。

メディアコム研究生

	オープン科目	研究生科目
履修上限内で申告したい場合	A欄 (B欄指定不要)	B欄 (分野「91」)
履修上限外で申告したい場合	B欄 (分野「95」)	A欄 (B欄指定不要)

教職課程生

		他学部設置科目 (教職免許関連)	教職課程設置科目
履修上限内で 申告したい場合	専門教育科目 (関連科目扱い)	B欄 (分野「51」)	/
	非専門教育科目 (自由科目扱い)	B欄 (分野「91」)	
履修上限外で申告したい場合		B欄 (分野「96」)	A欄 (B欄指定不要)

2 履修上限単位

第3・第4学年で履修できる単位数の上限は各学年とも、**44単位**です。

「研究会」を履修する場合は各学年ごとに4単位が含まれます。

(1) 履修上限に含まれないもの

- ・前々項、前項の「1 卒業所要総単位」の中で、のもの。(卒業必要単位に満たないため履修する不足単位分のみ。不足単位を超えて余分に履修する場合、その超過分は履修上限内に含まれます。)
- ・(留年者に限り)同一学年で既に合格した評価B・Cの科目を再履修する場合。(評価が向上した場合は、向上した評価が学業成績表に記載されます。向上しなかった場合は前の評価がそのまま残ります。)ただし研究会の再履修はできません。
- ・メディア・コミュニケーション研究所研究生として同研究所設置科目を履修上限外扱いで履修する場合。
- ・教職課程に登録し、教員免許取得のために授業科目を履修上限外扱いで履修する場合。

(2) その他注意

- ・留年者が同一学年で既に合格した科目は、履修上限に含まれます。(例：留年者が前年度8単位取得していた場合、今年度の上限は36単位になります。)
- ・自由科目でも履修上限内(分野番号【60-30-01】)は、履修上限に含まれます。

3 第3学年における進級必要単位

学士入学者の必要単位は別途指示します。

以下の(1)および(2)の両方の条件を満たさない限り、第4学年への進級はできません。

(1) 基礎教育科目 10 単位、専門基礎科目 16 単位の取得

(1)- 基礎教育科目 10 単位 (内訳は定めない)

内訳の定めはありませんので、基礎教育科目の単位を合計して 10 単位に達していれば大丈夫です。

(卒業必要要件科目(「統計学」・「情報処理」, タイプ の「微分積分」「線形代数」等)を未取得でも、卒業必要要件でない科目を取得(タイプ の学生が「日本/世界経済の現状と問題」を取得, タイプ の学生が「微分積分」「線形代数」を取得, 「情報処理」を取得した上で「情報処理 / 」も取得, 等)することによって、充足する場合があります。)

(例1)(タイプ)「微分積分」を未取得だが、「線形代数」「統計学」「統計学」「情報処理」「世界経済の現状と問題」を取得している。

(例2)(タイプ)「日本/世界経済の現状と問題」「数学概論 / 」のうち「数学概論」しか取得していないが、「統計学」「統計学」「情報処理」「情報処理」を取得している。

(1)- 専門教育科目の基礎科目 16 単位 (内訳は定めない)

内訳の定めはありませんので、専門教育科目の基礎科目の単位を合計して 16 単位に達していれば大丈夫です。

(必修科目(「経済史 / 」「マクロ経済学初級 / 」「ミクロ経済学初級 / 」のいずれかが未取得でも、選択必修科目(「経済と環境」「計量経済学概論」「経済数学 A / B / 」「マルクス経済学 / 」「経済思想の歴史 / 」「社会問題 / 」等)を 2 科目 4 単位を超えて取得することによって、充足する場合があります。)

(例)「ミクロ経済学初級」を未取得だが、他の必修科目 10 単位(「経済史」「経済史」「マクロ経済学初級」「マクロ経済学初級」「ミクロ経済学初級」)を取得している上、選択必修科目を 6 単位((例)「経済と環境」「計量経済学概論」「経済数学 A」)取得している。

(2) 履修上限 44 単位の範囲内で履修した科目のうち 28 単位の取得

ただし、研究会の 3 年生分 4 単位は含まれません。また、履修上限外で履修した科目(基礎教育科目(必修・選択必修)、外国語科目(必修)、専門教育科目基礎科目(必修)の卒業必要単位不足分)は、取得しても 28 単位に含まれません。

(例)「統計学」や「ミクロ経済学初級」が 2 年次に未取得だった場合、3 年次に再び履修して単位を取得できても、28 単位には含まれません。

総合教育科目や外国語科目(選択必修)は、卒業必要単位不足分でも 28 単位に含まれます。

自由科目でも履修上限内(分野番号【60 - 30 - 01】)は 28 単位に含まれます。

4 第4学年における卒業必要単位

以下の(1)および(2)の両方の条件を充たさない限り、卒業はできません。

(1) 履修上限 44 単位の範囲内で履修した科目のうち 12 単位の取得

(2) 卒業所要単位 126 単位の取得

履修上限外で履修した科目(基礎教育科目(必修・選択必修)、外国語科目(必修)、専門教育科目基礎科目(必修)の卒業必要単位不足分)は、取得しても(1)の 12 単位には含まれません。

(例)「統計学」や「ミクロ経済学初級」が 3 年までに未取得だった場合、4 年次に再び履修して単位を取得できても、12 単位には含まれません。

総合教育科目や外国語科目(選択必修)は、卒業必要単位不足分でも 12 単位に含まれます。

自由科目のうち履修上限内(分野番号【60 - 30 - 01】)は、(1)の 12 単位の中に含まれます。((2)には含まれません。)

研究会は、第3・第4学年の2年間にわたって履修し、卒業論文を提出して合格した場合に 8 単位を取得できます。卒業必要単位のカウント方法については以下のとおりです。

・(1)には、4 学年分の 4 単位のみが 12 単位に含まれます。

・(2)には、特殊科目として 8 単位カウントされます。

第 4 開講科目と単位数

2006 年度（平成 18 年度）の第 3・第 4 学年のために開講される科目と単位数は次のとおりです。

なお、講義は週 1 回の通年科目を原則としますが、春学期または秋学期のみに毎週 2 回開講される集中講義、および週 1 回の春学期または秋学期のみの半期講義も開講されます。

1 総合教育科目

(1) 三田設置科目は以下のとおりです。

科目名	単位	系	科目名	単位	系
人類学	4	系	情報処理	2	系
歴史	4	系	法学（憲法を含む）	4	系
近代思想史	4	系	美術	4	系
地域研究 中国事情	2	系	地域研究 中国事情	2	系
人の尊厳（社会と人権）	2	系			

(2) 日吉設置科目も履修することができます。ただし、**新学則（05学則）者用の科目（科目名末尾に a, b の付く科目）は履修できません。**最初の授業時間に別途手続きが必要な科目もありますので、講義要綱や日吉の掲示板等に注意してください。

履修申告者多数の場合には、第 3・第 4 学年を含む全ての履修申告者を対象に履修制限（抽選）を行うことがあります。その結果、履修が許可されなかった場合には、履修申告修正期間に総合教育科目の追加申請可能科目の追加を認めます（詳細は別途掲示します）。ただし、これに伴う他の科目の変更・削除は認めません。

(3) 他学部の総合教育科目は、総合教育科目として履修できませんが、授業担当者の了解を得たうえで自由科目としての履修ができます。また、経済学部と他学部で併設している場合は、経済学部の登録番号で登録してください。時間割表・登録番号は学部ごとに異なります。

なお、第 3・第 4 学年でも配当されているため、卒業必要単位数に満たない場合でも履修上限単位数に含まれます。

(4) 教養研究センターと併設する以下の経済学部日吉設置科目は総合教育科目（系）として履修できます。

「アカデミック・スキルズ」「アカデミック・スキルズ」「生命の教養学」

(5) 同一名称の科目でも系または担当者が異なれば重複して履修することができます。

「自由研究セミナー」は授業内容が異なれば同一担当者の科目を履修することも可能です。

2 基礎教育科目

(1) 日吉設置の基礎教育科目の選択科目を履修することができますが、教室定員の都合上、配当学年の履修を優先することがあります。クラス指定等については、掲示を参照してください。

(2) 選択必修「情報処理（第 1 学年設置）」「情報処理（第 1・2 学年設置）」より 2 単位について

「情報処理」「情報処理」いずれも未取得の場合

・いずれか 1 科目履修する場合は、履修上限外とします。

・ 2 科目履修する場合は、1 科目分は履修上限外とし、もう 1 科目分は履修上限内とします。2 科目とも取得した場合は、1 科目分が第 3 学年における進級必要単位（28 単位）および第 4 学年における必要単位（12 単位）になります。

「情報処理」または「情報処理」のいずれか 1 科目を取得して、さらにもう 1 科目履修する場合

・履修上限内とし、第 3 学年における進級必要単位（28 単位）および第 4 学年における必要単位（12 単位）になります。

なお、第 3 学年における進級必要単位のうち、基礎教育科目 10 単位（内訳は定めなし）としても数えられます。

(3) 履修タイプ の第 1 学年設置選択必修科目 4 科目（数学概論、数学概論、世界経済の現状と問題、日本経済の現状と問題）のうち 2 科目 4 単位について

いずれも未取得の場合

・ 2 科目履修する場合は、履修上限外とします。

・ 3 科目以上履修する場合は、2 科目分は履修上限外とし、残りの科目分は履修上限内とします。取得した科目のうち 2 科目を除いた残りの単位が第 3 学年における進級必要単位（28 単位）および第 4 学年における必要単位（12 単位）になります。

いずれか1科目を取得済みの場合

- ・1科目履修する場合は、履修上限外とします。
- ・2科目以上履修する場合は、1科目分は履修上限外とし、残りの科目分は履修上限内とします。取得した科目のうち1科目を除いた残りの単位が第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）となります。

いずれか2科目を取得してさらに履修する場合

- ・履修上限内とし、第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）となります。
- ・なお、第3学年における進級必要単位のうち、基礎教育科目10単位（内訳は定めない）としても数えられます。

3 外国語科目

経済学部設置の外国語科目（必修・選択必修）は4月15日（土）以降、外国語科目（選択）は4月8日（土）以降の開講です。

(1) 選択必修科目

卒業に必要な選択必修科目を未取得の場合、および卒業に必要な選択必修科目を取得したうえでさらに履修する場合、授業開始日前に事前登録を行い決定したクラスを履修します。三田設置科目、日吉設置科目とも複数科目履修できます。

なお、第3・第4学年でも配当されているため、卒業必要単位に満たない場合でも履修上限単位に含まれます。

外国語科目のカリキュラムおよび日吉設置科目の講義要綱については「経済学部外国語科目履修案内」(別冊)を参照してください。

卒業必要単位（選択必修科目）

1. 外国語 : 2単位

第1学年以上設置の英語リーディングまたは英語セミナーより2単位。

2. 外国語 : 2単位

第2学年以上設置のドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語のいずれかの1語種。

3. 外国語 , : 2単位

1. 2単位, 2. 2単位とは別に2単位。

(2) 外国語 における語種変更（外国語 ）

前学年までに履修した語種と異なる語種の履修を希望する場合（外国語 ）、日吉で実施される外国語 ガイドランスに出席し、学習指導担当者の許可を得なければなりません。また、必ず日吉設置の初習クラスを2科目4単位履修しなければなりません。「経済学部外国語科目履修案内」(別冊)を参照してください。

(3) 選択必修科目の事前登録

外国語 と はそれぞれ別のスケジュールで行います。定員を超えた場合には抽選を行います。1回的事前登録で1クラスが決定します。

	語種	定員	事前登録種類	学期	単位
外国語	英語セミナー	30名		春学期集中	2
	英語リーディング	35名		秋学期集中	2
外国語	ドイツ語	20~30名		通年	2
	フランス語				
	中国語				
	スペイン語				

		外国語（英語）		外国語	
		英語セミナー	英語リーディング		
提出日	〔1回目〕	4月7日(金) 9:00 ~ 13:00	4月6日(木) 9:00 ~ 13:00	4月4日(火) 9:00 ~ 13:00	
	〔2回目〕	4月10日(月) 9:00 ~ 13:00	4月7日(金) 9:00 ~ 13:00	4月6日(木) 9:00 ~ 13:00	
		2回目の登録では、1回目の登録で定員に満たないクラスのみ対象となります。 2回目に希望申告できる学生は、1回目の抽選で履修クラスが決定しない学生、および1回目の抽選で決定したクラスに追加して履修を希望する学生のみです。1回目の抽選で決定したクラスを変更するためのものではありません。			
提出場所		日吉地区・三田地区のいずれかの学事センター設置ポスト			
記入上の注意	<表面> 科目指定欄	以下から1つだけマークしてください。 英語セミナー（春） 英語セミナー（秋） 英語リーディング 事前登録は、種類別に行います。第1希望を「英語セミナー」、第2希望を「英語リーディング」という登録はできません。 春学期と秋学期に「英語セミナー」、そして更に「英語リーディング」を履修を希望する場合は、3枚のエントリーシートの提出が必要です。		以下から1つだけマークしてください。 ・ドイツ語第 ・フランス語第 ・中国語第 ・スペイン語第	
	<裏面> 希望欄	表面で選択した科目の種類毎に第4希望までマークする。 ・エントリーコードは三田設置科目は p.31、日吉設置科目は時間割表を参照してください。 ・希望順位の重複、マーク忘れ（途中未記入含む）、該当外のエントリーコードをマークした場合等は、登録ミスとして抽選対象外となります。 ・クラス指定の科目および他の履修希望科目（サブゼミを含む研究会）と曜日時限が重複しないように選択してください。 ・決定したクラスがクラス指定の必修・選択必修科目と曜日時限が重複した場合は、決定したクラスの履修は無効になります。		第3希望までマークする。	
結果発表	掲載場所	日吉：第4校舎B棟1階 J11番教室前経済学部掲示板 三田：西校舎地下1階掲示板			
	発表日時	〔1回目〕	4月10日(月) 9:00	4月7日(金) 9:00	4月6日(木) 9:00
	〔2回目〕	4月11日(火) 9:00	4月10日(月) 9:00	4月7日(金) 9:00	

(4) 選択必修科目の事前登録決定後の履修本登録

決定したクラスは、自動的に履修登録されます。学事 Web システム(<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>)を利用した履修申告画面を開くと、抽選の結果決定したクラスが表示されます。正しく表示されているかを、学事 Web 履修申告期間内に必ず確認してください。

決定したクラスの変更や履修取りやめは一切できません。サブゼミとの重複でも変更できません。決定したクラス以外のクラスを履修申告しても無効です。

(5) 選択必修科目のクラス未決定者

クラスが決定しなかった者および登録をしなかった者については第2回結果発表後、三田設置科目については、学事センターで「三田設置外国語（英語）申請用紙」または「三田設置外国語 申請用紙」を受け取り、記入のうえ、期日までに三田学事センターに提出してください。日吉設置科目については、指定された日時(詳細別途掲示)の学習指導面接を受けてください。三田・日吉いずれもその時点で定員に満たない追加履修可能クラスの中から、履修クラスを決定します。

(6) 選択必修科目エントリーコード表 (三田設置科目)

事前登録種類	エントリーコード	科目名	担当者名	学期	曜日・時限
英語 リーディング	201	英語リーディング	河地 和子	通年	火2
	202	英語リーディング	河地 和子	通年	火4
	203	英語リーディング	プラット, イアン R.	通年	木4
	204	英語リーディング	プラット, イアン R.	通年	木5
	205	英語リーディング	ラインボールド, ロレイン J.	通年	火3
	206	英語リーディング	ラインボールド, ロレイン J.	通年	火4
ドイツ語	207	ドイツ語第 (中級)	鈴村 直樹	通年	金5
	208	ドイツ語第 (セミナー)	七字 眞明	通年	水5
	209	ドイツ語第 (セミナー)	八木 輝明	通年	火5
フランス語	210	フランス語第 (セミナー中級)	西尾 修	通年	火4
	211	フランス語第 (セミナー中級)	林田 愛	通年	金3
中国語	212	中国語第 (中級)	陳 愛玲	通年	木4
	213	中国語第 (セミナー)	道上 知弘	通年	水4
	214	中国語第 (セミナー)	竹内 良雄	通年	月4
スペイン語	215	スペイン語第 (中級)	阿部 三男	通年	火3
	216	スペイン語第 (セミナー)	阿部 三男	通年	火4

(注) 「英語セミナー」は2006年度は三田では開講しません。

(7) 選択科目 (選択A)

以下の3通りの科目が設置されています。

選択Aは同一科目名でも授業内容が異なれば重複して履修できます。

第3学年における進級必要単位(28単位)および第4学年における必要取得単位(12単位)に含めることができます。また、卒業必要単位認定科目に加算することもできます。

1. 経済学部(三田)設置科目【事前登録不要】

語種 | ドイツ語・ロシア語

経済学部(日吉)設置の選択外国語科目も履修できます。「経済学部外国語科目履修案内」(別冊)を参照してください。

2. 外国語教育研究センターと併設する経済学部設置科目【事前登録必要】

語種 | 英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語

p.141ならびに「外国語教育研究センター設置科目履修案内・講義要綱」(別冊)を参照してください。

3. 三田他学部設置外国語科目【事前登録不要】

語種 | 英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・朝鮮語・イタリア語・ラテン語・ポルトガル語等

下記のURLを参照してください。掲載されている科目に限り履修することができます。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html> 中の「全学部共通外国語科目履修案内」

(8) 必修科目 (日吉設置)

第1学年設置の必修外国語科目(外国語)を未取得の場合、「経済学部外国語科目履修案内」(別冊)を確認のうえ、履修申告してください。選択必修科目によって必修科目に代えることはできません。

4 専門教育科目

1 基礎科目

日吉設置の専門教育科目(基礎科目)の選択科目も履修することができますが、教室定員の都合上、配当学年の履修を優先することがあります。クラス指定については、掲示を参照してください。

第2学年設置選択必修科目のうち2科目4単位について

2科目を取得してさらに履修する場合

履修上限内とし、第3学年における進級必要単位(28単位)および第4学年における必要単位(12単位)となります。なお、第3学年における進級必要単位のうち、専門基礎科目16単位(内訳は定めなし)としても数えられます。

2 基本科目

A~Jまでの10分野の中から3分野以上にわたって20単位以上を合格しなければなりません。

原則として毎年開講されますが、一部を休講とする場合もあります。

同一科目名で複数開講されている科目は、1科目のみ専門教育科目として履修できます。複数コマ履修する場合は、1コマを基本科目、他方を自由科目として履修してください。申告した科目の種類(分野)を後日変更することはできません。

3 特殊科目

各人の関心に従って第3・第4学年のいずれにおいても自由に選択履修することができます。

第3「卒業所要単位・履修上限単位・進級所要単位」に掲載されている科目は、本年度の開講科目（三田設置）を示したものであり、掲載された各科目が毎年度開講されるとは限りません。

2単位科目は、春学期または秋学期に開講される科目です。ただし、「演習」は通年で2単位、半期で1単位です。

「専門外国書講読」と「演習」は複数の授業を履修できますが、「専門外国書講読」は8単位まで、「演習」は4単位までを専門教育科目の卒業所要単位68単位に含めることができます。また、いずれも「卒業単位認定科目」に加算されます。

日吉設置科目を履修することができます。

日吉設置「簿記」を特殊科目として取得済みの場合、三田設置「簿記」を特殊科目として履修することはできません。（重複履修）

「研究会」

- ・第3・第4学年の2年間にわたって履修し、卒業論文を提出して合格した場合のみ、第4学年末に8単位を取得できます。
- ・第3学年において研究会を履修した者が、第4学年において研究会を変更する場合は、両方の担当教員の承認を得、「研究会認定用紙」を提出しなければなりません。
- ・第4学年のみの研究会履修を希望する者は、担当教員の承認を得、「研究会認定用紙」を提出しなければなりません。卒業論文を提出し合格した場合のみ、第4学年末に4単位を取得することができます。
- ・第3学年のみの研究会履修は認められません。また第3学年のみ評価が与えられることもありません。
- ・研究会の退会を希望する者は、履修申告日までに学事センターに「研究会退会届」を提出してください。
- ・第4学年で履修申告後に退会を希望する者は、学事センターに申し出てください。
- ・入会選考に合格したにもかかわらず入会をとりやめる場合は、履修申告日までに学事センターに「研究会辞退届」を提出してください。
- ・履修申告の方法は、第3学年は「研究会（3年）」のみを、第4学年は「研究会（4年）」のみを履修申告してください。登録番号が異なります。第3学年で留年をした場合は、再度「研究会（3年）」を申告する必要はありません。
- ・研究会は、評価が確定した場合、再度履修することはできません。ただし、第4学年の留年者で評価が「未採点」だった場合、「研究会（4年）」を申告してください。
- ・研究会は原則週2時限です。第3学年は第4学年の、第4学年は第3学年の時限に別の授業科目を登録することは原則できません。
- ・経済学部設置の研究会を複数履修することはできません。

「研究プロジェクト」 選考に合格した者のみ履修できます。

- ・1年で完結する少人数または個人プログラムで、教員がテーマを設定する誘導展開型と、学生自身がテーマを設定し、テーマに適した教員が担当する自発展開型の2つの種類があります。誘導展開型・自発展開型のいずれも、論文もしくは作品等の成果の発表が義務づけられます。
- ・第3・第4学年対象に三田・日吉両地区で開講します。
- ・第3・第4学年いずれにおいても履修できます（複数回履修できます）。
- ・「研究プロジェクト」（4単位）と「研究プロジェクトC」（成果発表、2単位）を必ず合わせて履修しなければなりません。
- ・研究会・PCPと並行して履修することもできます。
- ・選考に合格したにもかかわらず履修をとりやめる場合は、履修申告日までに学事センターに申し出てください。
- ・詳細は以下のWebページを参照してください。

<http://www.econ.keio.ac.jp/lecture/kpro/>

「プロフェッショナル・キャリア・プログラム（PCP）」 選考に合格した者のみ履修できます。

- ・第3・第4学年の2年間、実践的な経済学教育を、少人数クラスでかつ原則英語で提供するプログラムです。2006年度は「法と経済」・「ファイナンス」・「国際経済」・「環境経済」の4つの専攻プログラムを開講します。
- ・第3・第4学年対象に三田で開講します。
- ・いずれの専攻プログラムとも、第3・第4学年で定められた科目を合わせて20単位（選択を含めて22単位）履修しなければなりません。
- ・研究会・研究プロジェクトと並行して履修することもできます。
- ・選考に合格したにもかかわらず履修をとりやめる場合は、履修申告日までに学事センターに申し出てください。
- ・詳細は以下のWebページを参照してください。

<http://www.econ.keio.ac.jp/ann/pcp/>

4 関連科目

経済学部設置科目（p.25 参照），および他学部設置の専門教育科目を関連科目として選択履修できます（医学部を除く）。関連科目は専門教育科目の単位として8単位まで含めることができます。

ただし，授業担当者や設置学部の学習指導担当者等の承認が得られない場合は履修できません。

1. 他学部設置の「研究会」は関連科目として履修ができます。また，経済学部設置の「研究会」と重複して履修することができますが，他学部設置の「研究会」を同一学年で複数履修することはできません。（自由科目としても履修することはできません。）
2. 他学部設置科目を関連科目として履修する場合には，授業担当者の了解を得てください。
3. 他学部設置の専門教育科目であっても関連科目として履修できない科目
 - ・設置学部で必修の扱いをしている科目。
 - ・履修申告の時点で開講する曜日時限等が定まっていない科目。（湘南藤沢地区設置秋学期科目の履修については p.35 参照）
 - ・他学部で専門教育科目として設置していても，経済学部では総合教育科目，外国語科目，体育科目および自由科目として設置している科目およびそれと同等とみなす科目（総合教育科目は自由科目としては履修できません）
【例1】「宗教学」は経済学部第1・第2学年において総合教育科目として設置しているので，履修はできません。
 - ・経済学部の専門教育科目として履修済の同名科目，同一名称とみなす科目。（自由科目としては履修できます。）
【例2】経済学部基本科目の「財政論」を履修し，さらに他学部設置の「財政論」や「財政学」を履修する場合。
4. 福澤研究センターと併設する経済学部設置科目は関連科目として履修できます。
講義要綱は，p.138「福澤研究センター設置講座」を参照してください。

5 体育科目

2004年度より学則が一部改正され，「保健体育科目」が「体育科目」と名称変更されました。2003年度以前に取得した科目の科目名・単位数は変更しません。

卒業単位認定科目（14単位）には，以下により最大4単位含めることができます。

- 1. 2003年度以前設置「保健衛生」 1単位	- 3. 2004年度以降設置「体育学講義」 2単位	} より最大2単位
- 2. 2003年度以前設置「体育理論」 1単位	- 4. 2004年度以降設置「体育学演習」 1単位	
- 1. 2003年度以前設置「体育実技」 「体育実技」 1単位		} より最大2単位
- 2. 2004年度以降設置「体育実技A」 「体育実技B」 1単位		

履修を希望する者は，体育科目（体育研究所設置科目）履修要項を参照およびガイダンスに出席のうえ，履修申告をしてください。履修申告の結果，予定定員を上回る場合は抽選により履修者を決定します。なお，誤登録など申告に不備があった場合は，抽選に加えられず，不許可となり履修できません。

「体育実技A」および「体育実技B」については同一科目（種目）でも複数回履修できます。ただし，「体育学講義」および「体育学演習」についての履修は各々1回に限ります。

抽選で不許可となった場合で，追加で許可を得た者に限り，履修申告修正期間中に履修（不許可単位数分）の追加ができます。「許可証」を提示の上，申告してください。

6 自由科目

- (1) 卒業必要単位（126単位）に含めることはできません。
- (2) 履修上限内の自由科目（分野番号【60-30-01】）は第3学年における進級必要単位（28単位），第4学年における必要取得単位（12単位）に含めることができますが，上限外（分野番号【60-39-01】【60-39-02】）は含めることができません。
- (3) 他学部設置科目を自由科目として履修する場合には，授業担当者の了解を必ず得てください。
- (4) 原則として，他学部および諸研究所設置科目を含めて担当者にかかわらず同一科目および同一名称とみなす科目を重複して履修することはできませんが（p.34参照），自由科目としての履修を許可する場合があります。
- (5) 教養研究センター（日吉），福澤研究センター（三田），外国語教育研究センター（日吉・三田）の一部の科目は経済学部と併設しています。それぞれ総合教育科目，関連科目，外国語科目の項を参照してください。（自由科目としては履修できません。）
- (6) 国際センター在外研修プログラムのうち，春季講座（2006年2～3月実施済）参加者は必ず履修申告を行ってください。夏季講座は，国際センターのガイダンスを受け，参加申込を行ってください。ただし，履修申告は選考に合格後，履修申告修正期間に行ってください。（この場合，履修上限単位を超える場合に限り他の科目の削除を認めます。）
- (7) 情報処理教育室設置講座は事前申込を行ったうえ，必ず，自由科目として履修申告してください。原則として履修の辞退はできません。

(8) メディア・コミュニケーション研究所設置科目を同研究所の研究生となって履修する場合、および教員免許取得のための授業科目を履修する場合はそれぞれのガイダンスを受けてください。

メディア・コミュニケーション研究所設置の研究生用科目はメディア・コミュニケーション研究所に研究生として所属していなければ履修できません。

教職課程センター設置科目および教員免許取得のための授業科目については「教職課程登録」の手続きがなされていないと履修できません。

第5 履修上の注意

1 分野

分野とは、学則に基づいて科目の種類ごとに分類したものです。(詳細は 第3「卒業所要総単位・履修上限単位・進級所要単位」参照) 経済学部 の時間割表に掲載されている授業科目は、登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録されます。他学部の授業科目を履修する場合やひとつの科目に対して複数の分野を選択できる場合、通常とは異なる変則的な履修をする場合には、自分でB欄分野を登録しなければなりません。第3「卒業所要単位・履修上限単位・進級所要単位」を確認のうえ、必要な場合は履修申告用の2桁のB欄分野を登録してください。

また、5月上旬に送付される履修申告科目確認表および学年末の学業成績表にはこの分野で各授業科目の種類が表示されます。A欄で申告した(B欄分野を選択していない)授業科目も含め、必ずこの分野表で確認するようにしてください。

なお、履修申告科目確認表、学業成績表は再発行できません。卒業まで各自保管してください。

2 重複履修について

(1) 曜日、時限を重複して履修することはできません。

研究会は各学年とも2時限(例:4,5時限)の履修が必要です。(各自の学年の登録番号で2時限分登録されます。)

(2) 同一名称の科目および同一名称とみなす科目は、原則として担当者が異なっても重複して履修することはできません。ただし、自由科目としての履修を許可することがあります。なお、総合教育科目は、系の「生物学」「物理学」「化学」を除いて、担当者または系が異なれば重複して履修できます。また「自由研究セミナー」は担当者が同じでも授業内容が異なれば重複して履修できます。

(3) 他学部と併設(同じ授業)している(していた)科目は重複して履修することはできません。

同一名称とみなす科目(例)

経済学部設置科目	同一名称とみなす科目		経済学部設置科目	同一名称とみなす科目	
欧米経済史	法学部	経済史	世界経済論	法・商学部	国際経済論, 国際経済学
会計学	商学部	財務会計論	地域研究 中国事情	経済学部	地域研究 中国事情
経済学史	商学部	経済学史	日本経済史	法学部	経済史
経済政策論	法・商学部	経済政策	簿記	商学部	簿記論
経済資料論	商学部	経済統計	民法	商学部	法学各論(民法)
経済地理	商学部	交通経済各論(経済地理)	民法	商学部	法学各論(民法)
計量経済学	法・商学部	計量経済学	労働経済論	商学部	労働経済学
国際貿易論	法学部	国際経済論	労働法	商学部	法学各論(労働法)
財政論	商学部	財政学	NPO 経済論	経済学部	NPO 経済論(2004年度以前)
商法	商学部	法学各論(商法)	NPO 経済論	経済学部	NPO 経済論(2004年度以前)
商法	商学部	法学各論(商法)	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	経済学部	EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ
生物学	法学部	生物科学			

(4) 留年者に限り、同一学年ですでに合格した科目の評価が「B」・「C」の場合、再履修することができます。ただし、研究会は再履修できません。評価が向上すれば、向上した評価が学業成績表に記載されます。ただし、外国語科目、総合教育科目の自由研究セミナー、専門教育科目の演習、専門外国語講読および体育科目の実技科目は、複数履修できる科目のため再履修することはできません。新たに履修してください。

3 他学部・他地区設置科目の履修について

他学部設置必修科目の履修はできませんが、以下の場合は履修することができます。

他学部設置専門教育科目 関連科目 B欄「51」で履修

他学部設置総合教育科目 自由科目 B欄「91」で履修

他学部設置外国語科目は、「全学部共通外国語科目履修案内」(p.31 記載の URL 参照)に掲載の科目のみ 選択外国語(選択A) ただし、上記の科目でも履修できない場合があります。履修する科目の種類(関連科目,自由科目,外国語科目)の項を参照してください。

(1) 三田の他学部設置科目を関連科目・自由科目として履修する場合

授業担当者の了解を得てください。科目によっては他学部の学生の履修を制限する場合や設置学部の学習指導担当等の許可を必要とする場合、履修者数の制限を実施する場合がありますので、当該科目の講義要綱や設置学部の履修案内・掲示などに注意してください。当該学部の時間割で登録番号を確認のうえ、B欄分野を申告してください。

(2) 他地区の他学部設置科目を関連科目・自由科目として履修する場合

(1)と同様です。

なお、移動時間を十分考慮のうえ、三田設置科目と時間が重複しないように注意してください。移動不可能な履修申告については履修申告全体を無効として扱うこともあります。特に、時限が連続する(例:1時限三田,2時限日吉)履修はできません。なお、日吉設置科目については昼休みを挟んだ場合(例:2時限日吉,3時限三田)は可とします。

他地区設置科目についての掲示(時間割変更,休講,試験等)は,設置地区にのみ掲示されます。特に,時間割については変更されることがありますので,履修申告前に設置地区の掲示を確認してください。なお,電話での問い合わせには応じられません。

湘南藤沢地区設置秋学期科目の履修を希望する場合は,秋学期授業開始後2週間以内に三田学事センターに申し出てください。

4 研究所・センター設置科目の履修について

原則として,自由科目となります。「自由科目」の項を参照してください。ただし,学部設置科目と併設している授業の場合,経済学部設置科目を専門教育科目や外国語科目として履修したり,他学部設置科目を関連科目として履修することができます。その場合,登録番号が異なりますので当該学部設置科目の登録番号を確認のうえ,申告してください。なお,履修申告後,登録された分野(科目の種類)を変更することはできません。

第6 認定用紙および申告用紙について

科目によっては,下記の所定用紙が必要になります。必要事項記入の上,指示された承認印を受け下記の指定期日までに提出しなければなりません。以下を熟読してください。

以下の所定用紙は塾生ページ(<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/kei/index.html>)からダウンロードしてください。ダウンロードができない場合には用紙を配布しますので,学事センターに申し出てください。

(1)「基礎教育・専門教育科目履修認定用紙」

日吉設置のマクロ経済学初級・ミクロ経済学初級を異なる履修タイプで再履修する場合に使用。

提出締切:4月14日(金) 三田学事センター

(2)「研究会認定用紙」・「研究会退会届」・「研究会辞退届」

4年生で研究会を変更した場合や4年生で研究会に入会した場合(「研究会認定用紙」),退会の場合(「研究会退会届」),研究会選考(他学部含む)に合格したのにもかかわらず入会をとりやめる場合(「研究会辞退届」)に使用。

履修申告終了後にも研究会退会届の提出は受けつけますが,それによって代替りの研究会追加で申告することはできません。

(3)「三田設置外国語(英語)申請用紙」,「三田設置外国語 申請用紙」

三田設置外国語選択必修科目の追加申請に使用。

配布日:事前登録第2回結果発表後~13日(木) 三田学事センター

提出締切:掲示参照。

(4)「外国語科目認定用紙」

日吉設置外国語必修科目・選択必修科目の追加認定に使用。

[外国語]

配布・締切日:4月7日(金),10日(月)12:15~13:00 日吉学習指導室

[外国語]

配布・締切日:4月11日(火),12日(水)12:15~13:00 日吉学習指導室

以下の所定用紙は必要に応じて学事センターで配布します。

(5)「エントリーシート」

外国語選択必修科目(日吉・三田設置科目)の事前登録に使用。(日吉で提出する場合でも三田で配布します。)

「履修申告用紙(マークシート)」

やむをえず,学事Webシステムによる履修申告が行えない場合,申し出により配布します。(理由を問う場合があります)

提出締切:4月14日(金) 三田学事センター

第 7 休学・留学・退学

1 休学（学則第152条）

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができます。休学期間は1年度（4月1日～翌年3月31日）となります。

本年度休学希望者は、休学願に事由を証する書類（病気の場合は医師の診断書、語学研修等の場合は入学願書の写し等）を添えて、原則として履修申告日までに学習指導主任と面接し認印を受けたうえで学事センターに提出してください。履修申告後の休学願提出期限は11月30日です。

休学が次の年度におよぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。休学期間終了後は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学していた場合はあわせて医師の診断書の提出が必要です。

休学期間は卒業に必要な在学年数には算入しません。

授業料等は休学期間中も同額となります。ただし、病気による休学が長期にわたる場合、在学料が減免されることがあります。学生総合センター-学生生活支援窓口にお問い合わせください。

2 留学（学則第153条）

外国の大学に留学を予定している者は、教育上有益と認められる場合に学則による留学が許可されることがあります。語学研修は学則による留学とは見なされず休学となります。

学則による留学は、留学開始日より1年を単位とし、延長は1回に限り許可されます（休学の場合は年度を単位とします）。また、留学期間は1年を限度として卒業に必要な在学年数に算入することがあります。

留学に関する手続き（国外留学申請書の提出）はあらかじめ学事センターで相談・確認のうえ、所定の手続きをしてください。学習指導主任との面接を含めて、遅くとも出発の1ヶ月前には済ませてください。

学則による留学の場合、外国の大学で取得した単位が認定されることがあります。申請は原則として就学届提出時におこなってください。本年度は2006年1月初回の学習指導主任面接までに申請しなければなりません。

3年生は、外国の大学で取得した単位の認定により進級必要単位を満たし、なおかつ4年生の卒業必要単位を履修している場合に限り留学期間（1年を限度）を在学年数に算入し、進級できます（4月1日付遡及進級）。4年生は、単位の認定による遡及卒業はできません。

授業料等は留学期間中も同額となります。ただし、留学の延長が許可された場合、在学料が減免されることがあります。

3 退学（学則第154条）

病気その他の事由により退学したい者は、速やかに学習指導主任と面接してください。あらかじめ記入した退学届に認印を受け、学生証を添えて学事センターに提出してください。

授業料等を納入しないで退学する場合、授業料等の納入年度（学期）までさかのぼって退学とします。（学則第171条）退学年月日は授業料等納入済の学期末日となります。これに伴い、退学年月日より後の在籍・成績は無効となります。

4 退学処分（学則第156条・第188条）

4年間で第3学年に進級し得ない者および第3・第4学年併せて4年在学し卒業し得ない者は学則第156条により退学処分となります。

大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには学則第188条により退学処分となります。

経済学部設置科目

講義要綱

「授業の計画」のうち、講義内容とその順番は授業の展開等に応じて変更されることもあります。

〔1. 専門教育科目〕

(1) 基本科目

ミクロ経済学

教授 須田 伸一

授業科目の内容：

ミクロ経済学の主要項目にわたり、理論の構造を理解することに重点を置いて以下の内容について講義する。

1. 消費者行動
2. 生産者行動
3. 不確実性下の経済行動
4. 完全競争市場
5. 厚生経済学の基本定理
6. 通時的経済モデル

なお、ゲーム理論を用いるテーマに関しては講義で扱わないので、「ゲームの理論」などの授業を平行して履修してもらいたい。

テキスト：

テキストは特に用いない。

参考書：

- ・奥野正寛・鈴村興太郎『ミクロ経済学』岩波書店、1985年、88年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社、1990年

授業の計画：

上記授業内容の1, 2, 3を春学期に、4, 5, 6を秋学期に講義する。なお、授業の進捗状況により、授業内容が多少変更する可能性もある。履修者へのコメント：

必ず授業に出席し、不明な点をその場で質問するようにしてもらいたい。

成績評価方法：

春学期末、秋学期末の2回の試験結果を総合して、成績評価を決定する。

質問・相談：

基本的には、毎授業時間の終了後に受け付ける。

ミクロ経済学

教授 長名 寛明

授業科目の内容：

ミクロ経済学における規範的分析に重点を置いて講義する。主な内容は以下の通り。

1. 競争市場の効率性
2. 市場の欠陥
3. 厚生基準と社会的厚生関数
4. 経済活動の誘因
5. 資源配分機構の情動的効率性

テキスト：

教科書は使用せず、プリントを配布し、その中で参考文献を指示する。

授業の計画：

上記授業内容の項目1と2を春学期に、項目3, 4, 5を秋学期に講義する。

履修者へのコメント：

本授業科目は大学院修士課程の学生のための授業科目「ミクロ経済学」との併設科目である。講義の内容は同じであるが、理解の水準に関する要求は異なる。大学院生に対しては、講義で提示される様々な命題の証明に関する練習問題を厳密な論理を用いて解き、その解答をレポートとして提出することが要求される。学部生であっても大学院生同程度の理解を欲するものは、「レポートコース」を申告によって選択することができる。「レポートコース」の申告は授業開始時に指示する期限以内で締め切り、それ以後のコース変更は認められない。「レポートコース」を選択しない学部生は講義で提示される様々な命題の証明に関しては配布されるプリントに書かれている範囲の内容を理解することを要求されるが、練習問題を解く義務もないし、レポートを提出する権利もない。

成績評価方法：

「レポートコース」を選択した学部生の場合はレポートのみによって評価する。レポートは授業で扱われた範囲の練習問題について翌

週に提出が義務づけられており、その一回当たりの分量は10ページを超えることもあり、かなり大量の時間を使わねばならない。

「レポートコース」を選択しない学部生の場合は期末試験のみによって評価する。

評価基準は満点の80パーセント以上がA、80パーセント未満60パーセント以上がB、60パーセント未満40パーセント以上がC、40パーセント未満がDである。

質問・相談：

「レポートコース」を選択した学部生の場合は、レポートの中に質問を書き込むことができる。その他の学生については、講義中を含めて、適宜質問に応じる。

マクロ経済学 (春学期集中)

助教授 白井 義昌

授業科目の内容：

マクロ経済学の基本的知識を身につける。教科書にそって講義を行う。毎週の宿題提出と小テスト、そして中間および期末試験の合計によって成績評価を行う。詳しくは

<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/yshirai/macro1/> を見よ。

テキスト：

- ・Abeland Bernanke, *Macroeconomics* 5th edition, Addison-Wesley

マクロ経済学

助教授 伊藤 幹夫

授業科目の内容：

この講義は、マクロ経済学の中でも経済動学とよばれるものを対象とする。具体的には経済活動のマクロ指標としてのGDPがどのような要因によって、拡大・成長をしたり変動したりするかを扱う。講義では、実際の経済変動データの特性を概観した後、標準的な国民所得決定の理論を動的に拡張しながら講義を進める。さらに、その後最近のマクロ経済学の展開をカバーする予定である。

参考書：

- ・吉川洋『現代マクロ経済学』創文社、2000年

授業の計画：

1. 経済の変動の実際
 - (a) 戦後日本経済の動き
 - (b) 成長と変動の要因
2. 国民所得論から成長理論へ
 - (a) ハロッド・ドーマー理論
 - (b) 新古典派成長理論
3. 成長理論の新展開
 - (a) 技術進歩と成長
 - (b) 内生的成長理論の意義と限界
4. 経済変動の様々な理論をめぐって
 - (a) ヒックス・サミュエルソン理論
 - (b) 非線形投資関数モデルいろいろ
 - (c) カオス理論の応用とその周辺
 - (d) 均衡景気循環の展開と破綻
 - (e) 実景気循環

なお、講義ノートや資料、データをインターネット上の次のURLで公開する予定である。

<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/ito/lecture>

成績評価方法：

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)

独占資本主義論

助教授 延近 充

授業科目の内容：

2年生を対象に設置されているマルクス経済学では、資本主義社会の経済構造と運動法則を原理的かつ体系的に明らかにすることが課題とされた。そこで明らかにされた資本主義の一般的運動法則は、資本主義が資本主義であるかぎり根底において貫徹しているが、現代のいっそう複雑化した経済問題を解明するためにはそれだけでは十分ではない。

資本主義の一般的運動法則は競争の全面的支配を特徴とする資本主義においては「鉄の必然性」をもって貫徹するのであるが、資本

主義の発展過程はその内的メカニズム自体によって競争の作用を一部制限するようになる。主要な生産部門が少数の巨大資本によって支配され、独占的市場構造が形成されてくるのである。そうした資本主義の構造変化・独占段階への移行にともなって、資本主義の一般的運動法則は一定程度変容し矛盾の現われ方も異なったものとなってくる。さらに、そのような矛盾に対処するために経済過程に国家が介入することが必要とされ、特に第2次大戦後では社会主義世界体制の成立・冷戦のもとで国家の果たす役割はますます大きくなっていった。

したがって、現代の経済を分析するためには、資本主義の一般的運動法則を基礎としつつ、このような資本主義の歴史的な段階変化その構造と動態を明らかにする理論が必要とされる。この講義では、競争の全面的に支配する段階から独占と競争とが絡み合う段階への移行の問題と現代資本主義を基本的に特徴づける独占資本主義の構造と動態を明らかにすることを中心課題とする。

テキスト：

・北原勇『独占資本主義の理論』有斐閣

または

・北原・本間・鶴田編『資本論体系 10 現代資本主義』有斐閣

授業の計画：

以下の順で講義を行う。春学期に1~5, 秋学期に6~9の予定。

1. 資本主義の一般的運動法則と段階変化
2. 独占的市場構造の成立と特徴
3. 独占的競争と市場・価格支配
4. 独占価格と設備投資原則
5. 独占利潤の源泉と収奪構造
6. 独占企業の投資行動の動態
7. 独占段階における景気循環の変化
8. 帝国主義と国家独占資本主義
9. 現代資本主義分析と独占資本主義論

履修者へのコメント：

マルクス経済学を履修済であることを前提とし、現代資本主義論、現代日本経済論も履修されることが望ましい。

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・レポートによる評価

質問・相談：

講義内容や成績評価など、より詳しくは <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/nobu/index.html> を参照してください。

計量経済学 (春学期集中) 助教授 田中辰雄

授業科目の内容：

計量経済学の基本コースを週2コマで半期に集中して講義する。内容は日吉の計量経済学概論の発展であり、またパソコンを利用した演習を含む。取り上げる予定の項目は(1)最小2乗法の基礎(不偏性・効率性、古典的仮定、t値、F検定など)、(2)不均一分散、(3)系列相関、(4)同時方程式、(5)VARによる因果性、(6)パネルデータ分析、(7)ロジット回帰である。2回に1回はパソコンを使って演習を行うので、かなりの分量の演習を行うことになる。一部のパソコンの台数に限りがあるので、受講生は多少の不便が生じるのを覚悟されたい。成績は2~3回のレポートと学期末試験でつける予定である。

なお、日吉で開講されている計量経済学概論を履修していない者は、入門的な計量経済学の本の最初の部分を読んでおくことを推奨する(最小2乗法・重回帰・決定係数・t値までがわかればよい)。

計量経済学 (春) 助教授 河井啓希
(秋) 助教授 宮内環

授業科目の内容：

(春学期)

計量経済学の基礎的な理論を講義する。この授業ではテキストで紹介されている様々な分析方法の手順を単に学ぶのではなく、(1)その理論的な背景や根拠について統計学的な知識を補足しながら納得できるようにする、(2)経済分析にどのように応用することができるのかを知る、(3)PCを使った実習を通じて自分で分析ができるように

する。予備知識としては統計学、微分積分、行列の知識、さらには「計量経済学概論」または「計量経済学」の内容を前提とする。計量ソフトについては知識がなくとも、この時間で習得できるよう工夫する。

(秋学期)

マイクロデータの計量経済学的分析に不可欠な離散的従属変数(discrete dependent variable)、制限された従属変数(limited dependent variable)の問題について講義と演習を行う。マイクロデータの整備によって、消費者や企業の行動に関して集計の度合いの低い観測が行われるようになり、合計や平均値などのように集計された変数についての分析方法とは異なる方法が要求されるようになってきている。問題の所在を2つの例によって示そう。第一の例として「就業率」と就業という状態について。「就業率」という変数は就労可能な労働力人口に属する多くの主体について観察し、そのうち就業している主体の割合を示したもので、「就業確率」の点推定値と考えられる。これに対しマイクロデータでは、個々の主体が就業の状態にある($y=1$)のか無業の状態にある($y=0$)のかが観察されている。この場合、「就業率(確率)」という変数は就業状態にあるか否かを示す離散変数 y とどのような関係にあり、 y の値の発生をどのように叙述するのが適切なのだろうか。第二の例として賃金と限界生産力について。賃金によってある主体の限界生産力が測定できるとすれば、賃金の観測値が得られるのは、主体が就業している場合に限られる。他方、就業していない主体の限界生産力はゼロとは限らない。すなわちその就業していない主体がもし働いたら得られるであろう賃金はゼロであるとは限らない。仮にある水準以上の限界生産力を持つ主体のみが就業するとすれば、就業している主体の賃金のみによって得られる賃金の観測値の平均値は、潜在的なものも含めた限界生産力の平均値とは系統的に乖離することになってしまうであろう。以上に述べた問題については、観測資料の発生の仕組みを叙述する確率モデルと観測値との関係を詳細に吟味することが必要であり、これらの間の関係を中心にして講義と演習を進める。演習はパーソナルコンピュータを用いながら行う。用いるソフトウェアについては、講義や演習の中で述べるので、この点の予備知識は履修の前提としない。

テキスト：

・William H. Greene, *Econometric Analysis* 5th ed. / ISE, Prentice Hall

IE, 2003

参考書：

・袁谷千鳳彦『計量経済学の理論と応用』日本評論社, 1996年

・Jeffrey M. Wooldridge *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT press, 2001

・Paul A. Ruud *An Introduction to Classical Econometrics Theory*, Oxford UP, 2000

Oxford UP, 2000

授業の計画：

(春学期)

1. Introduction：経済分析における統計的手法(1回)
2. 古典的回帰モデル：実験室の仮定(5回)
最小2乗法とその統計的性質、最尤法とその統計的性質、仮説検定、モデルの評価
3. 一般化最小2乗法(4回)
分散不均一性の問題、自己相関の問題
4. 操作変数法(2回)
5. その他のトピック(1回)

(秋学期)

1. 散的確率変数の分布、回帰分析、最尤法の復習
2. 見えない変数と離散的従属変数のモデル：経済学における展開を主として
3. 二値選択モデル：Probit model, Logit model
4. 二値選択モデルの演習
5. 多値選択モデル：Conditional Logit, 経済学における主体均衡論を主として
6. 多値選択モデル：独立性の問題, Conditional Probit, Nested Logit
7. 多値選択モデルの演習
8. 制限のある従属変数：truncated data, censored data, モーメント
9. Tobit model：主体均衡論からの考察
10. Tobit modelの演習
11. Sample Selection Bias：賃金の測定など
12. Sample Selection Bias：Heckmanの定式化など

13. Sample Selection Bias の演習

履修者へのコメント：

[春学期] 計量経済学の理論と実際の応用分析に興味のある学生は是非履修してください。

[秋学期] 実際のマイクロデータを用いての分析に関心があれば是非履修してください。

成績評価方法：

春学期の成績は実証分析に関するレポートで決定する。

秋学期の成績評価は期末試験によって行う。

1年間の成績評価は春学期と秋学期を総合して行う。

質問・相談：

[春学期] クラスページ (URL は授業にて報告する) を通じてレジュメやデータの配布を行う。質問や相談については掲示板で履修者全員が共有できるようにする。

[秋学期] 秋学期の最初の時間に説明する。

経済資料論

教授 清水 雅彦

授業科目の内容：

国民経済における所得 (純生産) の発生メカニズムに関するマクロ経済分析は、1930年代におけるクズネツ等による国民所得統計の整備とケインズの一般理論を基礎として発展してきた。同時に、国民経済を一つの経済システムとして捉え、国民経済システムに内在する構造的性質を計量的に分析するための理論体系としてレオンティフの投入・産出分析理論 (産業連関分析モデル) が開発された。その後、国民経済の成長と発展に関する経済分析は、国民経済に関する統計データの整備・拡充と計量経済学の発展に伴い、分析理論の現実妥当性を検証 (テスト) する方向を辿ってきた。分析対象とする経済事象の観測事実 (統計データ) に基づく分析理論の実証である。この講義では、まず国民経済に関する実証理論分析のための基礎資料となる経済統計データについて、特に国民所得統計から派生した国民経済計算体系 (a system of national accounts : SNA) を中心として説明する。SNA は、国民経済において観測される一次統計データ (primary statistical data) を国民経済システムの要素に対応して集計した二次統計データ (secondary statistical data) の体系である。このような SNA を理解するためには、一次統計データの作成過程と二次統計データへの集計過程を理解しておく必要がある。春学期においては、製造業に関する「工業統計調査」、サービス業に関する「サービス業基本調査」および「特定サービス業実態調査」、商業に関する「商業統計調査」等の一次統計調査に基づく産業統計を取り上げる。秋学期においては、SNA の各種勘定体系と二次統計データに基づく国民経済の統計的記述について概説した上で、産業連関表と産業構造分析の手法について詳細に講義する。

テキスト：

最初の授業時間に指示する。

参考書：

講義資料と併せて適宜指示する。

授業の計画：

[春学期]

- (1) 国民経済の統計的把握 (1回)
- (2) 国民経済のマクロ経済分析モデルと構造分析モデル (2回)
- (3) 主要な産業統計 (一次統計) の解説 (9回)

[秋学期]

- (1) 国民経済計算体系の解説 (4回)
- (2) 産業連関表の解説 (3回)
- (3) 産業連関分析理論の解説 (6回)

成績評価方法：

春学期末に提出するレポートと秋学期末に行う試験によって総合的に評価する。春学期末のレポートが未提出の場合は、秋学期末の試験の成績を問わず不合格とする。

質問・相談：

毎授業時間の終了後に受け付ける。

確率・統計

産業研究所教授 新井 益洋

授業科目の内容：

観察によって得られたデータを整理して簡単な知識の形にまとめ、その解釈を助けるかという統計的手法は「記述統計」と呼ばれる。また、観察データの背景に研究目的あるいは仮説としての母集団を想定し、観察データはこの仮説母集団からの無作為標本と見なし、この標本から母集団特性を認識する統計的手法を「推測統計」と呼ぶ。統計学の目的は集団の規則性の探求であるが、この目的のためには、前者は多くの場面で限界を生じ、後者の新しい統計理論を要請し、これを数学的に整理したものが数理統計学である。

数理統計学は観測されたデータが、何らかの確率的法則にしたがう確率変数の1つの実現値であると見なすことによって、これら进行分析する方法を与える。すなわち、現実の対象に対して1つの確率モデルを想定し、それに基づいてデータを分析する方法である。したがって、数理統計学的手法を有効に適用できるか否かは、想定された確率モデルが現実を適切に表現しているか否かにかかっている。

想定されるモデルがパラメタと呼ばれる未知の要素を含んでおり、確率分布を完全には決定していない。そして、偶然性を含むデータを通して必然的な法則性を知ることは、未知の部分を含む確率分布にしたがう確率変数の実現値から、その分布を決定する確率法則を知ることである。これが数理統計学の方法である。

以上のことを踏まえ、計量経済学や理論を専攻する者にとって最小限必要と思われる内容を講義形式で授業を行う。また、学んだ内容の理解の確認およびその内容をより深めるために、演習を充実させていく。

テキスト：

・Harold J. Larson, *Introduction to Probability Theory And Statistical Inference* (THIRD EDITION), JOHN WILEY & SONS

授業の計画：

1. 集合
2. 確率
3. 確率変数
4. 分布関数と密度関数
5. 確率法則
6. 結合分布
7. 記述統計と推測統計
8. パラメタの推定
9. 仮説の検定

成績評価方法：

- ・学期末試験 (定期試験期間内の試験)
- ・レポート

社会科学基礎論

(春) 助教授 宮内 環
(秋) 商学部教授 早見 均

授業科目の内容：

「社会科学基礎論」では、まず科学の一般的目的と、その目的を達成するために採用されてきた一般的方法について考察する。この考察をふまえ、つぎに自然科学と社会科学の方法を対比させながら、社会科学のなかでも最もよく開拓された経済学の方法を中心に、その適切な分析作法について議論をすすめる。近代科学の進歩には実験が大きな役割を果たしたが、実験が困難な状況では、観測資料の特性にそくして理論を構成したり、理論をふまえての観測の方法を工夫することが不可欠となる。

そこで、春学期は、法則性の把握における実験の意義をまず明らかにし、つぎに実験が困難な場合における法則性把握の作法を、「観測と理論の対応」に焦点をあてながら講義する。秋学期は春学期に解説した基本的な概念がどのように自然・社会両科学の研究の発展に役立っているかを歴史的な例で示しながら理解を深める。科学的方法とはどんなことか、自分のことばで述べるようになるのがこの講義の到達目標である。

秋学期はウェブサイトに講義メモを掲載する。

参考書：

・小尾恵一郎『計量経済学入門 実証分析の基礎』日本評論社、1972年
その他は講義の際に指示する。

授業の計画：

ウェブサイトに掲載する。

秋学期は、以下の URL で参照してほしい。

http://www.sanken.keio.ac.jp/staff/hayami

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）(春秋とも)
- ・二回の学期末試験の結果を総合的に評価する。

経済学史	助教授 神代光朗
------	----------

授業科目の内容：

資本制生産様式の経済法則の解明としての政治経済学および経済思想の歴史を、主に 17～19 世紀を中心にその成立、展開とその批判に焦点をあてて講ずるが、経済学と国民・民族、諸階級、社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け、私達をとりまく世界史的な諸問題に資本主義的近代市民社会成立期の過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを、諸君とともに考えながら講義をすすめたい。

テキスト：

特にスタンダードなテキストはない。担当者である私の講義内容そのものが、テキストに該当するものであるからして、履修者は必ず出席をし、ノートを自らとる心掛けをもってほしい。下記の参考書は、それを前提にして学生諸君の理解を補助する通史であるが、いかなる通史のテキストにも一長一短はある。

参考書：

- ・内田義彦『経済学史講義』未来社,1968年(未来社の復刻版もあり)
 - ・または『内田義彦著作集』(第2巻)岩波書店,1989年,2001年より増刷
 - ・早坂忠編『経済学史 経済学の生誕から現代まで』ミネルヴァ書房,1989年
 - ・馬渡尚憲『経済学史』有斐閣,1997年
 - ・高橋誠一郎『経済学史略』慶應出版社,1952年,又は泉文堂[16刷]
- これらは、あくまで参考文献であり、諸君自らが、古典文献を読まれることが何より大切である。なお、他に必要な文献等は、授業中に適宜指示する予定である。

授業の計画：

1. 経済学史の課題と方法。経済学史をどこから始めるか。
2. 重商主義の経済思想
3. 重農学派
4. アダム・スミス、デーヴィッド・リカードゥを中心とする古典派経済学
5. 古典学派の継承とその批判
6. 初期の社会主義と経済学の国民的傾向
7. マルクスの経済学とマルクス主義の普及
8. 経済思想と今日の諸問題

ほぼ、以上の内容の講義を通年で行う予定であるが、学習の理解を深める上で、履修可能な人には私の担当の特殊科目「東欧・ロシア社会経済思想史」の履修を勧めたい。

履修者へのコメント：

基本的には授業への出席、講義内容を自らノートに執り、かつ古典文献や示された参考文献を独自に各人が学習することが不可欠です。大学の専門科目は本来、理論や命題を受動的に習うところではなく、講義にもとづいて、自ら考え、社会認識上の知性を養い、自らの問題意識を形成するように、受講者各人が主体的に努力するところであることを自覚してください。

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

基本的には学年末のテスト（筆記）によるが、日常の出席状況等も考慮の対象となる。詳しくは、履修状況をみて、具体的に決める要素もあるので、履修者の確定した段階で明確にする予定である。いわゆる筆記試験は年1回であるが、履修状況に応じて、夏休み前に何らかの課題を課すこともある。また、試験と平常点のバランスはデリケートな問題であり、担当者が各年ごとに判断しているが、単純にパーセンテージのみで決められることではない。肝要なのは、どの程度、講義の内容を理解したかである。

質問・相談：

学問内容についての質問や相談は歓迎するが、評価方法等についての相談や質問は、上に書かれているとおりなので、原則的には応じられない。質問がある時は、授業時間終了時に教室で、出来るだけ、用紙に書いて出すこと（用紙は、各人が用意すること）。その際、学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず記入し、簡潔にすること。

経済学史	教授 丸山 徹
	教授 中山 幹夫

授業科目の内容：

現代の経済理論に関する理解を確認しながら、経済学の主要な史的展開過程を眺望する。

参考書：

- ・ J. Niehans, *A History of Economic Theory*, Johns Hopkins Univ. Press, 1990
- ・丸山徹『新講経済原論』岩波書店,1997年
- ・丸山徹『ワルラスとその時代』勁草書房,近刊

授業の計画：

- ・ 1870 年前後のヨーロッパ
- ・ ワルラスの一般均衡理論
- ・ 効用理論の展開
- ・ 英国古典学派と労働価値説
- ・ リカードゥの分配論と限界生産力説
- ・ ジェヴォンズ・マーシャルの経済学
- ・ メンガーの経済哲学と独・奥の経済学
- ・ 1914 年前後のヨーロッパ
- ・ 戦間期ウィーンの数学・哲学・経済学
- ・ ゲーム理論の誕生と成長 ノイマンからナッシュまで
- ・ 経済変動の解明
- ・ ケインズとその時代

社会思想（秋学期集中）	兼任教授 坂本達哉
-------------	-----------

授業科目の内容：

1. 「社会思想」とは何か 近代から現代へ
2. 「近代 modernity」とは何か マキアヴェリからスミスまで
3. フランス革命後のヨーロッパ思想 功利主義と保守主義
4. 古典派経済学の確立と初期社会主義思想
5. ドイツ思想の市民社会批判
6. マルクスの資本主義批判
7. 大衆社会の成立とその批判 ミルとウェーバー
8. 20 世紀思想の諸潮流とフランクフルト学派
9. 現代資本主義の諸思想 ケインズとハイエク
10. 現代リベラリズムの諸潮流
11. 人類の未来と文明社会思想の再構築

テキスト：

使用しない。

参考書：

適宜、指示する。

成績評価方法：

出席率と学期末試験の結果を総合して判定する。

社会思想史（秋学期集中）	教授 高草木 光一
--------------	-----------

授業科目の内容：

本年度は、近代フランスを中心に講義する。講義内容は以下のとおりである。

- (1) 「近代」を歴史的にどう捉えるか
- (2) フランス啓蒙思想の課題と特色
- (3) フランス革命の射程
- (4) 反フランス革命の思想
- (5) 19 世紀フランス社会思想の課題
- (6) 科学主義と産業主義
- (7) 理性主義批判の思想
- (8) 市民の思想と労働者の思想

- (9) 能力主義の超克
- (10) 集権と分権
- (11) 国家とアナキズム
- (12) 1848年革命とパリ・コミューン

参考書：

・的場昭弘・高草木光一編『一八四八年革命の射程』御茶の水書房

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・レポートによる評価

日本経済史

教授 杉山伸也

授業科目の内容：

この授業は、「いつでも、どこでも」を基本とする100% e-learningによる慶應義塾大学ではじめてのタイプの授業である。したがって、教室での授業は基本的に行わない。履修者は、Web上で配信される講義を、曜日あるいは時間帯を問わずに（例えば夏休み期間に集中的に履修するなど）、2007年1月中旬までの約10カ月のあいだに自分のスケジュールにあわせて履修することになる。履修者は、レポート3回か、あるいはレポート2回+期末試験のいずれかを選択し、それにもとづいて成績評価を行う（ただし、面接を課すこともある）。講義では、17世紀の徳川幕府成立前後の時期から1970年代まで約400年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観する。講義では、特に日本の経済発展の国際的・国内的環境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

この授業の基本的な考え方、Web講義へのアクセス方法などについては、4月11日および4月18日の授業時間に説明会を開催するので、履修希望者は、いずれかの説明会にかならず出席し、別途登録申請をする必要がある。履修者数は最大100名を予定しているため、受講者数を制限することもある。

講義に関して詳しくは、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/sugiyama/>の「日本経済史」を参照すること。

参考書：

- ・中村隆英『日本経済』（第3版）東京大学出版会
- ・新保博『近代日本経済史』創文社
- ・梅村又次他編『日本経済史』全8巻、岩波書店
- ・安藤良雄『近代日本経済史要覧』（第2版）東京大学出版会

授業の計画：

講義は、以下のテーマにそって、最近の論争も紹介しながらすすめる。なお、授業のレジュメはホームページで公開している。

- (1) 日本経済史へのアプローチ：最近の研究動向
- (2) 徳川期の経済システムと「鎖国」体制
- (3) 徳川幕府の財政・経済政策：17～18世紀前半期の政治と経済
- (4) 徳川期の農業発展と商業的農業の展開
- (5) 徳川期における市場経済化の進展
- (6) 徳川社会の崩壊：19世紀前半期の政治と経済
- (7) 幕末「開港」の国際的背景と経済的影響
- (8) 明治初期の財政・経済政策：「由利財政」から「大隈財政」へ
- (9) 明治政府の工業化政策
- (10) 1870年代の政治と経済：「大隈財政」から「松方財政」へ
- (11) 1880年代の政治と経済：「松方財政」から「企業勃興」期へ
- (12) 「日清戦後経営」と条約改正
- (13) 「日露戦後経営」と国際収支の悪化
- (14) 日清・日露戦後経営期の日本経済
- (15) 日本の「公式」「非公式」帝国：台湾と朝鮮の植民地化
- (16) 第一次世界大戦と日本経済
- (17) 大震災から金融恐慌へ：1920年代の日本経済
- (18) 「井上財政」と世界恐慌
- (19) 「高橋財政」と1930年代の日本経済
- (20) 1930年代後半期の日本経済：政府と民間企業
- (21) 「準戦時体制」「戦時体制」下の日本経済
- (22) 「戦後改革」から高度経済成長の時代へ：戦前・戦後の連続と断絶

履修者へのコメント：

この授業の基本的な考え方、Web講義へのアクセス方法などについては、4月11日および4月18日の授業時間に説明会を開催する

ので、履修希望者は、いずれかの説明会にかならず出席し、別途登録申請をする必要がある。履修者数は最大100名を予定しているため、受講者数を制限することもある。

成績評価方法：

履修者は、レポート3回か、あるいはレポート2回+期末試験のいずれかを選択し、それにもとづいて総合的に評価する（ただし、面接を課すこともある）。

質問・相談：

授業ホームページの「掲示板」、またはe-mailで受け付ける。

欧米経済史

助教授 崔在東

授業科目の内容：

講義対象の時代は中世から近・現代までであり、対象地域は従来のイギリス、ドイツ、フランスなどの西欧だけでなく、東欧諸国とロシアまでを含む。西欧諸国間の比較だけでなく西欧と東欧の比較および相互関係をも検討する。講義では、以下のようなトピックを取り上げる。

1. 中世ヨーロッパ
2. 土地制度：西欧と東欧
3. 家族制度
4. 都市と農村
5. プロト工業化
6. 近代的土地所有権の確立と農奴解放
7. 産業革命と工業化
8. バックス・ブリタニカ
9. 労働と企業
10. 第1次世界大戦
11. ロシア革命とスターリン体制
12. 帝政ドイツとナチズム
13. バックス・アメリカーナ
14. ヨーロッパ統合
15. 東欧とソ連の経済
16. 冷戦の崩壊と経済体制の移行

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

適時に紹介する。

授業の計画：

春学期は授業科目内容の1～8、秋学期は9～16を扱う。

成績評価方法：

- ・定期試験期間内試験の結果
- ・期末レポート

アジア経済史

講師 飯島 渉

授業科目の内容：

ちょっと変わった「アジア経済史」を予定しています。

経済制度や経済文化のアジアにおける変化、すなわち、広い意味での経済体制の変遷を概観する方法ではなく、「疾病」という現象を通じて、それが経済社会のあり方とどのように関係していたのか、あるいは、「疾病」は、経済社会のあり方を現すインデックスたりうるか、という視点からアジア経済史を検討します。

なお、対象とする地域は、中国を中心とする東アジアとします。

テキスト：

テキストは用いません。

参考書：

- ・飯島渉『ペストと近代中国』研文出版、2000年
- ・見市雅俊・斎藤修・脇村孝平・飯島渉（編）『疾病・開発・帝国医療 アジアにおける病気と医療の歴史学』東京大学出版会、2001年
- ・飯島渉『マラリアと帝国』東京大学出版会、2005年

授業の計画：

- イントロダクション 疾病と社会
- 疾病研究の視角、経済史研究との交錯、Colombian Exchange
- コレラと公衆衛生
- ヨーロッパにおけるコレラ

アジアにおけるコレラ
検疫と公衆衛生, コレラとグローバル化
歴史人口学の視点
ペストと近代国家
ヨーロッパにおけるペスト
アジアにおけるペスト
ペストと近代国家
マラリアと開港
植民地医学と帝国医療
東アジアのマラリア
マラリアと「開発原病」
歴史研究と GIS
アンソロポメトリクス
まとめ

履修者へのコメント：

初回の授業において、より具体的な計画を示します。

成績評価方法：

試験を行います。なお、授業の中で説明します。

工業経済論

教授 渡辺 幸男

授業科目の内容：

春学期は日本の工業を中心に、工業の構造的把握の視点の提示とその具体的な応用を行う。秋学期は工業を経済的把握する際に不可欠ないくつかの論点について、日本の工業を中心に論じる。

参考書：

- ・井村喜代子『現代日本経済論[新版]戦後復興「経済大国」90年代大不況』有斐閣, 2000年
- ・渡辺幸男『日本機械工業の社会的分業構造 階層構造・産業集積からの下請制把握』有斐閣, 1997年
- ・渡辺幸男『大都市圏工業集積の実態 日本機械工業の社会的分業構造 実態分析編 1』慶應義塾大学出版会, 1998年
- ・渡辺・小川・黒瀬・向山『21世紀中小企業論 多様性と可能性を探る』有斐閣, 2001年
- ・(社)中小企業研究センター編『産地解体からの再生 地域産業集積「燕」の新たな道』同友館, 2001年

授業の計画：

[春学期]

- ・工業経済把握のために
 1. 工業とは何か 分業 機械制工業
 2. 産業分類の方法
 3. 日本の業種分類
 4. 戦後日本の状況と戦後時期区分
- ・日本を例にした産業構造 工業構造の把握方法の紹介
 5. 日本産業の中の工業の位置 大きさと位置
 6. 重化学工業と軽工業 重化学工業化概念への疑問
 7. 生産量の拡大と労働生産性 史上稀に見る量的急拡大の持続
 8. 用途別, 需要別分析視点 1 耐久消費財と資本財中心の拡大
 9. 用途別, 需要別分析視点 2 民間投資需要と輸出需要の主導
 10. 対外関連 1 輸出依存の意味
 11. 対外関連 2 輸入依存
 12. 対外関連 3 資本と技術

[秋学期]

- ・社会的分業構造分析
 1. 社会的分業の論理
 2. 大企業と中小企業の共存の実態
 3. 大企業と中小企業の関係 企業間取引関係把握の論理 1 内製と外製 垂直的統合 機会主義と取引コスト
 4. 大企業と中小企業の関係 企業間取引関係把握の論理 2 下請系列関係の形成の論理, 下請系列関係の解体の論理
- ・産業集積と地域間分業
 5. 産業集積の論理
 6. 産業集積の実態と意味の差異 日本を例に 1
 7. 産業集積の実態と意味の差異 日本を例に 2

8. 産業集積のあり方の変化

・春と秋の総括

9. 国内完結型から東アジア化 1

「産業空洞化」論をどうみるか

10. 国内完結型から東アジア化 2

中国工業の発展の状況

11. 国内完結型から東アジア化 3

日本工業の今後 燕を通して考える

成績評価方法：

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)(春秋とも)
- ・平常点(出席状況および授業態度)
春・秋の学期末試験と出席(遅刻は出席ではない)の評価を加味して評価する。ただし、期末試験は、それぞれ45%のウエイト、出席点は20%のウエイトである。合計40点以上が合格、60点以上80点未満がB、80点以上がAと評価される。

農業経済論

教授 寺出道雄

授業科目の内容：

この講義では、現代の農業問題を理解するための基礎について述べる。

参考書：

最初の授業でおおまかに参考文献を紹介し、個別の問題については、その話題にふれるごとにやや詳しく紹介する。

授業の計画：

1. 農業問題理解のための基礎知識
植物の物質生産 土壌と地力 気候と農業
2. 農業の発展
農業の開始と伝播 西欧の伝統的農業 西欧農業の近代化
日本の伝統的農業 日本農業の近代化
3. 現代農業
現代の先進国農業 現代の日本農業 農業保護政策
4. 食料と人口
現代の食料問題 環境と農業

以上の話題のそれぞれのなかで、農業経済論の応用経済学的な面についてもふれていく。

成績評価方法：

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)
- ・授業内試験の結果
学年末試験とともに、授業中の小テスト・出欠等にもとづいて行う。小テスト合格は、単位取得の必要条件である。詳しくは第一回目の授業で説明する。

質問・相談：

講義後に質問を受ける。時間を要する質問については、その際時間を指定する。

産業組織論

教授 中澤敏明

授業科目の内容：

産業組織論(Industrial Organization)は、1930年代の経済不安定期に、経済問題に対処するために登場した研究分野の一つである。そもそも、予定調和的市場観とは出自を異にし、大企業の市場支配力・市場における寡占性・交渉力における力の非対称性などから問題が発生する可能性を市場観として持っている。しかし、これに根底から反駁し、市場機能は大企業・寡占性などによってスポイルされないと固く信じ、その哲学をつよく唱導する立場が、勢いを増し、両市場観の討論を通じて、成長した。さらに、これにゲーム論を武器に、さまざまなモデルから、現実への視覚を豊富にする、New IOの参入をみることとなった。この講義では、企業行動の諸相をとりあげ、どのような見方があるかを紹介する。先行研究を基礎に、履修者自らの市場観形成と分析手法の学習につながれば幸いである。

テキスト：

指定しない。それぞれのテーマにかかわる資料をクラスで配布。

参考書：

- ・小田切著『新しい産業組織論』有斐閣
- ・ロジャー・クラーク『現代産業組織論』多賀出版
- ・ウイリアムソン『市場と組織』日本評論社

- ・ミルグロム・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版
 - ・Stephen Martin, *Advanced Industrial Economics*, Blackwell
 - ・Prajit k. Dutta, *Sytrategies and Games*, MIT Press
 - ・F.M. Scherer, *Industrial Market Structure and Economic Performance*, Mifflin
 - ・Wolfstetter, *Topics in Microeconomics*, Cambridge
 - ・Gibbons, *Game Theory for applied economics*, Princeton (福岡・須田訳)
 - ・Axelrod, *The Complexity of Cooperation*, Princeton
 - ・Carrol and Hannan, *Organization in Industry*, Oxford
 - ・J. Tirole, *The Theory of Industrial Organization*, MIT
- その他の参考文献は、テーマ毎にクラスで紹介する。

授業の計画：

1. 産業組織論の系譜
2. ペインのトライコトミー・アプローチの評価
3. 市場構造の諸指標と市場観
4. 市場の画定と審判・裁判例
5. 費用構造(規模・範囲・学習曲線・劣加法性)
6. 代表的市場モデルの均衡と現実
7. 水平合併の原因・厚生的帰結
8. 垂直合併の原因・帰結と企業評価
9. 企業の本質論
10. 製品差別性と均衡
11. カルテルの安定性
12. 新規参入をめぐるゲームと現実の参入
13. コンテストブル・マーケット論の評価
14. オークションにおける取引
15. コーポレート・ガバナンスの仕組み
16. 独禁法とIOのアプローチ

履修者へのコメント：

- 1) 担当者の市場観に同調する必要は全くない。
- 2) 数式が登場するが、演算が不得意でも履修可能ではない。

成績評価方法：

- ・学期末試験
- ・クラスの中で行うクイズ(ミニ試験)

質問・相談：

授業の後に受け付ける。メールによる質問は受け付けていない。

労働経済論(秋学期集中)

教授 島田晴雄

授業科目の内容：

本講義では、労働に関する諸問題を経済の基礎理論をふまえ、現実の日本経済の制度や政策課題を広い観点から多面的に考察する。

とりわけ、深刻な低迷に陥っている日本経済の現状を詳細に観察検討し、日本経済の新しい可能性はどこにあるのか、また、その可能性を現実のものとするにはどのような課題を克服しなくてはならないか、そのための政策手段は何かなどを考える。

テキスト：

- ・島田晴雄『雇用を創る構造改革』日本経済新聞社
- ・島田晴雄『めしのタネ発見地図 ビジネスチャンスが変わった』かんき出版
- ・島田晴雄(共著)『日本を元気にする健康サービス産業』東洋経済新報社
- ・島田晴雄・吉川洋(共著)『痛み先の先に何があるのか』東洋経済新報社
- ・島田晴雄『日本の雇用』筑摩書房

参考書：

- ・島田晴雄『明るい構造改革』日本経済新聞社
- ・島田晴雄『日本経済 勝利の方程式』講談社
- ・島田晴雄『日本再浮上の構想』東洋経済新報社
- ・島田晴雄(編著)『労働市場改革』東洋経済新報社
- ・島田晴雄『住宅市場改革』東洋経済新報社

履修者へのコメント：

例年、本講義には多くの履修申告者があるが、その中には講義をしっかりと聴講せず学習意欲や履修態度に問題のある者も少なからず散見されるので、こうした諸君を排除し、熱心な学生諸君を選別するために、講義期間の前段で数回の「打ち合わせテスト」を行う。これ

らのテストを受けなかった者あるいはそのテストの成績が著しく低かった者については、期末試験受験資格を与えないことも考える。したがって安易な気持ちで履修する諸君は、はじめから本講義を履修しないことを勧めたい。

社会政策論(春学期集中)

助教授 山田篤裕

授業科目の内容：

労働政策と社会保障を包摂する社会政策について、経済社会の発展とともにどのように整えられてきたのか日本を中心に振り返るとともに、制度を分析する際に必要な経済理論、今日の政策体系および直面している問題について学びます。

参考書：

- ・Barr, Nicholas, *The Economics of the Welfare State* (4th edition), Oxford University Press, 2004
 - ・駒村康平『福祉の総合政策(新訂二版)』創成社, 2004年
 - ・厚生労働省『厚生労働白書』
- これ以外については、各回で紹介します。

授業の計画：

春学期(総論)

年間計画と授業の進め方

日本における社会政策研究の系譜

社会政策と経済学

労働政策と社会保障の概略史

社会保障の機能と体系

福祉国家の危機

貧困と不平等の概念と測定

秋学期(各論)

労働政策(労働基準)

労働保険(雇用保険と労働者災害補償保険)

年金保険

医療保険

介護保険

住宅政策

保育政策

結論

履修者へのコメント：

一年間の講義により、経済社会との関連において社会政策の意義やあり方を体系的・分析的に捉え、さまざまな改革案の是非について有権者のひとりとして判断できるようになってほしいと思います。

成績評価方法：

授業内テストおよび学期末試験

経済政策論

教授 大村達弥

授業科目の内容：

日本的経済システムの下で右肩上りの発展を続けてきた日本経済の前に立ち塞がった長期停滞の壁を乗り越えるべく、金融、財政、企業制度等の分野で構造改革が行われてきたが、改作政策の現状と問題点は何かを述べる。

講義の前半は政策を学ぶ上で必要な理論体系として効率・公正基準、市場の失敗、インセンティブ問題、目的と手段等経済政策に関する基礎的理論を、後半は経済構造改革政策を中心に、現代の経済政策の現状と背景について講義する。余裕があれば政策の意思決定に関する理論を講義する。なお積極的な学習を促すため、具体的な政策をテーマにレポートの提出を求める。

テキスト：

指定なし

参考書：

講義の進行に合わせ、授業中に指示する。

授業の計画：

1 政策理論基礎編

効率・公正, 正義の理論

市場の失敗と政府の失敗: 公共財, 外部経済, 規模の経済

情報の非対称性とインセンティブ問題

政策目的と手段

2 現代の経済政策

構造改革政策概要

日本の経済システムの形成の歴史的背景

構造改革政策各論：金融・財政、規制緩和、産業政策

3 政策理論

政策の意志決定過程

公共選択

成績評価方法：

・学期末試験 春学期末および秋学期末に実施

・レポート 秋学期に予定

最終評価はレポートと各期末試験の結果をほぼ1:1:1のウェイトで総合する。

質問・相談：

授業時間外はメールで受け付ける。

財政論

教授 飯野 靖 四

授業科目の内容：

財政論には国の財政を扱う（国家）財政論と地方自治体の財政を扱う地方財政論があるが、この授業では主として国の財政を扱う。また財政を扱う方法には、経済理論を利用して分析するアメリカ型の財政論、制度論にもとづいて分析するドイツ系財政論、マルクス主義理論にもとづいて分析するマルクス主義系財政論があるが、この授業では前者2つの財政論をミックスした形で講義する。

具体的には歳入面では税金（所得税、法人税、消費税、財産課税など）と公債、歳出面では公共財、年金、医療、介護の問題を中心にして講義を行う。なお担当者は30年間にわたってスウェーデンと関わっているため、日本との対比においてスウェーデンのケースを多く扱う。

テキスト：

使用しない。この授業の単位を取得するためだけなら、授業に出席するだけで十分である。

参考書：

・『図説 日本の財政』東洋経済新報社

・『図説 日本の税制』財経詳報社

授業の計画：

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1. 財政論の種類 | (1回) |
| 2. 財政論の周辺領域 | (1回) |
| 3. なぜ政府が民間市場に介入するのか | (1回) |
| 4. 政府の仕事 | (1回) |
| 5. 公共財とは何か | (1.5回) |
| 6. 日本の税制、特に所得税制 | (4回) |
| 7. 法人税（国際課税も含む） | (2回) |
| 8. 日本の消費税 | (2回) |
| 9. 公債の理論 | (2回) |
| 10. 日本の社会保障制度
年金、医療、介護 | (4回) |
| 11. いわゆるフィスカルポリシー | (3回) |
| 12. 環境税 | (1.5回) |
- (回数はあくまで目安である)

履修者へのコメント：

とにかく授業に出席して講義を聞いてほしい。またそのような諸君を優遇したいと考えている。授業時間中の飲食、携帯電話は遠慮してほしい。

成績評価方法：

・試験の結果による評価（定期試験期間内の試験）

・平常点（出席状況および授業態度）（履修者が250人以下の場合には、こちらの方法もとりたいと考えている）

質問・相談：

できたら授業の直後がベストである。Eメールによる質問・相談は顔が見えないので余り好まない。

金融論

(春)教授 吉野 直行

(秋)教授 塩澤 修平

授業科目の内容：

〔春学期〕日本の資金循環、各経済主体の金融活動、資産価格の変動、債券市場・株式市場、為替レートの動きについて、制度・データなどを用いた計量的な観点から概説する。

〔秋学期〕金融市場、金融政策、国際金融、金融派生商品について、主として理論的な観点から概説する。

テキスト：

〔春学期〕使用しない。

〔秋学期〕塩澤『現代金融論』創文社、2002年

参考書：

〔春学期〕吉野直行・高月昭年『入門・金融』有斐閣

その他の参考文献は、講義の中で説明する。

〔秋学期〕適宜指示する。

授業の計画：

〔春学期〕主な講義内容は以下の通りである。

- (1) 日本の資金循環の変遷
 - (2) 金融機関の種類とその役割
 - (3) 家計の金融行動
 - (4) 企業の金融行動
 - (5) 政府の国債発行等による金融活動
 - (6) 銀行貸出と銀行行動
 - (7) 債券市場・株式市場
 - (8) 為替レートの決定とアジア通貨危機
 - (9) 固定相場制・変動相場制・バスケット通貨制
 - (10) 金融政策手段
 - (11) 財政政策と金融政策
- 以上が主な内容である。

〔秋学期〕

1. 貨幣需要のマクロ的定式化
2. 貨幣需要のミクロ的基礎
3. 債券価格と利子率
4. 株式価格
5. 効率的証券市場と金融契約
6. 金融政策の目的と手段
7. IS-LM 分析と金融政策
8. 物価水準と金融政策
9. 外国為替と国際金融市場
10. 為替レートの決定
11. 開放マクロ経済学と金融政策
12. 金融派生商品の一般的特質
13. 金融派生商品の価格決定

履修者へのコメント：

ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎があることが望ましい。経済学部と法学部等の学生には異なる試験問題とする予定

成績評価方法：

前期と後期のそれぞれの成績を50%として合計して成績をつける。

〔秋学期〕

期末試験に、授業中の問題演習の結果を加味して決定する。

日本経済システム論

教授 池尾 和人

授業科目の内容：

〔春学期〕日本の経済システムの制度的特質を、民間の企業システムと政府・企業間関係のあり方を中心に講述する。最初には、そのために必要な経済理論の基礎を解説する。

〔秋学期〕日本の経済システムの抱える政策的課題を、制度面とマクロ面にわたって現代経済学の立場から考察する。関連する経済学的知識の復習も含む。

テキスト：

特になし（毎回の講義の際にレジュメを配布する）。

参考書：

〔春学期〕

- ・宮本光晴『企業システムの経済学』新世社，2004年
- ・池尾和人・黄圭燦・飯島高雄『日韓経済システムの比較制度分析』日本経済新聞社，2001年

〔秋学期〕

- ・岩本康志・他『経済政策とマクロ経済学』日本経済新聞社，1999年
- ・池尾和人『銀行はなぜ変わらないのか 日本経済の隘路』中央公論新社，2003年

授業の計画：

〔春学期〕

1. 分析視角
- ・ 経済学的準備
2. リスク・シェアリング
3. 契約と誘因両立性
4. 企業の理論
- ・ 日本の企業システム
5. 日本の企業組織
6. 日本的雇用慣行
7. 日本的生産システム
8. 系列と長期取引
9. 株式持ち合い
10. メイン・バンク制
- ・ 政府・企業間関係
11. 市場と政府活動
12. 日本の政策決定過程

〔秋学期〕

- ・ 市場経済の制度的基盤
- 1. 政策の経済的制約
- 2. 税制と制度間競争
- 3. セーフティネット
- 4. 金融・資本市場
- ・ マクロ経済学の復習
- 5. マクロ経済学の新展開
- 6. 新しい経済成長論
- ・ 日本経済のマクロ的諸側面
- 7. 貯蓄行動
- 8. 投資行動
- 9. 財政赤字
- 10. 経常収支
- 11. マネー・サプライ
- 12. 日本経済の課題

成績評価方法：

成績の評価は、学期末に試験を実施し、その得点による。出席点は特に考慮しない。

現代日本経済論

教授 北村 洋基

授業科目の内容：

1970年代以降現在までの日本経済の展開を跡づけるとともに、それぞれの時代の評価、別の選択肢の可能性についても検討する。

最後に、日本経済の課題と展望を考察する。

テキスト：

北村洋基『日本経済の岐路』（仮題）大月書房

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

はじめに

- 第1章 日本をとりまく内外の環境変化 1970年代
- 第2章 70年代の危機と対応
- 第3章 80年代前半の日本経済
- 第4章 80年代後半の日本経済
- 第5章 平成大不況第一局面（1990年代初頭 - 97年春）
- 第6章 平成大不況第二局面（1997年春 - 2000年）
- 第7章 平成大不況第三局面（2001年 - 2004年度末）
- 第8章 日本資本主義の新段階と課題

成績評価方法：

- ・ 学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
- ・ 平常点（出席状況および授業態度）

日本資本主義発達史

教授 植田 浩史

授業科目の内容：

この講義では、日本における資本主義の展開について、他の先進国や中進国、後発国と比較しながら検討し、その特徴と構造について検討する。時期的には、19世紀末から現在までを対象とする。講義では、マクロ的な視点と同時に、個別の産業、企業、地域などを対象にしたミクロ的なデータも用いながら、進める。

参考書：

- ・ 大石嘉一郎『日本資本主義百年の歩み』東京大学出版会，2005年
- ・ 大野健一『途上国ニッポンのあゆみ』有斐閣，2005年

授業の計画：

- | | |
|-----------------------------|------|
| 序章 日本資本主義発達史の課題と方法 | (1回) |
| 1章 多様な資本主義発展と資本主義タイプ | (2回) |
| 2章 「日本型資本主義」とは何か | (3回) |
| 3章 日本資本主義の生成：19世紀末～20世紀初 | (3回) |
| 4章 日本資本主義の発展(1)：20世紀初～1945 | (3回) |
| 5章 日本資本主義の発展(2)：1945～高度成長期 | (5回) |
| 6章 日本資本主義の発展(3)：1970年代～1985 | (4回) |
| 7章 日本資本主義の転機：1985～21世紀初頭 | (4回) |
| 終章 日本資本主義発達史の総括 | (1回) |

履修者へのコメント：

「日本経済史」や「現代日本経済論」も合わせて履修すると、一層理解が深まる。

成績評価方法：

- ・ レポートによる評価
- ・ 試験による評価

質問・相談：

2ヶ月に一度、質問カードを配布し、質問を直接受け付けるようにする。

現代資本主義論

教授 渡辺 幸男

授業科目の内容：

春学期は現代の個別資本をどのように把握すべきか、その把握にもとづく合意を明らかにする。秋学期は現代資本主義経済の再生産をどのように把握すべきかを明らかにする。

参考書：

〔春学期〕

- ・ 北原勇『現代資本主義における所有と決定』岩波書店，1984年
- ・ 渡辺・小川・黒瀬・向山『21世紀中小企業論』有斐閣，2001年

〔秋学期〕

- ・ 北原勇『独占資本主義の理論』有斐閣，1977年
- ・ 『資本論体系第10巻 現代資本主義』有斐閣，2001年
- ・ 『シリーズ現代中国経済1 経済発展と体制移行』名古屋大学出版会，2002年

授業の計画：

〔春学期〕

- ・ 巨大企業の所有構造とその意味
- 1. 日本の巨大企業の所有構造 その実態
- 2. 主要国の巨大企業の所有構造 その実態
- 3. 巨大企業の所有構造と企業行動についてのいくつかの論点
- ・ 現代の中小企業 大いなる期待と実態
- 1. 日本の中小企業・ベンチャー
- 2. シリコンバレーとは
- 3. サクセニアン議論を巡って
- 4. 中小企業・ベンチャーをどのように把握するか
- 5. 現代資本主義と産業集積
- 6. 大量生産体制から、柔軟な専門化への転換？
- 7. 独占資本主義論とベンチャー・中小企業
- ・ 所有構造の変化と独占的市場の液状化（？）その意義

〔秋学期〕

- ・ 現代資本主義と停滞基調

1. 現代資本主義論の位置
2. 資本主義の一般理論
- ・現代資本主義の経済的基礎理論
 1. 独占資本主義とは
 2. 独占資本主義における停滞基調・過剰の慢性化
 3. 停滞基調を打破する要因 新生産部門と対外膨張、そして後進工業化国の発展
- ・戦後資本主義をどう見るか
 1. 国家独占資本主義論
 2. IMF・GATT体制と冷戦
 3. 現代資本主義の変質と新しい自体・新しい矛盾の展開
 4. 世界経済のグローバル化のなかでのアジアの発展の意義
- ・現代資本主義と日本経済の展望

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）(春秋とも)
 - ・平常点（出席状況および授業態度）
- 春・秋の学期末試験と出席（遅刻は出席ではない）の評価を加味して評価する。ただし、期末試験は、それぞれ45%のウエイト、出席点は20%のウエイトである。合計40点以上が合格、60点以上80点未満がB、80点以上がAと評価される。

経済体制論

助教授 駒形哲哉

授業科目の内容：

「経済体制」とは制度の体系を指す。制度の体系は、生産力の発展と相互連関的に作用しあいながら変化する。同時にそれは歴史的条件や地政学的条件にも左右される。それゆえ、理論次元での考察が重要であることは事実であるにしても、経済体制がさまざまな具体的諸条件に規定されている以上、ある特定の対象を定め、それを中心に、あるいはまたそれを起点に論じていくことにも十分意味があることと考えられる。そこで本講義では、経済発展と体制移行が並行して進む中国の「社会主義市場経済」の動態、性質を多面的に検討しながら、移行と発展の意味について論じる。

テキスト：

必要に応じて講義資料を配布する。

参考書：

講義のはじめに紹介する。

授業の計画：

〔春学期〕

- 第1回 概要説明（秋学期科目「現代中国経済論」のガイダンスも合わせて行う）
- 第2回 なぜ現代社会主義は生まれたのか 社会主義体制成立の理論的・歴史的背景
- 第3-4回 経済体制の比較モデル検討 「中国式社会主義」の構造と特徴(1)
- 第5-6回 経済体制の比較モデル検討 「中国式社会主義」の構造と特徴(2)
- 第7回 社会主義市場経済とは何か 市場誘導モデルと社会主義市場経済
- 第8回 授業内小レポート
- 第9回 ビデオによる講義内容の確認（“中国共産党の挑戦”）
- 第10-12回 計画から市場への移行 理論的アプローチ
- 第13回 春学期のまとめ

〔秋学期〕

- 第14回 ビデオ（“中国・中産階級が国を変える”）による問題の所在の把握
- 第15回 「中産階級」の中国的形成と展開
- 第16回 中国における「中間層」（中産階級）の性質
- 第17-19回 政治体制改革の必要性 現代企業制度、産業構造
- 第20回 中国における体制激震の要素 格差の拡大と腐敗
- 第21回 授業内小レポート
- 第22回 ビデオ（“ITは中国を変えるか”）による問題の所在の把握
- 第23回 中国における世論・情報・通信
- 第24回 産業発展と情報統制のジレンマ
- 第25回 体制の行方 ために代えて

第26回 予備

履修者へのコメント：

講義を妨げ、他の履修者に迷惑をかける者には厳しい措置をとる。

成績評価方法：

授業内小レポートと期末筆記試験により決定する。履修者数によっては出席等を成績に加味する場合もある。

世界経済論

教授 竹森俊平

授業科目の内容：

本講義では、金本位制が確立した19世紀後半から現代までの世界経済の流れを、特に金融面に注目して解説する。1930年代の大恐慌の経験が、今日、日本が陥っている景気不振を理解する上で参考になることは拙著『経済論戦は甦る』で説明した。しかし、19世紀後半の世界経済も貿易、金融の面でのグローバル化と、世界的同時デフレが進行していたという点で、今日の状況との重要な類似性を持つので、詳しく検討する。つまり、本講義は、イベントを理解するための用具として経済理論とともに、歴史的なパースペクティブを重視するのである。

なお、講義の内容は日吉で担当している「世界経済の現状と問題」とはまったく異なり、第一部「バイメタリズムと金本位制」、第二部「世界大恐慌」、第三部「ブレトンウッズ体制とそれ以降」という、クロノロジカルな三部構成で成り立つ。この講義内容に沿った著作を計画中であるが、とりあえず参考書として次の3点を挙げておく。

- ・Barry Eichengreen, *Globalizing Capital*, Princeton University Press
- ・拙著『世界経済の謎』東洋経済新報社
- ・拙著『経済論戦は甦る』東洋経済新報社

国際貿易論

教授 若杉隆平

授業科目の内容：

本授業は、国際貿易（直接投資を含む）に関して、以下に示す内容をカバーする標準的な講義シリーズである。

1. Ricardoの貿易理論
生産技術の差異が国際貿易の理由となることに注目したりカードによる貿易理論をもとにして、比較優位と生産技術の関係、交易条件と貿易均衡について紹介する。
2. ヘクシャー＝オリーンの貿易理論
生産要素の賦存状況の差異が国際貿易の理由となることに注目したヘクシャー＝オリーンによる貿易理論をもとにして、要素集約度と比較優位、貿易均衡、要素賦存量の変化と貿易均衡（リブチンスキー定理）、財価格の変化と要素価格の関係（ストルパー＝サミュエルソン定理）などを取り上げる。
3. 貿易均衡
自由貿易における生産、消費者利益、交易条件の変化と貿易利益、経済成長・イノベーションと貿易利益、貿易均衡の安定性・不安定性など、貿易均衡に関する主要な概念を紹介する。
4. 特殊要素モデル
財と生産要素が特殊な関係を有する場合の貿易モデルを取り上げ、財価格の変化、特殊な生産要素量の変化、共通的な要素量の変化が貿易均衡に与える効果について紹介する。
5. 完全競争市場の下での貿易政策
競争市場のもとでの政府の通商政策がもたらす諸効果を紹介する。具体的には、輸入関税、輸入数量制限、輸出税、貿易に関する補助金、最適関税の理論を取り上げる。
6. 不完全競争市場下での貿易政策
規模経済性や製品差別化のもとで生ずる貿易を対象として、産業内貿易の発生、貿易利益、不完全競争の下での貿易政策、戦略的貿易政策、産業保護政策に関して紹介する。
7. 直接投資・技術移転
直接投資や多国籍企業の活動は貿易と密接に関連する。直接投資と貿易均衡、技術の移転、発展途上国への経済協力・技術移転と経済成長について取り上げる。
8. 国際貿易の政治経済学
自由貿易の基礎を形成するWTOの諸ルール及び近年増加しつつある地域経済統合を取り上げ、理論的観点からの議論とともに政治

経済学的観点からの議論を行う。

9. 国際収支と為替レート

対外バランスと国際収支統計、国民所得統計と国際収支統計の関連を取り上げ、経済統計を基礎にした貿易の実態を紹介する。また、為替レートを決定する諸理論について講義する。

テキスト：

・若杉隆平『国際経済学（第2版）』岩波書店，2001年

参考書：

・伊藤元重・大山道広『国際貿易』岩波書店，1985年

授業の計画：

「授業科目の内容」の欄に記載された各分野について、おおむねその順番に沿って、3回～4回程度の講義回数を割り当てる予定である。

履修者へのコメント：

講義で取り上げる内容の多くはミクロ経済学を基礎としているので、ミクロ経済学の基礎的内容の履修は不可欠である。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価（春秋とも学期末試験を実施する）

国際金融論

教授 櫻川昌哉

授業科目の内容：

国内内外での金融危機に焦点をあてた講義を行う。前半では、国内で起きた金融危機と不良債権問題について講義する。この20年ほどの間に、金融仲介の理論は、情報の経済学、ゲーム理論、ソフトな予算制約の問題を応用することで、現実のさまざまな金融の諸問題を解明することに成功している。不良債権問題をテーマに、こうした新たな分析道具を使いつつ、日本の金融システムの問題点を明らかにする。後半では、国外で起きた金融危機に焦点をあてた講義を行う。80年代には累積債務問題が中南米諸国で生じ、90年代にはアジア通貨危機が生じたように、国外での金融危機は国際的な資本移動の“失敗”に起因して発生している。国際金融の基本的概念に触れつつ概観する。

特に教科書は指定しないが、次の文献を参考にする。

テキスト：

・岩田規久男・宮川努編『失われた10年の真因は何か？』東洋経済新報社

参考書：

・櫻川昌哉『金融危機の経済分析』東京大学出版会

・花輪俊哉・小川英治・三隈隆司（編）『はじめての金融経済』東洋経済新報社

・クルグマン・オブストフェルド『国際経済・国際マクロ経済学』新世社

成績評価方法：

・学期末試験

経済発展論

助教授 秋山裕

授業科目の内容：

人類はその長い歴史を通じて、より高い経済水準とより近代化した社会を実現するための努力を続けてきました。経済発展は経済活動の究極の目的です。経済発展をいかにして達成するかは、経済学にとって基本的な課題です。経済発展とはいかなる現象なのか、また、経済発展を促進するために、私達は何をするべきなのかという「課題」を、「経済理論」と「経済統計」をバランスよく組み合わせることによって探求していきます。

講義は、様々な課題を考えるための理論の解説、日本およびアジア諸国を中心とした国々でのその理論の実証、その理論を用いた政策の検討からなります。春学期はマクロレベル、秋学期は産業レベルの分析が中心になります。そして、履修者には試験のみならず、レポートも課されます。レポートをこなすことによって、現実の経済問題を考え、理論および統計を用いて実際に分析する力を養います。

テキスト：

・秋山裕『経済発展論入門』東洋経済新報社，1999年

参考書：

個別テーマの参考文献は講義時に指示します。

授業の計画：

講義の構成は以下のとおりです。

〔春学期〕

1. ガイダンス
2. 経済発展とは
3. 経済発展の指標
4. 経済発展の観察（その1）
5. 経済発展の観察（その2）
6. 古典派の経済発展観
7. 経済発展段階説、貧困の悪循環
8. ハロッド＝ドーマー・モデル
9. 新古典派成長モデルによる成長要因分析
10. 新古典派成長モデルの特徴
11. 最適成長理論
12. 内生的成長理論
13. 問題演習

〔秋学期〕

1. 2部門経済発展理論（その1）
2. 2部門経済発展理論（その2）
3. 2部門経済発展理論（その3）
4. 3部門経済発展理論
5. 産業の技術特性
6. 産業連関表
7. 産業連関分析（その1）
8. 産業連関分析（その2）
9. 産業構造変化の決定メカニズム
10. 産業構造変化の要因分解分析
11. 経済発展と国際金融
12. 経済発展と経済安定化
13. 問題演習

履修者へのコメント：

講義は、担当者と履修者の協力によってより良いものとなっていきます。そのため、「講義を欠席しない」という意思のある人のみ履修してください。また、レポートは、MS Excel を利用した演習を伴いますので、表計算ソフトの基本操作を習得している人、あるいはそれを習得しようとする意思のある人のみ履修してください。

2005年度の講義については、担当者が管理しているWebサイト (<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akiyama/>) を参照してください。

成績評価方法：

- ・学期末試験（春秋とも）
- ・レポート（春秋各2回を予定）
- ・講義内演習（回数は講義の進捗により調整）

質問・相談：

履修者の質問に答えるため、週1回のオフィスアワーを設置します。時間および場所については第1回目の講義にて指示します。

経済地理

教授 杉浦章介

授業科目の内容：

経済地理は、経済活動の空間的側面に焦点をあてて分析を行うが、経済活動のグローバル化や地域経済統合などによって、企業、産業、地域・都市経済、国民経済、国際経済の様々なレベルにおいて経済の空間的組織化は急速かつ根本的に変容してきている。本講義では、空間経済学や地理学的視点からこれらの変化や変容を明らかにしてゆく。都市・地域経済、国際経済、グローバル企業経営などに関心のある学生の履修に適している。他学部の学生の履修も認めるので経済学の理論的知識については適宜説明を行う。

テキスト：

・杉浦章介『都市経済論』岩波書店，2003年

参考書：

・杉浦章介他『人文地理学』慶應義塾大学出版会，2005年

授業の計画：

1. 経済学・地理学・経済地理学
2. 生産・物流・消費の経済地理
3. 産業集積の経済地理
4. 国際分業の経済地理

5. 都市化の経済地理
6. 競争優位の経済地理
7. 国民経済 地域経済と経済地理

履修者へのコメント：

時事経済についても関心を深める為、新聞等の経済記事はよく読むように。

成績評価方法：

・試験の結果による評価（春・秋それぞれの期末試験の評価を合計し、最終評価とする。）

質問・相談：

適宜（質問は教室で時間内に行うことを原則とする。授業中の質問を歓迎する。）

経済地理

助教授 武山政直

授業科目の内容：

この授業では、都市の様々な機能や施設の立地パターンに注目するとともに、それらが人々の立地行動と諸環境とのダイナミックな相互作用を通じて生成されていく仕組みを理論的かつ実証的に解明します。前期の授業では、特に立地行動や立地パターンに関する諸概念や理論的研究手法の導入をテーマに、空間的モデルの構築やシミュレーションの技法について解説します。また後期の授業では、経済の知識集約化やグローバル化にともなう近年の企業や都市生活者の立地・空間行動の変化に注目し、それらが都市の構造や機能に及ぼす影響について多面的な分析を試みます。この授業で扱うトピックは、経済活動の空間分析、情報技術と経済社会のかかわり、都市計画や空間デザインに興味を持つ学生を対象としています。

授業の計画：

[春学期]「立地の空間的ロジック」

- 1) オリエンテーションと問題提起
- 2) ものの見方と学問のアプローチ
- 3) 空間的相違を生み出す規則と規則性
- 4) 理論化のツールとしての集合論
- 5) 因果関係と関数関係
- 6) 立地を抽象化してとらえる
- 7) 立地行動と立地パターンの形成
- 8) 用途地域と隣接可否性の拘束
- 9) 立地生成のモデルとゲーム
- 10) 立地パターンの自己組織性
- 11) マルチエージェントシミュレーション
- 12) 複雑系としての都市と社会
- 13) 春学期まとめ（夏休みの課題説明）

[秋学期]「情報社会と都市空間」

- 1) 夏休み課題の講評
- 2) 日米のITビジネスの立地動向
- 3) 産業立地の経済地理モデル
- 4) 企業集積とクラスター理論
- 5) 人的ネットワークとソーシャルキャピタル
- 6) 創造的ワーカーを誘引する都市
- 7) 経験価値と消費の空間
- 8) ケータイ世代の時間と空間
- 9) 都市のモバイルマーケティング
- 10) ファッションとウェアラブルコンピュータ
- 11) 情報通信メディアの発展と都市の変遷
- 12) 情報ネットワーク社会の経済地理
- 13) 秋学期まとめ

成績評価方法：

学期中のレポート、夏休み中の課題、学年末の試験によって成績評価を行います。

環境経済論（春学期集中）

教授 大沼あゆみ

授業科目の内容：

経済活動の枠組みが、さまざまな側面で、環境とのかかわりを考慮したものになりつつある。たとえば、無制限に放出されていた二酸化炭素も、京都議定書の発効とともに制限されることになった。

経済活動はますます環境保全と両立するものであることを求められている。環境経済学はそのような変化する経済システムの設計に大きな役割を果たしている。本講義では、経済活動と環境の相互依存関係の理解をした上で、市場メカニズムの中での環境政策の役割を概説する。あわせて、将来世代の状況を重視する環境経済学の特徴的な視点である、持続可能な発展についても述べる。

テキスト：

・ターナー、ピアス、バイトマン『環境経済学入門』東洋経済新報社

参考書：

授業中にその都度紹介する。

授業の計画：

1. 環境経済学とは何か：従来の経済学との違いと目標
2. 外部性・市場の失敗：市場メカニズムと環境悪化の関連
3. 外部性の是正とピグー税：外部費用の内訳
4. デポジット制度：課税と補助金の組み合わせ
5. 直接規制：汚染上限の設定の効果
6. 許可証取引制度：汚染総量の設定と汚染許可証の市場取引による効果
7. 所有権とコースの定理：自然資源の所有権の多様性と自発的交渉による最適状態の実現の可能性
8. 非再生可能資源：その経済的特徴と時間を通じた効率的な利用ルール
9. 将来世代と持続可能な発展：ハートウィック・ルール、割引率、持続可能性指標

成績評価方法：

授業中に行う小テスト、および春学期定期試験の成績を総合して評価する。

質問・相談：

随時受け付ける。メールでアポイントメントをとること。

都市経済論（春学期集中）

教授 瀬古美喜

講師 中神康博

授業科目の内容：

本講義の目的は、主に価格理論に基づいて、市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点から、日本の都市問題を時には外国の都市問題と比較しながら、経済学的に考察することにある。

テキスト：

DiPasquale and Wheaton（瀬古美喜・黒田達朗訳）『都市と不動産の経済学』創文社、2001年

参考書：

- ・宮尾尊弘『現代都市経済学・第2版』日本評論社、1995年
- ・中村良平・田淵隆俊『都市と地域の経済学』日本評論社、1996年
- ・金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社
- ・山田・西村・綿貫・田淵編『都市と土地の経済学』日本評論社、1995年
- ・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社
- ・（財）日本住宅総合センター『季刊住宅土地経済』各版
- ・藤田昌久他（小出訳）『空間経済学』東洋経済新報社
- ・佐々木公明・文世一『都市経済学の基礎』有斐閣
- ・山田浩之編『地域経済学入門』有斐閣

授業の計画：

講義予定は、以下のとおりである。

[瀬古担当分]

1. 都市経済学と都市問題
 - (a) 都市経済学とは何を研究する学問か
 - (b) 都市化と都市問題
 - (c) 都市化の原因
 - (d) 集積の経済（地域特化の経済と都市化の経済）
 - (e) 新経済地理学（ポール・クルーグマンの中心・周辺モデル）
 - (f) 伝統的な経済学との比較・対比
2. 都市集中のメカニズム
 - (a) 交通費と集中
 - (b) 競争と集中
 - (c) 立地と価格競争

- (d) 都市集中のパターン
- 3. 大都市圏の成長と衰退
 - (a) 都市の発展段階
 - (b) 都市の成長分析
 - (c) 地域経済成長の3部門モデル
 - (d) 地域乗数モデル
 - (e) 都市の衰退分析

[中神担当分]

- 4. 都市の住宅問題
 - (a) 日本の住宅問題
 - (b) 付け値地代曲線
 - (c) 住宅立地
 - (d) 住宅需要分析(ヘドニック)
 - (e) 住宅供給分析
 - (f) 住宅市場分析
 - (g) 住宅政策
- 5. 都市の土地問題
 - (a) 日本の土地問題
 - (b) 土地サービスと地代
 - (c) 地代と地価の関係
 - (d) 土地税制
- 6. 都市の交通問題
 - (a) 交通手段の選択と需要
 - (b) 交通混雑の分析
 - (c) 交通投資の分析
- 7. 都市の財政問題
 - (a) 日本の都市財政の推移
 - (b) 都市財政と地方公共財

履修者へのコメント:

授業にきちんと出席して、復習を特に行うこと。

成績評価方法:

- ・学期末試験(春学期定期試験期間内の試験)
- ・レポート

人 口 論 (春学期集中)

教 授 津 谷 典 子

授業科目の内容:

近年さまざまな人口問題が関心を集めている。60億を超えなお増加する世界人口、それをもたらす発展途上地域の急速な人口増加と資源・環境への影響、一方では先進諸国の超低出生率とその背景にある女性の社会的地位の変化と晩婚化や離婚の増大などが広く議論され、政策的認識も高まっている。人口はその国の社会経済発展・開発と強く結びついており、労働力や消費などへの影響を通して経済成長を左右する。

本講義は人口学の主要項目を広く学び、現在の内外の人口問題について理解を深めることを目的とする。また人口統計の読み方や人口指標の計算法などの人口統計学の基礎についても実際の統計データを用い手ほどきする。このため確率や統計学の基礎的知識があることが望ましい。講義内容の詳細は第一回授業時に配布するシラバスに説明する。なお参考書は授業に先立ち通知し、資料も随時配布する。

テキスト:

- ・河野稔果『世界の人口(第2版)』東京大学出版会、2000年

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)
- ・平常点(出席状況および授業態度)

産業社会学

教 授 金 子 勝

授業科目の内容:

グローバル化の波が世界を覆うとともに、分裂と不安定の時代が始まった。明らかに、経済社会は大きな歴史的転換期を迎えている。この講義は、グローバル化、冷戦型イデオロギーの終焉、リベラリズムと経済理論、市場と人間社会、日本経済の長期停滞、制度改革といった問題群を扱う。経済学だけでなく政治理論や社会学をも踏まえて、自由でラディカルな発想から新しい社会経済学を構想する。

テキスト:

- ・金子 勝『長期停滞』ちくま新書
- ・金子 勝『経済大転換』ちくま新書

参考書:

- ・拙著『セーフティネットの政治経済学』ちくま新書
- ・共著『逆システム学 市場と生命を解き明かす』岩波新書

授業の計画:

講義は、つぎの項目にしたがって行う。

市場理論と人間像 所有と自由・合理性の限界
セーフティネットと市場 市場像の転換
長期停滞の時代
どのような制度改革が必要なのか
日本企業と日本社会の特質
逆システム学の方法

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)
- ・レポート
- ・平常点(出席状況および授業態度)

社会史(秋学期集中)

教 授 松 村 高 夫

授業科目の内容:

社会史は、「下からの歴史」と「総合の学」を構築することを目的としている。即ち、権力側からではない、コモン・ピープル(民衆)から見た歴史を描くこと、および、分断化された研究領域の総合化を目指すこと、この二点を目的としている。本講義では、近代合理主義的モイズム(唯一主義)に対抗する研究史の流れを辿ったのち、ヨーロッパにおける現在の社会史研究の状況を述べ、社会史の具体的・歴史的展開を講じる。そこには、20世紀における戦争と虐殺の社会史も含まれる。

授業の計画:

1. 社会史の方法
 - ・「下からの歴史」と「総合の学」
 - ・研究の手段と史料収集の方法
2. 社会史の認識論的系譜
 - ・J.B. ヴィーコからJ. ミシュレへ、さらにL. フェーブルへ
 - ・W. ブレイクからW. モリスへ、さらにE.P. トムスンへ
 - ・ヴィーコからクローチェ、コサングウッドへ、さらにE.H. カーへ(I. パーリンによる批判)
 - ・ヴィーコからヘイドン・ホワイトへ、さらにポスト・モダンの歴史学へ(その批判的検討)
 - ・英独仏、日本における社会史研究の軌跡と現在の状況
3. 社会史の具体的展開
 - ・暴動史
 - ・労働運動史と労働史
 - ・社会運動史
4. 「戦争と虐殺」の社会史
 - ・ABC兵器と20世紀の戦争
 - ・ジェノサイドとマス・キリング

履修者へのコメント:

受講し、自らの脳細胞を使って主体的に思索することが望まれる。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点(出席状況および授業態度)(出席が重視される。毎回短いものを書いてもらう。)

(2) 特殊科目

ゲームの理論

(春) 助教授 グレーヴァ 香子
(秋) 教授 中山 幹夫

授業科目の内容:

理論経済学のみならず多くの分野で重要な分析道具となっているゲーム理論の基礎と応用を講義する。必要な数学は適宜補足説明す

るが、経済数学の知識はもちろん役に立つ。成績は各学期末の定期試験の合計で決まるが、随時行う演習の出席状況も参考にする。

テキスト：

特に指定せず、適宜、コピーを配布する予定。

参考書：

- ・中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房
- ・ギボンズ『経済学者のためのゲーム理論入門』創文社
- ・岡田章『ゲーム理論』有斐閣

授業の計画：

〔春学期〕

1. ゲームとは
2. 戦略形ゲームとその解
3. 応用：クールノーゲーム、ベルトランゲーム
4. 展開形ゲームとその解
5. 応用：チェンストアパラドックス
6. ルービンシュタイン型交渉ゲーム
7. 繰り返しゲーム
8. ベイジアンゲーム

〔秋学期〕

1. ゲーム理論の方法
2. 提携形ゲーム (TU ゲーム)
3. 配分, 提携値, コアとその存在条件
4. 凸ゲームとその応用
5. 安定集合とその応用
6. 交渉集合, カーネル, 仁
7. 仁の応用
8. シャープレイ値, ハルサニー値およびポテンシャル

履修者へのコメント：

ゲームの理論では暗記することは意味がなく、仮定や定義から出発して推論することが重要である。

成績評価方法：

- ・学期末試験 (定期試験期間内の試験) (春秋とも)

質問・相談：

メール又はオフィスアワーに。

解析学

教授 戸瀬 信之

授業科目の内容：

数理的な学問を学ぶときは、上級になればなるほど必要とする数学も高度になる。日吉キャンパスで学んだ数学の内容、特に解析的な内容は、いずれもかなり直観的かつナイーブな議論で済ませることがほとんどであった。例えば、数列の収束あるいは関数の連続性について学んだ内容を思い浮かべれば、その意味することが分かるであろう。

この科目の目的は、今後さらに高度な数学あるいは数理的な諸科目を学ぶ基礎としての解析を解説することにある。その内容は大きく分けて、(1) 連続性の記述のための位相的な内容、(2) 微分積分を縦横に展開するための様々な極限定理、(3) 様々な制約条件を記述する機構、すなわち陰関数定理の周辺および Lagrange の未定数法となる。

日吉キャンパスで開講している「解析学入門」¹⁾と内容的に重なる点はかなり多いが、レベルが少し高くなることに注意する。

テキスト：

指定しない。

参考書：

- ・戸瀬信之『経済数学』新世社
- ・小平邦彦『解析入門』岩波書店

授業の計画：

- 前期
- (1) 実数列, ベクトルの列の極限
 - (2) 集合, 距離空間, 位相空間
 - (3) 1変数の連続関数の諸性質
 - (4) Lebesgue 積分入門 (1変数, 多変数)
- 後期
- (1) 多変数の微分, 陰関数定理, Lagrange の未定数法
 - (2) 凸解析入門, キューン・タッカーの定理
 - (3) 様々な近似定理
 - (4) (時間があれば) 力学系入門
 - (5) (時間があれば) 測度論入門

詳細については私の webpage 上で公開します。Google で「戸瀬

信之」と検索すれば、私の webpage に必ずたどり着ける。

履修者へのコメント：

この講義では論理性を重視します。理解するためには、かなりの自習を必要とする。

成績評価方法：

レポートとする。ただし、このことは出席者の態度などの諸条件により変更することを留保する。

質問・相談：

電子メールで質問・相談をしてもよいが、塾内のアドレス以外からの質問・相談には答えないこととする。電子メールシステムは、いまや危険なものとなっていることに注意しよう。

解析学 (秋学期集中)

助教授 新井 拓児

授業科目の内容：

位相空間論と測度論に関する講義を行う。距離や面積といった概念を数学的に抽象化し、その上で展開される数学を紹介する。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に紹介する。

授業の計画：

以下のトピックについて扱う。各々のトピックに関して2コマ程度の時間を割り当てる。

〔位相空間論〕

- 集合論の復習
- ユークリッド空間上の位相
- 連続関数と位相同型
- 距離空間とノルム空間
- コンパクト性
- 完備性
- 関数空間

〔測度論〕

- 長さ・面積・体積
- 測度の構成
- リーマン積分からルベグ積分へ
- ルベグ積分の定義と諸性質
- 収束定理と積分記号の交換
- 分解定理と Radon-Nikodym の定理
- 絶対連続性と微分積分学の基本定理
- もし時間があれば、ヒルベルト空間やフーリエ解析といった関数解析の話題についても触れたい。

履修者へのコメント：

集合論、微分積分学の基礎知識を前提とする。

成績評価方法：

試験の結果による。

質問・相談：

メールまたはオフィスアワー

契約理論

助教授 玉田 康成

授業科目の内容：

現実の経済では情報の非対称性に由来するインセンティブの問題が数多く見られる。市場・組織・取引関係の様々な局面で利用可能な情報には偏りがあり、経済主体が情報を戦略的に活用すると、典型的にはモラルハザードなどの問題が発生し、個別企業に代表される経済の効率性を損なうことになる。また、市場経済そのものの信頼を損なう要因にもなり得る。本講義では、経済主体に対して適切なインセンティブを与えるための契約や組織、制度について、インセンティブ設計という観点から講義する。さらに、議論に必要なゲーム理論や期待効用理論などの分析道具についても説明を加える。

テキスト：

なし

参考書：

- ・マクミラン『経営戦略のゲーム理論 交渉・契約・入札の戦略分析』有斐閣

- ・ミルグロム, ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版
- ・ロバーツ『現代企業の組織デザイン 戦略経営の経済学』NTT出版
- ・柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社
- ・神戸伸輔『入門 ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
- ・伊藤秀史, 小佐野広(編)『インセンティブ設計の経済学 契約理論の応用分析』勁草書房
- ・伊藤秀史『契約の経済理論』有斐閣
- ・サラニエ『契約の経済学』勁草書房
- ・Bolton and Dewatripont 'Contract Theory' MIT Press

授業の計画:

1. インセンティブ問題と契約理論
2. 期待効用理論
3. モラルハザード: 基本理論
4. モラルハザード: 複数エージェントやチーム問題への展開
5. モラルハザード: 企業内のインセンティブシステムや金融契約への応用
6. アドバースセクション: 基本理論
7. アドバースセクション: シグナリング
8. アドバースセクション: スクリーニング
9. 所有権と不完備契約: 基本理論
10. 所有権と不完備契約: 企業の統合, 企業内組織への応用

履修者へのコメント:

前提知識は要求しないが, 日吉のミクロ経済学初級の内容は踏襲する。

成績評価方法:

- ・数回の宿題: 20%
- ・春学期末試験: 40%
- ・秋学期末試験: 40%

質問・相談:

オフィスアワーを設ける。

公共経済学(秋学期集中) 総合政策学部教授 小澤 太郎

授業科目の内容:

テキストに沿って公共経済学の理論とその応用について一通り学んだ後に, テキストでカバーされていないテーマについて若干の補足的解説を行う。公共財の理論, 社会的選択の理論, 公共選択論(政府の失敗含む), ゲームの理論の応用(動学的不整合性含む), マクロ経済動学, 情報の非対称性・不確実性に基づく市場の失敗への対処の具体的事例, 潜在能力アプローチ, ネットワークの外部性(複数均衡含む)等, 扱うテーマはまさに多岐にわたる。抽象と具象の間をダイナミックに行き来する事で, 厚生経済学とも財政学とも一味違う公共経済学の世界を体験してもらいたい。

テキスト:

- ・中村慎助・小澤太郎・グレーヴァ香子編『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社, 2003年

参考書:

- ・鈴村興太郎・後藤玲子『アマルティア・セン: 経済学と倫理学』改裝新版, 実教出版, 2002年(第11回)
- ・小澤太郎「電子商取引の発展と経済構造の変化」金子郁容編『総合政策学の最先端: インターネット社会・組織革新・SFC教育』慶應義塾大学出版会, 2002年(第12回)

授業の計画:

- 第1回: ガイダンス
公共経済学とは何か
- 第2回: ミクロ経済学と市場の失敗(テキスト第1章)
- 第3回: 社会的選択と投票システム(第3章)
- 第4回: 政策科学と公共選択論へのアプローチ(第4章)
- 第5回: ゲームの理論の概観(第5章)
- 第6回: ゲームの理論と経済政策(第6章1)
- 第7回: ゲームの理論と経済政策(第6章2)
新しいマクロ経済学と金融・財政政策の機能(第2章)
- 第8回: ゲームの理論と政治過程(第7章)
- 第9回: 金融市場における公共政策(第8章)
インターネット金融取引・電子商取引の安全性(第9章)
- 第10回: 中小企業金融における公共部門の役割(第10章)
生活保障システムの経済学(第11章)

第11回: 公共経済学の系譜 個人主義と公共政策(第部)
潜在能力アプローチ(鈴木・後藤[2002])

第12回: ネットワークの外部性(小澤[2003])

第13回: 総括及び公共経済学の今後の展望

履修者へのコメント:

一般的には, 直観的な理解を重視した骨太な説明を試みたいと考えている。しかしテーマによって, やや理論的にテクニカルな内容が含まれる場合があるが, 全体の議論の流れがつかめれば細部まで十分理解できなくても気にする必要はない。

成績評価方法:

期末試験の結果による評価を基本とする。

質問・相談:

授業終了後にしてもらおうのが1番良いが, あまり長い回答を要さないものであれば, メールによる質問も受け付ける

(yossy@sfc.keio.ac.jp)。

三田における数学・数理経済学関係の講義体系について

経済学部専門課程での数学・数理経済学関係の講義は, 次のような体系で編成されている。

まず経済分析に数学的・統計的手法を適用する際, 最低限必要と思われる基本事項を解説するために, 代数学, 解析学の二講座を用意している。

この基本的知識を前提とし, 経済分析に有用な, さらに進んだ数学の諸分野についても, 以下のような講座を設ける。

解析学
数理経済学
数理経済学
数理経済学特論 [微分方程式論]
数理経済学特論 [確率論]

また数理経済学は
一般均衡理論の数理
動学的経済分析の数理

を隔年に開講することとし, 本年度は をその内容とする。

学生諸君には, この講義体系をよく検討され, 有効に利用していただきたいと思う。

(丸山 徹)

数理経済学 (春) 商学部教授 小宮 英 敏
(秋) 教 授 須 田 伸 一

授業科目の内容:

[春学期] 春学期は秋学期に展開される理論の数学的準備を行う。具体的には動的モデルの数理的構造のうち離散的な話題に集中し講義を行う。

[秋学期] 春学期の内容を前提として, 経済動学モデルの数理的構造について講義する。多数のトピックスに触れるというよりも, 基本的な話題に限ってしっかりと理解し, 独力で数理経済学の文献を読み進んでいける力をつけることを目的としている。

参考書:

[春学期]

- ・R.L. Devaney, カオス力学系入門, 共立出版, 2003
- ・R.K. Sundaram, *A First Course in Optimization Theory*, Cambridge, 1996

[秋学期]

- ・C. Le Van, R.A. Dana, *Dynamic Programming in Economics*, Kluwer, 2003
- ・A. Borghin, *Economic Dynamics and General Equilibrium: Time and Uncertainty*, Springer, 2004

授業の計画:

[春学期]

1. 離散力学系
 - (a) 基本的定義
 - (b) 記号力学系
 - (c) カオス
 - (d) 構造安定性
 - (e) 分岐理論

2. 動的計画法と多期間最適化

- (a) 基本的定義
- (b) 有限期間問題
- (c) 無限期間問題

〔秋学期〕

- 1. 最適成長モデル
- 2. 世代重複モデル

履修者へのコメント：

〔秋学期〕

授業ではできる限り丁寧に証明を行ないたいと考えているので、「解析学」などを同時に履修して数学的証明に慣れておくことが望ましい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

適宜、受け付ける。

数理経済学特論 [微分方程式論] 講師 大 春 慎之助

授業科目の内容：

動的経済理論を支える数学的基礎を与え、様々な経済動態を記述する数学モデルの定式化とその数学的取扱いについて解説する。さらに、数値シミュレーションを援用する数学的接近について講述する。

- 1. 解析学と線形代数、関数空間の準備
- 2. 微分方程式と差分方程式の基礎理論
- 3. 解の構成と安定性解析
- 4. 遅れを伴う微分方程式と安定性解析

参考書：

- ・加藤順二『関数方程式』(数理科学シリーズ5) 筑摩書房, 1974年
- ・杉山昌平『復刊 差分・微分方程式』共立出版, 1999年
- ・内藤敏機『タイムラグをもつ微分方程式』(関数微分方程式入門) 牧野書店, 2002年

数理経済学特論 [確率論] 講師 黒 田 耕 嗣

授業科目の内容：

確率論及び確率過程論のファイナンスへの応用について解説する。

テキスト：

特になし

参考書：

- ・Dothan, *Prices in Financial Markets*, Oxford University Press
- ・Björk, *Arbitrage Theory in Continuous Time*, Oxford University Press

授業の計画：

春学期は離散確率空間をもとにして以下の内容で講義する。また、生保数理、損保数理への応用についても講義の中で取り上げる。

- 1. Random walk を例にとり、確率空間、確率変数、確率分布について解説する
- 2. 確率分布の期待値、分散及びモーメント母関数の性質について述べる
- 3. 有限確率空間をもとにした information structure と離散時間株式市場モデル、条件付期待値とマルチンゲールについて
- 4. 平衡価格測度と裁定戦略
- 5. 離散確率解析を用いたオプション価格の導出とBlack Sholesの公式について

秋学期は連続系を取り扱う。

- 1. リーマン積分からルベグ積分へ
- 2. 測度空間とルベグ積分の定義について
- 3. ルベグの収束定理について
- 4. 測度論的確率論の概要(確率変数列の収束、大数の法則、中心極限定理)
- 5. Random walk から Brown 運動へ
- 6. Brown 運動の性質(Markov 性、マルチンゲール性、Maximal process について)
- 7. 確率積分と Ito の公式について
- 8. ファイナンスへの応用について(数理ファイナンスへの序論)

履修者へのコメント：

高校での数、数Cの知識に習熟していることが必要であり、線形変換とその表現行列との関係、テイラー展開、多重積分、座標変換についての知識がある事が望ましい。大学レベルの微積分についての復習は授業中に行うが、高校レベルの数学についての復習は行わないので、高校数学は各自で身につけておくこと。

成績評価方法：

問題演習を授業中に行い、これにより評価を行う。後期は特に、多変数関数の微積分の知識(多変数関数のテイラー展開、多重積分、極座標変換)を必要とする。

代 数 学

教 授 西 岡 久 美 子

授業科目の内容：

学部1年生で履修した「線形代数」の内容(ベクトル・行列の初歩的取り扱い)を予備知識として、この講義では、線形代数の理論的側面については解説することが主な課題で、以下のi)~iii)の流れに沿って授業を展開します；i)ベクトル空間とそれに付随する基礎的概念を導入しそれらの相互関係について理解する；ii)Jordan標準形の理論を理解しその実際の計算が出来るようになる；iii)産業連関分析など経済学への重要な応用を持つPerron-Frobenius理論を学ぶ。

春学期は、まず抽象ベクトル空間を導入し、部分空間、1次独立・1次従属、基底、線形写像などの基礎概念について解説した上で、Jordan標準形への準備として、これまでまだあまり学ぶ機会の無かった多項式の性質について、必要となる事項に焦点を絞って述べます。さらに、その応用として、(定数係数)線形微分方程式・線形差分方程式についても解説します。

秋学期は、線形写像の表現行列を導入したうえで、固有値問題に関連して、固有値、固有ベクトル、行列の対角化について解説し、さらにこれらの議論をより深める形で、Jordanの標準形を導入し、その実際計算について学びます。以上の基礎理論を背景として、分解不能行列を導入し、Perron-Frobeniusの定理を定式化し証明することまでを目標とします。

テキスト：

初回の授業時に印刷物を配布します。

参考書：

- ・津野義道『経済数学 線形代数と産業連関論』培風館
- ・二階堂副包『経済のための線形数学』培風館

授業の計画：

・ベクトル空間と線形写像(春学期)：

- i)ベクトル空間；ii)部分空間；iii)1次結合；iv)1次従属・1次独立；v)基底；vi)写像；vii)線形写像；viii)同型写像。

・多項式の性質と応用(春学期)：

- i)多項式；ii)直和解；iii)微分方程式の解空間；iv)線形回帰数列。

・線形写像と行列(秋学期)：

- i)表現行列；ii)固有値と固有ベクトル；iii)行列の対角化；iv)連立線形差分方程式；v)連立線形微分方程式；vi)Hamilton-Cayleyの定理。

・Jordan標準形：

- i)Jordan細胞；ii)Jordan標準形の求め方；iii)行列の冪；iv)連立線形差分方程式(再)；v)連立線形微分方程式(再)。

・Perron-Frobeniusの定理：

- i)非負固有値問題；ii)分解不能行列；iii)Perron-Frobeniusの定理。

履修者へのコメント：

一般論として、数学の理論を「理解」するためには：i)理論の展開を論理的にstep-by-stepにfollowして理解する；ii)理論を用いて実際に実例を計算する、という二つのプロセスが本質的です。この講義では、受講者がこの二点についてのトレーニングも行えるよう出来るだけ配慮します。

毎回の講義でレポート課題を出し1週間後に提出してもらいますので講義に出席できない人は履修しないでください。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点(出席状況および授業態度)

質問・相談：

講義中，講義後に受け付けます。

市場と法（秋学期）

教授 若杉 隆平

授業科目の内容：

市場は経済活動の基本的な場を提供する。この場が十分な機能を発揮するには、そこに参加する人々が共有するルールが不可欠である。このルールは、最終的には法律によって定められることが多いが、その背景には経済的原理が存在する。たとえば、近年、国際間で大きな議論になっている知的財産権の保護を例に取り上げると、権利保護を強化することによって発明を促す利益と、権利を保有する者の独占権が強まることによって消費者が受ける不利益との問題が存在することが分かる。この問題に一定のルールを与えるには経済学的分析を避けて通ることはできない。また、ルールはより良いものを求めて進化する。進化したルールとして、何が効率的で公正なものかを判断する上においても、経済学的アプローチは欠かせない。

本授業では、市場の機能に関する基礎的概念を紹介するとともに、所有権と交渉、公共財と外部効果、イノベーションと知的財産権、独占禁止法、損害賠償など経済活動に密接に関わる法的ルールやトピックを取り上げて、市場の果たす役割と共有されるべきルールに関する経済学的な分析視点を紹介する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・矢野誠『ミクロ経済学の応用』岩波書店，2001年
- ・ロバート・クーター，トーマス・ユーレン『法と経済学(新版)』商事法務，1997年

授業の計画：

本授業は、市場での資源配分と市場のルール，所有権と交渉，外部性などに関する基礎的概念を紹介する部分と，環境，知的財産権，市場独占，競争制限的手段，損害賠償など，より具体的なルールを取り上げて経済学的解明を講義する後半部分とから構成される。

1. 市場と効率的取引
2. 所有権と交渉
3. 公共財と外部効果
4. イノベーションと法制度
5. 競争政策と独占禁止法
6. 損害賠償の経済分析

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価

三田における計量経済学，確率論，

統計学関連の講義体系について

経済学部専門課程での計量経済学，確率論，統計学関連の講義は，次のような体系で編成されている。

まず定量的経済分析の統計学的方法の基礎的理解のために必須である事項の解説のために確率・統計を設けている。経済関係式を定量的に把握しこれをテストするには，無作為抽出によって得られた標本を手がかりに母集団特性を推測する作業が欠かせない。この講義は，こうした手法の理解のために必須である基礎知識の習得を目的としている。

なお，三田で開講されている解析学の内容は，上記科目確率・統計で展開される理論の緻密な理解のために必要な基礎として位置付けられる。

これら知識を踏まえ，現代における経済分析に欠かすことのできない手法のさらに進んだ理解のために，以下の講義を設ける。

数理経済学特論

計量経済学

計量経済学

時系列分析

ベイズ統計学

上に記した計量経済学，確率論，統計学関連の科目を分類すると次の表のようになる。ただし，表中には示していないが解析学は基礎レベル，数理経済学特論 [確率論] はおおよそ上級レベルに相当するであろう。

	計量経済学	確率論	統計学
基礎	確率・統計		
中級	計量経済学		
上級	計量経済学 時系列分析	ベイズ統計学	時系列分析 ベイズ統計学

計量経済学，確率論，統計学関連の科目を学ぼうとする学生諸君は，自身の関心に応じて上記表の中から自由に選び，履修計画を立てていただきたい。

(計量・統計部会)

時系列分析（秋学期集中）

助教授 田中辰雄

授業科目の内容：

学部3，4年生を対象に時系列分析の基礎を講義する。経済データは時系列として与えられることが多く，そこに着目したさまざまな分析手法がある。データとしては株価や利子率など金融データだけでなく，マネーサプライと物価などマクロ変数や，さらに最近では時系列とクロスセクションを組み合わせたパネルデータもよく用いられる。予測や因果性のテストなど応用例もひろく，話題は多岐にわたる。本講義ではよく使われる大事な手法に絞り込み，その上で，実際に使えるようになることを目的とする。

取り上げるテーマは(1)差分方程式の安定性と確率過程の定常性，(2)ARMAモデルの同定，推定，予測，(3)ユニットルート過程とそのADF検定，(4)Cointegration(共和分)とError collectionモデル，(5)VARモデルと因果性のテスト，(6)パネル分析，などになる予定である。

実際に使えるようにするためには，データを使って推定プログラムを動かす作業が必要である。したがって，演習として何回か課題を出してもらおう。課題では学生諸君自ら現実のデータを使って簡単な推定作業を行い，それを提出することになる。

出発点で前提とする知識として計量経済学概論レベルの知識があることが望ましい。すなわち古典的仮定のもとでの簡単な回帰分析の経験があることが望ましい。計量経済学，の授業の知識があれば役立つが，本講義ではそれらを前提とはしない。必要な数学や計量分析の知識は講義のなかで適宜補充する。基礎からドリル的に組み上げていく方法をとるので，意欲さえあれば誰でも理解できるだろう。こういう講義では途中でわからなくなると間違いなく落ちこぼれるので，課題演習により，理解を確認しながらすすみたい。

授業科目の内容：

ベイズ統計学は推測の対象となる未知の変数（パラメータ）を確率変数として扱い、データが与えられた下での条件付確率分布（事後分布）を使ってパラメータの分析を行う統計学です。日吉の「統計学 & 」で習った統計学（古典的統計学）とはかなり異なるアプローチなので最初は戸惑うかもしれませんが、基本的にベイズの法則を適用するだけなので慣れてしまえばベイズ統計学の方が楽です。

ベイズ統計学ではコンピュータによる数値計算がかなり重要な役割を果たしています。特に近年ではマルコフ連鎖モンテカルロ（MCMC）法と呼ばれる手法によって統計分析に必要な各種の計算を行うようになってきています。そこで講義では MCMC 法の理解を深めるためにプログラミング言語である MATLAB を使った MCMC 法によるベイズ統計分析の実習を行います。

テキスト：

特に指定しません。講義ノート、MATLAB のプログラム、データなどは講義のウェブサイト配布します。

参考書：

- ・『ベイズ計量経済分析 マルコフ連鎖モンテカルロ法とその応用』東洋経済新報社、2005 年
- ・『計算統計 マルコフ連鎖モンテカルロ法とその周辺』岩波書店 2005 年

授業の計画：

〔春学期〕

1. ベイズ統計学の概要
2. 確率変数と確率分布
3. 条件付確率とベイズの法則
4. 確率モデルと尤度
5. 事前分布と事後分布
6. パラメータに関する推論（ ）
7. パラメータに関する推論（ ）
8. 事前分布の選択
9. 予測分布
10. 回帰モデルのベイズ分析（ ）
11. 回帰モデルのベイズ分析（ ）
12. 回帰モデルのベイズ分析（ ）
13. 前半のまとめ

〔秋学期〕

1. MATLAB 入門（ ）
2. MATLAB 入門（ ）
3. 数値積分
4. モンテカルロ法
5. 擬似乱数の生成法
6. マルコフ連鎖（ ）
7. マルコフ連鎖（ ）
8. ギブズ・サンプラー
9. データ拡大法
10. M-H アルゴリズム
11. MCMC 法の応用（ ）：構造変化モデル
12. MCMC 法の応用（ ）：階層的ベイズ・モデル
13. 後半のまとめ

履修者へのコメント：

授業内容を理解するためには確率・統計、微分積分、線形代数の知識が必要ですが、MATLAB の予備知識は必要ありません。講義の中で MATLAB の使い方を教えます。

成績評価方法：

宿題（30%）、各学期末のレポート（春学期 30%、秋学期 40%）で決まります。

質問・相談：

授業内容に関する質問にはメールあるいはアポイントメントを取っての面接で回答します。連絡方法は第 1 回講義で教えます。

授業科目の内容：

本講義の目的は日本における「社会主義思想」の「導入と展開」に関する史的考察を通して近代日本における社会思想の理解を深めることにある。

参考書：

- ・石田 雄『明治政治思想史研究』（12 刷）未来社、1977 年
- ・杉原・長編『日本経済思想史読本』東洋経済新報社、1979 年
- ・糸屋寿雄『日本社会主義運動思想史』（ ）法政大学出版局、1979 年
- ・岡本 宏『日本社会主義研究』成文堂、1988 年
- ・中村勝巳編『受容と変容』みすず書房、1989 年
- ・太田雅夫『初期社会主義史の研究』新泉社、1991 年
- ・荻野富士夫『初期社会主義思想編』不二出版、1993 年

授業の計画：

- ・1868(明治元)年～1896(明治29)年 近代社会思想の導入
 1. 「社会」、「社会思想」及び「社会主義」概念の導入について
 2. 「東洋社会党」結成前後と「自由民権」運動の思想的系譜
- ・1896(明治29)年～1911(明治44)年
 - 「社会問題」と「社会主義」の展開期
 1. 社会問題研究会と社会主義研究会
 2. 社会主義協会の設立とその活動
 3. 社会民主党の結成
 4. 『新社会』と龍溪矢野文雄
 - 「転換期」と日本における「社会主義」について
 - 5. 明治社会主義の終焉 大逆事件

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- 特に基準を設けることはしない。

授業科目の内容：

本講義の目的は日本における「社会主義思想」の「導入と展開」に関する史的考察を通して現代日本における社会思想の理解を深めることにある。

参考書：

- ・日本思想百年史編纂委員会編『日本思想百年史』躍進日本社、1972 年
- ・杉原・長編『日本経済思想史読本』東洋経済新報社、1979 年
- ・糸屋寿雄『日本社会主義運動思想史』・、法政大学出版局、1980 年、1982 年
- ・小松隆二『大正自由人物語』岩波書店、1988 年
- ・テッサ・モーリス鈴木『日本の経済思想』岩波書店、1991 年
- ・同志社大学人文科学研究所編『戦時下抵抗の研究』・、みすず書房、1968 年、1969 年
- ・飯田鼎著作集第 4 巻『日本経済学史研究』お茶の水書房、2000 年

授業の計画：

- ・1912(大正元)年～1919(大正8)年 「冬の時代」と第一次大戦
 1. 友愛会とその時代
 2. ロシア革命と米騒動 第一次世界大戦下の動向
 3. 大正デモクラシーの潮流
 4. 「社会思想」の全面的展開
- ・1919(大正8)年～1926(昭和元)年
 1. 社会主義同盟の結成
 2. 「アナ・ボル」論争
 3. 日本共産党の創立
 4. 総同盟の分裂
- ・1926(昭和元)年～1931(昭和6)年 普通選挙と社会主義
 1. 「無産政党」と社会主義運動
 2. 「左派」と「右派」の対立
 - 日本社会主義の原型をめぐる問題
 3. 「労農派」の結集
- IV. 1932(昭和7)年～1945(昭和20)年
 - 「ファシズム」と「社会主義」
 1. コミンテルンと「32 年テーゼ」

2. 日本資本主義論争と「講座派」
3. 戦時下における日本の抵抗運動
4. 戦前期日本における社会主義運動と日本の「社会主義思想」
その「連続性と非連続性」及び「再生と復活」に寄せて

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
特に基準を設けることはしない。

東欧・ロシア社会経済思想史

助教授 神代光朗

授業科目の内容：

1989～91年の東欧・ロシアの旧体制の崩壊とその後の体制転換過程に伴う諸矛盾の進展は、ある意味で20世紀最大の歴史的事象に属するものの一つであった。21世紀になって、更に中・東欧のEU加盟と、その後の問題も含めて、資本主義のグローバル化に伴う混迷に充ちた世界史的現実の中で、西側資本主義世界の矛盾とも関連して、これらの歴史的諸事象の意味を理解する努力は、今日、極めて大切な学問的課題であろう。しかし、そのためには、これらの地域の国々の歴史的諸問題の理解が必要である。こうした点を考慮して、本講義では、わが国で比較的認識の浅い中・東欧やロシア等のヨーロッパの後進ないし辺境地域の社会・経済の発展と社会・経済思想の関連を中心に、これらの地域のナショナリズム、西欧主義、インターナショナリズムといった問題を主に文明史的視点と社会・経済思想の観点から考察してゆきたい。具体的には、ロシアの啓蒙主義とインテリゲンチア思想、古典的ナロードニキ思想と『資本論』受容をめぐるロシアの資本主義論争、再版農奴制と分割前ポーランドの社会と国家、啓蒙期ポーランドの政治・経済的諸問題 特にポーランド分割と国内改革諸思想、19世紀ポーランドの諸問題と社会・経済思想の諸潮流及びその対抗関係、特に民族問題、農業・農民問題、工業化と「東方市場」論争等とポジティヴィズム、ナショナリズム、社会主義の間のそれらをめぐる論争などを講義の中心とする予定である。なお、担当者のポーランドにおける在外研究時の見聞等も含め、今日の中・東欧の転換過程についても歴史的展望の中で適宜、講ずる予定であり、又、年末には東欧またはロシアの映画の鑑賞も予定している。

テキスト：

特にスタンダードなテキストはない。履修者は必ず出席をし、ノートを手帳に執る心掛けをもってほしい。また、必要に応じて、講義中にプリントやコピー類を配布する。

参考書：

参考文献は、授業の進行に応じ適宜指示するが、当面、森宏一著『ロシア思想史』（同時代社1990年）、トマーシュ・G・マサリック、石川達夫訳『ロシアとヨーロッパ』（成文社2002年）、同、石川・長與訳『ロシアとヨーロッパ』（成文社2004年）、同、石川長與訳『ロシアとヨーロッパ』（成文社2005年）、石川郁男著『ゲルツェンとチェルヌイシェフスキー』（未来社1988年）、『ロシア史2、18～19世紀』（山川出版1994年）、南塚信吾編『東欧の民族と文化』（彩流社1989年）、阪東宏編著『ポーランド史論集』（三省堂1996年）、キエニエヴィチ『歴史家と民族意識』（未来社1989年）、キエニエヴィチ編著『ポーランド史』（恒文社1986年）、『講座スラヴの世界 スラヴの歴史』（弘文堂1996年）、伊東・井内・中井編『ポーランド・ウクライナ・バルト史』（山川出版1999年）、南塚編『ドナウ・ヨーロッパ史』（山川出版1999年）、柴編『バルカン史』（山川出版1999年）、谷川稔編『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』（山川出版2003年）、小倉欣一編『近世ヨーロッパの東と西』（山川出版2004年）又英文として Andrzej Walicki, *A History of Russian Thought*, Oxford 1988., Jerzy Jedlicki, *A Suburb of Europe*, Budapest 1999., M. Albertone & A. Mascero., *Political Economy and National Realities*, ed, Torino 1994 等が参考になる。

授業の計画：

通年講義であるが、4月はじめの3回程は、全体の計画とともに本講義に必要な不可欠な政治経済学史上の基本概念を講じ、その後、夏休み迄、従って春学期中は、主に18～19世紀のロシアの社会経済思想を、秋学期は主に18～19世紀のポーランドを中心とする東欧の歴史と社会・経済思想を話す予定である。なお、ロシアといわゆる中東欧（特にポーランド）との比較や相互関係も適宜論じるので、

春、秋ともに関連する講義内容として受講してほしい。各13回ごと、計26回の内容の概略は、4月の開講時に話す予定である。

履修者へのコメント：

基本的には、授業への出席と、自ら講義内容をノートに執ること、及び、この特殊科目の主題への学問的関心を主体的にもってほしい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（秋学期末試験のみ）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

成績評価基準は、基本的には学年末のテスト（筆記）によるが、日常の出席状況も考慮の対象となる。詳しくは、履修状況をみて具体的に決める要素もあるので、履修者の確定した段階で明確にする予定である。

質問・相談：

学問内容についての質問や相談は歓迎するが、評価方法等については、上記のとおりなので、原則的には応じられない。開講時又、それ以外でも、必要に応じ、適宜、説明する。それ以外の質問や相談がある時は、授業時間終了時に教室で、できるだけ用紙に書いて出すこと（用紙は各人が用意してほしい。）その際、学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず記入し、簡潔にすること。

日本経済思想史

教授 小室正紀

授業科目の内容：

経済社会をどのようにとらえるか、また如何に経済社会に対処すべきか、さらにどのような経済社会を理想とするか。このような経済についての思考は、実は、国により、また時代により歴史的にさまざまであり、こうした思考の特質を認識することなしに自他の経済社会を深く理解することはできない。このような観点から、この講義では日本における経済思想の原点を江戸時代と明治時代に探ってみたい。江戸で時代にまで遡るのは、経済社会の展開とともに、この時代に経済思想の「原型」が次第に形成され、それが明治以降にまで影響を与えたと考えるからである。また、明治時代には、欧米という異なった社会で形成された経済思想が流れ込み、それを独自に受け止めながら、それまでの経済思想が変容されていったと見るからである。このような歴史的な考察を通して日本における経済観の特質に迫ってみたい。なお、明治期に関しては、時間の関係から、福沢諭吉の経済思想を中心としながら考えてみたい。

テキスト：

使用せず。

参考書：

- ・川口浩『江戸時代の経済思想』勁草書房、1992年
- ・経済学史学会編『日本の経済学』東洋経済新報社、1984年
- ・小室正紀『草莽の経済思想』御茶の水書房、1999年
- ・逆井孝仁他編『日本の経済思想四百年』日本経済評論社、1990年
- ・テッサ・モーリス鈴木『日本の経済学』岩波書店、1984年
- ・藤田貞一郎『国益思想の系譜と展開』清文堂、1998年
- ・川口浩編『日本の経済思想世界』日本経済評論社、2004年

授業の計画：

1. 日本代経済思想史の課題
2. 儒学の受容と社会経済認識：朱子学を中心として
3. 江戸時代経世済民論の原型：熊沢蕃山・山鹿素行
4. 民間経済社会認識の原型：伊藤仁齋
5. 経験的社会経済認識の成立：荻生徂徠・新井白石
6. 元禄・享保期農民の思想：宮崎安貞・田中丘隅
7. 元禄・享保期町人の思想：井原西鶴・石田梅岩
8. 「藩重商主義」への流れと国益思想：太宰春台・林子平・海保青陵
9. 江戸時代後期の民間経済思想：三浦梅園・本居宣長・草間直方
10. 危機への対処と新体制への展望：後期水戸学・本田利明・佐藤信淵
11. 幕末農民の精神と民富の思想：二宮尊徳・大蔵永常 etc.
12. 福沢諭吉の経済思想：1870年代前後
13. 福沢諭吉の経済思想：1880年代前後
14. 福沢諭吉の経済思想：1890年代前後

履修者へのコメント：

履修にあたって留意すべき点については、最初の講義の時に話す。

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・レポート（春学期末）
- ・平常点（出席状況、授業時間内小テスト）

質問・相談：

授業時間内。あるいは授業時間に時間を調整して面談。

ドイツ社会史

教授 矢野 久

授業科目の内容：

本講義は、基本科目 社会史 の応用編に相当するものである。ドイツ社会史の具体的展開を 19 世紀、20 世紀を対象にして検討し、社会史の研究手法がドイツでどのように成立・発展したのかを考察する。

大別して問題別考察と時系列的な考察とを行う。

春学期は第一にドイツ史における外国人労働者を重点的に扱う。ナチス・ドイツの外国人、戦後ドイツの外国人を社会史的に検討する。第二のテーマはユダヤ人虐殺の問題であり、その関連で、戦後補償問題など社会と政治の関係も扱う。

時系列的考察においては、以下の 4 つの時期を問題とする。

- 工業化初期の時代
- 高度工業化期の時代
- 民主主義と危機の時代
- 戦後ドイツ

それぞれの時期において、経済的發展を踏まえて、社会諸階層の社会状況と社会政策などを考察する。

テキスト：

- ・矢野久『ナチス・ドイツの外国人 強制労働の社会史』（現代書館、2004 年）
- ・Faust・矢野久編著『ドイツ社会史』（有斐閣、2001 年）

参考書：

川越修・矢野久編『ナチズムのなかの 20 世紀』（柏書房、2002 年）

授業の計画：

春学期

- 社会史の方法 序論的考察
- ドイツ史のなかの外国人労働者（その 1）
- ドイツ史のなかの外国人労働者（その 2）
- ナチス・ドイツの外国人（その 1）
- ナチス・ドイツの外国人（その 2）
- ナチス・ドイツの外国人（その 3）
- ナチス・ドイツの外国人（その 4）
- ユダヤ人虐殺
- 戦後犯罪追及
- 賠償と戦後補償（その 1）
- 賠償と戦後補償（その 2）
- 戦後ドイツの外国人労働者（その 1）
- 戦後ドイツの外国人労働者（その 2）

秋学期

- 工業化初期の時代（その 1）
- 工業化初期の時代（その 2）
- 高度工業化期の時代（その 1）
- 高度工業化期の時代（その 2）
- 民主主義と危機の時代（その 1）
- 民主主義と危機の時代（その 2）
- 戦後ドイツ（その 1）
- 戦後ドイツ（その 2）
- 犯罪の社会史
- 消費の社会史
- 家族の社会史
- 社会史の方法（その 1）
- 社会史の方法（その 2）

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中に質問の形で受け付ける。

近代日本と東アジア

教授 柳 沢 遊

授業科目の内容：

この講義は、近代日本の資本主義的發展と東アジア諸地域との相互関係を、1900～1940 年代に限定して考察するものである。満鉄をはじめとして、多くの企業が、日露戦争後から、東アジア諸地域（特に都市）に進出し、営業を展開していた。本講義のねらいは、20 世紀前半期の日本企業のアジア進出の諸形態と論理を、歴史的に明らかにすることにある。こうした作業によって、日本が、中国を中心とした東アジア諸地域になぜ深いかかわりをもち、戦争を遂行していったかが、マイクロヒストリーの次元から明らかになるであろう。それは、21 世紀初頭のわたしたちの「東アジア」への向き合い方を再考するささやかな一歩となるかもしれない。

テキスト：

柳沢遊『日本人の植民地経験 大連日本人商工業者の歴史』青木書店

参考書：

柳沢遊・木村健二編著『戦時下アジアの日本経済団体』日本経済評論社、2004 年

授業の計画：

1. 帝国主義時代の日本と東アジア（2 回）
2. 満鉄（南満州鉄道株式会社）の設立（2 回）
3. 20 世紀初頭の日本人の「満州」進出（2 回）
4. 第 1 次大戦期、帝国日本の膨張（3 回）
5. 「慢性不況」下の在華日本人経済界（2 回）
6. 「満州」侵略の社会経済的基盤（3 回）
7. 「満州国」体制下の都市経済（2 回）
8. 「大東亜共栄国」形成の衝動（2 回）
9. 日本人の「引揚げ」（2 回）
10. 日本資本主義の発展と東アジア（2 回）
11. 近代日本と東アジア（小括）（2 回）

履修者へのコメント：

講義に出席し、配布されるレジュメをもとにじっくりと講義内容を考えていってください。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・1 ヶ月に 1 度、質問カードを配布します。

質問・相談：

講義の直後に質問する。1 ヶ月 1 回の質問カードに疑問を記述する。

現代労働経済理論

教授 太田 聡 一

授業科目の内容：

応用経済学としての労働経済理論の近年の発展の中で重要と思われるトピックを選んで解説する。構成としては、応用ミクロ的な主体分析と均衡サーチ理論による就業・失業構造の分析を中心に据えたい。

テキスト：

なし

参考書：

参考文献については講義中に指示する。

授業の計画：

- ・労働供給：静学モデル、ライフサイクルモデル
- ・労働需要：静学モデル、動学モデル
- ・家族：家計内生産と労働、分業の利益
- ・賃金決定：人的資本理論、シグナリング理論、労働市場における差別、補償賃金格差、最適インセンティブ賃金、内部昇進理論
- ・雇用変動：雇用創出・雇用喪失、離職と転職、労働移動の理論
- ・失業：均衡サーチモデル、賃金交渉モデル、効率賃金仮説、労働力フローの分析

履修者へのコメント：

基本科目の「労働経済論」を理論面から補完する内容なので、この分野に興味のある方は両方受講することを勧めたい。また、労働経済学の文脈での紹介と解釈が中心なので、数学的な一般化については他の講義にゆだねる。労働経済学の知識は前提としないが、ミ

ク口経済学と統計学の基本は必要である。

成績評価方法：

- ・学期末試験の結果による評価
- ・レポートによる評価

質問・相談：

講義に関する質問は、講義の前後で受け付ける。また、Eメールの連絡も受け付ける（アドレスについては初回講義時に発表する）。

経済と法

教授 中澤敏明
産業研究所助教授 石岡克俊

授業科目の内容：

本講義は経済学を学ぶ学生に、現実の経済社会において法が経済にどのように関係しているかを明らかにし、将来企業において経済活動に携わる場合、また公務員として経済政策、経済組織等に依る場合、さらに研究者として経済研究に携わる場合に必要とされる「経済と法」に関する基本的知識および思考方法を付与することを目的とする。従って、法現象を経済学的手法を用いて分析する「法の経済分析」という名の経済学と比較すれば法解説の色彩が濃い。しかし、「法の経済分析」の成果も視野に入れながら講義を展開していく。

本講義は、一昨年に、金子見法学部名誉教授の協力を得て開講された新しい科目であり、他の大学においても類似的講義はなかった。過去の経験と反省に基づいて今年度の講義を行いたい。

(1)「経済と法」設置の経緯

経済学部の「産業・労働部会」の担当者グループの発意で設置されることになった。同グループの認識は、これまでは、政策論の講義で、法と経済の境界面を経済学の視角から解説してきたが、片手間であった。法について磐石の知識をもつ法学者に解説してもらうことが望ましい。

「法の経済分析」の分野が成長しつつあるが、この分野の健全な発展のためには、法・経済の境界面の研究を法学の視角からの確に評価できる能力が求められる。

(2)「経済と法」がめざすもの

経済理論は、ある条件の下で市場原理の素晴らしい予定調和的な機能を明らかにするとともに、この条件が満たされないときの機能の限界を示し、それに対する処方箋を提示しています。後者に属する問題の一部は政治的プロセスによって対処されていますが、例えば経済活動にともなう外部不経済の問題の多くが法によって対処されています。この問題にかかわる財産権の問題・交渉力における優劣の問題・情報の非対称性や格差の問題・フリーライダーや機会主義の問題などに、呼称の違いはあるにしても、法は体系的に対応しています。経済学と法学とは同じ問題を扱うという意味で境界を接しているところがあります。経済学も目に見えないながら逆らう者を罰する経済力学のコードを研究しているといえますが、現実を実定法をもって経済社会をコントロールする法の知識も備えることは望ましいことです。

この講義は、経済学部の学生にリーガルコンシャスネスを獲得してもらうことを狙いとしています。憲法・民法・商法・社会法・後者に含まれますが経済法の大枠を、特に経済活動とのかかわりに光をあてながら概説します。法律の条文を独りで丹念に見ても、法の正しい理解には至りません。法学を志す者でさえ、多くの年月をかけてリーガルマインドとよばれるものを身につける過程で、法体系を理解し、その基盤の上で条文が正しく理解されるわけです。一年間の講義には大きな限界がありますが、小さな一歩でも法の世界に足を踏み入れ、これになじみを感じていただければと思います。講義は、法学の側面を主軸に行われますが、受講者は経済学の知識を基礎にして、経済学との異同を見出し、新しい論点の発見に努めてもらいたいと考えます。

テキスト：

新しい科目であり適切な教科書がありませんので今年度も教科書は使用しません。六法を使用しますが、講義で案内します。

参考書：

各回の講義の内容に応じて参考書は適宜示したいと思います。「履修者へのコメント」にあげたウェブサイトにもいくつか示される予定ですので、参照してください。

授業の計画：

総論（経済と法）

- 1 経済秩序と法秩序の関係
- 2 法の目的から見た「経済と法」
- 3 法の機能から見た「経済と法」
- 4 法的思考方法 (legal thinking) と経済
- 5 現代市民社会における法の基本的原理と経済各論（現代市民社会における経済と法の関係）
 - 1 自由主義経済（市場）社会と法
 - 2 自由主義経済社会を実現するための法による経済制度設定
 - 3 法による自由な経済活動の保障
 - 3.1 経済活動の主体に関する保障
 - 3.2 経済活動の客体に関する保障（所有制度）
 - 3.3 経済活動そのものに関する保障（契約制度）
 - 4 経済への国（政府）の関与
 - 4.1 私的経済分野への国の関与
労働法・社会保障法・経済法等の出現
 - 4.2 公的機関による財・サービスの提供
公共調達・公的サービスをめぐる法と経済

法にかかわる主たる講義を石岡が、経済学からの視点を中澤が、担当します。

履修者へのコメント：

各回の講義のレジュメや資料など必要な情報は主として講義担当の下記ウェブサイトを通じて公表されます。ウェブサイトの URL は以下の通りです。

OFFICE ISHIOKA <http://www.ishioka.org/>

成績評価方法：

- ・学期末試験

質問・相談：

履修にあたっては、初回の講義の際に受け付けます。授業については、授業の後に応じています。メールでは受け付けていません。

ゲーム理論と産業組織

助教授 石橋孝次

授業科目の内容：

ゲーム理論の考え方に基づいた産業組織 (Industrial Organization) の理論的側面を解説する。ゲーム理論は経済学の様々な分野で不可欠な分析用具として定着しているが、中でも産業組織はゲーム理論の最も実り多い応用分野である。この科目では、適宜必要なゲーム理論の解説を織り交ぜながら、不完全競争市場の構造と企業行動・経営戦略、および経済厚生観点からの評価と競争政策について講義する。

テキスト：

- ・塩澤・石橋・玉田(編著)『現代ミクロ経済学：中級コース』有斐閣、2006年(第8章)

参考書：

- ・J. Church and R. Ware, 'Industrial Organization: A Strategic Approach,' McGraw-Hill, 2000

授業の計画：

[春学期]

1. 産業組織の目的と方法
2. 部分均衡分析の基礎
3. 企業理論
4. 市場支配力
5. 品質と製品選択
6. 価格差別
7. ゲーム理論（戦略型ゲーム）
8. 静学的寡占理論：クールノー・モデルとベルトラン・モデル
9. ゲーム理論（展開型ゲーム・繰り返しゲーム）
10. 動学的寡占理論：暗黙の共謀

[秋学期]

11. 製品差別化
12. 参入費用・市場構造と経済厚生
13. 戦略的参入阻止
14. 2段階競争
15. 研究開発と特許制度
16. ネットワーク外部性

17. ゲーム理論 (不完備情報ゲーム)

18. 略奪価格

19. 垂直的取引制限

20. 水平合併

各トピックごとに練習問題を配布する。また、練習問題に基づいた小テストを授業中に数回行う。

履修者へのコメント：

ミクロ経済理論の現実的な問題への応用に興味をもつ学生の受講を期待している。ゲーム理論の知識は前提とはしないが、「ミクロ経済学初級」の内容を理解していることは必要である。

成績評価方法：

授業内の小テスト 20%・春学期末試験 40%・秋学期末試験 40%

質問・相談：

毎回の授業の後に受け付ける。

経済政策のミクロ分析

助教授 藤田 康 範

授業科目の内容：

この講義では、貿易政策、環境政策、財政政策、金融政策などの様々な経済政策について分析する能力を身につけるとともに、政策論議への関心を高めることを目標とします。ミクロ経済理論、ゲーム理論、新産業組織論、契約理論などの近年の進展を踏まえて講義を行います。可能な限り平易に説明するよう努めますので、特別な予備知識は不要です。詳細については、第1回の講義の際に説明します。

参考書：

- ・藤田康範『よくわかる経済と経済理論』学陽書房
- ・藤田康範『よくわかる金融と金融理論』学陽書房

授業の計画：

[春学期]

1. ガイダンス
2. 貿易政策のミクロ分析 (計3回)
3. 環境政策のミクロ分析 (計3回)
4. 医療政策のミクロ分析 (計3回)
5. 販売戦略のミクロ分析 (計3回)

[秋学期]

1. 企業の海外展開のミクロ分析 (計3回)
2. 金融政策のミクロ分析 (計3回)
3. 財政政策のミクロ分析 (計3回)
4. 産業政策のミクロ分析 (計3回)
5. まとめ

履修者へのコメント：

テーマや進行方法については、履修者の希望を最優先したいと考えています。

原則として、3コマで一つのテーマが完結するようにし、やむをえず欠席した場合でも復活が容易となるように配慮する予定です。

意欲のある人たちの参加を希望しています。

成績評価方法：

確認のための簡単な試験(持込み可)、レポート等に基づいて総合的に評価する予定です。履修者の希望を最優先したいと考えています。

質問・相談：

随時受け付けています。

ファイナンス入門

助教授 新井 拓 児

授業科目の内容：

本講義では、主にポートフォリオ選択理論と金融派生商品の価格付け理論の基礎を扱う。ファイナンス理論では高度な数学を使うことが多々あるが、本講義は入門コースであるため、数学的記述を出来る限り排除し、平易な説明を行うよう工夫する。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に紹介する。

授業の計画：

[春学期]

イントロダクション

確実性下のモデル

平均と分散(2回)

効用関数と無差別曲線

最適ポートフォリオと分離定理

リスクの市場価格

資産価格モデル(CAPM)の導出(2回)

ゼロベータCAPMとマーケットモデル

パフォーマンス評価と市場の効率性

裁定価格理論(APT)(2回)

[秋学期]

価格付け理論へのイントロダクション

金利の期間構造(2回)

金融派生商品の紹介(2回)

1期間2項モデルにおけるオプション価格付け理論(3回)

数理ファイナンスの基本定理

多期間2項モデルにおけるオプション価格付け理論

ランダムウォークとブラウン運動

Black-Scholesモデル(2回)

成績評価方法：

試験の結果による。

質問・相談：

メールまたはオフィスアワー

公共選択論

助教授 土居 丈 朗

授業科目の内容：

公共選択論とは、政治過程を経済学的に分析する研究分野です。より具体的には、政策決定過程で有権者、政党、官僚、圧力団体などの主体がどのように行動するか、財政政策、金融政策、通商政策、選挙政策などがこれらの主体の間でどのように決まるかなどを、経済学的に考察します。

今年の公共選択論では、日本政治の経済分析をテーマとします。日本の政策決定過程における予算編成、財政赤字、公共投資政策、社会保障政策、地方分権、選挙制度、連合政権などについて、これまでに政治学・行政学などで分析されてきた仮説が経済学的にどう解釈できるか、実証分析でとらえられる日本の政治過程はどうであるかなどに、焦点を当てます。

テキスト：

・井掘利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社

参考書：

- ・土居丈朗『地方財政の政治経済学』東洋経済新報社
 - ・井掘利宏・土居丈朗『財政読本(第6版)』東洋経済新報社
 - ・土居丈朗『三位一体改革 ここが問題だ』東洋経済新報社
- その他、授業の進行に合わせて紹介します。

授業の計画：

次の項目を順番に進めて行きます。それぞれの項目は、受講者の理解の度合い等を見ながら、講義回数を適宜増減します。

第1部 日本の政治

第1章 日本の政治：経済分析の課題

第2部 政治を動かす人々

第2章 有権者の投票行動

第3章 政党と選挙

第4章 官僚の評価

第5章 圧力団体

第3部 政府の政策決定

第6章 景気と政治

第7章 予算編成と財政赤字

第8章 財政政策

第9章 金融政策

第10章 貿易政策

第4部 日本政治のあるべき姿

第11章 選挙制度

第12章 連合政権

第13章 財政再建

第14章 地方分権

第15章 政治と国民

履修者へのコメント：

講義は、テキストに書かれていることだけでなく、講義と同時期に進行する日本の政治経済の動向も取り入れつつ、テキストには書かれていない内容も扱う予定です。

成績評価方法：

- ・学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）

NPO 経済論（春学期） 教授 山田 太門

授業科目の内容：

近年、政府の財政における諸々の制約を原因として、政府に代わって民間部門が公共的財・サービスを提供する活動が注目されている。いわゆるボランティア活動や企業のフィランソロピー活動などの非営利公益活動がこれに当たる。これらの活動は個々に行われるだけでなく、むしろそれらの活動が複合した形で様々に組織化されており、各種の財団、社団などの公益法人が存在している。この講義の目的は、これらの民間非営利組織とその活動が全体の経済の中にどのように位置づけられるかを理論経済学的に説明し、またこれら非営利部門（第3セクター）に対する全体および個別の制度、政策がどうあるべきかを公共経済学の理論を用いて検討することである。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

- ・山内直人『ノンプロフィット・エコノミー』日本評論社、1997年
- ・島田晴雄編著『開花するフィランソロピー』TBSブリタニカ、1993年

授業の計画：

1. マクロ経済における NPO 部門
2. 政府部門と NPO
3. 寄付行動とボランティア活動
4. 非営利活動の経済理論
5. 租税制度と非営利活動
6. 公益法人制度
7. 企業のフィランソロピー活動
8. NPO と民間営利企業の関係
9. 助成活動と事業活動（ファンド・レイジング）
10. 福祉・医療と NPO
11. 教育と NPO
12. 文化・芸術と NPO（文化経済学）

履修者へのコメント：

できるだけ NPO 経済論 とセットで履修することが望ましい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）

NPO 経済論（秋学期） 講師 田中 弥生

授業科目の内容：

貧困、紛争、環境問題など地球規模の問題、保育や高齢者問題などの地域社会の問題、いずれにおいても NGO、NPO が問題解決の有力なアクターとして注目されている。しかしながら、これら民間非営利セクターに関する研究は新しく、その取り組みの歴史は浅い。NPO 研究はまさに、その発展が有望視される新研究分野である。

本講義では、理論的なフレームワークを押さえるとともに、非営利セクターの現状を国際的視野から事例や実証分析によって把握してゆく。まず、NPO および非営利セクターの存在意義を示す非営利セクター論を情報の非対称性や取り引きコスト論などを用いて概観することによって、われわれが取り組もうとしている対象を明らかにする。また、実践的な視点を身につけるために、非営利組織のマネジメント論、評価手法を学ぶ。また、日本の NPO 活動事例、途上国における NGO による開発援助事例など、事例を学ぶがここでも、事例に留まらず実践と理論を織り交ぜて考察したい。

テキスト：

- ・田中弥生著『社会と NPO をつなぐ NPO を変える評価とインターネットメディアリ』東京大学出版会、2005年
- ・田中弥生著『NPO 幻想と現実～それは本当に人々を幸福にしているのか』同友館、1999年

・ピーター・ドラッカー、GJ スターン著 田中弥生監訳『非営利組織の成果重視マネジメント～NPO、行政、公益法人のための「自己評価手法」』ダイヤモンド社、2000年

・ロナルド・コース著 宮沢健一他訳『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年

参考書：

・レスター・サラモン著 入山映訳『米国の非営利セクター入門』ダイヤモンド社、1994年

・重富真一監修『アジアの国家と NGO～15ヶ国の比較研究』明石書店、2001年

・Burton Weisbrod, The Nonprofit Economy, Harvard University Press, 1998

・Walter W. Powell, The Nonprofit Sector, Yale University, 1987

・Peter Rossi, Evaluation, A Systematic Approach 6th Edition, SAGE Publication inc., 1999

授業の計画：

非営利組織論レビュー（経済学および社会学）

非営利セクターの経済規模（日本、海外）

非営利組織と資源提供者のミスマッチ問題

ミスマッチ問題分析：情報の非対称性、取り引きコスト論

ミスマッチ問題解決 1：個々の非営利組織のマネジメント

ミスマッチ問題解決 2：インターメディアリ

非営利組織のプログラム評価：政策評価手法の適用

非営利組織のアカウントビリティと評価：組織評価

事例紹介：途上国における NGO による開発援助活動、NGO アドヴォカシー活動、福祉サービス（社会的起業による活動）

成績評価方法：

- ・学期末試験の結果による評価

格差と援助の経済学

助教授 大平 哲

授業科目の内容：

援助の経済学を整理する。春学期は主として援助側の視点にたつて援助の目的、制約をまとめる。秋学期はまず前半で被援助側の視点から、開発と援助との関係を考え、後半では援助側と被援助側の双方の思惑から、現実の援助がどのような形態になるかを考える。

テキスト：

なし。講義ノートを配る。講義ノートはこの授業専用のウェブサイト <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/aid/> 上に随時掲載される。各自がダウンロードしてくることにしている。

参考書：

- ・講義の進展に応じてインターネット上の文献を紹介していく。

授業の計画：

およそ次の内容と予定している。履習学生の関心に応じてスケジュールは柔軟に変更する。

〔春学期〕

1. 授業計画の説明、方針の決定
2. 援助側の目的 (1) 二国モデルで検討
3. 援助側の目的 (2) 社会厚生関数
4. 援助側の目的 (3) 社会厚生関数と統計量
5. 援助側の目的 (4) アトキンソンの定理
6. ODA 大綱 (1)
7. ODA 大綱 (2)
8. 予備日
9. 援助の評価
10. ブループリント・アプローチ
11. 試験
12. 春学期のまとめ
13. 試験の返却・解説

〔秋学期〕

1. 平等性と効率性 春学期の復習
2. 被援助側の視点 (1) 2つのギャップ
3. 被援助側の視点 (2) 社会要因、環境要因
4. 被援助側の視点 (3) 情報の経済学
5. 被援助側の要因 (4) 外部性
6. 予備日

7. 参加型開発 (1) 理念
8. 参加型開発 (2) 手段
9. 援助側と被援助側の交錯 (1) ファンジビリティ, トランスファー問題
10. 援助側と被援助側の交錯 (2) 国際機関の役割
11. 試験
12. 一年のまとめ
13. 試験の返却・解説

履修者へのコメント:

援助や補助金の現状を理解し、今後のありかたを考えるためには、制度に関する知識、現実の経験など、知らなければいけないことがいくつもあります。この授業では多くの資料を読んでもらうことになり。また、事実を蓄積するだけでなく、経済理論の道具を用いて体系的に整理することを重視します。制度や歴史への関心と、理論的な分析をバランスよく身につけたいと考えている学生の履修を望んでいます。

成績評価方法:

春、秋学期の学期末試験(授業期間内に実施)の点数、および何回かの小レポートの点数の合計で決める。学期末試験を2回とも受けることは必須。その他詳細については初回の授業で説明する。

質問・相談:

日時を約束した上で随時受け付ける。

現代中国経済論(秋学期)

助教授 駒形哲哉

授業科目の内容:

本講義は、包括的な現代中国経済論とは一線を画し、移行期に特徴的な課題を選んで集中的に論ずる。今年度は、体制移行と市場経済化促進をもっともよく体現していると考えられる「中小企業」を切り口に、論じていく予定である。

雇用の場、起業家の自己実現の場、市場の変化への迅速で弾力的な対応が可能な供給者として、中小企業は市場経済の存続と発展に不可欠の存在である。ただし、現在の中国では、中小企業の役割・性質は市場経済におけるそれにとどまらず、移行期に固有の役割や問題を含んでいる。そこでこの講義では、中国における中小企業の現状、政策と問題点について、主に実際に調査を行なった個別事例にもとづきながら論じていく。現地調査の進展状況によっては、講義内容が変更される可能性もある。

テキスト:

拙著『移行期・中国の中小企業』(税務経理協会, 2005年7月)を用いる。

参考書:

講義のなかで紹介する。

授業の計画:

以下のテーマについて、1~2回を使って論じていく。

(1) なぜ中小企業なのか 企業区分尺度の収斂が意味すること

中国で中小企業に注目することの意味を、新中国以来の歴史的経緯をふまえて概観する。1998年に「中小企業司」という中小企業専門の役所が初めて設置されたが、中小企業の重要性は、実は90年代末に突如高まったわけでもない。では、なぜこの時期に中小企業専門の役所が生まれ、それはどのような役割を担っているのだろうか。この問題提起を起点に、毛沢東時代からの中小企業の一貫した重要性について確認し、体制移行により、企業区分の重点が地理的区分、管轄別区分から規模別区分へと移ってきたことを、この部分では示す。さらに中小企業促進法の内容とその実施経過についても簡単に述べる。

(2) 郷鎮企業が村を変えた 天津郊外村にみる村営企業の役割と地域変容

ある1つの村に焦点をあて、村営企業の動向を中心に、1970年代末から2001年に至るまでのこの村の経済の変化を追跡する。経済改革初期の中小企業の代表格は「郷鎮企業」とよばれる農村企業体であり、この郷鎮企業の発展こそが、マクロ的には国民経済の資本蓄積構造を変え、ミクロ的には地域経済の構造を変える主体となった。その意味で、中小企業と移行との関連は、まず郷鎮企業をめぐる論じられる必要がある。本章では、この郷鎮企業の形成と発展をミクロ・セミミクロのレベルから時系列的に追い、地域経済の変容を合わせて考察することにより、公有制企業の役割とその時限性を示す。

(3) 「異端」から「主役」へ 市場経済形成のリーディングエリア・温州

中国において温州が、なぜ「中小企業の里」なのか、温州経済はなぜどのように発展し、中国の体制移行にどのような意義をもつのかについて論じる。

改革開放の成果は、広大な中国全土に均一にもたらされたわけではなく、むしろ移行の促進は計画経済が機能しなかった地域からもたらされた。浙江省温州市は、古くから商品経済の伝統をもち、計画経済期にもそれが途絶えることなく存続し、しばしば社会主義イデオロギーとぶつかりながらも、巧みにそれをかいくぐって、中国の市場経済化を先導した。温州の経済発展は経済改革当初から非公有制中小企業によるものであったといつてよい。独自の情報と流通のネットワークにより市場を先行して占拠したのが温州の企業群であった。また近接者の成功に次々に追随することにより、温州には様々な産業集積が形成された。非公有制中小企業による発展を特徴とする温州経済ではあるが、ただし、その発展には、公有制部門に蓄積された技術や技能の再編・利用という側面があり、温州の発展は、歴史に涵養された企業家のエッセンスと、そうした蓄積とのコラボレーションであったことに注意を喚起したい。さらに、非公有制経済発展地域からの資本移住の持つ意義について、瀋陽における温州資本を中心に指摘する。

(4) 「王国」の再興 天津・自転車産業の事例

天津の自転車産業の事例を取り上げる。現在日本のスーパーや通信販売などで安く販売されている自転車のほとんどは中国製であり、中国製自転車はわれわれの生活に非常に身近なところにある。その中国では天津製の自転車が、今世紀に入って急速に生産シェアを伸ばしている。

実は、天津はもともと上海と並びブランド国有自転車メーカーを有する二大自転車産地であった。しかし、1990年代に入ると、市況の変化と競争の激化に対応できず、国有メーカーは急速に衰退した。ところが2000年の上海自転車展示会で内外の関係者は、新生・天津の台頭を認識することになる。90年代の10年間に何があったのか、国有集団独占体制から中小企業主体の構造への変容、産業集積の形成と集積の発展について、制度変更(規制緩和)、内発的要素(国有企業における技術蓄積等)、外資の役割、域外資本の流入と域外との分業関係に留意しながら述べる。すなわち、国有企業の分解がもたらした産地再編と集積の果たす役割を論じることが、主な課題であり、広域分業の可能性もあわせて指摘する。

(5) 産地市場の「秘密」 紹興・合織産業の事例

零細卸売業者間の競争が枢要な役割を果たす、地域産業連関について論じる。世界の繊維大国である中国のなかで、浙江省紹興市は繊維産業の中心地の1つを形成している。紹興市には、アジア最大といわれる繊維市場があり、テナントビルタイプの繊維市場では、数千の零細な私的経営の卸売業者が入居して、ポリエステル合織生地が取引されている。この市場の存在がこの地域の織布工場を支えており、同業者や関連する業種の企業群が空間的に集中する一大集積を形成しているのである。ここでは、この地域に繊維の産業集積が形成されたのはなぜか、そしてこの集積地が拡大再生産されてきたのはなぜかという問いを設定し、前者の問いについては政府の役割に、後者の問いについては、競争と情報の搬入に留意して答える。

(6) 産業集積の「興亡」 瑞安の靴下加工とウールセーター産業の事例

先行成功者への追随によって形成された産業集積が、過当競争のなかでいかなる構造変化を遂げたかについて、温州市下の地方都市・瑞安の靴下加工産業とウールセーター産業の事例で論じる。前者は国内市場向け出荷の過当競争から、零細企業群が、輸出ルートを開拓して抜け出した企業の外注先として統合されていくというもので、企業間関係により柔軟な生産組織が形成された事例である。ただし、外注先企業群が集中立地する地域は、集積間競争では劣位に立たされているようである。後者は、模倣追随による集積が、過当競争のなかで機能なくなり、一方で劣弱企業の淘汰、他方で有力企業の資本の集積が進み、当該地域ではウールセーター産業がなお主要産業の一角を占めながらも、その存立形態が大きく変化した事例である。ここでは、集積の論理というよりも、競争の論理や地域経済の産業構造変化の要素を再確認することになる。

(7) 借金の保証人をつくれ 信用保証制度の現状

現下の中小企業政策の最重要課題の1つである資金供給の問題を扱う。われわれが、非公有制中小企業の顕著に発展する現場を訪れて、最も戸惑ったのは、中小企業の急速な発展、物的供給面での役割の大きさと、中小企業の資金供給に対する正規金融の役割の小ささという、モノベースとカネベースとの間の甚だしいギャップの存在である。「競争」と「信用」(金融)は、市場経済発展の両輪でありながら、中国の非公有制中小企業の発展は正規金融機関からの資金供給の道を半ば閉ざされてきた。これに対し、中国政府が採った策は、日本のような中小企業専門金融機関を設立することよりも、信用補充制度(信用保証制度)の設立と拡充を先行させることであった。そこで、中小企業金融のなかでも信用保証制度にしばって、いくつかの事例を大掴みにする。

(8) 移行期・中国の中小企業論 その射程

成績評価方法:

基本的に定期試験によるが、履修者数によっては出席を加味したり、授業内レポートを課す場合がある。

開発経済学

教授 高梨和紘

授業科目の内容:

開発の途上にある諸国の経済現象を分析し、特定の開発目標を達成するための政策手段を検討することが、この学問の狙いである。分析にあたっては、新古典派の経済理論が基本に据えられる。しかし、開発途上諸国においては経済活動の指針となるはずの財、サービス、生産要素等の『価格』は、市場それ自体の分断性や硬直性等の理由のために歪みを伴っている。また経済開発の初期段階から制約要因としての環境、エネルギー、ジェンダー等の問題を抱えている。したがって、市場が正常に機能することを前提に右肩上がりの経済成長をひたすら追及する近代経済学の分析手法をそのまま当てはめる訳にはいかない。このような理由から、開発経済学を学ぶ際にわれわれに求められる学問の姿勢としては、開発とは何かという問題意識を鍛え上げつつ、新古典派経済学の分析手法を中心に据えながらも、隣接する諸学問の知識を動員し、開発の諸問題に取り組むことが望まれる。その方向でこの講義を進めて行きたい。

参考書:

- ・速水佑次郎『開発経済学』創文社、2000年
- ・山形辰史、黒田卓『開発経済学』日本評論社、2003年
- ・高梨和紘(編著)『開発経済学』、慶應義塾大学出版会、2005年

授業の計画:

春学期は理論分析を秋学期は現状分析を中心に行う。

履修者へのコメント:

つねに問題意識を持って、参加してほしい。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)(春秋とも)
- ・レポート
- ・授業内試験の結果

成績は3~4回の小レポート(60%)と秋学期末の文献サーベイレポート(40%)におけるパフォーマンスで評価する。小レポートでは、講義内容に関わる簡単な実証研究の練習をしよう。文献サーベイレポートの形式・内容は追って指示する。

EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS (秋学期)

教授 嘉治 佐保子

講師 林 秀毅

授業科目の内容:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, with emphasis on the economic aspects. Each lecture will be based on different chapters of Gilson(2000) and additional materials as necessary. Powerpoint will be used for exposition. Students are expected to participate actively with questions and comments.

At the end of each lecture, the topic to be discussed the following week will be announced. A set of questions related to that topic will also be given out. Students must write a report on one of the questions and submit it at the beginning of the next lecture. By writing this week-

ly report, students are to familiarise themselves with the next topic before coming to the lecture.

テキスト:

- ・Gilson, Julie, *Japan and the European. A Partnership for the Twenty-First Century*, Palgrave Macmillan, 2000 (Several Copies of the text are on reserve at the library.)
- ・For lighter reading, students can turn to Kaji, Hama and Rice, *The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 1999

授業の計画:

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations(1)
- Chapter 2 Developing Cooperation 1950s-80s(2)
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan(3, 4)
- Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan(5, 6)
- Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-Eu Relations(7, 8)
- Chapter 6 Cooperation in Regional Forums(9, 10)
- Chapter 7 Addressing Global Agendas(11, 12)
- Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century(13)

履修者へのコメント:

Knowledge of other European languages is welcome, but not essential.

成績評価方法:

End-of-term essay(on any related topic), weekly reports, class participation.

質問・相談:

Anytime during class, also by e-mail

廃棄と汚染の経済学(秋学期集中) 教授 細田 衛士

授業科目の内容:

環境汚染と廃棄物・リサイクル問題を、経済学的な視角から分析する。以下のテーマからいくつか取り上げて講義するが、常にリアルタイムでの問題を念頭において話題を展開するので、以下の項目には多少の変更があり得る。尚、日吉でのミクロ経済学初級、マクロ経済学初級の知識を前提にする。

1. グッズの世界、バツの世界
 - (1) グッズとバツ
 - (2) 逆有償とマイナスの価格
 - (3) グッズとバツの境界
 - (4) 伝統的な経済学との関係
2. 動脈産業と静脈産業
 - (1) 動脈産業はメイン・ストリームか
 - (2) 潜在技術の顕在化
 - (3) 静脈技術の技術進歩
 - (4) 発展する静脈の世界
3. バツとゼロ・エミッション
 - (1) バツの処理と最終処分場
 - (2) 最終処分場の最終管理
 - (3) バツの発生抑制と排出抑制
 - (4) ゼロ・エミッションは可能か
4. 安定した市場リサイクルの条件
 - (1) 市場リサイクルの可能性
 - (2) 動脈と静脈の相互関係
 - (3) 規制と公共関与
 - (4) 企業のイニシアティブ
5. 逆選択とパートナーシップ
 - (1) 逆有償が解消しないとき
 - (2) 情報の非対称性と競争のデメリット
 - (3) 優良業者の悲哀
 - (4) 競争と協調
6. PPP(汚染者支払い原則)と費用負担
 - (1) PPP(汚染者支払い原則)とは何か
 - (2) 市場原理と費用負担
 - (3) 応分の負担とは
 - (4) 市場を活用することの本当の意味
7. 環境保全のトレード・オフ
 - (1) あれかこれかの世界

- (2) 経済と環境は両立可能か
- (3) 環境要素どうしのトレード・オフ
- (4) 環境評価の難しさ
- 8. バッツのマクロ経済学
 - (1) ハーマン・デイリーの不満
 - (2) マクロ経済メカニズムの誤解：蚊が増えると GDP は増えるか
 - (3) GDP で生活の真の豊かさを測れるか
 - (4) 新しい社会への移行とその調整費用
- 9. 環境制約と経済成長
 - (1) 環境ビジネスは成長を支えるか
 - (2) 環境ビジネスと経済成長：理論的な観点から
 - (3) 経済発展経路の転換にかかわる問題
 - (4) 経済成長の神話 vs ゼロ成長の神話
- 10. バッツの管理システム
 - (1) 現行の廃棄物レジームの限界
 - (2) バッツ・フローの最適制御(1)：制御主体の観点から
 - (3) バッツ・フローの最適制御(2)：包括的環境政策
 - (4) バッツ・フローの最適制御(3)：バツ処理・再資源化の費用論再論
 - (5) バッツ・フローの最適制御(4)：いくつかの例
 - (6) 環境パートナーシップ

テキスト：

・細田衛士『グッズとバツの経済学』東洋経済新報社

参考書：

・ウェブ・サイトに提示

(<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/hosoda/lecture/>)

授業の計画：

「授業科目の内容」で示した内容を半期集中 13 回で行う。

尚、リアルタイムで起きている環境問題についても随時解説を行うので、計画の遂行は、伸縮的に行う。

履修者へのコメント：

- (1) 就職活動を理由にした欠席は、公欠とはみなさない。
- (2) 基本資料は細田のウェブサイトで採っておくこと。(経済学部のウェブサイトからも入ることができる。)

成績評価方法：

・学期末試験(定期試験期間内の試験)(春秋とも)
但し、場合によってはレポートを課し、成績評価の一部とすることもあり得る。

質問・相談：

講義終了時に随時受け付ける。

地域経済論(秋学期) 講師 高橋孝明

授業科目の内容：

経済構造の質的転換の中で、国民経済の内部における成長地域と停滞地域が明確になるとともに、国境を越えた生産や消費のネットワークが築かれるようになり、国を越えた地域経済間の競争と協力も現実のものとなっている。また、EU をはじめ、地域経済統合の行方が世界経済の今後を決める要因の一つとなろうとしている。本講義は、このような背景の下で地域経済への関心が高まっている現実を踏まえて、地域経済の分析と課題について、入門的な講義を行い、地域経済の基礎的理解を深めることを目的とする。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

開講時に指示する。

授業の計画：

時間の制約に応じて、以下の項目から適宜選択して講義を進める。

1. はじめに
 - (1) 地域経済学とは
 - (2) 地域経済学の目的
 - (3) 地域経済学の方法
 - (4) グローバル経済のサブ・システムとしての地域経済、国民経済のサブ・システムとしての地域経済
2. 国民経済の地域的構成
 - (1) 地域経済計算

- (2) 地域所得の決定
- (3) 地域内・地域間産業連関分析

3. 地域経済の成長

- (1) 需要主導型モデル
- (2) 供給主導型モデル
- (3) 需給混合型モデル

4. 地域間格差と地域間人口移動

- (1) 地域間格差の概念
- (2) 地域間格差縮小の理論
- (3) 地域間格差が存続する理由
- (4) 地域間人口移動

5. 地域経済の空間構造

- (1) 産業立地の理論
- (2) 空間的競争の理論
- (3) 経済活動の集中：集中の理由
- (4) 経済活動の集中：集中のメカニズム

6. 地域経済の階層構造

- (1) 中心地と都市システム
- (2) 地域経済における階層構造の生成メカニズム
- (3) グローバル都市ネットワークと地域経済

7. 地域経済の国際的展開

- (1) 比較優位と規模の経済
- (2) 国際貿易と国内地域構造
- (3) 国際的産業集積
- (4) 地域経済統合

8. 地域経済の政策的課題

- (1) 産業政策と国土政策
- (2) 地域経済システムの再編と一極集中
- (3) 社会資本と公共投資

9. おわりに

生産と消費の場としての地域経済

成績評価方法：

・学期末試験の結果による評価

質問・相談：

随時オフィスアワーを設けるが、事前にメールで担当教員に連絡をとり、日時を決めること。

連絡先：takaaki-t@csis.u-tokyo.ac.jp

地球環境問題 講師 山口光恒

授業科目の内容：

「地球温暖化を中心に」

2005年2月、京都議定書が発効した。温暖化対策は経済への影響の大きさ故に、いかにして環境、経済、エネルギー安定供給の鼎立を図るかが最大の課題である。環境問題への対処の主体は政府、地方自治体、企業、消費者、即ち社会の全構成員で、しかもグローバルな対応が求められている。本講座では地球環境問題の本質について説明した後、企業、政府、消費者の順に各主体と環境の関係を述べる。次いで、国際的にもっともホットな問題である地球温暖化問題を集中的に講義する。1年間の講義で、世界の温暖化問題の最新事情が理解できるようになると同時に、日本の取り組みに対する諸君の考え方を形成する上での基礎を学ぶことが出来る。なお事情が許せば企業の一線で環境問題に取り組んでいる方を招き討論を行う。

テキスト：

山口光恒『地球環境問題と企業』岩波書店、2000年

参考書：

- ・F.ケアークロス(東京海上グリーンコミティ訳)『地球環境と成長』東洋経済新報社、1995年
- ・山口光恒・岡敏弘『環境マネジメント』放送大学教育振興会、2002年
なお、放送大学大学院(TV)で「環境マネジメント」と題する講義を行っているので、そちらも視聴することが望ましい。

授業の計画：

主な内容は以下のとおりである。

1. 地球環境問題の本質 経済学的側面から(企業)
2. 地球環境問題と企業

3. 環境管理の国際標準化 (ISO14000 シリーズ) と日本企業
 4. LCA 製品に対する総合的環境配慮の手法
- (政府)
5. 環境政策の目的費用と便益
 6. 政府の介入とコースの定理
 - 7 - 8. 直接規制と経済的手法の理論と実際
 9. 排出権取引と自主協定
- (消費者)
10. NGO 住民・消費者の役割
- (地球温暖化)
11. IPCC 第3次報告 その1
 12. 同上 その2
 13. 気候変動枠組み条約
 14. 締約国会議
 15. 京都議定書 その1
 16. 同上 その2
 - 17 - 19. 議定書後の日・米・EU の対応
 20. EU の排出権取引 理論と現実
 21. 議定書批准と日本の対応 その1 環境税, 排出権取引
 22. 同上 その2 中国を中心とした CDM 促進策
 23. POST 議定書 新たなレジームの構築に向けて
 24. 自由貿易と環境保護の両立 温暖化問題を巡って
- 履修者へのコメント:
- 私語, 遅刻厳禁
- 成績評価方法:
- ・学期末試験 (定期試験期間内の試験)
 - ・平常点 (出席状況および授業態度)

環境評価論 (春学期) 専任講師 (有期) 河田幸視

授業科目の内容:

本講義は, 自然環境が有する経済的価値を評価する手法を解説する。今日, 自然環境の大部分は人間活動の影響下にあり, とりわけ大規模な変化が生じる場合には, しばしばその是非が問われる。経済的観点からは, 人間活動が自然環境に及ぼす様々な効果が費用と便益に整理され, これらが比較される。近年では, 費用, あるいは便益の一部として, 自然環境が有する価値や人間活動による環境質の変化を経済的に評価することに対して関心が高まっている。

例えば, 森林を伐採して公園整備事業を行う場合, 公園の整備にかかる費用や期待される入場料だけでなく, 森林伐採に伴う環境質の変化 (水涵養機能や生物多様性の低下など) を考慮する必要がある。また, 中山間地域では農林地の放棄が問題となっている。農林業活動は, 農林産物の生産機能だけでなく, 地域の景観形成, 災害防止などの公益的な機能を有し, 良好な環境質を提供していることに配慮する必要がある。

人間活動に伴うこうした環境質の改善や悪化は, 市場を通じた取引がなされない外部効果である。このため, 社会的効率性を達成するためには, 環境質を経済的に評価してその価値を明らかにし, 内部化を行う必要がある。本講義では, こうした目的に用いられる環境評価手法について解説する。

テキスト:

指定なし

参考書:

講義中に指示する

授業の計画:

- (1) ガイダンス & 環境評価とは?
- (2) 環境評価のための経済理論
- (3) 費用便益分析
- (4) 環境評価手法

成績評価方法:

試験の結果による評価

資源経済論 (春学期) 専任講師 (有期) 河田幸視

授業科目の内容:

本講義は, 魚類, 野生動物, 鉱物といった自然資源の利用について

で経済的に解説する。

私たちの日々の生活は, 直接的, 間接的に多くの自然資源と結びつき, 少なからず影響を及ぼしている。食卓に上る魚介類は, 現在, その多くが過剰に利用されている。森林や野生動物は, 以前に較べて利用量が減少し, 農山村地域の衰退を促進する一因となっている。こうした状況は, 社会・経済的な変化とともに, 近年, 悪化の一途を辿っている。このままでは, 農山村の優れた景観や機能がますます失われ, 食材をいっそう輸入品に依存して, 人口は都市に, 食料は海外に偏重した将来が, あるいは到来するかもしれない。

このような状況を少しでも危惧するのであれば, ぜひ受講していただきたい。そしてなにより, 自然資源は, 切り離されたようでいて, 実際は私たちの生活と深く関係しているという事実を, 改めて認識していただきたい。問題を知り, 解決策を模索して新しい仕組みを構築したい方, むしろビジネスチャンスと受け止めて, ゆくゆくは新規事業を起こしてみたいという方にも, 有益になると思われる。

講義では, 現状を解説し, 問題の所在を指摘し, 経済的な分析手法を提示し, 考えうる処方箋や先進事例を紹介する予定である。数式を用いることがあるが, なるべく実例や数値例を多用して, 理解を助けるよう留意するつもりである。

なお, この講義では, 自然資源の利用と, それにまつわる外部性に大きく焦点をあてることから, 環境経済論と一緒に受講すると非常に効果的である。また, 内部化のための情報の計測手法を解説する環境評価論とも関連する科目である。

テキスト:

指定なし

参考書:

講義中に指示する

授業の計画:

- (1) ガイダンス & 資源経済論とは?
- (2) 自然資源利用の現状と問題点
- (3) 経済的分析方法
- (4) 資源管理方法と先進事例

成績評価方法:

試験の結果による評価

現代社会史 (春学期集中)

教授 松村高夫

教授 高草木光一

授業科目の内容:

本年度は, 「東アジア・スタンダードの創造」を統一テーマとする。

近年, 靖国問題, 教科書問題, 戦後補償問題, 領土問題等を通して, 近隣諸国家では「反日」の機運が高まっている。中国や韓国の主張と日本の主張との間の擦れはどこに起因するのか, どこまで共通の歴史認識をもつことが可能なのか, それを検証することを第一の課題とする。また, 共通の歴史認識の上に立って, グローバル・スタンダードに対抗しようとする東アジア・スタンダードを発信することができるのか, という課題をも設定したいと考える。

韓国・中国からそれぞれ代表的な歴史家, 思想家を招き, 日本側の主張と対決させ, 問題の深部を抉り出す手法を採る。学生諸君の積極的な参加を希望する。

授業の計画:

第1回 4月14日

東アジアと日本 どこに問題があるのか?

鳥信彦(ジャーナリスト)・大村次郷(フォトジャーナリスト)

第2回 4月21日

日本経済の未来と東アジア

藤原作弥(日立総合計画研究所取締役社長・前日本銀行副総裁)

金子勝(慶應義塾大学経済学部教授)

第3回 4月28日

国際政治の観点からみた東アジアと日本

加藤紘一(衆議院議員)・

田中秀征(政治評論家・福山大学経済学部教授)

第4回 5月12日

日中関係をどう捉えるか(1) 近現代日中関係史

歩平(中国社会科学院近代史研究所長)・

江田憲治(京都大学大学院人間・環境学研究科教授)

第5回 5月19日

日中関係をどう捉えるか(2) 毒ガス・細菌戦と 731 部隊
歩平・松村高夫(慶應義塾大学経済学部教授)

第6回 5月26日

日中関係をどう捉えるか(3) 教科書問題と歴史認識
歩平・渡辺春己(弁護士)

第7回 6月2日

東アジアの過去・現在・未来
歩平・池明観(元東京女子大学教授)

第8回 6月9日

日韓・日朝関係をどう捉えるか(1) 日本人のアジア認識
池明観・子安宣邦(大阪大学名誉教授)

第9回 6月16日

日韓・日朝関係をどう捉えるか(2) 韓国合併の虚実
池明観・海野福寿(明治大学名誉教授)

第10回 6月23日

日韓・日朝関係をどう捉えるか(3) 戦後の日韓関係
池明観・杉原達(大阪大学大学院文学研究科教授)

第11回 6月30日

日本の選択(1) 日本国憲法と日本の役割
土井たか子(元衆議院議長・前社会民主党党首)
小川和久(軍事アナリスト)

第12回 7月7日

日本の選択(2) 天皇制と民主主義
鈴木邦男(一水会顧問・評論家)
加藤哲郎(一橋大学大学院社会学研究科教授)

第13回 7月14日

日本の選択(3) どこに思想の基点を置くか
総括フォーラム

アジア社会史

教授 倉 沢 愛 子

授業科目の内容:

新しい文明の到来, 外国による植民地支配, さらにには近年の経済発展などの結果東南アジア社会はどのような社会変容を体験してきたのかを論じる。

現代に関する部分は, インドネシアにおける倉沢のフィールド調査の結果をもとに, 映像などを使いながら具体的な問題を取り上げて論じる。

試験は年度末にまとめて行う。三分の二以上の出席が無い場合は受験資格がない。(就職試験の当日と重なるなどやむをえない事情によって欠席する者は証明を添付して届け出れば考慮する)

テキスト:

・倉沢愛子『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社, 2001年

授業の計画:

- (1) - (4) 東南アジアの伝統社会と(新文明の到来, 交易 etc),
- (5) - (10) 植民地支配下の東南アジア社会(植民地経済, 西洋文明, 近代化 etc)
- (11) - (13) 東南アジア諸国の独立と国家建設
- (14) 経済開発と社会変容
- (15) 外資の導入と工業化
- (16) 経済協力の問題点
- (17) 大都市の変容 (都市計画とスラムの破壊)
- (18) 農村社会の変容 (緑の革命 etc)
- (19) 伝統的「市場」
- (20) 教育
- (21) 保健衛生
- (22) 新中間層の台頭
- (23) 宗教
- (24) グローバル化する文化
- (25) メディア
- (26) 労働力移動

成績評価方法:

試験の結果による評価

ラテンアメリカ社会史

教授 清 水 透

授業科目の内容:

この講義では, 西欧文明とインディオ社会との関係史を具体例をとりあげ, 現代の諸問題の原点を近代以降の歴史のなかにさぐります。同時に, 政治史・経済史を中心に描かれてきた従来の歴史叙述と歴史の方法について, 社会史の視点から検討を加えます。

具体的には, 25年以上にわたり私が通いつづけてきたメキシコのマヤ系インディオ村落チャムーラ社会でのフィールドワークの体験を織りまぜつつ「発見」以降のラテンアメリカの歴史を, インディオ村落の側から見つめなおし, そこから見えてくる歴史と「未開」社会の価値の世界が, テロと報復戦争で幕を開けた21世紀に生きる私たちに, 何を問いかけているか, じっくり考えてみたいと思います。究極的には「近代といのち」というテーマを追究することとなります。

テキスト:

・清水透『エル・チチョンの怒り メキシコ近代とアイデンティティ』東京大学出版会, 2005年

参考書:

毎回のテーマに従って, その都度配布するレジュメに参考文献一覧を紹介する。

授業の計画:

- 1) インディオと私: 自分史
- 2) 1492年と他者の創造: 近代的なざし成立の契機
- 3) 「文明」の空間と「野蛮」の空間: 空間構造の植民地的再編
- 4) 「文明」の神とインディオの神: 神意識の自己再編過程
- 5) 「野蛮」の抵抗 「敗者の歴史」再考
- 6) 近代化と共同体(1): 独立と白色国民国家構想
- 7) 近代化と共同体(2): 資本主義開発と共同体の論理
- 8) 問われ始めた「文明」: ナショナル・アイデンティティの創造と共同体
- 9) 村の液状化・都市の液状化: 現代の都市 = 共同体 関係
- 10) 「文明」と「弱者」

履修者へのコメント:

下記の成績評価方法からも明らかとなり, 就職活動等による欠席は, 成績評価の際に全く考慮されない点を, 十分承知したうえで, 聴講するか否かを決めること。

成績評価方法:

- ・講義内容の論点・コメント・批判・疑問点について, 毎回レポートを提出すること。字数制限なし。
- ・レポートは次週の講義中に回収する。代理提出は認めない。
- ・欠席して提出できなかったレポートは, その次の講義までに提出する。
- ・提出されたレポートについて7段階評価を行い, 最終講義日までの総得点のみにより, 成績評価を行う。したがって, 追加レポート, 追試験等は実施しない。

地方分権論(春学期)

教授 金 子 勝

授業科目の内容:

多くの国々で地方分権の動きが強まっている。最近, 日本でも「三位一体改革」として, 地方分権が重要な政策課題となり, 多くの人々の関心を集めている。こうした状況をふまえて, 日本を含む世界の地方分権の動向を, 政治的行政的あるいは財政的な側面を含めた広い視野から考察する。

テキスト:

随時本や論文を紹介し, 必要な時はプリントを配布する。

授業の計画:

- 授業は以下の項目にしたがって行う。
- 欧米諸国における地方分権の動向
- 1. 米国: 1970年代から今日まで
- 2. 英国: サッチャー改革からブレアまで
- 3. EU 統合と地方自治憲章
- 4. 中国: 分税制改革と集権化
- 日本における政府間関係の歴史
- 1. 高度成長から田中角栄型政治へ
- 2. バブル崩壊と景気対策の歪み

3. 三位一体改革：その問題の位相

地域格差と地域再生：具体例を示しながら

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）

簿記	講師 千葉 洋
----	---------

授業科目の内容：

会計は企業における経済活動を企業資本の機能活動の具現形態とみなし、その運動の経過ないしは末を計数的に測定・描写して企業資本の統一的・全体的な管理を行おうとする技術的な行為であり、複式簿記はこうした企業資本の統一的・全体的な管理を行うためのいわば装置としての役割を果すものである。

本講義では複式簿記の基本構造と那一巡の主要手続きとを体系的に解説する。なお理解を深めるために随時演習も課す予定である。

テキスト：

- ・山根忠恕『複式簿記原理（新訂版）』千倉書房

授業の計画：

講義の概要はつぎのとおりである。

ガイダンス（1回）

・複式簿記の基礎

1. 複式簿記の意義と特質（計2回）
2. 勘定科目の設定（計2回）
3. 取引の仕訳（計2回）
4. 元帳への転記（計2回）
5. 試算票の作成（計2回）

・勘定科目詳説（計8回）

・決算の諸手続き

1. 決算予備手続き（計3回）
2. 決算本手続き（計3回）

・精算表と財務諸表

総括（1回）

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

授業時および終了時に受け付けます。

演習（春学期）〔水曜日3時限〕	赤林 由雄
-----------------	-------

授業科目の内容：

この科目では、各種の統計資料を特に国民経済計算（SNA）を中心に体系的に理解することを目的としています。

諸君はマクロ経済学を1・2年生で学ぶわけですが、そのマクロ経済学に登場するさまざまな変数について概念としては知っていても、では実際に現実にそれらの数値がどのような値をとっているか、その数値はどのように推計されているのか、について理解している学生はあまり多くありません。おそらく「国民経済計算」と言われてそれが日本のマクロ統計のおおもとであることすら知らない学生もいるのではないかと思います。

そこでこの演習では、国民経済計算を中心とする、実際の統計データを使って、そのデータを整理しながら、国民経済計算の枠組みを理解していくことになります。もちろん国民経済計算のデータだけですべてが完結するわけではありませんので、その国民経済計算と関係するその他の統計データについても扱うことになります。

実はこの内容は「経済資料編」と一部重複します。が、「経済資料編」は大教室での講義という性格上、十分な演習は行うことはなかなかできません。しかし少人数でのこの授業ではそれが可能です。受講者を「統計資料まみれ」状態にすることで、各種の統計についての理解を深めさせる、というのがこの演習の目的です。キツイようですが、そうすることが理解を深めるための早道だと私は信じています。したがってかなり多くの宿題が課されることは覚悟の上で受講してください。

また、この演習においては、大量のデータを整理し、集計する必要がありますが、この授業ではその作業をパーソナルコンピュータの表計算ソフト Microsoft Excel を使って行います。ただし「情報処理」の授業ではありませんので、Excel の使い方までをここで教える余裕はありません。この授業は、受講者諸君が最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える（「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる）ことを前提として行います。Excel が使えない場合にはこの演習にはついてくることできませんのでその点も了解した上で受講してください。

追加的な情報について、WWWでお知らせすることがありますので、受講の前に

<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akab/> をみておいてください。

テキスト：

最初の授業の際に指示します。

授業の計画：

授業は学生のレベルを考慮しつつ進行します。主な内容は次のとおりです。

- ・勘定体系の考え方
- ・日本の SNA の概要
- ・統合勘定
- ・制度部門別勘定を使った統合勘定の組み換え
- ・米国の SNA

履修者へのコメント：

上記の通り Microsoft Excel を使って演習を行いますので、最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える（「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる）ことを前提として4月からの授業は行います。

また E-mail を使えることも前提として授業を運営します。さらにインフォメーション・テクノロジー・センターの Windows PC のアカウントをもっていることも必要です。

なお、追加的な情報については、WWWでお知らせしますので、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akab/lecture/> をご覧ください。

成績評価方法：

基本的には平常点です。ただし参加する人数が多くなった場合にはレポートを併用する可能性もあります。

演習（春学期）〔水曜日4時限〕	赤林 由雄
-----------------	-------

授業科目の内容：

この科目では、産業連関分析、ならびにその前提としての国民経済計算（SNA）を体系的に理解し、現実の経済を分析するための手法をみにつけることを目的としています。

また演習においては現実のデータである公表された産業連関表を用いてさまざまな分析を受講者諸君にやってもらう予定です。

産業連関分析はかなり強力なツールですが、分析のために膨大な量の計算を必要とします。ある程度型にはまった分析であれば、公表された表に付随している計数表をみることでわかることもありますが、特定の部門について詳細に分析したいときや、さまざまな仮定をにおいてシミュレーションを行いたいときには、自分でそのような計算をやらなければなりません。2行2列の行列演算で足りるような仮説例としての産業連関表での分析であれば筆算や電卓でも計算できますが、いやしくも現実の経済を分析しようというのならここでは数十から数百部門の行列での掛け算や逆行列計算が必要になります。そのためには、コンピュータを使った計算ができなければお話になりません。

これらの計算は、以前であれば、プログラミングができなければ難しかったのですが、最近では Excel のような表計算ソフトによって（小規模の表であれば）行うことは可能です。この演習では、この Microsoft Excel を使ってさまざまな産業連関分析の計算を行う予定です。

テキスト：

最初の授業の際に指示します。

授業の計画：

授業は学生のレベルを考慮しつつ進行します。主な内容は次のとおりです。

- ・SNA と産業連関表
- ・産業連関分析の理論的枠組

- ・日本の産業連関表の特徴
- ・実際の表を使った基本的な分析

履修者へのコメント：

上記の通り Microsoft Excel を使って演習を行いますので、最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える（「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる）ことを前提として4月からの授業を行います。

また E-mail を使えることも前提として授業を運営します。さらにインフォメーション・テクノロジー・センターの Windows PC のアカウントをもっていることも必要です。

なお、追加的な情報については、WWW でお知らせしますので、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akab/lecture/> をご覧ください。

成績評価方法：

基本的には平常点です。ただし参加する人数が多くなった場合にはレポートを併用する可能性もあります。

演 習 教授 池 田 幸 弘

授業科目の内容：

池田担当の研究会が4年生のみとなる為それを補う目的で開講される。

本研究会所属の4年生は必ず履修されたい。参加者は研究会のメンバーに限定する。

テキスト：

後日、指示する。

参考書：

適宜指示する

授業の計画：

学生自身の報告を主とする。

履修者へのコメント：

上記の運営方針の通り

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・卒業論文の評価

質問・相談：

授業時の他はアポイントメントをとって頂ければ幸いである。

演 習 教授 太 田 聰 一

授業科目の内容：

テーマは若年雇用問題とし、若年失業、七五三離職、ニート等の問題を考える上で参考になる文献を、国内・海外から渉猟して読んでいきたい。必要に応じて、経済学のみならず教育社会学や産業社会学の文献も視野に入れてゆく。形式としては、最初は基礎的な文献を示し、そのいくつかを輪読の形で読んでいくが、参加者の関心に基づいた報告も行ってもらうことを考えている。

テキスト：

初回に論文・著書などの紹介を行う。以下の文献は基本書として掲載しておく。

- ・D. G. Blanchflower and R. B. Freeman, eds. *Youth Employment and Joblessness in Advanced Countries*, NBER, 2000.
- ・Preparing Youth for the 21st Century: *The Transition from Education to the Labour Market* Proceedings of the Washington D. C. Conference.

履修者へのコメント：

英語文献も含めて多くの文献を読みたいので、意欲のある学生に参加してほしい。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

演 習（春学期） 教授 大 沼 あゆみ

授業科目の内容：

環境問題に関する映像により現実の環境の現状や環境政策の実態について学習する。扱う環境問題は、地球温暖化、公害、野生動物、水資源、漁業、廃棄物など多岐に渡る。受講者には、毎回、この映

像で扱ったテーマに関して提示する課題に沿ってレポートを提出してもらおう（映像の内容をまとめるのではないので注意すること）。また、提出したレポートの内容について毎回、1人ないし2人にプレゼンテーションを行ってもらう。

成績評価方法：

毎回の授業での出席及びレポートの内容により評価する。

質問・相談：

随時受け付ける。メールでアポイントメントをとること。

演 習 助教授 大 平 哲

授業科目の内容：

日本国内の地域経済の実状を調べる。自分が興味をもっている地域を取り上げ、一年間をかけて、その地域の実状、今後の政策運営のありかたなどをまとめるレポートを作る。文献情報だけでなく、可能な限り現地を実際に訪れることを大事にする。くわしい情報を<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/chiiki/> に掲載する。

テキスト：

なし

参考書：

上記ウェブサイトに参加文献を掲載してある。

授業の計画：

履修者がレポーターとなって自分の調べた内容を教室で報告し、全員で議論する。一年の授業が終わった時点で、日本各地の地域経済がかかえている問題点が展望できるようなまとめを全員で作ることを目的にしている。

履修者へのコメント：

この授業では、現地を実際に見ること、そこで暮らしている人たちの生の意見に接することを大事にします。活動的な学生の履修を望みます。また、自分の見聞を体系的に整理することで、他の学生にも知見を伝える能力を身につけることができます。レポートを書くことを必修にしているのはそのためです。どれだけ有用な体験をしても、それを他人に伝える工夫をしないしていると、体験を自分のものとして消化することができないものです。せっかくの有用な体験を一時のものとして忘れてしまうのではなく、しっかりと自分の血肉にするために、体験で得たことを他人と共有するという考えです。現地での体験を重視しながらも、文献情報も同様に重視するのは同じ考えからです。独りよがりの経験談ではなく、他人の経験や思索も参考にした上で、多くの人々の間で共有できるような知恵を生み出す能力を身につけることを、この授業では重視しています。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

メール、および時間を約束した上で随時。

演 習 教授 嘉 治 佐保子

授業科目の内容：

This course is conducted in English. Students take turns presenting an article in English, chosen from newspapers such as The Financial Times or The Economist. Every student is expected to participate in the discussion, by presenting and defending his or her view.

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

演 習 教授 須 田 伸 一

授業科目の内容：

不完備市場理論に関するテキストを教材として、ミクロ経済学および数理経済学への理解を深めることを目的とする。テキストは学部上級～大学院レベルの定評ある教科書なので、履修者は日吉の「ミクロ経済学初級」の内容を理解し、また三田の「ミクロ経済学」を少なくとも同時履修していることが望ましい。履修者による報告に基づき授業を進めていく。

テキスト：

M. Magill and M. Quinzii, *Theory of Incomplete Markets*, Vol. 1,

The MIT Press, 1996

履修者へのコメント：

テキストは英語で書かれているが、個々の英文の理解に拘泥するのではなく、理論内容を全体として理解するようにつとめてもらいたい。意欲のある学生に参加してほしい。

成績評価方法：

・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

適宜、受け付ける。

演習

専任講師 蔦木能雄

授業科目の内容：

本演習では、「慶應義塾と近・現代日本の社会思想」をテーマにして福澤諭吉の思想と門下生たちの業績を取り上げてみたい。

今年度は「転換期」における日本の社会問題と「社会主義思想」との関連を議論する予定である。「社会思想史」に関心のある学生諸君の参加を期待する。

テキスト：

・福澤諭吉『文明論之概略』他

参考書：

・丸山真男『『文明論之概略』を読む』岩波書店、1986年

・飯田鼎著作集第6巻『福澤諭吉と自由民権運動 自由民権運動と脱亜論』御茶の水書房、2003年

授業の計画：

ガイダンス 1回

『文明論之概略』を一例に挙げると諸文と本論が10章の構成となっている。

前半（春学期）で「卷之二」第5章までを、後半（秋学期）で「卷之三」以降10章を読了する予定。

履修者へのコメント：

学ぶことに積極的な学生諸君を希望する。

毎回報告、毎回報告要旨作成の必要あり。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

出席重視、授業態度重視。

演習

教授 寺出道雄

授業科目の内容：

現代の農業問題について輪読と個人研究の指導を行う。

テキスト：

第一回目の授業で受講者の希望も聞いて決定するので、必ず第一回目の授業に出席すること。

授業の計画：

前半期 上記テキストの講読

後半期 テキストの講読と個人研究の指導

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点（出席状況および授業態度）

演習（春学期）

教授 前多康男

講師 酒井良清

授業科目の内容：

金融経済学およびファイナンスに関する基本的な知識を身に付けることを目的とする。

テキスト：

酒井良清・前多康男著『金融システムの経済学』東洋経済、2004年

参考書：

・池尾和人・大橋和彦・遠藤幸彦・前多康男・渡辺努著『入門 金融論』ダイヤモンド社、2004年

・酒井良清・前多康男著『新しい金融理論』有斐閣、2003年

・岩本康志、斎藤誠、前多康男、渡辺努著『金融機能と規制の経済学』東洋経済、2001年

授業の計画：

前半は、教科書を用いて講義を行い、金融経済学について基本的な知識を身に付ける。具体的なトピックスについては、以下の通りである。1. 金融取引の機能について、2. リレーションシップ取引と市場取引、3. 間接金融、直接金融、市場型間接金融、4. 銀行の規律付け、5. 銀行の業務、6. 金融業に対する規制。後半は、実際の金融データ（金利、為替、株価）を用いて、ファイナンス理論の応用分析を行う。後半の部分の詳細は、最初の授業で知らせる。

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度）

金融資産市場論（野村ホールディングス寄附講座）

月曜日3時限 コーディネーター 教授 吉野直行

木曜日3時限 助教授 藤田康範

授業科目の内容：

寄附講座であり、毎回、民間金融機関のトップ、政策担当者などにより、実務の立場から金融の現状について講義を行う。講義は、春学期・秋学期ともに、それぞれ2/3以上の出席がなければ単位は与えない。毎回の講義では主要な要点を配布用紙にまとめて提出すること。成績は、出席点、学期末試験を合計して評価する。

参考書：

・吉野直行・高月昭年『入門・金融』（有斐閣）

授業の計画：

主な内容としては、

- (1) 日本の金融市場、金融資産市場の変遷と現状
- (2) 不良債権問題と銀行行動の変化
- (3) バブル経済と銀行の内部組織問題
- (4) 日本の金融政策
- (5) 株価の変動と日本経済
- (6) 地価と不動産金融
- (7) 日本の証券市場
- (8) 金融行政
- (9) IMFの役割とその経済政策
- (10) 世界銀行の貧困削減政策
- (11) アジア開発銀行とプロジェクトファイナンス
- (12) BIS規制と銀行行動

などを予定している。

履修者へのコメント：

「月曜3限」と「木曜3限」の講師は異なるため、試験の内容も異なる。例えばある週に月曜3限に出席できなかったために、木曜日に出席するという事は認められないので注意すること。

成績評価方法：

試験の結果と毎回の提出ノートの内容、出席状況を総合して評価する。

企業金融論（みずほ証券・新光証券寄附講座）

コーディネーター 教授 池尾和人

助教授 土居丈朗

授業科目の内容：

ファイナンスは、企業金融論と投資理論および資産市場論の2本柱から構成される。本講義は、もちろん前者を中心とする。それに伴い、本年度の特殊科目「ファイナンス入門」は、後者を中心として講述される予定である。

企業金融論の場合には、理論と実践のバランスがとりわけ重要である。そのために、講義では、実務経験の豊富な外部講師に多くを担当してもらおう。ただし、その場合でも、理論的な整合性等には最大限の配慮を払うように依頼し、同一者に1回限りではなく2~3回の講義を担当してもらおうことで、できるだけ体系的な説明がなされるようにする。

加えて受講者には、講義への参加とともに、積極的に自習を行うことを求めたい。具体的には、企業金融論の最も標準的なテキストである Brealey & Myers, *Principles of Corporate Finance* の邦訳を指定教科書とし、その内容を講義の予習復習として自習することを受講の条件とする。

テキスト：

- ・リチャード・ブリーリー，スチュワート・マイヤーズ（藤井眞理子・国枝繁樹監訳）『コーポレート・ファイナンス（第6版）』上・下，日経BP社，2002年

参考書：

- ・大村敬一・他著『経済学とファイナンス』東洋経済新報社，2004年
- ・池尾和人編著『エコノミックス・入門金融論』ダイヤモンド社，2004年

授業の計画：

春学期は，指定教科書『コーポレート・ファイナンス』の上巻の構成に対応させて，ガイダンス（1回）のあと，

- 第1部 価値（2回）
- 第2部 リスク（2回）
- 第3部 資本支出予算における実際的な問題（2回）
- 第4部 資金調達の決定と市場の効率性（3回）
- 第5部 配当政策と資本構成（3回）

という順序で講義を行う。

講義は，外部講師を招いて実施することを基本とするが，当初は，基礎的なファイナンスの知識を受講生に与えることが不可欠なので，前半6回のうち，4回についてはコーディネータのうち一人（池尾）が講述する。その間に，企業金融・財務の活動について幅広い経験をもった実務家とコーポレート・ガバナンス（企業統治）に関する見識の高い経営者をゲスト講師として招へいし，それぞれ1回ずつ担当してもらう。

後半の第4部は証券会社，第5部は事業会社の財務部門の実務家を招いて，それぞれ3回構成で講義を行ってもらう。

秋学期は，指定教科書『コーポレート・ファイナンス』の下巻の構成に対応させて，春学期の復習（1回）のあと，

- 第6部 オプション（3回）
- 第7部 負債による資金調達（2回）
- 第8部 リスク管理（2回）
- 第9部 財務計画と短期の財務管理（2回）
- 第10部 合併および企業のコントロールとガバナンス（3回）

という順序で講義を行う。

第6部については，デリバティブ全般について，実務家と大学研究者の組み合わせで3回の講義を行う。第10部についても，同様の構成を考える。第7，8，9部については，それぞれ証券会社，銀行，事業会社の適切な実務家を外部講師として招へいし，2回ずつの講義を担当してもらう。

履修者へのコメント：

企業金融論（ファイナンス）の基礎知識は，財務や経理の分野で職を得ようとする者のみにとどまらず，現代の社会に生きるすべての者にとって，いまや必要不可欠なものとなっている。その意味では，企業金融論は，就職を控えた経済学部の4年生は全員履修してもおかしくない科目である。

しかし同時に，企業金融論の内容を十分に習得するためには，かなりの学習量を必要とする。それゆえ，既述のように，受講生にはしっかりとテキストの自習を行い，ファイナンス理論の理解を深めるように十分に努力することが求められる。この点では，真に学習意欲の高い学生でなければ，本講義から十分な成果を得ることは難しいといえる。

成績評価方法：

成績の評価は，春学期・秋学期の各々終了時に試験を実施し，その得点の合計による。出席点は特に考慮しない。試験の出題範囲は，講義中に述べられたもののみならず，指定テキストの内容も含むものとする。

専門外国書講読（英） 教授 飯野靖四

授業科目の内容：

OECDが行う日本経済の審査を英文で読むことを通じて，日本経済の動きを勉強すると同時に，経済用語の英単語を勉強することを主目的とする授業である。したがってゼミで英書を使っていないが英書に親しみたい学生向けの授業である。

テキスト：

- ・OECD *Economic Outlook: Japan*

授業の計画：

テキストの輪読。時には Economist や Financial Times 等の記事も輪読してみたいと考えている。

履修者へのコメント：

授業の関係上，履修者は先着20名に限定したいと考えている。希望者多数の場合には4年生を優先する。

授業時間中の飲食，携帯電話は遠慮してほしい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

できたら授業の直後をお願いしたい。Eメールは顔が見えないので好まない。

専門外国書講読（英） 教授 植田浩史

授業科目の内容：

1980年代以降，世界的に取り上げられることの多かったイタリアの中小企業，産業集積に関する英語文献を検討し，イタリアの実態についての知識と認識を深めていくことを目的とする。

テキスト：

Becattini, G., et al, *From Industrial Districts to Local Development*, Edward Eglar, 2003 を最初に取り上げる。

参考書：

- ・小川秀樹『イタリアの中小企業』ジェトロ，1999年
- ・稲垣京輔『イタリアの起業家ネットワーク』白桃書房，2003年

授業の計画：

春学期で，上記テキストを取り上げ，秋学期では，関連する文献を適宜取り上げて行く。

履修者へのコメント：

日本や世界の中小企業，産業集積，ものづくりなどに関心を持っていることが望ましい。

参加者には必ず報告を割り当てるが，その際には単に内容を要約するだけでなく，内容に関係するさまざまな問題について自分で調べて，報告をしてもらうことになる。

成績評価方法：

- ・出席状況
- ・授業への参加状況

専門外国書講読（英） 教授 倉沢愛子

授業科目の内容：

全員で教科書を読み，和訳するという作業を進めながら，その中で扱われている諸問題（経済発展と村落社会の変容，国家と村落社会の関係 etc）についての概説を講義する。

英語の逐語訳よりも大意把握の能力を養う事に重点を置く。

教科書全部を読み終わることは難しいので，進行の度合いを見ながら，適宜必要箇所をコピーして配布する。

試験は年度末にまとめて行う。英語力を試す問題と，教科書で述べられた諸問題に関する理解度を試す問題と半々で出題する。三分の二以上の出席がない場合は受験資格がない。（就職試験の当日と重なるなどやむをえない事情によって欠席する者は証明を添付して届け出れば考慮する）

テキスト：

- ・Hans Antlov, *Exemplary Center, Administrative Periphery: Rural Leadership and the New Order in Java*, Curson Press, 1995

授業の計画：

- (1) - (5) 教科書の背景になっている社会についての概説
- (6) - (9) 国家と村落（歴史的背景）
- (10) - (13) 村落の経済
- (14) - (16) 村落のリーダーシップ
- (17) - (19) 中央集権国家と村落社会
- (20) - (23) 文化とコミュニティー
- (24) - (26) 地方政治と国政選挙

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

質問・相談：

火曜日・水曜日に研究室に電話 (5427-1335)

専門外国書講読(英)

教授 高梨和紘

授業科目の内容：

本年度は開発途上国に関するテーマを春学期、秋学期それぞれに選び、そのテーマに関連する論文を様々なソースから集めて読んで行きたい。ある程度知識を積み上げたところで、参加者間でテーマを巡って意見の交換ができるようにしたい。テーマは現在検討中であるが、具体的には貧困問題の需要サイドからのアプローチに焦点を合わせた論文を選びたい。

テキスト：

参加者に共通する教材を選ぶ。

授業の計画：

教材を毎回読み進め、周辺知識も吸収してゆく。

成績評価方法：

・平常点(出席状況および授業態度)

専門外国書講読(英)

専任講師 蔦木能雄

授業科目の内容：

今年度は Thomas E. Willey, Back to Kant, 1978 を用いて 1860 年から 1914 年に至る時代と「ドイツ社会主義思想史」を講義してみたいと考えている。

「Back to Kant」の表題から判るように、この時代はカント主義が復活した時期であるが、一方では資本主義の全盛期を迎え、他方では労働者運動と社会主義思想が興隆期を迎える時代でもある。それはまた経済学にとっても「新しい時代」を迎えることにもなった時代である。

本講義では、そうした「新しい時代」を迎えた社会的背景を考察しながら、では何故「カントへ返れ」という動きが生じてきたのか、その思想的・哲学的基礎を考察してみる。

本講義で用いるテキストの構成は以下の如くである。

1. The Political and Intellectual Setting
2. Back to Criticism: Rudolf Hermann Lotze
3. Hegelians Manqués: Kuno Fischer and Eduard Zeller
4. Friedrich Albert Lange: Kantian Democrat
5. Neo Kantian Socialism
6. The Southwestern School
7. Individuality, Society, and Humanity: The Consequences of Neo-Kantianism

社会思想史に関心のある学生諸君の受講を希望する。尚、私の講義では出席を重視し、その都度「討論と報告」を行っていただくことになり、これらを総合して成績評価を行うつもりである。

テキスト：

Thomas. E. Willey, Back to Kant は目下絶版中につき適宜作成して配布する予定。

参考書：

・関嘉彦著『社会主義の歴史』1, 2 力富書房, 1987 年

授業の計画：

春学期でドイツ近代史を巡る問題を含めて 13 回。

秋学期でドイツ社会主義思想の各論を 13 回を予定。

履修者へのコメント：

学ぶことに積極的意欲のある学生諸君の出席を希望する。

成績評価方法：

・平常点(出席状況および授業態度)

授業態度重視, 出席重視。

専門外国書講読(西)

教授 清水透

授業科目の内容：

- ・すでにスペイン語文法を習得した方々を対象とします。
- ・ラテンアメリカ地域研究へ向けて、基礎的学術論文を読み取る能力の向上をはかります。
- ・ただし、入門スペイン語を終え、さらに語学力を高めたい方々も

歓迎します。

・使用テキストの内容は、ラテンアメリカ文化論・社会史が中心となります。

テキスト：

適宜配布します。

参考書：

なし

授業の計画：

夏季休暇以前までは、緻密な読みに徹します。

秋学期からは、内容の把握に重点をおき、スピードアップします。

履修者へのコメント：

昨年は受講生 3 名で、本当に充実した授業になりました。

成績評価方法：

・平常点(出席状況および授業態度)

専門外国書講読(中)

講師 馬

挺

授業科目の内容：

この授業では、中国経済の現状に関するトピックを新聞、雑誌、ウェブから選択して読む。できるだけ経済的背景をもって読み進めるが、中国経済を中国語で読む場合、言葉としての中国語だけでなく、中国の文化、社会の現状、そして中国人のものの考え方などがある程度理解することも不可欠になってくる。

したがって、本授業は上記の内容を目標としつつ、中国語文章の解読・文法・朗読などを練習・解釈することも重視する。同時に、学生の要望を応じて、映像などの資料を用いて、中国事情について説明や討論も行う予定である。

テキスト：

メイン：プリントを配る。

サブ(必用)：三瀨正道・陳祖A 著『2006 年度版 時事中国語の教科書』朝日出版社

参考書：

授業時指示。

授業の計画：

最初の 2 回程度は受講者のレベルを把握しつつ試行授業を行う。

春学期は上記テキスト(三瀨正道・陳祖A 著)を用い、発音の練習をはじめとして、中国語の文法の基本や解読の要領に重点をおく。

後期は、3. 内容に記したように、最近の中国経済に関する文章を読み、訳および見解の発表と討論など、実践的に授業を進めていく。

履修者へのコメント：

指示に従って辞書などを準備すること。

<http://www.aoni.waseda.jp/tingma/index.html>

成績評価方法：

・平常点(出席状況および授業態度)

質問・相談：

アドレスにメールで連絡。メールの「件名」に必ず「慶応 三田」と名前を記入すること。

専門外国書講読(独)

助教授 飯田

恭

授業科目の内容：

本年度は Peter Reichel: Schwarz-Rot-Gold. Kleine Geschichte deutscher Nationalsymbole nach 1945, München 2005 をテキストとして取り上げる。これは、国歌・国旗などドイツの「シンボル」の歴史を項目別に叙述し、ナチス崩壊後のドイツにおいて新しい国民アイデンティティを形成することがいかに困難であったかを示す書物である。

参加者の作成する訳稿について、担当教員が添削指導を行うことで、ドイツ語の学術文献を正確に読みこなす能力を養うことが第一の課題である。そして時間の許す限り、日本にとっても決して無縁ではないこのテキストの内容について意見交換を行いたい。なお、ドイツ語文法を習得済みの学生が対象である。

成績評価方法：

授業中に提出してもらったテキストの訳稿にもとづいて行う。

授業科目の内容:

今年度は、19世紀フランスのユートピア思想についての研究書を読む予定である。授業は訳読のかたちで進め、随時、参考文献を紹介しながら、内容の補足説明をする。

テキスト:

コピーを配布する。

参考書:

授業中に指示する。

履修者へのコメント:

受講者にはテキストの予習はいうまでもなく、内容について積極的に議論に参加することを期待する。

成績評価方法:

- ・平常点(出席状況および授業態度)
- ・最終授業時に試験を行う。

〔研究会〕

授業科目の内容:

本研究会は、経済発展に関わる問題について計量経済学の手法を活用した実証を中心とした研究を行います。経済現象の分析にあたっては、「経済問題」、「経済理論」、「経済統計」をバランスよく組み合わせることが不可欠です。本研究会では、経済発展という幅広く重要な問題について、理論を踏まえながら、実証的に研究することを柱とします。

そのため、本ゼミでは、経済発展に関わる「経済問題」と「経済理論」を中心に学習し、サブゼミでは、コンピュータを用いながら実証分析の実際を中心に学習し、オフィス・アワーでは、4年次での卒業論文の作成を念頭に置きながら、個別プロジェクトの進展をはかっていきます。

また、本研究会では共同研究を重視しています。三田祭での研究発表はもちろん、本ゼミでの学習においてもグループ単位での準備、発表、討論によって、より質の高い研究を行うことができるように心がけています。

テキスト:

第1回授業時に本ゼミにおける輪読文献を指示します。

参考書:

個別テーマの参考文献は授業時に指示します。

授業の計画:

授業の構成は以下のとおりです。(それぞれの授業回数は進度に従って調整します。)

[3年・春学期]

1. プレゼンテーションの練習
2. 基本文献の輪読
3. コンピュータによる分析手法の習得
4. 共同論文の企画立案

[3年・秋学期]

5. 共同論文の執筆、討論
6. 共同論文の三田祭における発表
7. 卒業論文の企画立案

[4年・春学期]

8. 卒業論文の執筆、発表
9. 共同論文の企画立案

[4年・秋学期]

10. 卒業論文の執筆、発表
11. 共同論文の執筆、討論

履修者へのコメント:

「経済発展」は人類の究極の目的であり、先進国でも達成されたとはいえませんが、この経済的進歩に少しでも貢献できることが重要であると思います。そして、研究会活動を通じて、社会で通用

するエコノミストになれるように、互いに切磋琢磨していただきたいと思います。そのため、研究会活動には常にある水準以上の行動が必要であると考えています。

研究会活動については学生が管理している秋山裕研究会 Web サイト (<http://www.clb.econ.mita.keio.ac.jp/akiyama/>) を参照してください。

成績評価方法:

- ・研究会活動への貢献
- ・卒業論文

質問・相談:

履修者の質問に答えるため、週1回のオフィスアワーを設置します。時間および場所については第1回目の授業にて指示します。

授業科目の内容:

ファイナンス理論に関するゼミを行う。特に、金融派生商品の価格付け理論を中心に、その基本的考え方を理解することを目的とする。

3年生は三田祭論文の作成を行い、ファイナンス理論への理解を深めてもらう。また、4年生は信用リスクや天候デリバティブといった様々なファイナンスのトピックの中から卒業論文のテーマを選び、論文作成に専念してもらう。

テキスト:

第1回の授業の時に紹介する。

参考書:

授業中に紹介する。

履修者へのコメント:

研究会参加者は「金融論」、「ファイナンス入門」、「確率・統計」の講義を履修すること。その他、数学関連の講義を多く履修していることが望ましい。高度な数学は必要でないが、数学やコンピューターに苦手意識がないことが条件である。

成績評価方法:

- ・レポートと平常点(出席と授業態度)

質問・相談:

メールまたはオフィスアワー

授業科目の内容:

4年生だけなので卒論の中間報告とその検討が中心となる。

テキスト:

なし

参考書:

なし

授業の計画:

1. 卒論の中間報告と最終報告 各人それぞれ1回ずつ
2. 経済問題について検討

履修者へのコメント:

失敗しても良いからゼミ活動に積極的に参加してほしい。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価(卒業論文)
- ・平常点(出席状況および授業態度)

授業科目の内容:

本研究会では、ヨーロッパを中心とした比較社会経済史の研究を行う。具体的には、この共通テーマに関する基礎文献をメンバー全員で輪読すると同時に、各メンバーが個別の研究テーマを設定し、それについて三田祭論文及び卒業論文を完成させることとなる。

授業科目の内容:

本研究会は、「日本経済の応用ミクロ分析」を基本テーマとして研究している。

1990年代は、日本にとって「失われた10年」と呼ばれているが、

この間、ただ単に低迷が続いていたわけではない。民間企業部門が抱えた過剰債務の政府部門への付け替えがなし崩し的に進むとともに、それによって身軽になった民間企業部門の新たな環境への適応が進められてきた。その結果、特に日本の製造業は、東アジアとの間での分業構造の拡大・深化を図ることによって、復活の手がかりを得るようになった。

こうした変化が、現下の日本経済が回復基調を示すようになった背景にあると考えられる。しかし、調整がすべて終わったわけではない。政府部門には膨大な債務が積み上がっており、日本の財政は潜在的には破綻状態にあるといっても過言ではない。民間企業部門に比べて政府部門の調整は明らかに遅れており、こうした跛行性が放置されるならば、再び日本経済に大きな混乱がもたらされるリスクが高まっている。

換言すると、政府部門の調整を進め、社会保障制度を含む広い意味での財政システムを持続可能なものとして再構築することが、火急の課題となっている。けれども、残念ながら、そうした社会保障・財政システムの再構築へ向けた取り組みは、実際には停滞していると懸念される。

しかしながら、持続可能な社会保障・財政システムの確立が遅れば、そのことによる不利益をより多く被るのは、いまの若い世代であろう。こうした状況において、日本経済についてトータルな考察を行うことは、単に知的な興味を引くことにとどまらず、若い世代の将来にかかわるきわめて実践的な意義をもつことでもあるといえる。

授業の計画：

例年通り、4～6月は、応用ミクロ分析の基礎的な考え方を身につけるためのウォーミング・アップ期とし、そのために有益と思われる文献を輪読する。その後、それを基礎にして3年生には、三田祭論文の作成に向けて、日本経済の現状にかかわる具体的なテーマに取り組んでもらうことになる。また、秋学期には、4年生の全員に卒業論の中間報告をしてもらう。

研究会(4年)

教授 池田幸弘

授業科目の内容：

新自由主義の古典を輪読する。

フリードマン、ハイエク等を想起されたい。なお、今年度は4年生のみで運営される。

テキスト：

未定

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

4年生は卒業論文の執筆が中心となる。卒業論文の提出は、単位取得のための要件である。

履修者へのコメント：

研究会に参加する学生諸君は、願いがかなわなかった他の人たちを排除して参加しているのだから、それ相応の自覚を持ってほしい。また、積極的に議論に参加することが何よりも求められることは言うまでもない。

成績評価方法：

- ・卒業論文
- ・平常点

質問・相談：

研究会の時間以外は、事前に面談の予約をとっていただくことが望ましい。

研究会

助教授 石橋孝次

授業科目の内容：

ミクロ経済学の応用理論である産業組織および企業理論の研究を行う。ゲーム理論と契約理論を分析用具とし、企業組織・企業行動や経営戦略について学習することを目的とする。学生によるプレゼンテーションに基づいて授業を行う。使用する教材は追って指示する。

成績評価方法：

- ・卒業論文
- ・平常点

研究会

助教授 伊藤幹夫

授業科目の内容：

この研究会は、マクロ経済学の近年の展開を念頭において、理論と実証の学習を行う。今年度は、昨年度に引きつづいて金融市場をマクロ経済との関連であつかう。前期において、金融市場に関するミクロ経済学的な理論と、金融市場ならびにマクロ経済の実証分析に必要な計量経済学の基礎を学ぶ。後期においては、計量モデルを用いた実証分析を行う。さらに入会者は、3学年のおわりに共同でゼミの活動を共同論文の形でまとめ、4学年において前年に自らが関わった研究を展開させた形で卒業論文を作成する。

テキスト：

・J.Y. Campbell・A.W. Lo, C. MacKinlay 『ファイナンスのための計量分析』共立出版、2003年

参考書：

参考文献の指定、講義資料などは順次

<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/ito/lecture> において公開する。

授業の計画：

1. ゼミ活動に必要なIT関連のスキル習得(3週)
2. 最近の金融理論の展開に関する学習(8週)
3. 後期に必要な計量分析の基礎テクニックの習得(7週)
4. (上記二つと平行して)基礎的な数学(確率論・解析など)の学習
5. 日本の金融資産市場に関する実証分析(9週)
6. マクロ的金融政策の有効性の実証分析(6週)

履修者へのコメント：

ややレベルの高いことを丁寧に指導するので、やる気のある学生諸君は課題をこなすことができるならば達成感が得られる。

成績評価方法：

平常点

研究会(3年)

教授 植田浩史

授業科目の内容：

日本における産業の発展について戦前を含めて歴史的に検討する研究を行う。実際の産業、企業、技術に対して、歴史的視点、現状分析的視点、国際的視点から考察できる力を養っていくことを目的としたい。その際、次の視点から考察していく。

第1に、同じ産業の発展であっても、国や地域によってその発展パターンは異なることが多い。産業発展のパターンが、国や地域によって異なることを意識し、その理由と意味を考えながら産業の発展について考察していく。

第2に、産業の発展について多面的な視角から検討を加えていくことである。産業を担う企業、企業活動を支えるさまざまな制度や仕組み、国際競争の枠組み、市場など、さまざまな問題がかかわっていることを重視し、産業発展を見ていく。

第3に、書物の上だけでなく、現場的な感覚を持って研究を進めていく。現場的な感覚は、現状分析だけでなく、歴史分析においても必要である。できれば、夏などに産業の現場を歩きながら、実際の問題を検討していきたい。

テキスト：

参加者と相談の上、決定する。

参考書：

後日指定する。

授業の計画：

後日指定する。

履修者へのコメント：

現実の産業や企業を、歴史的、現状分析的、現場的な視点をバランスよく使いながら、見ていくことを勉強していきたいと思っています。

成績評価方法：

平常点(出席状況および授業態度による評価)

研究会(3年)

教授 太田聡一

授業科目の内容：

応用経済学を考察することで、現実の経済問題に経済学がどのよう

な解答を与えることが可能であるか考察してゆく。最初は George A. Akerlof の諸論文や最近の行動経済学の論文などを輪読していきたい。参考書：

・大竹文雄「応用経済学への誘い」、日本評論社、2005年。

履修者へのコメント：

この研究会は少人数を旨として運営してゆく。また、英語文献も含めて多くの文献を読みたいので、意欲のある学生に参加してほしい。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

適宜受け付ける。

研究会

教授 大沼 あゆみ

授業科目の内容：

この研究会では、環境経済学のディシプリンを身に付けながら、現実の環境問題に適用することにより、その有効性と可能性を考察していきます。代表的なテキストの一冊を輪読・議論していきますが、並行して、環境経済学のカバーする諸領域から特に各自関心のある問題・テーマを選択し、理論・実証の両側からの学習を進展させてもらいます。

また、毎回、一定の時間、内外の最新の環境問題のニュースを簡潔に報告してもらい、それぞれの問題について議論する予定です。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

研究会

助教授 大平 哲

授業科目の内容：

国内外の地域経済に関する諸問題を考察する。本ゼミでは地域経済の分析をする上で必要な経済学の理論を学習する。本ゼミのほか、いくつかのパートに分かれて個別テーマの研究をすすめる。くわしい情報を<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tats/kougi/seminar/>に掲載する。履修希望者はこのページをよく読むこと。

研究会 経済政策

教授 大村 達 弥

授業科目の内容：

戦後わが国は日本の経済システムの下で右肩上りの発展を経験してきたが、20世紀末において経済のグローバル化と環境変化が進む中、金融・財政、産業、労働の各分野で政策的対応に問題が生じた。構造改革はこうした状況を打開するために大規模かつ包括的に進められているが、その現状と問題点は何か。その目標や手段の妥当性を検証するとともに、格差の拡大など副次的に現れてきた現象も無視できない。この研究会では、これら政策のあり方について、理論、実態両面から関連の文献に当たり、研究発表形式で授業を進めてゆく。また、サブゼミ単位で論文を作成し、研究会の内外で議論を進める。研究に必要な基本知識は、経済政策学・ミクロ・マクロ経済学であり、必要に応じて財政・金融、企業・労働、公共選択論等の各分野に探求の手を伸ばす。ゼミの実際の進め方としては、このような大きな目で経済を捉えつつも、研究範囲をより絞りながら、学期始めに提示される特定のテーマに焦点を合わせ、関連する文献を選んで、調査、研究、論文作成、発表、討論を行う。

テキスト：

授業の最初に指示する。

授業の計画：

春学期 テキストに沿ってパートごとの発表を中心に進める

夏合宿 出題されたテーマでパートごとに論文を作成し発表する。

秋学期 3年生：論文発表会準備 4年生：卒論作成準備

成績評価方法：

・平常点

研究会

教授 尾崎 裕之

授業科目の内容：

「ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論の応用」を研究テーマ

とし、最終的には卒業論文の完成を目標とする。卒業論文のテーマとしては、それが、ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論のいずれか（あるいは、その全て）の応用であれば何でもかまわない（公共経済学、国際経済学、環境経済学、労働経済学、都市経済学、医療経済学、産業組織論、などなど）。研究テーマそのものよりも、経済学的直感を養い、理論を正しく応用できるようになることに主眼を置く。ミクロ、マクロ、ゲーム自体については、ゼミで直接取り上げない。日吉や三田での講義、あるいはサブゼミによる自主的な勉強を望む。

研究会

教授 長名 寛明

授業科目の内容：

ゲーム理論を主要な分析用具として用いる最近のミクロ経済学を学びながら、その応用としての契約の理論をめくり討論する。

テキスト：

・D.M. Kreps, *A Course in Microeconomic Theory*, Princeton University Press

・伊藤秀史『契約の経済理論』有斐閣

授業の計画：

上記の2つの教科書を交互に取り上げて、モデルの構成、結果の叙述と証明、経済的解釈を説明することを学生が行い、討論する。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

・卒業論文

研究会(3年)

教授 嘉治 佐保子

授業科目の内容：

本研究の目的は、(1) 国際マクロ経済学を中心とした経済理論の理解を深めること、(2) 自分で考える力を身につけること、(3) 英語による情報収集と意思疎通の能力を高めることである。これらの目的の達成に適した文献を輪読する。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度による評価）

・卒業論文

研究会

教授 金子 勝

授業科目の内容：

制度派経済学の知的革新を考えながら、現状の経済問題と制度改革について取り上げ学ぶ。世界経済、財政金融、社会保障と社会福祉、地域経済、産業と企業のあり方...等々、取り上げるべきテーマが広範囲に及ぶので、学生諸君と協議しつつテーマを絞りたい。

論理的に考え、文章を書き、人と議論するのが好きな学生諸君の参加を望む。

テキスト：

ゼミ生と相談して決定する。

授業の計画：

前期はテキスト輪読から入り、テーマを絞って自分たちで問題を設定し、自分たちで調べて報告討論する。夏合宿より三田祭論文に合わせて、討議と報告書を作る。4年生は定期的に卒論報告会を行い、年末に発表会を行う。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

論文と卒論を評価として重視する。

研究会 産業組織論の理論と実証

助教授 河井 啓希

授業科目の内容：

産業組織論の理論とその実証分析についての研究を行う。伝統的な独占や寡占の議論にとどまらず、重要性が高まっている製品品質と差別化、情報の非対称性、ネットワーク外部性といった問題についてもとりあげる。

4時限目は、産業組織論のやさしい教科書をテキストとして輪読

を行い、理論的な側面を Tirole J, The Theory of Industrial Organization, MIT Press や Shy O, Industrial Organization-Theory and Application-, MIT Press で補う。

5 時限目は、別途配布する Reading List でとりあげられる重要な貢献をした専門論文 (Rand Journal of Economics や Journal of Political Economy などから引用する) を読み、基礎的な理論が実証分析ではどのように応用されているかについて学ぶ。

テキスト:

・Carlton DW & Perloff JM, *Modern Industrial Organization* 4th ed, Addison-Wesley, 2004

・ベサンコ・ドラノブ・シャンリー『戦略の経済学』ダイヤモンド社
参考書:

・Cabral LMB, *Introduction to Industrial Organization*, MIT press, 2000

・小田切宏之『新しい産業組織論』有斐閣, 2001 年

・丸山雅祥・成生達彦『現代のミクロ経済学 情報とゲームの応用 ミクロ』創文社

授業の計画:

1. ミクロ経済学の基礎 (需要と供給, 企業, ゲームと戦略)
2. 完全競争と独占
3. 寡占 (寡占, カルテル, 市場支配力)
4. 価格戦略と非価格戦略 (価格差別, 垂直統合, 製品差別化)
5. 情報の経済学 (情報の経済学, 広告)
6. 参入と退出 (参入退出, 戦略的行動)
7. 技術戦略 (研究開発, ネットワークと標準化)

履修者へのコメント:

授業ではミクロ経済学と統計学の知識が必要となる。

成績評価方法:

成績評価は普段に行なわれる報告内容, 3 年時の三田祭報告論文, 4 年時の卒業論文にもとづいて行う。

質問・相談:

クラスページを通じて, 質問や相談に応じる。

研究会

教授 北村 洋基

授業科目の内容:

本研究会は、現代日本経済論および工業経済論が主たる対象範囲であるが、特に日本の産業経済の実態の批判的分析と理論的検討に中心的なテーマを置く。その際、今日の日本経済ならびに産業構造を、一方では世界経済との関わりにおいて、他方では日本経済の歴史的展開における現段階の到達点との関わりにおいて、位置づけを明らかにすることに留意したい。

テキスト:

テキスト等は第一回研究会の際に指定する。

研究会 (4 年)

教授 木村 福成

授業科目の内容:

当研究会では、広く国際経済問題・開発経済問題を取り上げ、経済理論と実証研究の両面から学んでいく。

特に国際経済学や開発経済学の分野では、国際競争力、貿易・経常収支、幼稚産業保護、経済開発における政府の役割、途上国の経済主体の経済合理的行動などをめぐり、理論とアドホックな実証・政策論議との間の不整合が大きい。また、近年の企業活動の国際化に伴い、国際的な通商政策ルールと既存の国内経済政策体系との関係を抜本的に見直す必要性も生じてきている。現実経済の分析に役立つ理論はどれか、あるいは逆に理論に立脚した実証・政策分析はいかに行えばよいのかについて、議論を深めていきたい。

本ゼミでは、春学期は国際経済学 (特に国際貿易論) と開発経済学の基礎固め、秋学期はより進んだ文献講読と卒業論文の中間発表を行う。本ゼミで使用する教科書・専門論文のほとんどは、英語で書かれたものを使用する。卒業論文の多くは、何らかの統計データの分析を含む実証研究となっている。

知力・気力・体力に加え、企画力のある諸君の参加を期待する。

テキスト:

後日指定する。

参考書:

後日指定する。

授業の計画:

後日指定する。

履修者へのコメント:

後日伝える。

成績評価方法:

・平常点 (出席状況および授業態度)

研究会

助教授 神代 光朗

授業科目の内容:

当研究会の研究領域は、経済学 (思想) 史および中・東欧の歴史と経済体制を研究の対象とするものである。担当者の当面の主な専門研究分野は、19 ~ 20 世紀のポーランドの社会・経済思想、とりわけ、ポーランドの今日の社会・経済的諸問題の原型が形成されてくる 19 ~ 20 世紀転換期の市場問題、農業問題、民族問題等と、ポーランドの社会主義やナショナリズム、ポジティヴィズム等の社会・経済思想史的関連が中心であるが、研究会としては、戦後の中・東欧やポーランドの現代史および今日の体制転換や EU 加盟にかかわるテーマについても、広い意味で経済学史的な関心と歴史的方法による研究を方法的に取り入れることを志す者の入会を認めている。また、より広く、経済学史・経済思想史に関するテーマの研究を志す者の入会をも認めているが、入会については、担当者の指導範囲と入会者の希望を考慮して個別に適合性を検討する。研究会の運営や選考方法等については、毎年、ゼミナール委員会の刊行する研究会案内を参照されたい。

また、特に最近、経済学史あるいは一般に歴史的テーマへの関心がうすれている傾向が、会員にみられるので、この点を改善することを留意した選考を行いたい。

テキスト:

毎年、輪読用のテキストと、夏季合宿用のテキストを別々に、2 ~ 3 の文献を討論・輪読のために準備するが、4 月の開講時に通常のテキストは決める予定である。英文のテキストを用いることもある。

参考書:

ゼミナール委員会の刊行する研究会案内の 2006 年版に、参考文献を掲載してあるので、それを参照してください。

授業の計画:

輪読と卒業論文の研究報告の二本立てで運営している。卒業論文は 2 年間で 3 ~ 4 回の発表が、提出の前提条件であり、義務である。3 年生、4 年生ともに演習を行うのが原則である。

履修者へのコメント:

研究会の時間は、とにかく、学問に集中してほしい。また、無断欠席や、報告担当責任をのがれるようなことは認められない。

成績評価方法:

成績評価は 2 年間履修の結果、提出される卒業論文の内容の評価と、日常の報告 (中間報告・輪読報告)、討論への参加状況、出席状況等を総合的にみて判定する。

質問・相談:

研究会の中での質疑において、質問の相談に応じる。

研究会

教授 倉沢 愛子

授業科目の内容:

開発とその結果生じた社会変容、さらに民主化の波に揺れる東南アジア社会を総合的に研究する。開発論や、政策論ではなく、そこにすむ人々の生活に焦点をあて、生産活動、商業活動、浪費形態、居住環境、宗教、教育、保健衛生、移動などの問題を考える。

3 年生の夏にインドネシアへ一週間ないし 10 日程度の研修旅行を行い、村にホームステイする。研修旅行への参加は義務ではないが、この研究会の中心的な活動であるので、参加が望ましい。

特別な理由が無い限り、卒論のテーマは、研修旅行で見聞したインドネシア社会に題材をとって書く。

研修旅行前の前期の授業は基本的に研修旅行に際して必要な基本的知識の習得とインドネシア理解に力点を置く。その間に自分の関心テーマを見つけ、研修の際にはその関心に沿ってグループ分けを行う。

ゼミの時間外に、基本的なインドネシア語習得の機会を設定する。

この年度の研修テーマを何にするかは、前期の研究会の授業の中で全員でディスカッションしながら決定する。単なる旅行ではなくそのテーマに沿って研修計画を立案する。

なお、研究会に参加を希望する学生は、平行して火曜日二限の「アジア社会史」の受講を義務付ける。

4年生で書く卒論のテーマは、特別な理由が無い限り、研修旅行で見聞したインドネシア社会の諸問題に題材をとって書く。

テキスト：

・倉沢愛子『じゃかるた路地裏フィールドノート』中央公論新社、2001年

参考書：

・『もっと知りたいインドネシア』

授業の計画：

(1) - (5) 東南アジア社会に関する基本的な状況についての講義(倉沢)と基本図書の輪読

(6) - (10) 各自の関心テーマを定め個別発表

(11) - (13) 研修旅行準備(テーマ設定、訪問先選定)とディスカッション

後期

(14) - (20) 研修旅行報告会(各自の発見を報告しそれに関してディスカッション)

(20) - (26) 東南アジア社会に関するより専門的な講義(倉沢)

履修者へのコメント：

これまでの成績は問いませんが、今後の学習に意欲のある人を望みます。東南アジア社会に強い関心を持っている人を歓迎します。

成績評価方法：

・平常点(出席状況および授業態度)

質問・相談：

火曜日・木曜日に研究室に電話 (5427-1335)

研究会

助教授 グレーヴァ 香子

授業科目の内容：

本研究会では、ミクロ経済学の理論、応用およびゲーム理論について学び、理解するのみならず、他の人に説明したり、自分でも簡単な研究を行って、卒業論文としてまとめたりできるようにする。

テキスト：

入ゼミ決定時に指示する。

参考書：

・中山幹夫著『はじめてのゲーム理論』有斐閣、1997年

・岡田章著『ゲーム理論』有斐閣、1997年

・ギボンズ著『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995年

授業の計画：

3年前期：理論的文献の読解、レジュメの作り方、報告の仕方を学ぶ。

3年後期：文献の輪読を進め、卒業論文のテーマを考える。

学年末に担当者と面談し、テーマを決め、研究計画を立てる。

成績評価方法：

平常点(出席状況および授業態度)

研究会

助教授 駒形 哲哉

授業科目の内容：

「経済体制論・地域研究・中国経済論」

当研究会では、現代中国経済を題材に、現実(含歴史)を把握し、そこから論理を抽出し、それを的確に表現することを目指します。

私たちの生活は、何らかの形で中国と密接なかかわりをもたざるをえなくなっています。その中国はまさに今、体制移行のヤマ場を迎えており、その成否は日本のみならずアジア太平洋全体の経済発展と安全保障にも関わってきます。それゆえ、この巨大な対象をどのように捉えるべきか、単なる好き嫌いではなく、自分なりに系統的に把握しておくことが望まれます。

中国は長い歴史と地域的多様性をもち、その分析にあたっては、既存の理論的枠組をアプライすることの有用性を重視すると同時に、地域としての固有性についても十分留意する必要があります。経済体制とは「諸制度の体系」と定義できますが、一つの制度を分析す

るには、それと複雑に絡み合っている他の制度の理解も欠かせません。そこでこの研究会では、まず対象を徹底的に学び、既存の研究の枠組を検証したうえで、経済発展の普遍性と固有性を考えます。

研究会

教授 小室 正紀

授業科目の内容：

日本の経済思想史を中心として、それと関連する思想史・経済史・政治史・社会史・文化史についての研究を行う。指導の目標は、各自の論文作成の過程を通じて、社会科学における歴史的な考え方と、その楽しさを知ってもらうことである。

具体的には文献講読と論文作成指導を学習の柱とする。文献講読では、春学期には概説的な比較的易しい文献を出来るだけ多く速読し、また秋学期には専門研究書を取り上げ、これ等を題材に質疑応答と討議をする。また適宜に、指定した基本文献の読書報告を求める。論文作成については、研究の技術的な方法については講義をし、また個々の研究内容については個別面接も繰り返しながら指導を行う。履修者はできるだけ早い時期に課題を決定し、文献探索・研究史の整理を行い、関連史料を捜し、秋からはそれぞれの研究の中間発表を行う。

なお、私自身の現在の研究領域は江戸時代から明治前期までである。この時代の研究がもっとも指導しやすいが、経済思想などを中心とした歴史的考察であるかぎり、履修者の研究課題は必ずしもこの時代でなくてもよい。

テキスト：

随時指定する。

参考書：

随時指定する。

授業の計画：

開講時に年間スケジュールを配布する。

履修者へのコメント：

正当な理由がなく欠席をしたり、発表やレポートの提出を怠った場合には、その後の履修を認めない。

成績評価方法：

・レポート

・平常点(出席状況および授業態度)

・卒業論文

質問・相談：

定期的に個人面接の時間を設定するが、それ以外でも随時、質問・相談に応じる。

研究会(4年)

兼任教授 坂本 達哉

授業科目の内容：

本研究会は、欧米を中心とする社会思想・経済思想の歴史と理論の研究に従事している。その目標は卒業論文の作成であり、提出までに計3回の中間報告が求められる。文献探索や論文執筆の方法についても必要に応じて指導する。また、3・4年生が共通に議論を交える場として輪読があり、古典的な必読文献と現代の定評ある研究文献とを毎年設定する共通テーマのもとに精読する。

研究会

教授 櫻川 昌哉

授業科目の内容：

研究会では、バブル崩壊以降の「失われた10年」の日本経済の分析を行います。具体的には次の3点に焦点を充てた研究を行います。

1. この10年間、GDPの経済成長率はゼロないし若干のプラスなものになぜ地価・株価などの資産価格は一貫して下落しているのか? 「均斉成長(balanced growth)」の考え方に拠れば、GDPと資産価格は同率で成長するはずですが、わが国の過去の経験はこの理論的仮説を大きく裏切るものです。この問題をどのようにとらえたらよいのか、考えていきたいと思えます。

2. 国別データを使った各国比較によって、90年代の低成長の原因を探りたいと思えます。経済成長の源泉を国別データを使ってさぐる「成長回帰分析」という研究領域が90年代に大きく発展し、経済成長の要因が明らかになりつつあります。この手法を使って90年

代の日本経済の低迷の原因を探っていききたいと思います。はたして金融システムの動揺がわが国の経済の足をひっぱっているのか、あるいは少子高齢化、IT化の立ち遅れなど別の要因が低成長の原因なのかを探っていききたいと思います。

3. わが国の景気停滞の原因として金融問題、特に不良債権問題が挙げられています。不良債権問題とはなにかを考えることを通じて、わが国の金融システムのどこが問題なのかを議論していきたいと思えます。また、金融システムの現状の理解にとどまらず、どのような仕組みを構築していったらよいのかを探っていききたいと思います。

テキスト：

・岩田規久男・宮川努編『失われた10年の真因は何か?』東洋経済新報社

履修者へのコメント：

ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎をマスターしていることが望ましい。計量経済学の授業はぜひ履修してほしい。理論だけでなく、現実の経済に対して強い好奇心をもっている学生を歓迎します。また、共有する知識を広げようとする観点から、商学部の跡田ゼミと合同で研究会を行います。

成績評価方法：

平常点

研究会 教授 塩澤修平

授業科目の内容：

現実の経済現象を分析する手段としての理論経済学、および金融問題の理論的分析に興味を有する学生を対象とした演習である。

取り上げる文献として、理論的分析手法の基礎を身につけるもの、金融の実態を扱ったもの、日本経済あるいは国際経済の概要を把握するためのものなどを予定しているが、詳しくは最初の授業時間に指示する。

また各履修者は理論パート・金融パート・応用パートの少なくともひとつに所属し与えられたテーマのもとでの共同研究、ならびに個別の研究プログラムを進めていくことが求められ、適宜個別指導を行う。

研究会 教授 島田晴雄

授業科目の内容：

私の研究会では日本の経済や経営の直面している問題をひろく国際経済社会の脈絡の中でとらえ、その課題を実証的に分析し、政策的合意を検討する事に主眼をおいて研究活動を行う。

多様で複雑に関連しあった問題群の分析を効果的に進めるため以下のような方式で研究を進める。まず分析の視点に即して、以下の5つのパートを組織し、各々専門研究を深めるとともにその過程で研究成果を逐次報告し、相互に切磋琢磨をはかり、かつ相互の協力と情報の共有を進めることで研究活動全体の集積・相乗効果を生かす。

1. 労働経済
2. マクロ経済の理論と政策
3. 国際経営
4. 国際政治経済システム
5. 環境政策

各パートは一定の理論枠組にもとづいて恒常的に観察事実を収集・整理し、そして体系的に集積するとともに、毎年、各々特定のプロジェクトを編成して研究を行う。

また、本年度より2ないし3年間の期間、日本経済の構造改革と人々の生活の質の向上をめざし、新しい生活産業創出のための活動を、日本の主要企業グループと多くの地域企業が連鎖するコンソーシアムをつうじて展開する。興味ある学生諸君にはそうした現実の新規事業創出の努力に参加して多くを学ぶ機会も提供される。

一方、夏には、韓国、台湾など隣国の学生諸君との学術討論会をソウルで行う予定であり、そのために、eメールをつうじての相互に準備と学習を行う。

さらに、毎年特定の共通な政策問題を選定して、ディベートングコンテストを行う。

以上のようなさまざまな研究活動をつうじて、問題の発見、仮説の設定から分析、発表、そして討論を含む一連の実証研究の力を磨

く事に努める。

テキスト：

適宜選定し、多数の文献を読む。

参考書：

適宜選定し、多数の文献を読む。

研究会 教授 清水透

授業科目の内容：

研究会ではまず、ラテンアメリカ研究を素材として、わが国における社会史研究の現状と問題点を紹介する。

論文の読解と報告をつうじて、論文の読み取り方、レジュメ作成の技法等についても学ぶ。

夏以降は、卒業論文の作成へ向けて、各自が個別研究を行う。したがって、研究会は個別報告と集団討論が中心となる。

テキスト：

適宜指示する。

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

- 1) 歴史学における社会史（講義）
- 2) フィールドワークとオーラルヒストリーの可能性（講義）
- 3) 卒論テーマについての報告（5月12日、19日）
- 4) 文献輪読
- 5) 卒論テーマについてのレポート（参考文献一覧を含む）（4000字）提出（3,4年 6月30日）
- 6) 提出レポートの発表・討論（3,4年）
- 7) 夏期合宿
- 8) 卒論仮提出（4年生の11月1日）
- 9) 卒論締切（4年生の12月31日）
- 10) 卒論テーマについてのレポート（内容は5)と同じ。締切3年の3月31日）

履修者へのコメント：

定期的な報告、レポート、合宿参加等、研究会の義務を果たせない者は、自動的に参加資格を失う点、十分認識しておくこと。

各自のテーマは、社会史の枠内である限り、時代・地域を問わない。これまでのゼミ生の卒論テーマについては、研究会ホームページを参照のこと。

新4年生からの入ゼミも可。

成績評価方法：

・レポートおよび平常点

研究会 教授 清水雅彦

授業科目の内容：

3年生は、前期（春学期）において、マクロ経済分析の視点から日本経済の特質を分析するために、マクロ経済学の基礎理論を再度学習する。併せて、実証理論分析のための分析手法に関する基礎的な文献の輪読を行う。後期（秋学期）には、1980年代以降の日本経済における問題点を取り上げ、経済理論と照らし合わせながら、討論する。その際、3年生諸君は幾つかのグループに分かれ、グループ毎に問題点に関する分析レポートを作成し、報告レポートに基づいて全員で討論する。

4年生は、現実の日本経済に関わる制度・政策について、経済理論で想定される資源配分の在り方を歪めていると考えられる問題点を取り上げ、各自の卒業論文における分析テーマとする。分析テーマが決まった段階で、分析に必要な基礎知識に関わる文献リストを作成し、各自で文献を精読する。前期（春学期）に、各自が選んだ分析テーマについて授業時間中に発表し、全員で討議する。夏合宿までには、4年生全員が分析テーマを決定し、後期（秋学期）に分析結果に関する中間発表を行う。

テキスト：

3年生に関しては、共通のテキストを前期の最初の授業時間に指定する。4年生に関しては、特に共通のテキストを指定せず、各自の文献リストをテキストとする。

参考書：

適宜、授業時間中に参照すべき参考書あるいは参考文献を指示するが、指示された参考書あるいは参考文献は必ず読むことが求められる。

授業の計画：

前記（授業科目の内容）の通りであるが、本研究会では必要に応じて討論のテーマに即した講義を行う。

履修者へのコメント：

本研究会（ゼミナール）では、履修者の自発的な学習と討論における積極的な発言が求められる。経済分析に関心がなく学習意欲に欠ける者は、最初から参加すべきではない。

成績評価方法：

本研究会では、3年生時の成績は平常点（出席状況および授業態度）により評価し、4年生時の成績は卒業論文における分析結果の内容によって評価する。

質問・相談：

研究会（授業）時間の終了後に、適宜受け付ける。

研究会

助教授 白井義昌

授業科目の内容：

卒業論文作成のための research project のため、報告文の書き方、発表方法、論文の読み方といったトレーニングを行う。材料としてマクロ経済学、国際経済学の学術論文を用いる。

授業の計画：

- ・基本論文を1, 2本読む
- ・研究計画を書く
- ・研究計画の発表を行う

以上のプロセスを2, 3回くりかえし研究計画の具体化および精緻化をはかる。その過程で参加者それぞれに必要な具体的な作業や勉強も明らかになるはずである。

研究会

教授 杉浦章介

授業科目の内容：

杉浦担当の基本科目「経済地理」の履修を前提に、経済地理学の基礎と応用を学習する。ゼミにおいては現代経済の現実を空間的（地理的）視点から分析する能力を涵養するために、下記の教材を用いながら、それぞれのテーマを見出し、それについて分析調査を行い、さらにその結果について報告し、討議を行うこととしたい。

テキスト：

未定

参考書：

適宜紹介する。

授業の計画：

前期は、経済地理学の基本的文献を輪読するとともに、空間的データ処理の演習ならびにフィールドワークを行う。

後期は、三田祭発表にむけた共同研究（3年）、卒論研究（4年）を行う。

履修者へのコメント：

学生時代で最も勉強した、と後から言えるようにしてほしい。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

ゼミの時間中、適宜行う。

研究会（3年）

教授 杉山伸也

授業科目の内容：

この研究会のおもな焦点は、第2次世界大戦までの、日本とアジアの経済史・経営史であるが、日本・東南アジア関係史や日米経済関係史などの対外関係史、日本とヨーロッパ諸国あるいはアジア諸国との比較社会・経済史などの研究テーマも対象とする。

研究会の目的は、大学生活の集大成として、卒論を完成させることにある。卒論では、原則として自分で課題を設定し、資料や研究文献をさがし、自分の設定したテーマを解明していくことになる。その過程で、適宜レポートの提出と口頭発表をしてもらうが、課題を

十分にクリアできない場合は、退会してもらうこともある。3年生の段階では、経済史の基礎的な研究文献の講読と発表が中心となる。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

研究会（4年）

教授 須田伸一

授業科目の内容：

本研究会では基本的なテキストを用い、ミクロ、マクロ両方の理論を習得することを目標とする。なお今年度は4年生のみなので、卒業論文の指導が中心となる。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

研究会

教授 瀬古美喜

授業科目の内容：

本研究会では、理論経済学、計量経済学、都市経済学、公共経済学について、ミクロ経済学とマクロ経済学に基づいた研究を行う。春学期には、理論経済学の中でも主にミクロ経済学やマクロ経済学の基礎を洋書を用いて固め、併せて応用経済学としての都市経済学の教科書を輪読する予定である。秋学期には、より専門的な本や論文の輪読を行う。3年生は、1年間で卒業論文のテーマを選ぶこととなる。

テキスト：

- ・瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社、2001年

参考書：

主な文献として、以下のようなものを挙げておく。

- ・ブランチャール『マクロ経済学上・下』東洋経済新報社
- ・Robert S. Pindyck and Daniel L. Rubinfeld, *Microeconomics*, Prentice Hall
- ・伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス』有斐閣
- ・Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996
- ・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社、1998年
- ・藤田昌久、ポール・クルーグマン他（小出訳）『空間経済学』東洋経済新報社、2000年
- ・山田浩之編『交通混雑の経済分析』劉草書房、2001年
- ・Robert W. Wassmer ed., *Readings in Urban Economics Issues and Public Policy*, Blackwell

授業の計画：

テキストの輪読、実際のデータを用いた実証分析、三田祭論文のグループでの作成、卒論執筆を、総合的に行います。

履修者へのコメント：

経済理論、現実の問題など、幅広い興味を持って、総合的な観点で学ぶことを、希望します。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

研究会

教授 高草木光一

授業科目の内容：

本研究会は、社会思想史、とりわけ近代ヨーロッパ社会思想史を研究対象とする。私自身は19世紀フランス社会思想史を専攻しているが、卒業論文のテーマは、各人の自発的問題意識に従って広義の「社会思想史」から選択しうるものとする。研究会の活動は、基礎的な文献の輪読と卒業論文作成のための個人報告を柱とする。サブ・ゼミの運営等については開講時に参加者と相談の上決めたい。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

研究会

教授 高梨和紘

授業科目の内容：

当研究会は、貿易、資本移動、技術移転など、国境を越えて生ず

る経済現象を研究の対象にする。そのうち、先進工業諸国と発展途上諸国の間で生じている問題、たとえば発展途上国産の軽工業製品に対する先進工業諸国の市場開放問題、直接投資とりわけ巨大多国籍企業のもたらす問題、技術の選択や移転問題、債務累積問題、さらには援助の規模と質の検討などを取り上げる。しかしこれら国際面の問題は、発展途上諸国の経済構造やその変容のメカニズムの理解なしには解明されえない。そこで研究会では、発展途上諸国の国内経済分析と対外経済を並行して進めていく。他方、先進工業諸国が果たすべき役割を、上述の発展途上諸国分析を踏まえて検討したい。

ところで、これまで多くの発展途上諸国でそれぞれに工業化の実験を重ねてきた。そして70年代以降、この分野で多くの開発理論が提示されて来たが、低開発性あるいは南北格差は依然として未解決の部分が多く残されている。その意味でこの時期にわれわれが過去の業績や現実に関する数多くの情報を整理、検討し、新たな開発理論を模索する意義は十分に認められる。研究会はその為の作業場としたい。夏季にベトナム、タイ、インドネシアの現地調査を続けている。成果は『国際開発ジャーナル』に掲載している。

参考書：

- ・速水佑次郎『開発経済学』創文社、2000年
- ・山形辰史・黒田卓『開発経済学』日本評論社、2003年
- ・高梨和紘（編著）『開発経済学』慶應義塾大学出版会、2005年

授業の計画：

テキスト、国際機関の報告書等のデスクワークと、夏季の現地調査を行う。

履修者へのコメント：

理論と実践の両方に積極的に取り組んでほしい。

成績評価方法：

平常点

研究会

教授 竹森俊平

授業科目の内容：

国際経済学のミクロ理論の検討と、卒業論文の指導を行う。本学用いるテキスト等は第1回研究会の際に指定する。

研究会

助教授 武山政直

授業科目の内容：

都市における経済活動について、経済地理学をはじめとする関連分野の調査・分析手法を用いて研究を行います。特に、文化的経済価値の生産と消費の場として都市をとらえ、都市生活者のライフスタイルや消費行動、それらの人々を都市に引き寄せる商業施設や文化・アメニティー施設の立地や空間デザイン、マーケティング戦略等に注目します。また、それらの活動の特性の分析や解釈を通じて、魅力あるサービスや施設、都市づくりについての企画や政策提言を行います。研究のスタイルとして、文献の読解をはじめ、現実の施設や都市のフィールドワークを実施することで概念的な知識と感覚的・体験的な知識との相互補完的な理解を促進します。さらに、研究には各種の情報技術を活かした表現やコミュニケーション、分析の技法も積極的に取り入れていきます。

授業の計画：

本年度は下記のテーマを中心に研究活動を進めます。

- 1) 都市生活者のライフスタイルおよび消費行動の調査と分析
- 2) 商業店舗や施設、文化・アメニティー施設の立地とマーケティング分析
- 3) モバイルメディア（携帯電話など）を利用した都市フィールドワーク手法の開発
- 4) ユビキタス時代のメディア利用、情報サービスやビジネスモデルの企画提案
- 5) 施設や都市空間に関連するイメージや意識の調査
- 6) 地域特性のマルチメディア表現や地誌の編集

成績評価方法：

平常点

質問・相談：

takeyama@econ.keio.ac.jp

研究会

助教授 田中辰雄

授業科目の内容：

IT産業を主として実証的に分析する。IT産業は、インターネットの急成長、企業取引の電子化、ブロードバンドの普及、シリコンバレーの隆盛など急激な変化が続いている分野である。ここ10年の日本経済衰退の一因はIT産業にあったが、次第に日本経済でもIT化が進み、携帯電話・ブロードバンド・情報家電などでは世界のトップランナーになりつつある。

経済理論の面から見ると、IT産業では技術革新が非常に早い・ネットワークの外部性が働きやすい・費用逓減が起こりやすいなどの特徴があり、標準的理論が当てはまりにくい。実証的分析も、観察される現象がここ数年であるためデータが取りにくく、まだ十分にされていない。逆に言えば既存の研究例が少ない分、自分の頭で考えて仮説を考えることができる。特に、インターネットや携帯電話、コンピュータに関する個別知識などでは学生の方が先生より優る面もあるわけで、意欲的な学生の参加を期待したい。

本研究会では理論の勉強を行いつつも、実証をメインにする。データの収集は既存のデータベースが存在しないので、データの収集自体が作業の中心のひとつとなる。国会図書館や業界団体に出かけたり、web上の資料から自分で集めるなどの作業が必要になる。その作業を厭わない人を歓迎する。なお、研究会参加者は三田で「計量経済学」の講義を受講することが望ましい。

研究会

助教授 玉田康成

授業科目の内容：

本研究会では理論経済学、特にミクロ経済学の専門的知識としての習得を第一の目的とし、さらに、その考え方を様々な経済現象に応用して検討する。従来の価格理論に加え、ゲーム理論、情報の経済学、契約理論などを分析ツールとして獲得したことにより、経済学はその分析対象の大幅な拡張に成功し、それは産業組織論、公共経済学、労働経済学（人的資源管理）などの多分野に及んでいる。そのキーワードのひとつとして、「インセンティブ」を挙げることができる。広いテーマとしては、いかにして経済主体に対して適切なインセンティブを与えるかという問題意識を設定し、経済現象に関する議論をしていきたい。

本ゼミでは、教科書をもちてミクロ経済学理論やゲーム理論の正確な理解を目指し、また適宜、現実の経済現象を理論的に分析した応用的文献を読む。さらに、3年生はサブゼミとパートゼミに参加する。サブゼミは本ゼミを補完するものとして位置付け、本ゼミで取り扱うことのできない重要な文献を輪読する。パートゼミでは関心ある研究テーマについてパートに分かれ、三田祭論文の作成を目指す。また、適宜インゼミ等の論文報告の機会を設ける予定である。4年生は各自関心ある研究テーマを分析し、卒業論文を完成させる。

研究会

助教授 崔在東

授業科目の内容：

本研究会では、近代化過程で人々が逢着していた様々な問題について多国の比較研究を行う。担当者の専門領域は19世紀後半から20世紀初頭のロシアの社会経済史であるが、関心領域はロシアに限らず、ポーランドとハンガリーなどの東欧諸国、ルーマニアとブルガリアなどのバルカン諸国、そしてイギリス・ドイツ、フランスなどの西欧諸国を含んでいる。なお、本研究会では韓国（朝鮮）、日本、中国なども視野に入れて、比較経済的研究を進め、ユーラシアの視点からヨーロッパを相対化していくような研究と議論を試みたいと思っている。

比較研究の素材は、前近代社会の農村構造であり、また近代化の過程でもたらされた諸変化である。具体的には「家族世帯」、「共同体」、「土地」を共通テーマとする。世代継承の基礎単位である「家族世帯」と「共同体」のあり方は国によって異なり、「土地改革」と近代化過程における対応も異なる。さらに、「人口」、「植民と移民」、「農民運動」、「社会主義」、「労働と労使関係」などもその射程に入る。前近代社会から近代社会への移行は国によって非常に多様な形で

行われるが、いずれも極めて変化に満ちた興味深い過程を見せている。人々がどのように変化の時代を生き延びようとしたのか、各国の政府はどのような政策を講じていったのか、変化と相違をもたらす原因とその結果を究明していくこと、さらには現代とのつながりを模索することが、本研究会の基本課題となる。

研究会では、まず共通テーマの関連文献の輪読を行う。輪読文献は、共通テーマに関連する多国の事例研究の中でピックアップし、議論の叩き台とする。

メンバー全員に、輪読と議論などを通じて独自の研究テーマを見つけると共に、実証的論文（卒業論文）をまとめていくことを義務とする。

テキスト：

随時指定する。

参考書：

適宜紹介する。

履修者へのコメント：

経済と社会を歴史的にアプローチする楽しさと必要性を共有できることと、比較史的視点と現代の視点からの積極的な問題提起と議論を期待する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・三田祭論文・卒業論文

研究会（4年）

教授 辻村和佑

授業科目の内容：

本研究会では、実証分析の基礎に立って、制度と経済のパフォーマンスの問題を取り扱う。具体的には我が国の金融市場を共通の研究テーマとして取り上げ、短期金融、債券、株式、外国為替などの各市場のしくみと相互依存関係を経済全体との関連で考察してみたい。個々の参加者の研究課題については、実証分析を伴うものであれば上記の範囲に限定しないが、具体的なテーマが設定されていることが不可欠である。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

研究会

教授 津谷典子

授業科目の内容：

本研究会は、人口学の主要研究領域である死亡と死因、出生、結婚と家族・世帯、人口の年齢構造と高齢化、都市化と人口移動、ジェンダーと人口問題などについて、理論的枠組と統計を使っての計量分析の方法を学ぶことを目的とする。今年度の春学期は、英語および日本語の文献を基に人口学の基礎理論を学習し、また実際のデータを使って人口統計分析の基礎を実習する。秋学期は、さらに専門的な応用をめざし、各自が研究テーマを選び、既存文献の収集と検討を行い、データの収集や分析方法についても話し合い計画を立てる。来年度（4年生時）は、卒業論文の作成に集中するが、内容の中間報告をして研究発表を随時行い、それについての質疑応答とクラス討論を実施する。

なお、研究対象とする人口・社会は現代のみでなく、戦前もしくは近世の歴史人口でも良い。これらの人口データや統計についても説明し、研究・分析を指導し援助する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- 卒業論文の作成と、それに関する発表をクラス内で行う。

研究会

教授 寺出道雄

授業科目の内容：

この研究会では、主に農業問題について学ぶ。受講者の関心事は、狭い意味での農業問題でなくても、何らかの意味で自然と経済の関わりについてであればかまわない。

文献の輪読、幾つかのグループに分かれての共同研究、何回かのディベート等を行う。

輪読する文献については、最初の授業で受講者の関心事も考慮して決定する。他の点についても、最初の授業で説明する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

研究会

助教授 土居丈朗

授業科目の内容：

本研究会は、財政金融政策をはじめとする経済政策を政治経済学的に考える力を養うことを目的とします。主に公共投資政策、地方分権改革、社会保障政策、税制改革、量的金融緩和政策、国債管理政策を対象に、政治の影響を考慮しつつ経済学的にどう分析できるかに取り組みます。特に、最近では、経済学的に専門性が高い政策課題に直面し、高度の政治的な意思決定を伴う局面が多く、それらを理解する上でも経済学的な素養が必要となってきました。

ちなみに、近年における経済学の潮流の中で、「政治経済学 (political economy)」が台頭しています。これは、従来の政治の経済分析であった公共選択論の成果を取り入れつつも、主に次のような点でそれとは異なる特徴があります。まず、政治活動を行う主体は、標準的なミクロ経済学やゲーム理論で想定している効用や利潤や利得を最大化することを前提に、その行動を分析することです。また、現実の政治現象を、政治過程にかかわる主体に内在する要因（目的や選好）よりも、政治過程を取り巻く制度に伴う要因で説明する志向が強いことです。例えば、官僚が汚職をするのは、官僚が予算やレントを追求する目的（関数）を持っていたり、そうした選好が強かったりするという要因より、自らの効用や利得を最大化するという意味で合理的な官僚に、汚職をする誘因を生む現行制度（予算配分の権限や決め方など）が与えられているという要因を強調します。

本ゼミでは、数人のゼミ員に事前に与えられた課題について発表してもらい、それに基づいて皆で議論をしながら進めます。また、経済分析に不慣れな3年生のために、分析方法などを必要に応じて指導します。分析手法は、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学を中心に使います。ただ、最近の経済政策は現行の財政金融制度の理解も不可欠なので、制度を解説した文献を通じて理解を深めてゆく予定です。より詳細については、最初の授業で説明します。

現実の経済政策について高い関心を持ち、経済学の理論を駆使してそれらを説明したいという強い意欲のある学生を歓迎します。専門的な文献が英文でしか得られない場合があるため、英文を読むことに抵抗を感じない学生の参加を望みます。

サブゼミ、パートゼミなどの進め方については、ゼミ員と相談して決める予定です。

テキスト：

研究会の進行に合わせて紹介します。

参考書：

- ・土居丈朗『入門 | 公共経済学』日本評論社
- ・井堀利宏・土居丈朗『財政読本（第6版）』東洋経済新報社
- ・土居丈朗『経済政策 財政金融政策』日本放送出版協会
- その他、研究会の進行に合わせて紹介します。

授業の計画：

春学期では、教科書等を用いて経済政策を政治経済学的に分析する基礎を身につけ、秋学期では、より高度で現実的な問題を取り上げて具体的な調査・分析作業を進め、論文を作成することを予定しています。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

研究会

教授 友部謙一

授業科目の内容：

本研究会は、近世日本をおもな研究領域とした社会経済史研究を行うことを目的としています。特に、数量的な分析を重視することにより、「経済学」やその他の社会科学との学際的領域の研究に力を入れております。

研究会の活動は、本ゼミとサブゼミから成り立っています。本ゼミの通年活動では、経済史、社会史に関する英文のモノグラフを輪

読みます。そこでの質疑応答により、社会経済史研究への態度や知識に磨きをかけます。また、卒論作成は勿論3年次より取り組みますが、3年生にはオフィスアワーを設けて、テュートリアルを通じて指導します。4年生は順次ゼミにて報告を義務付けます。サブゼミ活動も徳川パートと明治パートにわけ、各々コンピュータを使ってデータ作成をし、分析を進め、三田祭の発表やインゼミに備えます。とにか、2年間を社会経済史研究にうち込む覚悟をもつ学生諸君を求めています。

授業の計画：

英文テキストの輪読：通年

履修者へのコメント：

英語を読んで努力を継続してほしい。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

研究会

教授 中 澤 敏 明

授業科目の内容：

産業組織論 (Industrial Organization) を研究における視座として、経済現象や制度一般を分析する研究会です。当研究会の IO については、経済の現実 + ミクロ経済学 + 計量分析とイメージすれば、あたりずとも遠からず。当研究会では、必要に応じて、担当者の講義も行われますが、学生主体で運営される部分が大きいです。本ゼミでは、選ばれたテキストや論文を輪読しますが、これとともに経済現象を学生が選択して個人ないし少人数グループで、輪番で発表する場を設けており、これを通じて学生の現実経済の主に時局的研究がなされています。もっと大きなグループ研究が別にあり、3年生の大きな目標は、秋におけるインターゼミナルまたはフォーラムなどの場で、他大学の研究会とともに、研究発表をします。これに対して、4年生は、秋学期末の卒論発表が目標になります。本ゼミで、これらの研究の進捗に合わせて中間発表を行ってもらい、テーマの絞り方・アプローチの仕方・研究の改善方法他の議論も行います。昨年度は、ゲーム理論の初歩のテキストと競争戦略論を輪読。3年生は日本政策学生会議 (JSFJ) で「公共工事における入札制度改革」を発表し、優秀と表彰。

テキスト：

M. Motta, Competition Policy, Cambridge, 2004 を候補として考えています。

参考書：

未定。研究会の場で示します。候補としては、

- ・ Dutta, *Strategies and Games*, MIT
- ・ S. Martin, *Advanced Industrial Economics*, Blackwell
- ・ P. Geroski and J. Schwalbach (ed), *Entry and Market Contestability*, Blackwell
- ・ Scherer, *Industrial Structure, Conduct and Market Performance*, Mif in
- ・ 金子晃他編『企業とフェアネス』信山社

授業の計画：

1. IO テーマ紹介
2. テキスト輪読・小グループ研究発表
3. 夏合宿での集中学習・卒論中間発表
4. インターゼミの研究テーマにかかわる研究発表
5. 個人研究発表・卒論発表・IO 研究紹介

履修者へのコメント：

日吉在籍時に当研究会について知りたいときには、12月のオープンゼミ（インゼミ活動を紹介）が参考になります。書籍としては、上記 Scherer を参照されたい。産業組織論以外に、計量経済学・ゲーム論などの分析手段、個別市場の分野の履修を勧める。

成績評価方法：

卒論提出後、研究会への貢献（本ゼミ・サブゼミ・合宿・インタゼミナルなど）(4単位)、卒論(4単位)に分けて評価。

質問・相談：

研究会について知りたいときは、数度行われるゼミの説明会・オープンゼミなどで受け付けます。

授業科目の内容：

当研究会はファイナンスの理論とその応用を学ぶことを目的にしています。ファイナンスは金融市場における資金の調達と運用に関する様々な問題を解決するための手法を学ぶ学問です。例として金融市場で資金を調達する側である企業と資金を運用する側である投資家の直面する問題を考えましょう。企業にとって投資する事業（工場・店舗の建設、企業の買収・合併など）の決定とそのための資金調達手段（株式、債券など）の選択は極めて重要な問題です。また日々の運転資金を円滑に調達することも企業にとって死活問題です。事業の収益とリスクは投資を正当化できるものであるか、資金調達のために如何なる手段を用いるべきか、日々の資金の流れをどのように管理していくかなどの様々な問題に対処する方法が研究者や実務家の間で考えられてきました。これを体系的に研究する学問分野をコーポレート・ファイナンスと呼びます。一方、投資家が資金の運用を行う際には、どの企業の株式や債券をいくら購入すべきか、資産の購入価格は妥当であるか、資産保有に伴うリスクは許容範囲にあるかなどの問題に対処しなければなりません。つまり投資家は収益とリスクのバランスを考慮しつつ保有する資産構成（ポートフォリオ）を決定するという問題に直面していることとなります。この資産配分の決定方法の研究もファイナンスの主要な分野となっています。以上は企業が発行する株式や債券を軸にしたファイナンスの説明ですが、ファイナンスの研究対象は保険、年金、デリバティブなど多岐にわたっています。

学問としてのファイナンスは狭い意味ではミクロ経済学と会計学の複合領域といえます。しかし、ポートフォリオやデリバティブの分析には確率論が必要になりますし、現実のデータに基づいて具体的に投資戦略を練るためには統計学や数値計算法に関する知識が不可欠です。ファイナンスは実用性が高いだけでなく幅広い学問領域にも触れることができる面白い学問であるといえます。

当研究会の活動は、本ゼミ、サブゼミ、パートゼミからなります。本ゼミでは毎週与えられたファイナンスに関するトピックについてプレゼンテーションを代表者にしてもらい、それを元に全員でディスカッションを行います。この議論の中からファイナンスに関する理解を深めることを目指します。また本ゼミではファイナンスの実務で広く使われている MATLAB を学びます。MATLAB は行列演算が簡単にできるプログラミング言語です。MATLAB では複雑な計算処理も簡潔なプログラムで実行できるため、プログラミングに馴染みのない文系の学生でも簡単に扱えます。サブゼミでは本ゼミで学んだトピックへの理解を深めることを目指し、ゼミ用の講義ノートや参考文献などを読みながらファイナンスの理論を体系的に学びます。パートゼミではグループ（パート）に分かれて専門的なファイナンス理論を学習し、三田祭発表のための共同研究を行います。現時点におけるパートの構成は、コーポレート・ファイナンス、戦略投資、デリバティブ、債券金利の4パートです。希望に応じて新たなパートを作ることもできます。さらに新歓合宿や夏合宿、インゼミなど様々なイベントも行う予定です。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

参考書のリストは研究会の中で随時配布します。

授業の計画：

当研究会ではファイナンスを学んだことがない学生諸君を歓迎しています。授業内容の説明を読むと難しくついていけない印象を持つかもしれませんが、初めてファイナンスを学ぶことを前提に進めていきますので安心してください。日吉で習う微分積分、線形代数、統計学の知識があれば十分です。また、研究会の中だけでファイナンスに関する必要な知識を全て学ぶことは不可能です。可能な限り

- ・金融関連科目 金融論、国際金融論、企業金融論、ファイナンス入門
- ・計量経済学関連科目 計量経済学、計量経済学、時系列分析、ベイズ統計学
- ・確率論関連科目 確率・統計、数理経済学特論 [確率論] などを平行して履修するようにしましょう。

成績評価方法：

平常点（出席状況と研究会での報告の内容）

研究会

教授 中村 慎 助

授業科目の内容：

本研究会においては、理論経済学及び公共経済学を中心に基本的な文献の輪読と各人の研究報告を行う。具体的な授業内容については、開講時に指定する。

研究会

教授 中山 幹 夫

授業科目の内容：

ゲーム理論は1944年、フォン・ノイマンとモルゲンシュテルンの共著『ゲームの理論と経済行動』の公開によって生まれたが、80年代に入ってから産業組織論や情報の経済学などへの関心の高まりのなかで、それまでの均衡概念をさらに扱いやすくした方法論上のイノベーションと、生物学などからの刺激もあって、経済学に取り入れられるようになった。今日では、特にミクロ分析のための強力な道具となっている。

また、特に近年、慣習やしきたりにもとづいて熟考しないで行動する人間や生物、遺伝子、オートマトンなどの機械、プログラム、アルゴリズムなどがプレイヤーであるようなゲームを考察するという、限定合理性の研究も盛んである。さらに、フロンティアでは知識や推論能力自体に制限を加えるという新しいアプローチもチューリング・マシンや様相論理の方法によって試みられている。

ゲーム理論は演繹的な構造物であるから、仮定や定義から出発して階段を1歩づつ昇るように根気強く思考することが必要で、知的好奇心や強い興味、関心をもっていることが望ましい。数学は、最低限、好きでなければ理論の面白さがわからず楽しくないであろう。英語については、文学的ではなく、論理的に読解することが必要である。

報告は、完璧である必要はないが、理解したことと、わからなかったことを区別して人に説明するという努力を評価する。その他の活動については、学生諸君の自発性に委ねる。

テキスト：

テキストとしては、現在のところ未定であり、適宜コピー、資料を配布する予定である。

参考書：

参考文献としてはとりあえず以下の7点をあげておく。

- ・Osborne and Rubinstein, *A Course in Game Theory*, MIT Press, 1994
- ・Gibbons (須田・福岡訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社, 1995年
- ・岡田章『ゲーム理論』有斐閣, 1996年
- ・中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣, 1997年、『社会的ゲームの理論入門』勁草書房, 2005年
- ・梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学・戦略的アプローチ』日本評論社, 2000年
- ・中山幹夫・武藤滋夫・船木由喜彦共編著『ゲーム理論で解く』有斐閣, 2000年
- ・武藤滋夫『ゲーム理論入門』日本経済新聞社, 2001年

履修者へのコメント：

報告者は報告内容に責任をもつこと。あらゆる質問に答えなければならない。ただし間違えてもそこから議論が始まればよい。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

授業中、自由に質問やコメントすることを評価する。

質問・相談：

随時。メールも可。

研究会

助教授 延 近 充

授業科目の内容：

日本経済は10年以上にわたって出口の見えない深刻な不況に陥っている。この間、世界の中で例外的に好調な状態を保っていたアメリカ経済も陰りを見せている。アジア経済は数年前までの急速な経済成長から一転して不安定となったが、そのなかで順調な経済成長を続け

た中国のWTO加盟は世界経済に新たな変化をもたらすに違いない。

各国・地域経済の諸問題の分析はもちろん重要であるが、それらを単独で分析するだけでは充分ではない。1980年代後半以降、冷戦という戦後世界を規定してきた要因が消滅するとともに、国境を超えて移動する巨額の資金や巨大多国籍企業の提携・合併のような世界市場の再編の動き、経済的な相互依存が深まり一国の経済政策が他国に与える影響が大きくなって、混迷を深める経済問題や地球環境問題などの解決のために各国間の協力の必要性が強まる一方、政策手段は手詰りとなり活路を見出せない状態に陥るといった世界的な一大転換期にあるからである。

こうした現代資本主義が直面している諸問題の根源を明らかにするためには、理論的検討と現状分析を世界史的視野から行う必要がある。その際には、第2次大戦後、冷戦対抗のもとで、アメリカの主導によって構築された資本主義の復興・成長の国際政治・経済の枠組みとその崩壊のメカニズムの分析が不可欠である。

本研究会の基本テーマは、このような問題意識から現代資本主義の直面している諸問題を分析することにある。本年度の共通テーマとしては、戦後の日本の経済復興・成長とそこに内在する問題点について、日米関係を基軸として考えていく。研究会員個々の研究テーマとしては、環境問題や個別産業問題も含め、広く現代経済の抱える問題に関心をもって選択し研究してもらいたいと思っている。

テキスト：

井村喜代子『現代日本経済論』有斐閣

研究会

助教授 藤 田 康 範

授業科目の内容：

本研究会では、新聞・雑誌等の経済記事に関心をもつこと、その内容を理解して平易に説明する能力や論評を行う能力を身につけることを第一の目的とします。これらを通じて、経済分析の重要性を再確認することも目的の一つとします。私を含めて、様々な背景を持つ人たちが接して知識を共有し、分業と協業によって経済や学問に関する理解を深める場にしたいと考えています。

授業の計画：

〔春学期〕

1. ガイダンス
2. 応用理論分析の手法を身につける（計4回）
応用理論分析を行った論文を輪読し、手法を会得します。
3. 日本経済および世界経済の現状と問題点を把握する（計4回）
標準的な経済書を輪読する予定です。
4. 日本経済新聞の記事を読む（計4回）
日本経済新聞の記事の中から当研究会にふさわしいものを選んで発表していただきます。

〔秋学期〕

1. 経済に関する良書を読む（計2回）
昨年度は、松島克守著『MOTの経営学』（日経BP）、小宮山宏・松島克守編『動け！日本 イノベーションで変わる生活・産業・地域』（日経BP）を輪読しました。
2. 三田祭論文の中間報告および最終報告（計4回）
3. 卒業論文の中間報告および最終報告（計4回）
4. 経済問題を理論分析する（計2回）
5. まとめ

履修者へのコメント：

3年生は、本ゼミおよびサブゼミを通じて経済現象一般について教養を広げると同時にパートゼミで各自の専門性を深め、4年生は卒業論文の完成につとめていただきたいと思います。

成績評価方法：

研究会という科目の性質上、平常点および卒業論文に基づいて成績評価を行います。

質問・相談：

随時受け付けています。

研究会（4年）

教授 古 田 和 子

授業科目の内容：

近代アジア経済史の研究を行う。

研究会では、19世紀後半から20世紀前半における中国を中心に、東アジア・東南アジア地域における社会経済構造の変化やアジア域内における国際経済関係の変遷を検討していく。

アジア経済史の研究は緒に着いたばかりである。アジア研究の方法論についてもさまざまな考え方があり、研究されるべき課題や領域も多いのでその分やり甲斐はある。しかし同時に歴史データの収集などの面で困難な点があるのも事実である。

今年度は、各自が設定したテーマにそくして、卒業論文の作成を指導する。

成績評価方法：

- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）

研究会

教授 細田 衛 士

授業科目の内容：

本研究会では、環境経済学、経済成長理論、所得分配理論などを中心とした研究を行う。主に、理論経済学的手法をもってこのような問題にとり組む。ここ数年、環境経済学に重点をおいているが、本年度もこの方針は変わらない。フィールド・ワークやプレゼンテーションも研究会の重要な要素となる。春学期では、主に環境経済学の基礎を修得し、秋学期ではマクロ経済学の基礎、ならびに現実経済への応用について学ぶ予定である。

テキスト：

- ・R.C.ポーター『廃棄物の経済学』

参考書：

ゼミの時間に逐次提示する。

授業の計画：

1. 今週のトピック（プレゼンテーション）
2. フィールド・ワーク：論文作成及びプレゼンテーション
3. メインテキストの輪読
4. インターゼミ準備・参加

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度）

研究会

教授 前多 康 男

授業科目の内容：

この研究会では、マクロ経済学に関する研究を行う。実際の経済の現状を、的確に把握し、そこに経済理論を適切に応用することによって、さまざまな政策的な課題に答えしていくことを目的とする。

現状の日本経済は、バブルがはじけてから10年以上の長きにわたって不況下にある。この不況の原因や、不況から脱出するための処方せんを提示することは、マクロ経済学に課せられた使命である。しかし、我が国の経済で現在起こっている不況は、従来の不況とは異なっていることも事実であり、そのために、通常の教科書的なマクロ経済学の範囲では、現状の分析や適切な政策を提示できない状態に陥っている。このようなマクロ経済の諸問題に、既存のマクロ経済理論に捕らわれない自由な発想をもって、政策的な提言を行っていきたいと思っている。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

研究会

教授 マッケンジー、コリン

授業科目の内容：

本研究会では外国と比較しながら日本経済の実証分析を行う。今までのゼミでは規制緩和や構造改革について勉強してきた。2005年度春学期に取り上げるトピックは社会保障制度（年金、健康保険、介護保険、失業保険など）の事態と改革となる。下記のテキストは最近のアメリカにおける社会保障制度改革についてのもの、それを輪読しながら関係する日本の社会保障制度について勉強する。本の輪読が終わったらマッケンジーが紹介する英文文献を輪読する。このゼミの“輪読”とはただ文献（又は文献の議論）を日本語に訳することだけでなく、著者の言いたいことを簡潔にまとめること、内容について疑問点を投げかけること、日本の関係する文献・制度を紹介する

ことになる。秋学期には、三田祭論文（3年生が中心）、個人論文（3年生）と卒業論文（4年生）について報告したり、議論したりする。計量の実習をゼミの一環としてやる。2006年度の適切な時期に、EViews 5.0という最新の計量ソフトの使い方について指導する。

参考書：

- ・松浦克己・マッケンジー・コリン『EViews5.0による計量経済学入門分析』、東洋経済新報社、2004年

履修者へのコメント：

ゼミ中携帯の使用は禁止。

成績評価方法：

ゼミの成績は2年間のゼミ活動（個人論文、卒業論文、ゼミでの出席率・報告・議論の参加など）を総合的に判断・評価することによって決定する。個人論文・卒業論文の提出が遅れたり、報告の日を欠席したり、欠席が目立ったりする場合、成績のペナルティーがあることに注意すべき。

質問・相談：

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

研究会（4年）

教授 松村 高 夫

授業科目の内容：

社会史の研究を行うゼミである。卒業論文の作成が重視される。並行して、ひきつづき社会史の基礎的文献を輪読する。

研究会

教授 丸山 徹

授業科目の内容：

経済理論の基礎的学習。

研究会

助教授 宮内 環

授業科目の内容：

「市場の数量分析」

当研究会では「市場の数量分析」の方法を実際の分析事例にそくして学ぶ。具体的な分析事例で明らかにされようとしている問題の所在、その分析のために要請される理論構成、そして適切な分析方法の選択、さらにこうした「市場の数量分析」の意義について、議論を集中して行う。今年度は市場の数量分析、および計量経済学的方法の基礎的な文献の輪読を中心に、数量分析の方法の基礎を固める。さらに研究会参加者は自らの研究テーマを選び、その研究報告も併せて行う。

テキスト：

研究会参加の学生諸君と相談の上決める。

参考書：

計量経済学的方法の基礎；

- ・小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社、1972年
- ・小尾恵一郎『統計学』筑摩書房

市場の数量分析とその意義；

- ・小尾恵一郎・宮内環『労働市場の順位均衡』東洋経済新報社、1998年
 - ・辻村江太郎『経済政策論』筑摩書房、1977年
 - ・辻村江太郎『計量経済学』岩波全書
- 計量経済学の方法論；

初級；

- ・Kennedy, P., A Guide to Econometrics, MIT Press, 1988

中級；

- ・Greene, W. H., Econometric Analysis, 3rd. ed., Prentice Hall, 1997
- ・Gujarati, D. N., Basic Econometrics, 3rd. ed., McGraw Hill, 1998

上級；

- ・Griliches Z. and M.D. Intriligator eds, Handbook of Econometrics, vol. 1-3, Essevier, 1994-96
- ・Engle R. F. and D.L. McFadden eds, Handbook of Econometrics, vol. 4, 5, Essevier, 1994-98
- ・Judd, K., Numerical Methods in Economics, MIT Press, 1998
- ・White, H., Estimation, Inference and Specification Analysis, Cambridge University Press, 1996

履修者へのコメント：

履修者諸君は、当研究会活動を通じて、検証可能な仮説の設定と、当該仮説を検証するために適切な観測方法の選択という、科学の基本的な研究作法について学んでほしい。

成績評価方法：

成績の評価は研究会における報告と卒業論文とを勘案して行う。

質問・相談：

研究会の最初の時間にオフィス・アワーについて連絡する。

研究会 教授 柳 沢 遊

授業科目の内容：

本研究会では、今年も20世紀前半の日本と東アジア諸地域の経済・社会を対象とする実証研究を行う。今年度は、「20世紀前半の日本経済・日本社会」を年間テーマとし、1930～50年代の都市商店街の形成、戦争経験、戦後改革、都市型生活様式の普及、失業者の生活、中小商工業金融、高度経済成長の開始などについて、1980～90年代の研究の到達点を把握し、論点を整理していきたい。使用する文献は、石井寛治編『近代日本流通史』東京堂出版。

卒業論文のテーマについては、20世紀の日本とアジア諸地域に関する内容である限り自由に設定しうるが、4年の学年末には400字で60～100枚の卒業論文の提出が義務づけられている。

テキスト：

- ・石井寛治編『近代日本流通史』東京堂出版
- ・中村政則『戦後史』岩波新書

参考書：

- ・大日方純夫・山田朗編『近代日本の戦争をどうみるか』大月書店、2004年1月刊
- ・天野正子ほか編『戦後経験を生きる』吉川弘文館、2003年12月刊

授業の計画：

- ・4～6月期はテキストの輪読を中心に、参加者のディスカッション能力を向上させる。
- ・7～10月期は、三田祭企画への取り組みを学生主導で行い、調査・研究手法を向上させる。
- ・10～1月期は、三田祭の研究発表をふまえて、各自卒業論文に取り組む。

履修者へのコメント：

毎回出席し、1つでいいから、疑問点を提出してください。他大学ゼミ（法政大学・東京大学など）との交流に意欲的に取り組んでください。1週間に1回は、図書館に入って、卒論にかかわる文献を探索し、読みましょう。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文を納得いく形で執筆できるかどうか、柳沢研究会卒業のあかしです。しっかりした卒論を、同期生や先輩のはげましのなかで、書きあげて卒業しましょう。

質問・相談：

火曜日の昼休みや火曜日の夕刻以降は、できるだけ、質問や相談に応じるつもりです。

研究会(3年) 教授 矢 野 久

授業科目の内容：

春学期は社会史の基礎的文献を読む。日本語と英語文献を同時並行的に輪読形式で読む。研究会のメンバーの興味関心に応じて、総合テーマを決定し、それに関する文献に順次移行する。

秋学期は総合テーマに即した報告を中心に研究会を運営し、三田祭に際して発表するための論文作成を行う。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会 教授 矢 野 誠

授業科目の内容：

本ゼミナールは、公共経済学の理論の観点から政府の役割につい

ての検討を行う。経済学では、どのような経済活動についても、そこから生み出される便益とそれを生み出すための費用との両面から考えるものである。これは政府の役割の経済学的分析についても同様で、政府が社会にもたらす便益と政府の活動から生み出される費用とを考えることができる。便益と費用の相対的サイズをどう評価するかで、それぞれの経済学者が望ましいと考える政府のサイズも異なってくる。こうした異なる考えかたの背後にある経済理論をはば広く検討しつつ、現代社会における政府の役割を議論していきたい。

経済学が分析対象とするのは、現実の経済におけるいろいろの現象である。これらの現象は複雑に絡み合い、ひとつの分野に完全に納まってしまふことは非常に少ない。したがって、本ゼミナールでは、公共経済学的トピックに中心課題をおきながら、その他いろいろの経済現象に対する理論的分析手法をさぐることも目的とされ、そのための数学的手法の学習にも重点がおかれる。

研究会 教授 山 田 太 門

授業科目の内容：

公共経済学・財政学および文化経済学について、マクロ経済学とミクロ経済学を基礎とした研究を行う。本ゼミでは専門書の輪読を行う予定。予定人員は20名程度で応募者が多い場合には選考を行う。

4年生については各自の卒業論文のテーマについて研究報告を行う。

研究会 教授 吉 野 直 行

授業科目の内容：

(3年生)

毎回、経済指標の動きを勉強する。為替、金利、マネーサプライ、経常収支、外貨準備、失業率、稼働率、設備投資動向、消費動向、財政バランスなどの動きを、日本・米国・欧州・アジアのデータと比較し、マクロ経済理論を用いた説明を試みる。前期の輪読では、

(i) 国際経済 (Exchange Rates and International Finance)

(ii) 計量経済 (Econometrics, Stock and Watson)

(iii) ファイナンス (Financial Economics, Brian Kettell)

などを用いた基礎的な学習を行う。さらに後期には、各パートに分かれて、計量分析手法を用いながら、三田祭論文を作成する。テーマとしては、(i) 日本の為替変動の現状とその要因分析、(ii) アジア各国の資金プールの変化とその要因分析、(iii) 資産価格の変動(株価・地価の変動)、(iv) 財政赤字の現状とマクロ経済効果、(v) 日本の地域経済の動向と地域間格差などである。

(4年生)

毎回、経済指標の動きを勉強する。為替、金利、マネーサプライ、経常収支、外貨準備、失業率、稼働率、設備投資動向、消費動向、財政バランスなどの動きを、日本・米国・欧州・アジアのデータと比較し、マクロ経済理論を用いた説明を試みる。前期輪読では、

(i) 国際経済 (Exchange Rates and International Finance)

(ii) 計量経済 (Introduction to Econometrics, Stock and Watson)

(iii) ファイナンス (Financial Economics, Brian Kettell)

などを用いた基礎的な学習を行う。さらに、各自の卒業論文のテーマに沿って、演習を行う。テーマとしては、(i) 財務諸表による日米の銀行行動の比較、(ii) 資金の地域配分と政治力、(iii) 不動産証券化、(iv) 金融政策の波及経路などであり、卒業論文の進捗に応じて発表を行い、コメントを受けながら、論文を書き進める。

テキスト：

関連のテキストは講義の最初に説明する

参考書：

各研究テーマに沿った著書・論文は、講義の中で説明する。

研究会 教授 若 杉 隆 平

授業科目の内容：

本研究会は国際貿易とイノベーションをテーマとする。イノベーションが生み出す国際貿易パターンの変化やグローバルな企業活動ネットワークの展開を理論面・実証面から分析すること、企業のイノベーションと知的財産権制度、競争政策、産業政策を理論的・実証的に分析することなど、国際貿易、投資、研究開発、イノベー

ョン、法制度と政策にかかわる課題の中から、現実の経済現象に目を向けつつテーマを選び、経済分析を重ねてゆく。

春学期には国際貿易・技術革新の分野における基本的な文献に取り組み、基礎力を養う。秋学期には、3年生は、グループ毎に研究テーマを選び、そのテーマに沿って論文・文献を講読し、研究成果を中間報告する。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

研究会で用いるテキスト・文献は第1回研究会の時に紹介する。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度による評価）

研究会

教授 渡辺 幸男

授業科目の内容：

本研究会の中心テーマは、工業経済論、中小企業論、日本経済論の3者あるいはこれらが交錯する場にあるといえよう。現代資本主義論の理論の学習と現状の日本経済についての批判的理解のための学習とを、できうる限り同時並行的に行いたい。

そのためにも、夏休みを中心とした3年生ゼミ員による共同実態調査は不可欠であると考えている。

研究プロジェクト

(誘導展開型)

日吉設置

研究プロジェクト

Advanced Seminar in Film Theory and Criticism

助教授 エインジ、マイケル

This course develops an advanced understanding of film as a complex cultural medium through the discussion of key theoretical and critical approaches. The course combines weekly intensive small-group discussions, individual presentations and written assignments. We will perform close, detailed analyses of a selected body of films, rigorously applying major film theories and critical approaches. By the end of the first term, students, building on their knowledge from previous film-studies courses, will be able to:

- Read and critically analyze a variety of filmic texts, demonstrating an understanding of the codes and conventions of film language
- Identify, apply and evaluate theoretical approaches to filmic textual analysis
- Critically analyze and evaluate the role and purpose of critical analysis of filmic and other media texts.

Alongside the coursework, students will be guided towards producing a detailed critical or historical essay, in which they will analyze and evaluate a theoretical approach to filmic textual analysis. After selecting a film or set of films by early July, students will spend part of the summer holiday and first half of the autumn semester researching the topic(s) of the paper, and producing a draft by December. Draft revisions and preparations for the final presentation/submission will constitute the remainder of the year's work.

Peter Lehman *Defining Cinema* (Rutgers, 1997) will serve as our main reference. Individual students will be expected to read further in the areas directly related to their papers and presentations.

Note: Students should submit a plan for their proposed research along with their original application in April.

研究プロジェクト

映像制作

教授 小 瀧 昭 夫

授業科目の内容：

映像制作のためのA to Zを、様々な映画を通して学びつつ、それぞれの学生は、それぞれのテーマを持って、企画から、脚本づくり、キャスティング、日程、撮影、そして編集、上映までを実践する。

テキスト：

授業中に指示。

参考書：

授業中に指示。

授業の計画：

春学期は、ひとりひとり実験的な映像を制作してもらう。

秋学期は、夏休みから役割分担を決めて、共働で作品制作を行う。

履修者へのコメント：

この授業は、情熱と体力と気力と忍耐力と社会的責任とアートのセンスが試されるハードな授業だ。土曜日の授業に必ず出席でき、しかも時間的にはオーバーすることが、たびたびあるので覚悟されたい。

成績評価方法：

映像作品を、春学期1本、秋学期は共同で1本を制作することで、評価される。

研究プロジェクト

ユダヤ人問題

教授 羽 田 功

授業科目の内容：

「ユダヤ人問題」は時間的には2千年近くにおよぶ歴史を持ち、空間的には全世界にまたがる問題としてきわめて特異な性格を有しています。しかし、それだけではなく、「民族」や「民族問題」を考える上でもさまざまな示唆を与えてくれる問題でもあります。さらには宗教、政治、経済、思想、芸術など、人間の多様な営為の場においてつねにユダヤ人は大きな足跡を残してきました。しかし、他方ではユダヤ人に対しては古くから誹謗や中傷が加えられ、また現実に迫害の標的とされてきています。

ところで、わたしたちは「ユダヤ人問題」についてどこまで正確にその特徴や事実関係を知っているのでしょうか。あるいは上述したようなユダヤ人のあり方から私たちは何を学び取ることができるのでしょうか。こうした問題関心から始まって、この巨大な問題を全体として理解し、同時に全体的なパースペクティブのもとでユダヤ人問題やユダヤ人あるいはユダヤの歴史・文化などへの各人の個人的な関心を深めていくことがこのプロジェクトの目的です。

授業の計画：

春学期：問題理解のための基本文献を読みながら、基礎的な知識の習得と共に文献の読み方を身に付け、かつ論文作成につながる個別研究テーマの発見をめざします。また、これと並行して文献・資料検索やレポート作成や口頭発表の方法についても教示します。

秋学期は、個別テーマにもとづく論文などの作成準備に入ります。テーマに即した文献・資料の読み方、資料の整理方法、論文へのまとめ方なども併せて勉強します。なお、秋学期の個別研究のための準備として夏休みの課題が課されます。

成績評価方法：

評価は主に以下の二点を基準として行います。

- (1) 通常授業への出席、授業準備、課題提出(レポート・口頭発表も含む)
- (2) 学年末の論文

履修者へのコメント：

・テキスト(春学期)、参考文献・資料、シラバス(春学期)については第一回目に指示または配布します。

・授業は日吉キャンパスで行います。

研究プロジェクトC(秋学期)

助教授 秋 山 裕
助教授 石 井 明
助教授 エインジ、マイケル
助教授 大 平 哲
助教授 福 山 欣 司

授業科目の内容：

研究プロジェクトCは、誘導展開型および自発展型研究プロジェクトに参加する学生が履修する科目です。研究プロジェクトCのみで履修することはできません(研究プロジェクトCを履修しないで誘導展開型および自発展型研究プロジェクトに参加することもできません)。研究プロジェクトと研究プロジェクトCは、概念的には2つで1つの科目であると理解してください。研究プロジェクトCは、研究プロジェクトのコーディネーターが共同で担当します。成

果発表の準備や成果報告会など、成果に関わることを扱います。時間割上では週1回(秋学期)開かれることになってはいますが、授業時間の多くは数回にわたる研究成果報告会やその準備にあてられるため、融通性を持ったスケジュールとなります。詳細なスケジュールは研究プロジェクト開始後に研究プロジェクトのHP上(<http://www.econ.keio.ac.jp/lecture/kpro/>)で発表します。秋学期開始前である春学期末に、秋学期分の授業時間を用いて中間報告会を行うことも視野に入れていきます。

三田設置

研究プロジェクト 専任講師(有期) 河田 幸 視

授業科目の内容:

「自然環境と人間 健全な文化的景観とその保全」

私たちは日々、様々な自然の恩恵と与っています。自然がもたらす財(自然資源)やサービス(生態系サービス)を、私たちは知らず識らずのうちに直接利用し、あるいは加工された商品として消費しています。時には、存在しているというだけで、満足に思うこともあります。他方で、自然も人間活動からプラスの影響を受けています。例えば、農業活動が生物多様性を高めているという報告は少なくありません。今日、人為の影響が全くない自然景観はほとんど存在せず、自然環境の大半は、人間と自然とのコラボレートワークともいべき文化的景観として存在するといっても過言ではありません。

とはいえ、自然と人間のこうした良好な関係は、必ずしも成立するものではなく、あるいは社会的・経済的变化とともに容易に崩壊しうるものです。その理由として、私たちの自然利用観に問題がある、自然の価値把握に問題がある、の2点を挙げたいと思います。換言すれば、持続的に利用すること(保全)が、保護よりも適切な場合が往々にしてあることを認識していないということであり、自然の持つ価値は厳然として存在するのに、実際に市場に現れる自然の価値は社会状態に大きく依存するために、しばしば市場の失敗に帰結するということです。

そこで、本研究プロジェクトでは、健全な文化的景観を維持するために、私たちは自然環境とどのように向き合うべきなのかを、主に経済学の立場から、具体的な事例を定めて考察し、結論を導くことを目標とします。文化的景観というキーワードに見られるように、このプロジェクトは大きくは「地域づくり」に焦点をあてるものであり、また、保全や自然の価値、市場の失敗というキーワードに見られるように、経済学的な分析の適用が好ましいテーマともいえます。ただし、分析手法は経済学的分析にこだわる必要はありません。

具体的な事例としては、湿地(湿原などとそこに生息する動植物、そこをエコツーリズムなどで利用する人間の関係のあり方)、森林棲野生動物(野生動物とそれが自然植生や商業林に及ぼす影響と地域社会のあり方)などを考えており、受講者の関心を踏まえ、最終的には1~2事例とします。受講者は、事例の持つ様々な側面のなかから具体的なテーマを選択設定し、各自の研究を進めつつも、講義で互いの研究内容を交換することによって、自分の研究を見直していきます。そうすることで、最終的には特定テーマの事例分析であるとともに、他の参加者の研究を踏まえ、独りよがりな見方を排した成果に仕上げることを目指します。なお、知識の過多は問いません。実際にデータ収集やヒアリングを実施して、成果につなげたい方を特に歓迎します。

研究プロジェクト 教授 竹内 良 雄

授業科目の内容:

「三国志に登場する主要な人物の変遷を追う」

陳寿『三国志』から現代に至るまで、三国志に登場する人物は、その時代とともに変化が見られるが、各人物の変遷を見ていきたいと思う。そこから何が見えてくるかが研究成果となるであろう。資料は史書から日本で発行されている漫画まで、ジャンルを問わない。

なお、受講者は中級以上の中国語を履修した者が望ましい。

成績評価方法:

論文発表。

プロフェッショナル・キャリア・プログラム(PCP)

MACROECONOMICS (春学期) 教授 尾崎 裕之

月曜日1, 2限共通

Course Outline:

This course deals with a basic macroeconomic theory. By designing a macroeconomic model, we study how the economy determines the various quantities and prices and how government policies affect these variables. Since the main test of the model will be its ability to explain the behavior of macroeconomic variables in the real world, we also devote considerable time to comparisons of the theory with the real world. Since a model will be constructed based on microeconomic foundations, a basic knowledge of microeconomics is required.

MICROECONOMICS (春学期) 助教授 グレーヴァ 香子

水曜日1, 2限共通

Aim and Content of this Course:

This course aims to (a) provide students with junior/senior level of microeconomics, and (b) enable students to follow it in English. Since the course has two purposes and the time is limited to half-year, the students are strongly encouraged to take other microeconomics courses in addition, if they want to specialize in microeconomics in their theses and/or their future studies. The outline of the lecture is as follows.

1. Consumer theory
2. Producer theory
3. Market equilibrium
4. Monopoly
5. Oligopoly
6. Externalities
7. Public goods
8. Moral hazard
9. Adverse selection

To supplement the lecture, problem sets are given. The answers must be written in English.

Students are encouraged to take notes in English and read only materials written in English.

Textbook:

David Kreps, *Microeconomics for Managers*, Norton.

References:

Hal Varian, *Intermediate Microeconomics*, Norton

Grade:

The grade is based on the problem sets (20%) and the final written exam (80%). Grammatical mistakes do not count in the grades, but please use technical terms correctly. For the problem sets, you can study in groups but you must write answers individually. Copying will be detected and punished.

Course Pre-requisites:

Introductory microeconomics, introductory game theory, and some mathematics (mathematical logic, optimization, and probability). If you are in doubt whether you are prepared or not, please feel free to contact the lecturer.

質問・相談:

オフィスアワーおよび電子メールで受け付ける。

ECONOMIC ANALYSIS OF LAW (秋学期)

教授 矢野 誠

Course Outline:

This course is designed to introduce as an application of microeconomics the economic approach to law and markets to those who wish to enter a law school and to engage in legal profession. A U.S. Supreme

Court Justice in the early 20th century, Louise D. Brandeis, once wrote, "A lawyer who has not studied economics ... is very apt to become a public enemy" (Illinois Law Review, 1916). This statement is a good example to show how seriously the legal profession takes economics in day-to-day legal practices outside of this country, the tradition of which the Japanese society has badly been lacking. This course is designed to contribute to building such a tradition in our society.

Textbooks:

- ・矢野誠 『「質の時代」のシステム改革』岩波書店, 2005年
 - ・矢野誠 『ミクロ経済学の応用』岩波書店, 2001年
- その他の詳しい参考文献・資料については, 後日指示する。

Tentative Schedule:

The course is intended to explain the working of markets and the design of economic policy, institutions, and laws targeting to protect markets.

1. Introduction: Microeconomics Analysis of Markets
2. Function of Markets and Market Quality
3. Properties:
4. Intellectual Properties
5. Class Discussions
6. Competition and Anti-Trust Law, 1
7. Competition and Anti-Trust Law, 2
8. Anti-Trust Law Issues in Labor Markets
9. Capital Formation and Security Laws: Banks or Capital Markets
10. Venture Capital Market and Initial Public Offering Markets for Public Companies
11. Torts and Product Liability
12. Class Discussions

The lectures will be given in English; students' questions in Japanese are welcome.

宿題・成績:

学期中, 数回の宿題を課す。また, 期末試験も行う。成績に関する詳しい情報は後日伝える。

INTERNATIONAL LAW AND ECONOMY (秋学期)

教授 木村 福成

Course Outline:

All countries, particularly developing countries, are increasingly confronted with the need to address trade policy related issues in international agreements, most prominently the World Trade Organization (WTO). This course surveys key disciplines and the functioning of the WTO and discusses numerous issues and options that confront countries in trying to improve domestic policy and obtain access to the world market. Many of the issues discussed are also relevant in the context of regional integration agreements.

Text:

Hoekman, Bernard; Mattoo, Aaditya; and English, Philip., Development, Trade, and WTO: A Handbook., Washington, DC: The World Bank., 2002

Other reading materials including a number of reports and documents by international organizations will be assigned in class.

Topics to be covered:

The class includes lectures, students' presentations, and discussions. The following topics and others are covered.

1. Economics and political economy for trade policy (review)
2. The major aspects of the WTO from a development perspective
3. Policy issues in the area of merchandise trade
4. Policy issues in the area of services trade
5. Protection of intellectual property rights
6. New regulatory subjects that are emerging in the agenda of trade talks
7. Multilateralism and regionalism

For 2006 F/Y, this course is jointly offered with International Economic Policy (PCP).

Grade:

Homework: 20%, Final: 40%, Class participation: 40%

LAW AND ECONOMICS (春学期)

教授 木村 福成
法学部 教授 田村 次朗

Course Outline:

This course discusses various issues and problems related to sometimes widely diversified approaches from laws and economics. After investigating similarities and differences in the law approach and the economics approach, some notable examples in economic laws and international laws are reviewed in details.

The course covers the following topics:

1. What are "Law and economics"?
2. Law and microeconomic foundation
3. Coase's law
4. Monopoly
5. Oligopoly
6. Predatory pricing
7. Mergers
8. Mergers and efficiency argument
9. Fundamentals of international economic law
10. International economy and "law and economics"

Reading assignments:

To be announced in the first class.

Grading policy:

To be announced in the first class.

PUBLIC DECISION MAKING (春学期)

教授 中村 慎助

Aims and Contents:

This course has been established as a part of PCP/Law and Economics Program and for the fourth year students as the third semester in PCP program. This deals with a non-market decision making and the theory of social and/or public choice. By this, we aim at developing deeper knowledge of foundations of law, as a constitutional rule which leads individual behaviors to the social order by restricting private choices. The outline of the lecture is as follows.

1. Theory of Market Failure and Non-Market Solutions I
2. Theory of Market Failure and Non-Market Solutions II
3. Direct Democracy and Decision Making
4. Representative Democracy and Decision Making
5. Social Welfare Functions
6. Theory of Social Choice
7. Theory of Public Choice

Grading Policy:

The grade is based on the problem sets (20%), the final written exam (60%), the class participation (20%). For the problem sets, you can study in groups but you must write answers individually. Copying will be punished.

References:

To be suggested in class.

INTRODUCTION TO FINANCE (秋学期)

教授 前多 康男
助教授 新井 拓児

Course Outline:

The course provides a modern portfolio theory and a basic option pricing theory. First, we prepare mathematical preliminaries. In particular, we deal with a basic concept of a probability theory. Second, we study a modern portfolio theory. Topics covered in this section include the mean-variance portfolio analysis, the CAPM. Finally, a basic theory of option pricing models is discussed by dealing with one-

period binomial option pricing models. Especially, we study meanings of important terms, for example “arbitrage”, “hedging”, “martingale probability” and so on.

The course also covers the presentation of Mathematica implementation of the model used in finance.

Topics to be covered:

1. Randomness and random variable
2. Expectation and variance
3. Return and risk
4. Mean-variance portfolio analysis
5. CAPM
6. Introduction to option pricing
7. Hedging and arbitrage (one-period binomial model)
8. Martingale probability
9. Introduction to Mathematica and Excel
10. Implementing mean-variance model by Mathematica and Excel
11. Implementing numerical option pricing models by Mathematica and excel

References:

Reading materials will be suggested in the first lecture.

Grade:

Midterm Exam 25%, Final Exam 50%, Homework 25%

JAPANESE FINANCIAL MARKETS AND INSTITUTIONS (秋学期)

教授 吉野直行
教授 嘉治佐保子

Course Outline:

This course is offered to undergraduate students participating in the PCP programme, as well as to Master's level graduate students. The aim is to train students to apply economic theory, econometric techniques and economic intuition to the analysis of real world economic problems. We put particular emphasis on the Japanese economy. Students must have solid backgrounds in macroeconomics, theories of money and banking and public finance.

Topics to be covered:

1. Historical trends in Japanese monetary policy and economic fluctuations
2. Flow of Funds Table of the Japanese economy (Government Sector, Financial Sector, Firm Sector, Household Sector)
3. Japanese monetary policy, asset-price inflation and subsequent recession
4. Japanese fiscal policy, budget deficit and public debt
5. Japanese industrial policy, tax policy and fiscal investment policy
6. Japanese capital markets (bond and equity markets)
7. Failures and restructuring of Japanese banks
8. The aging population and its impact on the Japanese economy
9. Privatization of Postal Savings and the Japanese financial market
10. The Asian financial crisis: causes and consequences
11. Exchange rate regimes and the optimal exchange rate system in Asia
12. Effectiveness of public works in Japan and Revenue Bonds
13. Central and Local Governments in Japan
14. Policy-making and the incentive mechanism in Japan

References:

1. Yoshino, Naoyuki and Seiritsu Ogura, 'The Tax System and the Fiscal Investment and Loan Programme', Chapter 6 in Komiya, Okuno and Suzumura eds. *Industrial Policy of Japan*, Academic Press, 1988
2. Yoshino, Naoyuki et. al. *Eigo de Yomu Nihon no Kinyu*(Economic Issues of Contemporary Japan), Yuhikaku publishing, 2000
3. Yoshino, Naoyuki and Eisuke Sakakibara 'The Current State of the Japanese Economy and Remedies', *Asian Economic Papers*, vol.1, No.2, pp.110-26, 2002
4. Yoshino, Naoyuki and Thomas Cargill, *Postal Saving and Fiscal Investment in Japan*, Oxford University Press, 2003

5. Takatoshi Ito, *The Japanese Economy*, MIT press, 1992
6. For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, *The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 1999 3.99 pounds.

More references will be given during the lecture.

Grade:

Final examination 70%, Class participation 30%

INTERNATIONAL ECONOMIC POLICY (秋学期)

教授 木村福成

Course Outline:

All countries, particularly developing countries, are increasingly confronted with the need to address trade policy related issues in international agreements, most prominently the World Trade Organization (WTO). This course surveys key disciplines and the functioning of the WTO and discusses numerous issues and options that confront countries in trying to improve domestic policy and obtain access to the world market. Many of the issues discussed are also relevant in the context of regional integration agreements.

Text:

Hoekman, Bernard; Mattoo, Aaditya; and English, Philip., *Development, Trade, and WTO: A Handbook.*, Washington, DC: The World Bank., 2002

Other reading materials including a number of reports and documents by international organizations will be assigned in class.

Topics to be covered:

The class includes lectures, students' presentations, and discussions. The following topics and others are covered.

1. Economics and political economy for trade policy (review)
2. The major aspects of the WTO from a development perspective
3. Policy issues in the area of merchandise trade
4. Policy issues in the area of services trade
5. Protection of intellectual property rights
6. New regulatory subjects that are emerging in the agenda of trade talks
7. Multilateralism and regionalism

For 2006 F/Y, this course is jointly offered with INTERNATIONAL LAW AND ECONOMY (PCP).

Grade:

Homework: 20%, Final: 40%, Class participation: 40%

INTERNATIONAL TRADE (秋学期)

教授 竹森俊平

The course will focus on the post WWII development of Japanese Economy and will examine the role of international trade in enabling the economic development. The analysis will be Micro as well as Macro because there is a strong reason to believe that the balance of payment consideration was the prime factor behind the Japanese fiscal-monetary policy in the post WWII era.

The course will have a strong emphasis on the historical account. I particular I have in mind the participation of foreign audiences who have keen interest in Japanese historical experiences.

The participants must have a sound knowledge on the theories of International Trade and International Finance.

OPEN ECONOMY MACROECONOMICS (春学期)

教授 嘉治佐保子

土曜日 2, 3 限共通

Text:

<http://ocw.dmc.keio.ac.jp/economics/02A004macro/list.html>

Course Outline:

This course is offered to undergraduate students participating in the PCP programme, as well as to Master's level graduate students.

The purpose of this course is to introduce basic concepts and basic analytical frameworks of Open Economy Macroeconomics, and to encourage students to apply them in thinking about real-world issues. Students who attend this course are assumed to have sufficient knowledge of entry-level macroeconomics and microeconomics.

Topics to be covered:

- I. A Review of Closed Economy Macroeconomics IS-LM Analysis, Aggregate Supply, and Aggregate Demand
- II. Basic Concepts in Open Economy Macroeconomics
Small Country Assumption, Stock vs. Flow, The Balance of Payments, The Exchange Rate, The Interest Rate Parity Condition
- III. Theories of Exchange Rate Determination
Purchasing Power Parity, Stock Equilibrium Approach, Flow Approach, The Marshall-Lerner Condition, The J-curve Effect
- IV. The Mundell-Fleming Results
The M-F Result and the Structure of the Model — a Simple Model, The M-F Result under Fixed Exchange Rates, Alternative Assumptions: Two-Country, Imperfect Capital Substitution, The M-F Result under Flexible Exchange Rate, Alternative Assumption: Two-Country
- V. The Speed of Adjustment of Endogenous Variables and Overshooting
- VI. Economic Interdependence and Choice of Exchange Rate Regimes

References:

- Canzoneri, M. and D. Henderson (1988) "Is Sovereign Policymaking Bad?" *Carnegie-Rochester Conference Series on Public Policy* No. 28, pp.93-140
- Dornbusch, Rudiger (1980) *Open Economy Macroeconomics, Basic Books*, Chapter 10 Reference: Dornbusch (1980) Chapter 11
- Kaji, Sahoko (2004) *Kokusai Tsuka Taisei no Keizai Gaku* (The Economics of Exchange Rate Systems), Nihon Keizai Shimbun Publishing

Grade:

Final 70%, Class participation 30%

ENVIRONMENTAL ECONOMIC THEORY (秋学期)

教授 細田 衛士

This course provides a basic theory of environmental economics. The analytical framework is elementary microeconomics, and partial equilibrium analysis is utilized in almost all the topics. Although the main purpose of this course is to give a comprehensive view of environmental economic theory to students, applicability of the theory to environmental policy is also considered.

Chapter 1 Introduction

- (1) Explanation of environmental problems.
- (2) Environmental economics as a tool to solve actual environmental problems.
- (3) Externalities and transaction.
- (4) Interface of economics and law

Chapter 2 Environmental resources as public goods

- (1) Definition of public goods.
- (2) Pareto optimality of an economy where public goods exist.
- (3) Optimal supply of public goods.
- (4) Difference between normal public goods and environmental resources.

Chapter 3 Externalities and environmental problems

- (1) What are externalities?
- (2) Inefficient allocation of resources due to externalities.
- (3) Internalization of externalities: some examples.
- (4) Polluter Pays Principle: Who is a polluter?

Chapter 4 How to solve environmental problems (1): Command and control

- (1) What is command and control?

- (2) Effectiveness of command and control.
- (3) Shadow value of environmental cost.
- (4) Some examples.

Chapter 5 How to solve environmental problems (2): Taxation

- (1) Pigouvian Tax
- (2) Efficiency of Pigouvian tax.
- (3) Why isn't Pigouvian tax adopted in real environmental policies?
- (4) Environmental tax in a real economy.

Chapter 6 How to solve environmental problems (3): Tradable emission permits

- (1) What are tradable emission permits?
- (2) Efficiency of tradable emission permits.
- (3) Merits and demerits of emission permits.
- (4) Comparison between environmental tax and tradable permits.

Chapter 7 How to solve environmental problems (4): Bargaining and the Coase Theorem

- (1) What is the Coase Theorem?
- (2) Property rights and environment.
- (3) Polluter Pays Principle vs. Victim Pays Principle.
- (4) Some examples.

Chapter 8 Reproducible natural resources

- (1) Problems due to open access.
- (2) Explanation of open access equilibrium.
- (3) Why does extinction happen?
- (4) Dynamic aspects of reproducible natural resources.

Chapter 9 Non-reproducible natural resources

- (1) The Hotelling rule.
- (2) Backstop technology.
- (3) Efficiency of a market economy.
- (4) Why aren't non-reproducible natural resources exhausted?

Chapter 10 Waste treatment and recycling

- (1) Circumstances of waste and recycling.
- (2) Efficient treatment and recycling of waste.
- (3) Exhaustion of landfill.
- (4) A new waste treatment policy: Extended Producer Responsibility.

Chapter 11 Deposit-refund system

- (1) What is a deposit-refund system?
- (2) How does it work?
- (3) Merits and demerits of a deposit-refund system?
- (4) Some examples.

Chapter 12 Evaluation of environment

- (1) Why is evaluation of environment required?
- (2) Travel cost approach.
- (3) Contingency Valuation Method.
- (4) Limits of evaluation of environment.

Chapter 13 Economic growth and environment

- (1) Income distribution and environmental degradation.
- (2) Environmental Kuznets Curve.
- (3) The limits of economic growth.
- (4) Technical progress and environmental conservation.

References:

- Hanley, N. J.F. Shogren and B. White, *Environmental economics in Theory and Practice*, Macmillan Press Ltd., 1997
- Hodge, Ian, *Environmental Economics*, Macmillan Press Ltd., 1995

ENVIRONMENTAL ECONOMICS POLICY (秋学期)

教授 細田 衛士
特別招聘教授 馬奈木 俊介

Course Description:

This course provides a comprehensive account of the application of economic analysis to environmental issues. The course covers both methodological topics and recent applications. Using microeconomic principles, we will examine such topics as the sustainability problems, ethics and the environment, climate change, irreversibility and uncertainty, trade and the environment, public policies, and business

practices.

Course Outline:

Following is a tentative outline.

Part One: Economics and environment

- Primer: Economic concepts for environment
- Market failure and public policy
- Concepts of sustainability
- Ethics and the environment

Part Two: Global environmental problems

- International externalities
- Trade and the environment
- Global climate change
- Acidification, ozone layer, and biodiversity
- Linkages

Part Three: Practice in environmental policies

- Pollution control: Targets and instruments
- Sustainable development and politics
- Water and air pollution
- Recycling and waste
- Emission trading

Part Four: Environmental management and strategy

- Approaches to business and the environment
- Differentiating products
- Managing your competitors
- Saving costs
- Managing environmental risk
- Redefining markets

Supplements:

- Charles Kolstad. *Environmental Economics*. Oxford University Press. 1999.
- Robert N. Stavins, ed. *Economics of the Environment: Selected Readings*, Fourth Edition. New York, New York: W.W. Norton & Company, 2000.
- Forest L. Reinhardt, *Down to earth: Applying Business Principles to environmental Management* Harvard Business School Pr., 1999.

Assessment:

Grades will be assigned according to the following weighting scheme:

- 20% Mid-term Exam
- 40% Final Exam
- 20% Homework
- 20% Class Participation

The homework must be typed in single space, and please keep one copy for yourself.

APPLIED ECONOMETRICS (春学期)

教授 マッケンジー, コリン

月曜日 1, 2 限共通

Course Status:

This course has been established as part of the Faculty of Economics' PCP Program. In order to permit intensive instruction in the use of EViews 5 during the course, the number of students able to enroll in this course will be strictly limited. This course will be taught in English.

Aim and Content of this Course

This course aims to: (a) provide students with an introductory knowledge of applied econometrics; and (b) enable students to estimate and evaluate linear regression models using the econometrics software package called EViews 5. In the econometric analysis of any socio-economic phenomena, the creation of some sort of "model" is the usual starting point of any analysis. Econometric model building involves the following seven steps: (i) the specification of a theoretical model, (ii) data collection; (iii) the specification of a model for estimation; (iv) the estimation of unknown parameters; (v) hypothesis testing; (vi) model evaluation; and (vii) simulation and forecasting. This course focuses

on estimation using ordinary least squares (step (iv)) and hypothesis testing using the t and F tests (step (v)). Where possible, estimation and hypothesis testing techniques will be illustrated by empirical examples that use either cross-section or time series data. The emphasis in this course is not in proving propositions, but rather on the strong connection between the assumptions made about the components of the regression model and the results that can be obtained, and the various difficulties that arise when analyzing real data.

Text:

Carter Hill, R., W.E. Griffiths and G.G. Judge, *Undergraduate Econometrics*, John Wiley & Sons, New York., 2001

Japanese Language References:

- 浅野哲・中村二郎『計量経済学』有斐閣, 2000年
- 松浦克己・マッケンジーコリン『EViewsによる計量経済分析』東洋経済新報社, 2001年
- 松浦克己・マッケンジーコリン『EViewsによる計量経済学入門』東洋経済新報社, 2005年

English Language References:

- Kennedy, P., *A Guide to Econometrics 5th Edition*, Blackwell Publishing, Malden, MA., 2003
- Quantitative Micro Software, *EViews 5 User's Guide, Quantitative Micro Software*, Irvine, CA., 2004
- Quantitative Micro Software, *EViews 5 Command and Programming Reference*, Quantitative Micro Software, Irvine, CA., 2004
- Wooldridge, J.M., *Introductory Econometrics: A Modern Approach*, South-Western College Publishing, USA., 2000

Course Outline:

1. What is Econometrics? What Does Econometric Model Building Involve?
2. Review of Important Economic and Statistical Concepts (Marginal Effects, Elasticity, Expectations, Variance, etc)
3. Ordinary Least Squares (OLS) for the Simple Linear Regression Model
4. The Statistical Properties of OLS for the Simple Linear Regression Model (including the Gauss-Markov Theorem)
5. Simple Hypothesis Testing Using the Student t-test
6. Using EViews 5 to Produce Descriptive Statistics, Graphs and Simple Regression Results
7. OLS for the Multiple Linear Regression Model
8. The Statistical Properties of OLS for the Multiple Linear Regression Model
9. Testing Hypotheses Relating to Several Parameters Using an F-test
10. Dummy Variables and Testing for Structural Change
11. Using EViews5 to Produce Multiple Linear Regression Results and to Conduct Hypothesis Testing
12. The Impact of Model Misspecification and Multicollinearity
13. Model Evaluation

Grade:

Grades in this course will be awarded on the basis of a student's performance in an end-of-semester written exam, and two pieces of homework to be handed in during the semester. Some of the problems on each piece of homework will involve the using EViews 5 for estimating some econometric models and interpreting the results. In determining a student's final grade, the results for the written exam and homework will be combined using the weights 80:20 or 100:0, whichever gives the more favorable result for the student concerned.

Course Pre-requisites:

In order to understand the material in this course, it is extremely desirable that students have some previous knowledge of linear algebra, differentiation (including partial differentiation), and probability. Instruction in the use of the econometrics software package, EViews 5, will be given as part of this course. This course will strictly avoid the use of matrix algebra.

PRESENTATION AND DISCUSSION SKILLS (春学期)
教授 松岡和美

授業科目の内容：

The goal of this course will be to improve oral/aural skills of students in the PCP program. Skills which will be emphasized in this class include note-taking, forming and asking questions, asking critical questions to evaluate an argument, giving formal presentations, and actively participating in group discussions. Essential expressions for professional presentations will be introduced as a warm-up, which is followed by discussing pros and cons of controversial issues. Completing the reading/listening assignments will be essential for this class, since the background material serves as a ground for group discussions. All sessions will be conducted in English.

テキスト：

- Delk, Cheryl L. 2006. *College Oral Communication 3*. Houghton Mifflin.
- Browne, M. Neil/Keeley, Stuart M. 2003. *Asking the Right Questions: A Guide to Critical Thinking 7th Edition*. Prentice Hall.

授業の計画：

1. Orientation; Forming and asking simple questions; Review of the basic presentation skills, The Benefit of Asking the right Questions (ARQ Ch.,1); COC Ch. 1 (Humanities)
2. What Are the Issue and the Conclusion? (ARQ Ch.2); COC Ch. 1 (continued)
3. What Are the Reasons? (ARQ Ch. 3); COC Ch. 2 (Computer Science)
4. What Words or Phrases Are Ambiguous? (ARQ Ch. 4); COC Ch. 2 (continued)
5. What Are the Value Conflicts and Assumptions? (ARQ Ch. 5); COC Ch. 3 (Social Science)
6. What Are the Descriptive Assumption? (ARQ Ch.6); COC Ch.3 (continued)
7. Are There Any Fallacies in the Reasoning? (ARQ Ch. 7); COC Ch. 4 (Business)
8. How Good Is the Evidence? (ARQ Ch. 8-9); COC Ch. 4 (continued)
9. ;Are There Rival Causes? (ARQ Ch. 10); COC Ch. 5. (Social Psychology)
10. Are the Statistics Deceptive? (ARQ Ch. 11); COC Ch. 5 (continued)
11. What Significant Information Is Omitted? (ARQ Ch. 12); COC Ch. 6 (Ethics)
12. What Reasonable Conclusions Are Possible? (ARQ Ch. 13); COC Ch. 6 (continued)
13. Final Exam

履修者へのコメント：

The instructor expects students to have a professional attitude in the class. Two unexcused absences will lead to the failure of this course. No assignment will be accepted past its deadline. Speaking up without being called on will be crucial to be successful in this class.

成績評価方法：

Assignments	40%
Classroom participation, attendance	30%
Final exam	30%

質問・相談：

Students should read and use the information on the course home-page (<http://web.hc.keio.ac.jp/~matsuoka/>) before each class. A weekly office hour (at the Hiyoshi campus) is available for student consultation. Questions can also be asked through e-mail.

READING AND COMPOSITION (秋学期)
講師 ファロン, ルース

The goal of this course is to improve the reading and writing skills of students in the PCP program. All sessions will be conducted in English.

Text:

Oshima and Hogue, *Writing Academic English: Third Edition* (Longman)

Syllabus

- Session 1: Orientation - The Process of Academic Writing
- Session 2: Overview of the Paragraph; Types of Sentences I
- Session 3: Paragraph Unity I; Types of Sentences II
- Session 4: Outlining; Adverb Clauses I
- Session 5: Unity II; Adverb Clauses II
- Session 6: Coherence; Noun Clauses I
- Session 7: Coherence in 2-Paragraph Essays; Noun Clauses II
- Session 8: Concrete Support I; Paraphrasing
- Session 9: Concrete Support II; Summarizing
- Session 10: The Essay; Relative Clauses I
- Session 11: Patterns of Organization; Relative Clauses II
- Session 12: More Patterns of Organization
- Session 13: Evaluation of Essays; Checklists

Evaluation

Reading assignments; homework preparation	20%
Written assignments	40%
Classroom participation; attendance	40%

Consultation

Student questions and concerns will be handled in the class and by individual appointments.

ACADEMIC WRITING (春学期)

講師 ファロン, ルース

月曜日 1, 2 限共通

授業科目の内容：

The course will provide students with skills to produce academic research reports in English following acceptable protocols and international standards of academic research. In the spring semester, each student will prepare a detailed proposal for an original research paper of 10-15 pages. Students will conduct research during the summer and complete the report in the autumn semester. There will be strict deadlines for each step in the process of planning, researching, drafting and revising the report. Models of organization and formal writing will be provided so that students can learn appropriate forms and styles of academic reports. Students will share drafts of their writing with others in the class and will also give constructive evaluations of others' writing and research.

テキスト：

The Wadsworth Handbook, *Seventh Edition*. Laurie G. Kirszner, Stephen R. Mandell. (Thomson, 2005)

授業の計画：

- Week 1: Overview: the process of writing research reports
- Week 2: Organizational patterns of longer essays, reports
- Week 3: Focusing research; fine-tuning a thesis
- Week 4: Internet Research; evaluating web sites
- Week 5: Summarizing, paraphrasing, quoting, synthesizing sources
- Week 6: Plagiarism and writing a first draft
- Week 7: Writing style; appropriate levels of formality for academic research
- Week 8: Documentation styles
- Week 9: Individual consultation (First draft of proposal due)
- Week 10: Revising awkward writing
- Week 11: Writing précis, abstracts (Second draft of proposal due, including references)
- Week 12: Polishing, editing reports; fine tuning writing style
- Week 13: Review of research process; preparation for research

履修者へのコメント：

Students who take this course must be able to organize and write essays clearly in English with relative fluency. Students will take a

placement test and will be placed in the class based on their levels of productive writing ability.

成績評価方法：

Each step in the process of preparing the report proposal will be graded, accounting for 25% of the final course grade. Attendance and participation in class work will also be 25% of the grade. The report proposal itself will be 50% of the course grade.

FIELDWORK (秋学期)

教授 木村 福成

授業科目の内容：

このコースでは、プロフェッショナル・スクールに進学してプロフェッショナル・キャリアを積んでいこうという学生に資するため、経済理論から得られる分析枠組みと直観、統計・計量経済学的手法を用いた分析手法、バランスのとれた政策論から得られる政策提案能力といった実務的ツールを、現実の経済・社会の中でいかに活用していかについて、学んでいく。

内容は、当然のこととして専攻プログラムごとに異なってくるが、工場見学やインタビュー調査を含むフィールドワーク、質の高いインターンシップ、NGO 活動への参加等、現実の経済・社会と経済学的アプローチの間の接点を体感できるようなプログラムを用意する。

テーマ設定については、個々の学生あるいは数人のグループを単位に、参加学生の関心を考慮しつつ決めていく。テーマ設定からプロジェクトの設計、各進捗段階におけるきめ細かな指導、数度にわたる進捗状況報告、最終報告の文書化と発表を、コースの中に組み込んでいく。

成績評価方法：

平常点。

INDEPENDENT STUDY (秋学期) 教授 木村 福成

授業科目の内容：

PCP プログラムを締めくくるものとして、参加学生個々による個別研究の指導を行う。

経済学と現実の経済・社会の接点を学び、経済学的手法や思考方法と現在に適用していくためには、単に講義科目を履修しただけでは十分でない。自ら問題を設定し、分析手法を考え、必要な情報収集や分析を施し、それを報告書の形でまとめていく、そういった実務的トレーニングが不可欠である。このコースでは、プロジェクトの設定から報告書執筆(英文)、口頭での発表(英語による発表会の開催)までの一連の流れをきめ細かく指導し、参加学生の将来のキャリア・メイキングへとつなげていきたい。

成績評価方法：

平常点。

(3) 関連科目

民法

講師 花房 博文

授業科目の内容：

本講義では、民法の総則、物権編について概説します。総則編では、「私権の開始・終了」、「当事者意思の尊重と取引の安全との調整」等の基本原則を中心にお話する予定です。物権編では、物を排他的に支配するための基本原則についてお話します。法律は、観念的で抽象的なものであると理解されがちですので、できる限り身近な事例を使って講義を進める予定です。詳細は初回の講義で説明します。

テキスト：

- ・『2006年版六法』(どんなものでも可) 必携
- ・斎藤和夫編『レアブーフ民法』中央経済社 必携
- ・物権法については講義中に指示

参考書：

- ・講義中に適宜指示

授業の計画：

[春学期：総則]

- 1 民法の位置づけ・私法の三原則と修正

- 2 一般条項の役割
- 3 権利能力・行為能力
- 4 成年後見制度の必要性和概要
- 5 住所と失踪宣告
- 6 法人の分類・活動・責任
- 7 物・財産権の拡大
- 8 意思表示
- 9 法律行為・法律行為の有効要件
- 10 代理・表見代理
- 11 無効と取消・条件と期限・期間の計算
- 12 時効制度(1)
- 13 時効制度(2)

[秋学期：物権法]

- 1 物権総説(種類・効力)
- 2 不動産物権変動(1)
- 3 不動産物権変動(2)
- 4 動産物権変動と即時取得制度
- 5 占有権
- 6 所有権・共有
- 7 担保物権総説
- 8 留置権・先取特権
- 9 質権
- 10 抵当権(1)
- 11 抵当権(2)
- 12 非典型担保権
- 13 用益物権

履修者へのコメント：

民法を通じて、法的思考を習得してください。特に事物に対する経済学的思考と比較してみてください。

成績評価方法：

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)
- ・平常点(出席状況および授業態度)

民法

法学部専任講師 水津 太郎

授業科目の内容：

民法では、民法典第3編「債権」について、その基本的知識を確認するとともに、重要判例の解説をとおして、発展的・応用的な知識を習得することを目的とします。

「債権」編は、第1章「総則」第2章「契約」第3章「事務管理」第4章「不当利得」第5章「不法行為」に分かれています。講学上は、債権総論(債権一般に共通のルール：第1章)と、債権各論(特定の債権に固有のルール：第2章～第5章)に体系化されています。民法では、前期に総論、後期に各論を講義することとします。

テキスト：

- ・前期：野村豊弘＝栗田哲男＝池田真朗＝永田眞三郎『民法 債権総論(有斐閣Sシリーズ)(第3版)』有斐閣、2005年
- ・後期：藤岡康宏＝磯村保＝浦川道太郎＝松本恒雄『民法 債権各論(有斐閣Sシリーズ)(第3版)』有斐閣、2005年

参考書：

- ・星野英一＝平井宜雄＝能見善久編『民法判例百選2 債権(第5版新法対応補正版)』有斐閣、2005年
- ・奥田昌道＝安永正昭＝池田真朗編『判例講義民法2 債権(補訂版)』悠々社、2005年

授業の計画：

[前期]

1. 債権の意義・目的
2. 債権の効力 : 効力一般・強制履行
3. 債権の効力 : 債務不履行
4. 債権の効力 : 損害賠償・受領遅滞
5. 責任財産の保全 : 債権者代位権
6. 責任財産の保全 : 許害行為取消権
7. 多数当事者の債権関係 : 分割債権債務・不可分債権債務・連帯債務
8. 多数当事者の債権関係 : 保証債務
9. 債権債務の移転 : 債権譲渡

- 10. 債権債務の移転 : 債務引受・契約上の地位の移転
- 11. 債権の消滅 : 弁済・供託
- 12. 債権の消滅 : 相殺
- 13. 債権の消滅 : 更改・免除・混同

[後期]

- 14. 契約総論 : 契約の意義・分類・原則
- 15. 契約総論 : 契約の成立・効力
- 16. 契約総論 : 契約の解除
- 17. 契約各論 : 贈与・交換
- 18. 契約各論 : 売買
- 19. 契約各論 : 消費貸借・使用貸借
- 20. 契約各論 : 賃貸借
- 21. 契約各論 : 雇用・請負・委任・寄託
- 22. 契約各論 : 組合・終身定期金・和解
- 23. 契約外の債権発生原因 : 事務管理・不当利得
- 24. 契約外の債権発生原因 : 不法行為概説
- 25. 契約外の債権発生原因 : 一般の不法行為
- 26. 契約外の債権発生原因 : 特殊の不法行為

履修者へのコメント:

- ・最新版の六法をかならず持参してください。
- ・民法の受講が前提となりますので、民法を受講していない人は、民法も合わせて受講することを奨めます。
- ・民法と民法をとともに受講することにより、財産法全体をカバーすることができます。

成績評価方法:

学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果および平常点(出席状況・授業態度)。ただし、平常点はプラス方向でのみ顧慮します。

商 法 (会社法)	講 師 久留島 隆
-----------	-----------

授業科目の内容:

『商法』は、第1編「総則」、第2編「商行為」および第3編「海商」の3つの編によって構成されている。平成17年の商法改正により、第2編「会社」の部分が削除され、従来の第3編「商行為」および第4編「海商」が繰り上げられたが、条文の数字に変更はない。他方、この第2編の「会社」を中心とし、会社に関する他の多くの法律をまとめた「会社法」という単独の法律が成立した。

この授業科目「会社法」のもとでは、最新の判例や事例に言及しつつ、講述する。講述の内容は、会社という企業の生活関係に関する諸制度のうち、「企業の組織に関する法律制度」である。したがって、この授業科目を具体的に表現するならば、『企業組織法』ということになる。種々様々な企業のうち、特に、株式会社を中心とした講述を考えている。株式会社は、他の企業に比較して、我々の生活にとって、より一層深い関わりがあるからである。

テキスト:

- ・宮島 司『会社法エッセンス』弘文堂

参考書:

- ・山本為三郎『会社法の考え方』八千代出版
 - ・大賀祥充『会社法のエッセンス』法律文化社
 - ・久留島 隆『企業のトラブルと判例法』協同出版
- その他、必要に応じて指示する。

授業の計画:

1. 会社の概念
2. 会社の商号・使用人と代理商
3. 株式会社の設立
4. 株式
5. 新株の発行
6. 株式会社の資金調達
7. 募集株式の発行
8. 新株予約権
9. 株式会社の機関
10. 株主総会
11. 取締役・取締役会・代表取締役
12. 会計参与
13. 監査役・監査役会
14. 会計監査人

- 15. 委員会設置会社
- 16. 役員等の損害賠償責任
- 17. 株主代表訴訟
- 18. 株式会社の計算
- 19. 計算書類
- 20. 資本金と準備金
- 21. 剰余金の分配
- 22. 持分会社
- 23. 合同会社と有限責任事業組合
- 24. 社債
- 25. 組織再編
- 26. 企業結合

履修者へのコメント:

最新(平成18年度版)の六法全書類を毎時限携帯すること。

成績評価方法:

原則として、学年末の筆記試験の結果と出席状況等の平常点を総合的に勘案して、評価する。

質問・相談:

講義終了後に対応する。

商 法 (商法)	講 師 久留島 隆
----------	-----------

授業科目の内容:

『商法』は、第1編「総則」、第2編「商行為」および第3編「海商」の3つの編によって構成されている。平成17年の商法改正により、第2編「会社」の部分が削除され、従来の第3編「商行為」および第4編「海商」が繰り上げられたが、条文の数字に変更はない。

この授業科目「会社法」のもとでは、最新の判例や事例に言及しつつ、講述する。講述の内容は、会社という企業の生活関係に関する諸制度のうち、「企業の商取引に関する法律制度」である。したがって、この授業科目を具体的に表現するならば、『企業取引法』ということになる。一般には、「商法総則・商行為」と称されている分野に相当する。この2つの編は、相互に密接な関係があり、「六法」の1つである『民法』との関連も深い。したがって、『企業取引法』に関係のある『民法』の諸制度についても言及せざるを得ない。また、「企業の商取引」の分野では、手形、小切手、株券等を始めとする有価証券が重要な役割を演じているということも見逃がすことはできないので、いわゆる「有価証券」の領域にも、晩秋の頃から、踏み込んで講述するつもりである。

テキスト:

指定しない。

参考書:

- ・倉沢康一郎『商法の基礎[改訂版]』税務経理協会
 - ・倉沢康一郎『手形判例の基礎』日本評論社
 - ・久留島 隆『企業のトラブルと判例法』協同出版
- その他、必要に応じて指示する。

授業の計画:

1. 商法の意義・民法との関係
2. 商人制度の意義と定義
3. 商業登記制度の意義
4. 商号・名板貸人の責任
5. 営業の譲渡
6. 商業帳簿の意義
7. 商業使用人の意義
8. 代理商
9. 商行為の概念と種類
10. 商事売買匿名組合の意義と機能
11. 交互計算の意義と機能
12. 陸上運送営業の意義
13. 仲立営業・問屋(といや)営業の意義
14. 場屋営業の意義
15. 倉庫営業の意義
16. 有価証券の特色と種類
17. 株券の特異性
18. 為替手形・約束手形・小切手の相違と経済的機能
19. 法律行為としての手形行為・小切手行為

- 20. 手形要件
- 21. 手形の原因関係・手形関係
- 22. 白地手形の意義と機能
- 23. 裏書制度の意義と効力
- 24. 手形抗弁の特色
- 25. 手形の抹消・毀損・喪失
- 26. 利得償還請求権

履修者へのコメント：

最新（平成 18 年度版）の六法全書類を毎時限携帯すること。

成績評価方法：

原則として、学年末の筆記試験の結果と出席状況等の平常点を総合的に勘案して、評価する。

質問・相談：

講義終了後に対応する。

労働法

企業と労働者（サラリーマン）をめぐる法的問題を分析する
助教授 内藤 恵

授業科目の内容：

労働法とは、賃金を得て生活する者（これを労働者と称します。）と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法、個別的労働関係法、そして集团的労使関係法に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期および秋学期の初めを使って、特に労働者と使用者の間に締結された労働契約の始期からそれが終了する原因に至るまでを講義します。この二つの法主体間の関係を、個別的労働関係と呼びます。内容としては、下記授業計画の第二章から第十一章がそれに当たります。

続いて、労働法と社会保障法の間位置する労働災害補償の問題を講義（第十二章）し、更に労働者・使用者・労働組合の三者間の法的関係を解釈する、集团的労使関係の領域を講じます。内容としては、第十三章から第十八章がそれに当たります。

講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、出来れば話題となった新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

毎回 Web に講義資料プリントをアップロードします。（2006 年 4 月、初学者向けテキスト出版予定）

ただし法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので、URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携帯してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第 7 版〕有斐閣、2002 年

参考書：

初心者向けの参考書として、

- ・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界(第 6 版)』有斐閣、2005 年
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法(第 8 版)』有斐閣プリマシリーズ、2004 年
- ・良く書き込まれた概説書に、菅野和夫『労働法(第 7 版)』弘文堂、2005 年

授業の計画：

- 第一章. 序論 労働法の体系
- 第二章. 労働契約の始期 採用内定・試用期間
- 第三章. 労働契約の主体 労働者の概念
- 第四章. 人事異動 配置転換・出向
- 第五章. 賃金
- 第六章. 労働時間法制(2 回)
- 第七章. 年次有給休暇
- 第八章. 就業規則(2 回)
- 第九章. 懲戒
- 第十章. 労働契約の終了(2 回ほど)
(...このあたりで春学期講義終了)
- 第十一章. 安全衛生・労働災害(2.5 回)
- 第十二章. 労働組合(憲法上の労働基本権を含む)(1.5 回)
- 第十三章. 団体交渉
- 第十四章. 労働協約(2 回)

第十五章. 争議行為(2 回)

第十六章. 組合活動

第十七章. 不当労働行為(1.5 回)

第十八章. 労働市場法(1.5 回)

*ソフトボール大会等の影響をはかりつつ、時間の余裕があるならば、上記授業計画に加えて春学期・秋学期に授業時間中にレポートを書いて戴きます。講義が順調に進む場合には、随時、成果主義賃金等の新しいテーマあるいは重要な法改正についての解説を入れます。

履修者へのコメント：

労働法も近年、改正が多く変化しています。労働法学の全体像を知らなければ、各々のテーマを正確に理解することは困難です。出来る限り出席し続けて戴きたいと思います。

成績評価方法：

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・秋学期のみ期末試験を実施する

まず第一に、学期末の期末試験の結果を重視します。場合に応じて、授業中に年 1~2 回実施するレポートの成績を加味します。

'05 年度は春学期末試験を実施しましたがあまり学習効果が見られませんでしたので、'06 年度は秋学期末のみの実施に戻します。

質問・相談：

講義に関するご質問・相談は随時受け付けます。講義終了後、担当者のところまでお越しください。

租税法

21 世紀にふさわしい税制の構築に向けて 法人税制を中心に
助教授 吉村 典久

授業科目の内容：

租税法は総合科学です。したがって法学方法のみならず、経済学的アプローチも駆使します。今年度の授業の重心は、所得税・法人税・消費税です。日本の財政赤字が拡大し、歳入の柱であるこれらの租税の重要性は高まるがあっても、減じることはありません。21 世紀の税制を皆さんとともに考えていきましょう。

テキスト：

岸田貞夫・矢内一好・柳裕治・吉村典久『現代税法の基礎知識』ぎょうせい

又は 清水敬次『税法』ミネルバ書房

参考書：

金子宏『租税法』弘文堂、『小六法』有斐閣、『実務税法六法(法令編)』新日本法規出版

授業の計画：

オリエンテーション

1. 租税法の基本原則

租税法総論の諸問題を解説する。

租税法主義の概念と機能、租税公平主義の概念と機能、租税回避行為

2. 法人税法

法人税の課税要件、改革の方向性を解説する。

法人税の性質、益金、損金、所得の年度帰属、多様な事業形態に対する課税、法人組織変更税制、連結納税制度

3. 租税手続・争訟法

租税確定・租税徴収・租税争訟を解説する。

申告、税務調査、更正の請求、更正、推計課税、滞納処分、租税不服申立、租税訴訟

履修者へのコメント：

本講義は一方的講義ではなく、対話形式を多用した授業である。

成績評価方法：

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・秋学期末試験のみ実施する。

・平常点：出席状況および授業態度による評価

基本的には学年末試験の成績を重視するが、授業中の出席、レポート等による評点も加味し、できるだけ不合格とならないよう配慮する。

質問・相談：

授業後、随時。

授業科目の内容：

現代会計の全体を合理的に説明する論理を探求する。ただし、その点に関する私見を一方的に述べるのではなく、他の学説と比較検討しながら行う。そのプロセスにおいて、受講生諸君が、みずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたい。

テキスト：

笠井昭次著『現代会計論』（慶應義塾大学出版会）

授業の計画：

会計（学）の基礎

- (1) 会計（学）の性格と領域
- (2) 会計の機能
- (3) 会計の構造
- (4) 測定規約の考え方

価値生産活動の会計

- (1) 入帳規約および損益計算規約の全体像
- (2) 実現主義の本質
- (3) 原価配分の諸相と特殊な支出の期間配分

資本貸与活動の会計

- (1) 派遣分資産に関する会計の全体像
- (2) 定利の獲得を企図する資本貸与活動の会計

資本の算段活動の会計

- (1) 負債処理の基本的原則

結章 現行会計の全体的性格

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

経営学

(春) 商学部 教授 今口忠政
(秋) 商学部 教授 渡部直樹

授業科目の内容：

企業を取り巻く環境は急激な勢いで変化している。グローバル化、情報化、個客化などの進展によって、企業経営のあり方も、迅速に、かつ柔軟に変化に適應できる形態が求められている。講義では、企業を取り巻く環境の変化とそれに対応した経営という視点で、経営学の理論と事例を紹介するが、それを通じて、現代企業が置かれている経営状況を具体的に理解し、これからの企業経営に必要な考え方を提供する。

担当者は春学期のみであるから、経営学の歴史的な発展、企業形態、企業統治などを中心として、現代企業が抱える問題を理解する。そして、多くの従業員、資本、設備から構成されている企業を組織的に運営するために必要な、経営戦略の策定、組織の設計、マネジメントについて講義する。講義を通じて、良い企業の行動、優れた企業の取り組みを理解する。

テキスト：

〔春学期〕今口忠政『事例で学ぶ経営学』白桃書房、2004年。

〔秋学期〕特になし。毎回プリント配布

参考書：

〔春学期〕

- ・小倉昌男『経営学』日経BP社、1999年。
 - ・今口忠政『戦略構築と組織設計のマネジメント』中央経済社、2001年。
- その他は講義時に随時紹介します。

〔秋学期〕授業内で紹介する

授業の計画：

〔春学期〕

1. 経営学の歴史
2. 会社形態と経営者の役割
3. 企業統治とトップマネジメント構造
4. 大規模経営と社会的責任
5. 合併・買収(M&A)とベンチャービジネス
6. 環境適應システムと経営戦略
7. 製品戦略とマーケティング
8. 経営情報と知識経営

9. 経営組織の形態
10. 日本型経営とその変化
11. 企業財務と利益計画
12. これからの企業経営

〔秋学期〕

1. 貨幣(カネ)の流れから見た企業の管理問題、財務管理論(経営財務論)
2. 財(モノ)の流れから見た企業の管理問題、販売管理(マーケティング)
3. 財(モノ)の流れから見た企業の管理問題、生産管理、サプライ・チェーン・MGT
4. 個人(ヒト)の流れから見た企業の管理問題、組織論、人的資源管理、経営教育論
5. 情報の非対称性と企業 市場の失敗 エージェンシー問題、逆選択、モラル・ハザード
6. 市場の変化と企業の発展(神の)見えざる手(経営者の)見えざる手 消え行く手
7. 企業戦略と企業戦略論 変遷と意義 産業組織論 戦略論
8. 企業組織の多様性 = 市場の変化への制度的対応
9. 各国企業の多様性 日・米・欧の企業比較 なぜ相違が生じるのか
10. 株式会社と所有権(プロパティ・ライツ)構造
11. コーポレート・ガバナンス 企業は誰のためにあるのか?
12. 企業倫理とコンプライアンス
13. 企業の変遷と経営教育

履修者へのコメント：

望ましい企業行動とは何か、優れた企業とはどのような企業か、企業内部はどのような組織で運営されているか、革新的な企業とはどのように経営しているのか、経営者の役割とは何か等に関心がある受講生が好ましい。

成績評価方法：

〔春学期〕

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(数回の出席と小レポート)
- ・1回目の授業時に説明します。

〔秋学期〕試験の結果による評価

質問・相談：

〔春学期〕授業終了後

〔秋学期〕メール watanabe@fbc.keio.ac.jp

近代日本研究 , 近代日本研究 ,
近代日本研究演習 , 近代日本研究演習 ,
明治期日本女性論と福澤諭吉 ,
明治期日本女性論と福澤諭吉

福澤研究センターと併設する上記科目については、p.00「福澤研究センター」を参照してください。

〔Ⅱ. 総合教育科目〕

人 類 学 [系]

人類の過去・現在・未来

講 師 吉 田 俊 爾

授業科目の内容：

今、人類を取り巻く問題をざっと挙げてみても、環境破壊・人口増加・食料不足・人種差別・民族紛争・テロリズムなど、枚挙にいとまがない。残念ながらいずれの問題もいわゆるヒトがつくり出している問題なのである。そして、各問題は有機的に関連し合っている。世界の政治・経済機構、研究・教育機関、宗教組織、そして個人までもがこれらの問題の解決を第一の課題におかずして、その解決は遠くおよばないであろう。人類を取り巻く上記の諸問題を解決できなければ、人類は滅亡に至ることは今や明白である。今日、やっと環境に関する世界会議が開催されるようになった。今後の課題としては、これからの諸問題に対して個人個人が何をしなければならぬか、何ができるかということである。そのためには、まず私達が自分自身を知ることである。そのために生物としてのヒトを探求するのが形質人類学である。授業では、基本的な人体構造の理解を軸として、形質人類学の課題（ヒトの起源と進化、変異、日本人の起源など）、日常のトピックスについて解説します。

テキスト：

・片山一道、五百部裕他『人間史をたどる 自然人類学入門』朝倉書店

参考書：

(1) 中原 泉著『歯の人類学』医歯薬出版

(2) 片山一道著『古人骨は生きている』角川書店

(3) 竹原直道編、坂下・藤田・松下・下山著『むし歯の歴史』砂書房

授業の計画：

初回の授業（ガイダンス時）で提示し、資料を配布します。

履修者へのコメント：

ヒトに興味のある学生を歓迎します。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

質問は授業中、相談は授業終了後に受け付けます。

情報処理（経済学・社会学のためのデータ分析Ⅰ 系Ⅰ 春学期）

講 師 相 場 裕 子

授業科目の内容：

本授業は、経済学・社会学分野における実践的なデータ分析の方法の応用を紹介し、統計手法に対する理解を深め、計量経済学やマクロ分析、社会調査等に役立つ情報処理能力を養成することを目的とする。

講義では、実際に表計算ソフトウェアや統計パッケージを使ってデータ分析を行い、その画面を見ながらデータ分析の方法やデータの読み取り方を解説する。データ分析のノウハウを身につけるには講義の聴講だけでは不十分なので、授業時間以外にも積極的に実習に取り組んでいただきたい。

テキスト：

特に定めませんが、講義資料（レジュメ）を配布する。

参考書：

講義中に参考文献を適宜紹介する。

授業の計画：

1. データ分析入門（4回）

推定と仮説検定

標本誤差と標本の大きさ

データの整理とグラフ表示

分布の特性の把握

統計的検定

2. 統計調査と分析（2回）

主な経済統計の種類、使い方

地域統計の収集方法、分析方法

3. 回帰分析（2回）

線形回帰モデル

マクロ経済モデル

4. 多変量解析（4回）

数量化理論

分散分析

4. 社会調査の進め方（1回）

調査計画

まとめ

履修者へのコメント：

受講者は、PC (Windows)、および表計算ソフト (Excel) の基本操作と統計学の基礎的な知識を身につけていることを前提とする。

授業内容の理解を深めるため毎回小課題を課すので、積極的に取り組んでいただきたい。

成績評価方法：

平常点および期末レポートにより評価する。

質問・相談：

授業時間中の質問を歓迎する。授業時間以外は、e-mail にて対応する。

歴 史 [系]

日本中世社会の諸相

講 師 池 和 田 有 紀

授業科目の内容：

中世の人々はどのような社会に生き、どのような思考を持っていたのでしょうか。

それを探るために、まずは中世史研究の方法について学びます。

講義では、研究の根幹をなす史料の種類や読解方法を解説し、いくつかの史料について読解を実践します。

それらをもとに、最近の研究成果をふまえて、日本の中世社会の実像に迫ってみたいと思います。特に、政治と文化の関係を深く探ることになるでしょう。

前近代社会の諸相を学ぶことで、多様な文化への理解が求められる現代社会に対応しうる、柔軟な歴史的思考を目指します。

テキスト：

随時プリントを配布します。

授業の計画：

初回の授業で提示します。

法 学 (憲法を含む) [系]

講 師 松 浦 聖 子

授業科目の内容：

現代社会と法

社会構造の複雑化、財の流通の加速化により、我々を取り巻く法的環境は極めて多様化している。一人の人間は、国民として、家族として、個人として、または消費者として、あるいは専門家として様々な形で法と関わる。特に、個人が社会と関わる上で避けることのできない「契約」という法的人間関係は、現代社会が直面する諸問題と密接な関連がある。本講義は、法学入門としての基礎知識の理解を徹底するとともに、現代社会に特徴的な法的問題に対する理解を深めることを目標とする。

テキスト：

・伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門』有斐閣双書

・コンパクトタイプの六法（2005年度版）

参考書：

・碧海純一『法と社会』中公新書

・田中成明『法的空間』東京大学出版会

授業の計画：

【前期】

1. 法とは何か

2. 法の適用 (1) 裁判の諸原則 (2) 民事訴訟 (3) 刑事訴訟 (4) 法源

3. 法の体系 (1) 法の分類 (2) 公法と私法 (3) 実定法の体系

4. 国家と法 (1) 国家と憲法 (2) 日本国憲法の基本原理

5. 犯罪と法 (1) 犯罪と刑法 (2) 刑法の機能 (3) 犯罪の成立要件

6. 家族生活と法 (1) 家族法 (2) 婚姻 (3) 離婚 (4) 親子 (5) 扶養 (6) 相続
【後期】

7. 財産関係と法 (1) 財産法 (2) 取引の主体 (3) 取引の客体
8. 契約 (1) 契約の機能 (2) 契約の成立とその効力 (3) 債務不履行 (4) 損害賠償
9. 労働と法 (1) 労働法の理念と体系 (2) 労働保護法 (3) 労働団合法
10. 国際社会と法 (1) 国際法 (2) 国家の不法行為 (3) 秩序回復
11. 民事訴訟手続 (1) 民事訴訟の基本原則 (2) 民事訴訟の流れ (3) 少額訴訟 (4) 民事執行
12. 刑事訴訟手続 (1) 刑事訴訟の基本原則 (2) 刑事訴訟の流れ (3) 刑事訴訟法と刑法

履修者へのコメント：

法律学は暗記の学問ではなく、論理的体系を持った理解の学問なので、講義には必ず出席すること。
ニュース報道などで取り上げられている事件や社会問題の法的な意味にできるだけ関心を持つこと。

成績評価方法：

試験の結果・レポート・出席状況等を総合して評価します。

近代思想史 [系]

ドイツ近代社会思想における自由と共同

講師 針谷 寛

授業科目の内容：

ヨーロッパ社会思想史における「市民社会」概念の変遷を手がかりとしながら、西欧近代社会とその思想の諸問題を検討する。材料としてはカント、ヘーゲル、マルクスなどドイツ近代の思想家の社会理論を重点的に取り上げる予定。これらの理論を扱うに際しては歴史的なコンテキストの中で考察することに努める。

テキスト：

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

講義の中で紹介する。

授業の計画：

初回の授業で提示する。

履修者へのコメント：

予備知識を前提しない形で話を進めますが、理論的内容が大きな比重を占めるので、頭の中で何度も理論的なつながりを手繰り直す根気が必要です。

成績評価方法：

レポートによる評価

質問・相談：

随時

美術 [系]

西洋建築様式史

講師 金山 弘昌

授業科目の内容：

古代から近代にいたる西洋建築史の基礎を理解し、西欧文化についての教養を深めることを目的に、各時代や各地域の建築について、おもに様式の変遷という観点から概説します。また授業ではスライドを使用します。

テキスト：

特に使用しません。プリントを配布します。

参考書：

- ・熊倉洋介・末永航他『カラー版 西洋建築様式史』美術出版社,1995年
- ・西田雅嗣編『ヨーロッパ建築史』昭和堂,1998年

授業の計画：

1. 西洋建築史の基礎知識。もっとも基本的な概念や用語についての解説。(2回)
2. 古代ギリシアとヘレニズムの建築(3回)
3. 古代ローマ建築(3回)
4. 初期キリスト建築・ビザンチン建築・初期中世(プレ・ロマネスク)建築(2回)
5. ロマネスク建築(3回)
6. ゴシック建築(3回)

7. ルネサンスとマニエリスムの建築(4回)

8. バロックとロココの建築(3回)

9. 18世紀後半から19世紀の建築(3回)

成績評価方法：

- ・授業内試験の結果による評価
- ・平常点(出席状況および授業態度による評価)

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

地域研究 中国事情 [系](春学期)

講師 清水 美和

授業科目の内容：

中国は急速な経済成長を遂げるとともに、政治や社会も激しく変化している。「反日」「私営企業家の台頭」「格差の極大化」など従来の中国に対する先入観では理解できない事象も次々に起きている。授業では、現代中国に関するさまざまな疑問に答える形で、新たな現象が生じてきた背景を探っていく。時事解説にとどまらず、個別の問題から、それにかかわる現代中国史の断面を明らかにする形で進め、全体として中国共産党の統治能力の限界を見極めることを意図する。春学期は政治、外交に重点を置く。

テキスト：

- ・清水美和著『中国はなぜ「反日」になったか』(文春新書)『中国農民の反乱』(講談社+文庫)

参考書：

追って指定する。

授業の計画：

追って明らかにする。

履修者へのコメント：

アカデミズムのみならずジャーナリズムを志望する諸君も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(不定期に授業で明らかにしてほしい中国にかかわる疑問や授業への質問をアンケートし、その回答内容も成績評価に加味する)

質問・相談：

担当教員にメールで。アドレスは ADS13180@nifty.com

地域研究 中国事情 [系](秋学期)

講師 清水 美和

授業科目の内容：

中国は急速な経済成長を遂げるとともに、政治や社会も激しく変化している。「反日」「私営企業家の台頭」「格差の極大化」など従来の中国に対する先入観では理解できない事象も次々に起きている。授業では、現代中国に関するさまざまな疑問に答える形で、新たな現象が生じてきた背景を探っていく。時事解説にとどまらず、個別の問題にかかわる現代中国史の断面を明らかにする形で進め、全体として中国共産党の統治能力の限界を見極めることを意図する。秋学期は社会、経済に重点を置く。

テキスト：

- ・清水美和著『中国が「反日」を捨てる日』(講談社+新書,2006年1月刊行予定)『中国「新富人」支配』(講談社)

参考書：

追って指定する。

授業の計画：

追って明らかにする。

履修者へのコメント：

アカデミズムのみならずジャーナリズムを志望する諸君も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(不定期に授業で明らかにしてほしい中国にかかわる疑問や授業への質問をアンケートし、その回答内容も成績評価に加味する)

質問・相談：

担当教員にメールで。アドレスは ADS13180@nifty.com

授業科目の内容：

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまようわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずから振り返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

授業の計画：

生命倫理、難民問題、犯罪被害者・加害者の人権、同和問題カウンセリングなどのテーマが予定されている。より詳細は初回ガイダンスで明示する。

履修者へのコメント：

体系的な知識を学ぶための講義ではなく、様々な問題状況を講師とともに追体験し、人間の尊厳に関する自らの生き方や考え方をあらためて見つめ直す機会をもつための講義である。誠実で素直で、なおかつ批判的な態度で臨んでいただくことを希望する。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

毎回授業に出席し、それぞれ異なるテーマに直面してそれについて自ら「考える」ことが本講義の趣旨であることから、毎回、授業の最後に、授業を通じて考えたことや疑問点を記述する小レポートの提出を課す。この提出状況（8割以上の提出＝出席をもって単位が認可される）とその内容、ならびにこれらの講義をふまえて自分自身の「人の尊厳」に関わる問題を考察する最終テストの評価によって成績を評価する。

質問・相談：

授業の形式等、事務的な内容については安藤（コーディネータとして毎回参加する）に、講義の内容については各回の講師に対して直接たずねられたい。

〔Ⅲ. 外国語科目〕

(1) 外国語

英語リーディング〔分野3〕 ソーシャル・ベンチャー，ソーシャル・アントレプレナーシップ

通年 火曜日2時限・4時限

教授 河地和子

授業科目の内容：

business for social responsibility という言葉を最近よく聞くようになった。ビジネスの目的はそれまで「金稼ぎ」と考えてきた人が多かったが、ここ数年ビジネスをすることで社会をよくする目的を達成しようとするソーシャル・ベンチャー，ソーシャル・アントレプレナー（社会起業）が増えている。社会起業家たちは地球規模の環境問題，貧困な地域での job creation，あるいは中小企業支援などに向き合い，使命感を持ってビジネスをする。そのことによって自分の人生を有意義なものにしよう，自己実現をしようとする生き方だ。この授業ではそうした社会貢献を中心にすえた起業・起業家について海外のケースを実例に取り，彼らがどのようなビジネスを展開しているか（営利・非営利企業の両方を扱う），なぜそのような企業が社会から要請されるようになったかを考えてゆく。

テキスト：

プリント教材。メーリスを使い，教員が送信・配布した教材を各自がプリントアウトする。

参考書：

必要に応じて紹介する。

授業の計画：

前期：

社会起業の実例についてウェブ情報 起業の経緯，理念，ビジネスの内容など を中心に読んでゆく。

具体例として，ニューヨーク市における中小企業の発掘と支援をする Endeavor；同じくニューヨーク市，ホームレスの住宅再生デベロッパである Commom Ground Community など，約 10 の実例について学ぶ。有名な Ben & Jerry's のように，アイスクリームのビジネスをしているが環境問題や社会運動に取り組む企業も扱う。

後期：

企業の社会的な責任とは何かを知るため，国連の「多国籍企業ガイドライン」などを読む。

なぜ社会起業という新しいビジネスモデルが出てきたのかを知るため，起業家たちの著作からの抜粋を読む。

履修者へのコメント：

この授業のテーマに関心のある人なら誰でも歓迎します。自分が関心のある社会起業を見つけ，それについてプレゼンを行い，積極的な授業参加が求められるため，単位だけがほしい方には不向きなクラスです。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価（評点の 30%）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（主にディスカッションへの参加 評点の 30%）
- ・その他，プレゼンテーションによる評価（評点の 40%）

質問・相談：

面接やメールによって。河地のメールアドレスは kawachi@econ.keio.ac.jp

英語リーディング〔分野：3〕 Science we should know to help us make informed choices about the future.

通年 木曜日4時限

講師 プラット，イアン R.

授業科目の内容：

The science of today affects more people than ever before and the possible choices and outcomes will affect yet more. What are the Big Questions we face, and what are the social and economic implications of the scientists' work and society's decisions on them? Management in (and of) the future will need to take account of the developments in science and technology. Though you may not have studied science at school, or since, you need to know something about science and technology to make informed choices and to get the best out of life. This course will help you do that.

テキスト：

There will be no text to buy. Students will download material and handouts will be provided.

参考書：

Students are expected to already have an English-English dictionary (electronics or paper) such as the *Oxford Advanced Learner's Dictionary* as well as a Japanese-English dictionary.

授業の計画：

In terms of English, this is an intermediate and above course the purpose of which is:

- a) to build confidence in reading science-related texts
- b) to improve English reading skills by using complete texts
- c) to develop English listening and speaking skills
- d) to enjoy learning about a subject (science) via the medium of English.

Each student will be assigned to a group and will download and read the text, or different parts of a text before the class. In the class, the group will work together to identify main points and summarise the text in their own words. The group will then explain their text to others. Follow-up questions will be expected.

The general class pattern will be:

select --> read --> summarize --> explain --> questions --> discuss

On-line materials will be used to explain and extend knowledge in several topic areas, other simple texts will be used to help increase students'

general reading speed over the year and class members will keep a log of their reading speeds.

Students will give presentations (unlikely to be more than one per semester because of class size) on topics they find interesting.

履修者へのコメント：

The class will be conducted in English. Students are expected to ask, and answer questions. Prompt regular attendance is required.

N.B. Six absences in the year will result in a 'fail' grade.

成績評価方法：

Grading will be by continuous assessment based on:

- a) 20% preparation before class,
- b) 40% class participation and
- c) 20% improvement over the course.
- d) 20% attendance

There will be no written examination.

英語リーディング〔分野：3〕 A short history of science and its social repercussions

通年 木曜日 5 時限

講師 プラット, イアン R.

授業科目の内容：

Our culture and the world today are built on the science of the past. This class will help students understand how society has come to depend so much on science. We will read about several events, why and how decisions came to be made, and discuss alternative ideas. Students will make presentations on a variety of people and problems faced by scientists and the societies they operated in.

テキスト：

Hodgson, P., *Science, Technology and Society*, Pub: Kinseido ISBN4-7647-3707-8, ¥1850

Other material will be downloaded from the internet or given as handouts.

参考書：

Students are expected to already have an English-English dictionary (electronic or paper) such as the *Oxford Advanced Learner's Dictionary* as well as a Japanese-English dictionary.

授業の計画：

This is a course for intermediate level and above students. Each student will be assigned to a group and will read the text, or different parts of the text before the class. In the class, the group will work together to identify main points and summarise the text in their own words. The group will then explain their text to others. Follow-up questions will be expected.

The general class pattern will be:

select --> read --> summarize --> explain --> questions --> discuss

On-line materials will be used to explain and extend knowledge in several topic areas, other simple texts will be used to help increase students' general reading speed over the year and class members will keep a log of their reading speeds.

Students will give presentations (unlikely to be more than one per semester because of class size) on topics they find interesting.

It will be necessary for students to do some work between classes.

履修者へのコメント：

The class will be conducted in English. Students are expected to ask, and answer questions. Prompt regular attendance is required.

N.B. Six absences in the year will result in a 'fail' grade.

成績評価方法：

Grading will be by continuous assessment based on:

- a) 20% preparation before class,
- b) 40% class participation and
- c) 20% improvement over the course.
- d) 20% attendance

There will be no written examination.

英語リーディング〔分野3〕

通年 火曜日 3 時限・4 時限

講師 ラインボールド, ロレイン

授業科目の内容：

The objectives of this course are to build confidence in reading by using an authentic English nonprofit management textbook, to improve reading skills by using strategies needed for reading different types and genres, and to develop analytical and critical thinking skills.

Students will study what constitutes effective NPO (nonprofit organization) and volunteer management. For NPOs to be successful in attaining their charitable goals, they must be managed in a similar way as for profit organizations. In addition, other topics to be covered will include NPOs and activists who work with problems such as the aids epidemic, street children, people with disabilities, endangered species, deforestation, war and refugees.

テキスト：

Hutton, S., & Phillips, F., *Nonprofit Kit for Dummies*. New York: Wiley Publishing, Inc., 2001

参考書：

McCurley, S., & Lynch, R., *Volunteer Management: Mobilizing all the resources of the Community*. Illinois: Heritage Arts Publishing, 1996

授業の計画：

Class Work will mainly consist of reading, discussions, and presentations.

履修者へのコメント：

Classes will be conducted entirely in English by an English as L1 speaker. If students would like to have concepts or subtle nuances explained in Japanese, they will be able to ask the instructor outside of class. Students should be prepared to read a lot and have discussions in class.

成績評価方法：

Grades on this course will be determined by the following criteria: regular attendance 20%, active participation 20%, completion of assignments/project file 10%, final presentation 25%, and final essay 25%.

If a student misses more than 8 classes, she/he will fail the course. Being more than five minutes late for class three times will count as one absence. Late assignments will not be accepted unless there is a valid reason.

(2) 外国語 (ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語)

ドイツ語第 (セミナー)

教授 七 字 眞 明

授業科目の内容：

テーマ《現代ドイツを読む》

2006年、サッカー・ワールドカップの開催地として注目を集めるドイツ。今日のヨーロッパの中で政治的にも経済的にも重要な位置を占めるこの国で、今何が問題となり、どのようなことが議論されているのでしょうか。

この授業では、政治、経済、社会、文化等、幅広い分野から選んだテキスト(主としてインターネット掲載の記事)を読みながら、現代ドイツの諸相に触れてみたいと思います。

授業では一つのテーマを2週間にわたり取り上げます。第1週目には、あらかじめ配布したテキストを輪読します。ある程度のスピードをもってテキストを読み進めていきますが、ドイツ語の基本的文法事項に関しても必要に応じて復習を行います。翌週にはテキストの続きを読み、さらにそのまとめとして、テキストのテーマに関して調べてきたことを履修者の全員に、一人10～15分程度で発表していただきます。その作業を通じて、単にドイツ語のテキストを読むだけでなく、日本における状況も念頭におきながら、それぞれのテーマが提起する問題点について議論する場を持ちたいと考えています。

テキスト：

コピーを配布します。

参考書：

特に使用しません。

授業の計画：

春学期には以下のテーマに関するテキストを扱う予定です。

1. メルケル首相と「大連立政権」
2. ドイツの経済状況と失業率
3. ドイツの環境保護政策
4. ドイツ・ポスト社と「郵政民営化」
5. PISA 学習到達度調査の結果
6. サッカー・ワールドカップ・ドイツ大会

履修者へのコメント：

予習にたいへん時間がかかることが予想される授業ですが、ドイツ語力を高めると同時に、現代のドイツ、およびこれを取りまくヨーロッパの社会と文化に興味を抱いている皆さんの参加を希望します。

成績評価方法：

平常点による評価とし、試験は行いません。授業科目の内容にもあるとおり、毎週相当量のドイツ語テキストの翻訳を担当し、さらにはテーマに関する口頭発表を一週おきに行うことが成績評価の前提として要求されます。特に出席を重視し、欠席・遅刻が合計3回を超えた者に関しては単位が認定されませんので、履修にあたり十分注意してください。

ドイツ語第 (セミナー)

教授 八 木 輝 明

授業科目の内容：

1990年統一後の現代ドイツに注目し、EUや発足したユーロ通貨の動向を見ながら、その国内の動きを最新の記事を読みながら探っていく。時事ドイツ語を読解するためには、ふだんから新聞やインターネットで海外の記事に目を通しておくことが肝要。参加者は特にこのことを心がけて欲しい。さらにこのクラスでは初級文法の知識を確認し、深化しつつ中級レベルの文構造を正確に把握する練習を行っていく。時事ドイツ語の場合、特にIT関連の新語がふくまれているので他のヨーロッパ語を意識して、想像力をはたらかせて文章を読み取っていく作業が必要。しかしこのテキストの文章は大変に平易で、詳しい語注がついている。読みやすく書かれた時事ドイツ語を、まずは正確に読み取る練習を積み重ねていきたい。

また最新のドイツのニュースもインターネットから適宜選び出しテキストとして取り上げていきたい。また授業のなかで、最近のドイツ映画やインタビューなどを、DVDを使って紹介していく予定。

昨年(2005年)から日本でドイツ年が開催され文化・科学・経済の分野を中心に多彩な催し物がくりひろげられる。また今年は4年に一度のサッカーワールドカップがドイツで行われる。また慶應大学でもドイツ(ドイツ語圏)の複数の大学と交流協定を結び、さまざまな学部学生がドイツ語圏へ留学している。こうした点も授業のなかで紹介、解説していきたい。

必ず予習をしてのぞむこと。

テキスト：

『時事ドイツ語 '05年トピックス』朝日出版社

履修者へのコメント：

平常の出席状況と授業での積極的姿勢が重要な評価のポイントになる。

成績評価方法：

平常点(出席状況、授業態度および筆記試験)

授業科目の内容:

購読 + 中・上級レベルの文法

テキスト:

・Neuigkeiten aus Deutschland '05, 朝日出版社 + 文法プリント

参考書:

・なし。必要に応じて指示します。

授業の計画:

まず、2005年にドイツで起きた出来事をまとめた文章を読み、時事的・文化的な理解を深めます。次に、受動態・分詞構文・関連詞・語順・接続法などに関して、初級段階で扱われることの少ない事情を講義と練習問題により学習します。

履修者へのコメント:

この授業には「必ずここまで進まなければならない」という範囲はありません。分からないことは、時間をかけても、分かるまで質問しましょう。授業への積極的な参加を大きく評価します。逆に、消極的な態度や不参加には負の評価をします。授業内試験があります。

成績評価方法:

授業内試験の結果に出席・授業への積極的な参加を加味して算出します。

質問・相談:

直接、あるいはメールにて、常時受け付けます。メールアドレスおよびその他の連絡形態は初回の授業で説明します。

フランス語第 (セミナー中級) フランス語総合トレーニング

教授 西尾 修

授業科目の内容:

フランス語の総合的運用能力の養成とフランス語テキストの文化的背景の理解を目的とします。さまざまな分野のテキストを用いながら、とにかく声を出してフランス語に親しみ、これを理解し、さらには表現能力へと発展させることを目指します。簡単な詩、小説などのプリントから始めるつもりですが、何よりも受講生諸君の積極的な参加意識を期待しています。

成績評価方法:

まずは定期試験の成績、そして何よりも普通の授業中での諸君の参加ぶり、そういったものを総合して評価するという、ごく当たり前のやり方です。

フランス語第 (セミナー中級)

専任講師 林 田 愛

授業科目の内容:

翻訳に重点を置きながら、時事、歴史、文学など、多岐にわたる分野でのリーディング能力の向上を目指します。異文化への理解を確実に深めるために、比較的平易なフランス語で書かれている教材を選びます。さらに、読解だけでなく「書く」ことを通じて、フランス語の能力と同時に論理的思考法の強化もはかりたいと思います。予習を必須とし、積極的な授業への参加を求めます。

テキスト:

プリントを配布します。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

中国語第 (セミナー)

講師 道上知弘

授業科目の内容:

ビジネス中国語会話入門の授業です。中国語には文法としてのいわゆる「敬語」は存在しませんが、様々な言い回しによって相手との距離を調整することができます。この授業では、そのような語彙や表現を知り、フォーマルなビジネス・シーンにも対応できるような中国語の感覚を養うための基礎を身につけることを目指します。また、折りにふれ、各種講演原稿などを読み、単なる「作文」ではないプレゼンテーションの形も学んでゆきます。履修者には最低一回はテーマを定めてプレゼンテーションを行ってもらう予定です。

ビジネスに限らず、豊かで適切な中国語を扱うためには、中国語圏の文化、歴史、社会、あるいは時事問題などに対する総合的な知識と理解が不可欠です。「一般常識」である事柄については中国語学習の一環として授業中に答えてもらいますので、普段から意識的に中国語圏に関する情報の収集を心がけてください。

なお、この授業はあくまで中国語の授業ですので、中国ビジネスのノウハウそのものは扱いません。あらかじめ了承しててください。

テキスト:

李憶民主編『国際商務漢語(上)』北京語言大学出版社

参考書:

- ・塚本慶一『実戦ビジネス中国語会話』白水社
 - ・塚本慶一『実戦ビジネス中国語単語集』白水社
 - ・塚本慶一『ビジネス中国語キーワード600』語研, 他
- 開講時に工具書リストを配布します。

授業の計画:

第一回 ガイダンス

第二回 自己紹介（中国語）

第三回以降 テキスト使用（履修者のレベルによって進め方を決めます）

履修者へのコメント：

入門・中級レベルの語彙，表現は習得していることを前提に授業を行いますので，授業外でも常に中国語に触れるように努めてください。将来，中国関係の就職を目指している人，研究者志望の人，通訳志望の人，または純粋に中国語をブラッシュアップさせたい人を主な対象とします。中国語母語話者の参加も歓迎します。

中国語第 （セミナー）

教授 竹内良雄

授業科目の内容：

中国の新聞，雑誌を読んでいきます。記事はなるべく日中関係の問題を中国側から述べているものを選び，中国がどのような考えを日本に抱いているかを見ていきたいと思っています。

テキスト：

プリント。

授業の計画：

最初はピンインがふれられたものを用意しますが，全員が訳の最初の分担を終えたところで，以降はピンインがない記事を読んでいきます。

履修者へのコメント：

訳担当者以外も必ず予習してください。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点

質問・相談：

takeuchi@hc.cc.keio.ac.jp 宛にメールで聞いて下さい。

中国語第 （中級）

講師 陳愛玲

授業科目の内容：

初級で覚えた中国語をスムーズに口から出るよう，繰り返し練習を行い，さらに応用能力を身につける。授業は次のことをポイントに進めていく。

- 1) 聞いてすぐ理解できる
- 2) 正確な発音および自然なリズムで言える
- 3) 日常的な応答および発話ができる

テキスト：

プリントを配布する

参考書：

開講時に指示する。

履修者へのコメント：

授業中のペアワーク，グループワークに積極的に参加すること。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）
- ・口頭試験の結果

スペイン語第 （セミナー）

通年 火曜日 4 時限

講師 阿部三男

授業科目の内容：

スペイン人やラテンアメリカ人のアイデンティティが垣間見れる簡単な雑誌・新聞記事を読み，随時ビデオ教材や映画も使って，スペイン語圏の文化と社会に関する情報を得ながら読解力・語彙力・会話力を養成したい。

テキスト：

開講時の指示に従ってください。授業中にプリントも配布します。

参考書：

- ・『クラウン西和辞典』三省堂
- ・『クラウン和西辞典』三省堂

授業の計画：

毎回簡単な講義を行うが，適宜ビデオ教材や映画なども使い，重要語彙・文法項目を視覚・聴覚の両面から確認することで，スペイン語の運用能力が身につくような授業を心掛ける。秋学期には過去未来形・命令形・接続法が使いこなせるようにしたい。

履修者へのコメント：

受講者の希望も聞き入れながら授業を進めたいと思います。直説法から接続法までスペイン語文法を再整理したり，リスニングの訓練をしたい人にも利用して欲しい。

成績評価方法：

平常点：年に4回ぐらいの小テストに出席状況・学習意欲などの平常点を加味し，総合的に評価します。

授業科目の内容：

この授業では、スペイン語で使用頻度の高い不規則動詞・再帰動詞・無人称・不定詞・受動態・進行形・現在完了・未来完了などを使った表現やスペイン語の基本的な文法構造をマスターしながら、既習のスペイン語文法のレベルアップを図っていきます。春学期は直説法が中心になります。

テキスト：

開講時の指示に従ってください。授業中にプリントも配布します。

参考書：

- ・『クラウン西和辞典』三省堂
- ・『クラウン和西辞典』三省堂

授業の計画：

文法を単なる知識として持っているのではなく、実際の言語運用場面において使いこなせるように、目だけでなく耳も口も十分に活用し、刺激的で楽しい授業にしたい。随時ビデオ教材や映画を使いスペインおよびラテンアメリカの文化・社会に触れながら、使える表現の習得に努めたい。秋学期には接続法を使った表現を多く扱う予定である。

履修者へのコメント：

スペイン語会話の中でよく使われる語彙・表現・文法事項の復習から始めますので、会話力をつけたい学生には積極的に参加して欲しい。

成績評価方法：

平常点：年に 4 回ぐらいの小テストに出席状況・学習意欲などの平常点を加味し、総合的に評価します。

〔 選択 A 〕

ドイツ語第 (選択 A)

教授 中山 純

授業科目の内容：

2 年以上のドイツ語学習歴がある学生を対象に、ドイツ語テキストへのアプローチの方法と読解技術、読後の情報整理を学んでいきます。取り上げるテキストはいずれも広い意味で「ドイツ人とはなにか」という問題を扱っています。1 年間の授業を通して、単に読解スキルを習得するのではなく、ドイツ語学習の裏付けになるドイツ情報も収集していきます。

テキスト：

使用するテキストは初回の授業で配布します。

参考書：

- ・中島悠爾, 平尾浩三, 朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ』白水社
- ・新田春夫『ドイツ語 言葉の小径 言語と文化の日独比較』大修館
- ・永井清彦『キーワードでよむ ドイツ統一』岩波ブックレット NO.170
- ・加藤雅彦他『事典 現代のドイツ』大修館

授業の計画：

授業の進行計画は、授業で配布します。

履修者へのコメント：

年間計画を含めて授業に関する諸注意事項は初回の授業で行います。履修希望者は必ず初回から出席してください。また教育実習や就職活動で長期に欠席する可能性がある人は、事前に相談をしてください。

成績評価方法：

成績は授業中の発表, 出席状況, 試験結果で総合的に判断します。

質問・相談：

授業に関する質問や相談については、初回の授業で連絡先メールアドレスを伝えます。

フランス語第 (選択 A)

講師 日佐戸 ミッシェル

授業科目の内容：

Travail et discussion sur des articles de presse

テキスト：

photocopies d'articles de journaux et magazines

授業の計画：

Compréhension des textes avec explication des expressions en français. Echange d'idées et d'opinions sur les thèmes concernés.

中国語第 (選択 A)

講師 陳 愛玲

授業科目の内容：

言葉の根底にある中国人の「こころ」を探る。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

開講時に指示する。

履修者へのコメント：

授業内容を必ず事前に辞書などで調べ、予習してから授業に臨むこと。

積極的に授業に参加し、積極的に発言する受講者を歓迎する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）
- ・口頭発表
- ・レポート

ロシア語（選択 A）

講師 佐野 洋子

授業科目の内容：

このクラスは初めてロシア語を学ぶ人を対象とし、一年間で初級文法を習得します。最終的には、平易なロシア語のテキストを読む力をつけることを目的とします。

テキスト：

生協購買部にて、コピー冊子を購入して下さい。

参考書：

辞書が必要になりますが、初回の授業で説明します。

授業の計画：

春学期は、発音、文法にあて、秋頃から読みものに入ります。会話用のテキストも併用する予定です。

履修者へのコメント：

読みものに入るまでは、予習は必要がないよう心がけますので、授業には必ず出席するようにしてください。

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度による評価）

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

平成 18 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	教員名	単位数
サンスクリット (初級)	土田龍太郎	通年 2 単位
サンスクリット (中級)	土田龍太郎	
アラビア語 (基礎)	榮谷温子	
アラビア語 (現代文講読)	榮谷温子	
アラビア語 (古典)	岩見 隆	
アラビア語文献講読	岩見 隆	
ヴェトナム語 (初級)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語 (中級)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読	嶋尾 稔	
ペルシア語 (初級)	関 喜房	
ペルシア語 (中級)	岩見 隆	
タイ語 (初級)	三上直光	
タイ語 (中級)	ポンシー, ライト	
トルコ語 (初級)	ヤマンラール, アイドウン	
トルコ語 (中級)	ヤマンラール, アイドウン	
朝鮮語文献講読	野村伸一	
カンボジア語 (初級)	三上直光	
ヘブライ語 (初級)	笈川博一	
ヘブライ語 (中級)	笈川博一	
古代エジプト語 (初級)	笈川博一	
古代エジプト語 (中級)	笈川博一	
アッカド語 (初級)	高井啓介	
アッカド語 (中級)	高井啓介	

サンスクリット（初級）

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容：

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。

参加者は、練習問題の予習が必要となる。

テキスト：

- ・ヤン・ホンダ著 鎧淳 訳「サンスクリット語初等文法（春秋社）
- ・辻 直四郎著「サンスクリット文法」（岩波書店）

授業の計画：

- ・サンスクリット語とはなにか
- ・アオリスト活用
- ・子音と母音
- ・完了活用
- ・名詞変化の基礎
- ・その他の動詞形
- ・動詞変化の基礎
- ・複合語等
- ・母音曲用
- ・子音曲用
- ・動詞現在組織
- ・動詞未来及受動変化

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

サンスクリット（中級）

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容：

サンスクリット語の初歩をすでに一通り取得したもののための授業である。

テキスト：

参加者の希望で決める。

授業の計画：

サンスクリット では、参加者と相談して決めたテキストを講読、文化史宗教史の事項と文法解説を行う。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

アラビア語（基礎）

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容：

正則アラビア語（フスハー）のアラビア文字の読み方、綴り方からはじめ、一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。

テキスト：

佐々木淑子著『アラビア語入門』（翔文社、2004年、1905円）
必要に応じてプリントや練習問題を配布します。

参考書：

参考書 David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画：

- 第1回 第6回 アラビア文字のつづり方、名詞の性・格・複数、人称代名詞と前置詞
- 第7回 第13回 指示代名詞・形容詞・疑問詞および名詞文の構造
- 第14回 第20回 動詞完了形・未完了形および受動態・分詞・動名詞・場所名詞
- 第21回 第26回 不規則動詞および派生形

履修者へのコメント：

毎回宿題を出します。アラビア語の文法はテキストでの独習のみでは理解がむずかしい部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

アラビア語（現代文講読）

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容：

基礎文法の習得を終えた人を対象として現代文の講読を行います。講読を通して、アラビア語の基本的な文章構造の理解、さらには母音記号などの補助記号がついていない文章にたいする読解力の養成を目的とします。

テキスト：

プリントを配布します。

辞書は、Hans Wehr, A Dictionary of Modern Written Arabic-Englishを使用します。

参考書：

- ・佐々木淑子著『アラビア語入門』（翔文社、2004年、1905円）
- ・David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画：

初回には、辞書や文法書、授業の進め方を説明をします。最初は母音記号のついた平易な文章からはじめます。その過程で既習の基礎文法や辞書による単語の調べ方を再確認していきます。順次程度の高い文章の講読をしていき、最終的には母音記号のついていない文章を、自らの文法知識を用いて読解できるようにしたいと思います。

第1週 第6週 母音記号がついた平易な短い文章（名詩文・動詞文）の講読。

第7週 第13週 母音記号がついた長い文章を講読。

第14週 第26週 要所のみ母音記号がついた文章から、最終的には母音記号がつかない文章の講読。

履修者へのコメント：

文法の復習を繰り返しながら文章をよみます。辞書と文法書を必ずもってきてください。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

アラビア語（古典）

アラビア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みにどう生かすかを課題としてやります。

テキスト：

Brünnow-Fischer: Arabische Chrestomathie
プリントで配ります

参考書：

井筒俊彦：アラビア語入門、慶應出版社 1950.

授業の計画：

最初の日には、参考書や辞書の紹介などガイダンスをやります。

春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしようと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

履修者へのコメント：

少くとも規則動詞原型の完了、未完了の変化は完全に頭へたたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。）

アラビア語文献講読

アラビア語演習 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

アラビア語の定評ある古典の中、平易な散文（叙事の文）をあたりまえに読めるようになることを目指します。

テキスト：

受講者と相談して決めます。

参考書：

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. Press, 1962

授業の計画：

第1回はガイダンスで、参考文献、辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお、対象が古典ですから、単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。

履修者へのコメント：

初等文法の諸規則や用語に慣れておくことが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずあてますから、そのつもりで来て下さい。）

ベトナム語（初級）

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

ベトナム語を基礎から学ぶ。発音、綴り字、初級文法、簡単な会話力の習得を目指す。

テキスト：

『ベトナム語入門』（慶應外国語学校）

参考書：

富田健次『ベトナム語 はじめの一歩まえ』（DHC, 2001年）

授業の計画：

初回のガイダンスで知らせる。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（時々小テストを行う。）

ベトナム語（中級）

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

変更なし

初級ベトナム語を学び終えた人を対象に文献講読を行う。最初は簡単なものから始めるが、受講者のレベル・要望に応じて、雑誌・新聞などの記事などを読んでいくことにしたい。

テキスト：

初回に受講者と相談して決める。

参考書：

小高泰・Nguyen Thi Mai Hoa『会話で覚えるベトナム語 666』（東洋書店, 2005年）

履修者へのコメント：

ベトナム関係のウェブサイト上の、ベトナム語の辞典、テキスト、新聞の中から便利で有益なものを随時紹介してゆきたい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ベトナム語文献講読

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

ベトナム語で書かれたベトナムの歴史や文化に関する文章を広く読んでゆく。

テキスト：

初回に受講者と相談して決める。

参考書：

富田健次『ベトナム語の世界：ベトナム語基本文典』（大学書林, 2000年）

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ペルシア語（初級）

ペルシア語文法 言語文化研究所 講師 関 喜房

授業科目の内容：

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第、易しい文章を読むつもりです。その際、文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

テキスト：

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）

参考書：

黒柳恒男著『ペルシア語の話』大学書林

授業の計画：

講義計画は以下の通りです。

- 1- ガイダンス
- 2- 文字の習得
- 3- 教科書を用いた文法の学習（計16回）
- 4- 易しい現代文を読む練習（計7回）
- 5- テスト

履修者へのコメント：

教科書の練習問題を必ず予習すること。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
 - ・平常点：出席状況および授業態度による評価
-

ペルシア語（中級）

ペルシア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように、平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

テキスト：

受講する人と相談して決めます。

参考書：

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ. Press, 1974

授業の計画：

最初の日にテキストを相談して決めるなどガイダンスをやります。2回目以後はひたすらテキストを読みます。

履修者へのコメント：

文法は理解しているものと考えてやります。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回あてますから、毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。）

タイ語 (初級)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

タイ語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

タイ語 (中級)

言語文化研究所 講師 ポンシー・ライト

授業科目の内容:

タイの小学校2年生の教科書より短編ストーリーを用いて、タイ語の運用能力向上を目指します。

テキスト:

プリント使用。

授業の計画:

前期は文章表現と読解力、後期は会話表現と聞き取りに重点を置きます。

履修者へのコメント:

あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語 (初級)

トルコ語初級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドウン

授業科目の内容:

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

テキスト:

プリント使用

授業の計画:

- 第1 - 2回 トルコ語の特色、母音・子音の調和。
- 第3 - 7回 “～は～です”の構文、助詞(格)、副詞、形容詞
- 第8 - 13回 動詞(現在・単純過去・超越などの時制)
- 第14 - 17回 動詞(伝聞過去・未来などの時制と複合時制)
- 第18 - 21回 分詞
- 第22 - 24回 動名詞
- 第25 - 26回 条件文、仮定法など

以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので、一応の目安と考えてください。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語 (中級)

トルコ語中級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドウン

授業科目の内容:

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキスト:

プリント使用

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

朝鮮語文献購読

文学部 教授 野村伸一

授業科目の内容:

大韓民国という国家、社会の歴史と現状を知るためのテキストを講読します。

今日「韓流」というマスコミにより流布された一種の流行現象に興味を抱く人は多く、皆さんのなかにもそうした人はいるでしょう。そのこと自体はきっかけとしてはいいことです。しかし、それにまつわる言説だけをみても、決して内面的な理解には到達し得ないでしょう。

すべて、ものごとには、来歴と「いうにいわれぬこと」があるものです。朝鮮民族にとって、それはどういうものであったのか。それを知らない限り、日本と朝鮮半島は時流の往来をくり返すばかりではないでしょう。

テキスト:

韓洪九『大韓民国史 03』、ハンギョレ新聞社、2005年。各自、韓国書籍を扱う書店(例、三中堂、高麗書林)もしくはソウルの大型書店に注文して入手してください。

参考書:

- ・韓洪九著、高崎宗司監訳『韓洪九の韓国現代史 韓国とはどういう国か』、平凡社、2003年
- ・同『韓洪九の韓国現代史 2 負の歴史から何を学ぶのか』、平凡社、2005年
- * 上記の翻訳書は韓洪九『大韓民国史 01』、『大韓民国史 02』に相当します。

<http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/shohvou1.html> に書評を掲載しました。

授業の計画:

毎回、原文で4、5頁の講読をします。受講者は翻訳してきてください。

履修者へのコメント:

受講者は朝鮮語を読む準備ができていないことが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で、なお、それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ、明らかに違つともおえる表現に出会うことがたいせつです。

この授業に関連することからは随時、<http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/kougi.html> に掲載します。

またインターネットハンギョレ <http://h21.hani.co.kr/> には『ハンギョレ 21』があり、ここに韓洪九氏の連載コラムがあります。上記の著書はこれを編集したものです。そこでは、現実に生起する諸問題が歴史的な視点で興味深く論じられています。三八六世代を含めた韓国の中堅世代の視点、意見が適確に反映されているものとして、理解する必要があります。

成績評価方法:

出席すること、翻訳結果を学期末に提出することで評価します。

カンボジア語 (初級)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

カンボジア語入門講座。発音, 文字の読み書き, 初級文法, 基本表現の習得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え, 後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

ヘブライ語 (初級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが, プリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが, それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ, 出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには, 辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

ヘブライ語 (中級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

旧約聖書サムエル記の講読。

テキスト:

テキストはプリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが, それについては授業で案内する。

授業の計画:

初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め, 散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語 (初級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは「ヴェナモン」を用いるが, プリントを授業で配布する。

参考書:

5月ごろから辞書(約¥9000)が必要となるが, それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ, 出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには, 後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語 (中級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

中期エジプト語の初歩。

テキスト:

テキストは「難破した水夫」であるが, プリントを授業で配布する。

参考書:

辞書は Raymond O. Faulkner "A Concise Dictionary of Middle Egyptian" Oxford (Amazon JP で ¥3542), あるいはその日本語訳が必要となる。

授業の計画:

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ, より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

アッカド語 (初級)

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容:

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが, 足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら, アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には, ハムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

テキスト:

Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

参考書:

開講時に指示します。

授業の計画:

以下のようなスケジュールを予定していますが, 授業の進み具合に応じて変更することもあります

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞（計三回）　　コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹（計五回，語根の判別，変化，叙法など）とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形（計三回）
7. 動詞 S 語幹とその派生形（計三回）
8. 動詞 N 語幹とその派生形（計三回）
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典，イシュタルの冥界下りなど　　テキストを読みつつ文法事項を確認します（計五回）

履修者へのコメント：

古代メソポタミアの文化，歴史，宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば lampbreaking@ybb.ne.jp まで連絡してください。

アッカド語　（中級）

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容：

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら，簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

授業の計画：

講義計画

読むテキストについては，初回に受講者と相談の上決定するつもりですが，以下のような内容のテキストを取り上げることになるでしょう。

前期：王碑文，書簡，法律文書，契約文書など（計十三回）

後期：神話・叙事詩，祈り文学，占い文書など（計十三回）

履修者へのコメント：

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば lampbreaking@ybb.ne.jp まで連絡してください。

メディア・コミュニケーション研究所の研究生諸君に

メディアコム研究所所長（法学部教授） 関根政美

メディア・コミュニケーション研究所（Institute for Media and Communications Research）は、昭和21年（1946年）に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、平成8年（1996年）に50回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたこととなります。新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると、伝えられております。

既述の通り、当初、新聞研究所は新聞研究室として出発しましたが、後に研究機能の重視を目的に研究所に名称を改めました。かつては、新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていました（当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので読もうと思えば読めます）、今日では実習的な側面よりは研究生（新聞研究所に入所した学生はこう呼ばれます）にはマス・メディアおよびマス・コミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心として基礎的な研究に力を入れてきました。メディア業界からは、すぐに陳腐になりやすいテクニカルな知識や技術のみを身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められており、そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりつつあります。戦後50年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、新聞研究所がスタートした頃の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに多少付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行して行きました。近年では地上波だけではなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的かつグローバルにコミュニケーションが展開する時代になってきました。また、インターネットを中核とし、マルチメディアの展開が叫ばれ、コンピュータ・メディアの時代へと大きく変化し、新聞、ラジオ・テレビの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達が中心であったものが、コンピュータ・メディアの発達により双方向的なものとなると同時に、その情報通信範囲もパーソナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大化し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化は驚くべきものとなりました。また、多チャンネル時代を迎え、放送内容も多様なものになり、アイデアや創造力がメディア業界に働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになったため、平成8年（1996年）には、研究所50年の記念式典を行い翌平成9年度より名称を変更いたしました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による新しいコミュニケーションの時代に合致した名称に変更したというわけです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正なる報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。そして、そのための少人数精鋭教育のためのカリキュラム変更も行いました。研究生には、報道ジャーナリズムやマス・コミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア（とくにコンピュータ・メディア）をある程度理解した上に自由に使いこなせるだけの能力も身に付けて欲しいと思っています。そのために、平成11年10月より、この方面のメディア・リテラシー向上を求めて、「メディア・ワークショップルーム（MWR）」を開設しました（本格的稼働は平成12年4月より）。インターネット放送もはじめました。今では大学生になるまでに、インターネットに十分習熟した学生も増え、より高度なメディア・リテラシーが期待できるので、インターネット放送やオンライン・新聞を盛んにしたいと思っています。

1996年秋に新聞研究所は記念式典を実施し、その際に新しい名称を与え新たなスタートを切りました。基本的な研究所の研究生教育とメディア・コミュニケーション研究は変わりませんが、新たな名称のもとに生まれ変わった研究所の次の50年の発展が大変期待されます。なお、現在のスタッフは所長、専任および兼任所員、事務職員総勢でも10名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生150名（2～4年生）の教育を行っております。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たな歴史を刻む当事者となります。研究所が大きな成果を生むために大いに頑張ってもらいたいと思います。

最後に、メディア・コミュニケーション研究所は、平成18年、つまり、今年ですが、改称して10年目の記念の年を迎えることになりました。名称を変えてあつという間に10年が経ちました。その間のインターネットの普及と展開はめざましく、在来メディアをインターネット会社が買収しようという騒ぎが日本でも発生するようになりました。今後もそうした激動の10年がくり返されると思います。規模は小さいけれど、綱町三田会（修了生の同窓会）というOB・OG組織の皆さんの協力を得て、さらなる発展をめざしたいと思います。

カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の4つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）

メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。

- ・研究会（研究生のみ対象）

研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。

- ・特殊研究（研究生のみ対象）

少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。

- ・基礎演習（研究生のみ対象）

メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

(1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田、日吉、藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。

(2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

・基礎科目	10 単位以上
・研究会	8 単位以上
・特殊研究	4 単位以上
・基礎演習	2 単位以上
合計	28 単位以上

2～4年春学期までに研究会 ～ を順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会（論文指導）を履修すること。すなわち、研究会 ～ と研究会 は全員が履修するが、研究会 と は必修ではない。

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成 18 年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

* 基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	鈴木 雄雅
三田設置科目	国際コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	伊藤 英一
三田設置科目	メディア社会論（法学部併設）	秋 2	藤田 真文
三田設置科目	メディア法制 ・	春 2 / 秋 2	佐々木秀智
三田設置科目	ジャーナリズム論 ・	春 2 / 秋 2	伊藤 高史
三田設置科目	世論 ・	春 2 / 秋 2	小川 恒夫
三田設置科目	情報行動論	春 2	川浦 康至
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋 2	浅井亜紀子
三田設置科目	メディア文化論 ・	春 2 / 秋 2	岩淵 功一
三田設置科目	メディア産業と政策	春 2	菅谷 実
三田設置科目	メディア産業と政策	秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	情報産業論 ・	春 2 / 秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	ジャーナリズム総合講座 ・	春 2 / 秋 2	荒田・萩原・伊藤高
日吉設置科目	マス・コミュニケーション論（法学部併設）	春 2	川端 美樹
日吉設置科目	社会心理学 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	萩原 滋

* 研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	金山 智子
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	小川 葉子
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	大石 裕
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	金 正勲

* 特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義 ・	春 2 / 秋 2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義 ・	春 2 / 秋 2	木村 良一
三田設置科目	広告特殊講義 ・	春 2 / 秋 2	吉田 望
三田設置科目	メディア特殊講義	秋 2	工藤 卓男
三田設置科目	メディア特殊講義	秋 2	鳶 信彦
三田設置科目	特殊研究 ・（日本の近代化とマス・メディア）	春 2 / 秋 2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究 ・（市民とメディア）	春 2 / 秋 2	金山 智子
三田設置科目	メディア産業実習 ・	春 2 / 秋 2	宿南・金山・菅谷・小川

* 基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語 ・	春 2 / 秋 2	高須賀茂文
三田設置科目	文章作法 ・	春 2 / 秋 2	升野 龍男
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習 ・	春 2 / 秋 2	金山 智子
三田設置科目	映像コンテンツ制作 ・	春 2 / 秋 2	金山 勉
三田設置科目	メディア・ネットワーク実習 ・	春 2 / 秋 2	田辺 浩介
日吉設置科目	電子ネットワーク調査法	秋 2	菅谷 実
日吉設置科目	時事英語 ・	春 2 / 秋 2	蓮実 潔
日吉設置科目	文章作法 ・	春 2 / 秋 2	浜村 寿紀

【基礎科目】

マス・コミュニケーション論 (春)

マス・コミュニケーションと政治 大石 裕

授業科目の内容:

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト:

- ・大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書:

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

授業の計画:

- 1回 コミュニケーションの類型
- 2-3回 大衆社会モデル:弾丸効果モデル
- 4-5回 限定効果モデル
- 6-7回 強力効果モデル
- 8-9回 強力影響・機能モデル
- 10回 批判モデル
- 11-12回 ジャーナリズム論再考

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション論 (秋)

ジャーナリズムとメディア言説 大石 裕

授業科目の内容:

ジャーナリズムに関する理論的考察(ニュース論や客観報道論など)、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト:

大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』(勁草書房)

参考書:

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・鶴木眞編『客観報道』成文堂
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

授業の計画:

- 1-2回 マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
- 3回 アジェンダ設定メディアとしての新聞
- 4回 日本のジャーナリズム論の理論的課題
- 5-6回 ニュース分析の視点
- 7-8回 客観報道論再考
- 9-10回 集合的記憶とマス・メディア
- 11-12回 メディア・イベントの政治学

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション発達史 (春)

日本の近代化とジャーナリズム 鈴木 雄 雅

授業科目の内容:

ジャーナリズムの発展について概説する。文字の誕生から紙、印刷などの複製技術の出現、通信、交通手段の発展が、ジャーナリズムの形式を規定していく状況を眺める。さらに幕末日本に新聞、雑誌が出現してから近代新聞が成長し、その過程でジャーナリズムの機能がどのように近代日本の社会発展と関わりあってきたかを考察する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide06.html>

テキスト:

春原昭彦『日本新聞通史[四訂]』(新泉社, 2003)

参考書:

宮地正人『国際政治下の近代日本』(山川出版社)ほか。講義時に紹介する

授業の計画:

1. 幕末期から明治初期:瓦版,新聞紙,近代化とメディア,開港場に新聞,英字紙の発達,幕末新聞の特色
2. 慶応4年(明治元年)の新聞紙,日刊紙の登場:明治のコミュニケーション革命
3. 明治初期の新聞界:奨励策と新聞弾圧,小新聞の登場,自由民権運動の勃興と言論機関
4. 明治14年の政変と新聞の政党化:民権派新聞と新聞の脱政党化
5. 明治の新聞人:日清戦争,日露戦争と新聞界
6. 資本主義の成立と商業新聞の成立(新聞の企業化)
7. 政治的キャンペーンとマス・メディアの成立:ラジオの出現と出版・雑誌界の動き
8. 戦時統制への過程,軍の干渉と新聞人の抵抗,製紙会社,通信社の統合
9. 情報局の成立,統制法規の制定,新聞社の統合,戦時下の新聞
10. 敗戦と占領下の新聞,独立回復と復興への歩み
11. 戦後の新聞界の新しい動き(言論性,販売,広告界の変化,技術革新とその対応)
12. テレビ,週刊誌の出現によるメディアの多様化
13. 現代の変化とジャーナリズムの役割

履修者へのコメント:

日本の近代史についてある程度の知識が必要(高校程度の日本史,世界史)

成績評価方法:

学期末試験・出席状況・授業態度などの総合

質問・相談:

授業中ならびに授業後,Eメール

マス・コミュニケーション発達史 (秋)

イギリスのジャーナリズム 鈴木 雄 雅

授業科目の内容:

ジャーナリズム揺籃の地といわれるヨーロッパ地域のマス・メディアについて学ぶ。外国のマス・メディアを学ぶ基礎的知識・オリエンテーションののち、イギリス・ジャーナリズムの歴史、現状、問題点を探る。

適時、ヨーロッパのマス・メディア、ジャーナリズムの問題をとりあげるが、国際的なマス・メディア産業の動態分析やジャーナリズム研究にとどまらず、その形成過程に多大な影響を及ぼす政治体制や社会構造の変化にも注目する。さらに、常に日本の状況と比較しながら、現代ヨーロッパのマス・メディアの構造と機能を研究する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide06.html>

テキスト:

とくに指定しない。適時指示する。

参考書：

Euromedia Research Group, The Media in Europe: The Euromedia Handbook London: Sage,2004.

授業の計画：

以下の項目について、2 回程度の講義を行う予定。

1. オリエンテーション ヨーロッパのマス・メディア
2. イギリスのジャーナリズム (1) ジャーナリズムの発生
日刊紙出現までの英国新聞界の発達過程を概観し、「言論の自由」の概念を考える。
3. イギリスのジャーナリズム (2) ジャーナリズムの近代化
大衆紙の登場とジャーナリズムの変容
4. イギリスのジャーナリズム (3) 20 世紀のメディア・パロンの登場
5. イギリスのジャーナリズム (4) 戦後のイギリス・ジャーナリズム界
放送の出現とジャーナリズムの衰退
6. イギリスのジャーナリズム (5) 現代ジャーナリズムの抱える諸問題
1980 年代以降のジャーナリズムの変化

履修者へのコメント：

英国通史ほか英国社会・文化史の基礎知識が必要です。

成績評価方法：

学期末試験・出席状況・授業態度などの総合評価

質問・相談：

授業中ならびに授業後、E メール

国際コミュニケーション論 (春)

グローバル化とコミュニケーション

伊藤英一

授業科目の内容：

自分自身との対話、友達や家族との会話、といったコミュニケーションでも、もどかしく感じることはありませんか？ コミュニケーションの重要性を切実に感じているにしても、円滑なコミュニケーションは至難の業です。ましてや、「文化や言語の異なる人々とのコミュニケーションなんて」と、一歩後退したくなるかも知れません。

しかし、山頂から見晴らす眺望が麓からの見た風景とは違うように、視点をかえてこそ理解できることもあるのではないのでしょうか。

この講義では、あたかも、『星』になった諸君が、丸い地球を見下ろしながら、その地球を巡るコミュニケーションを考察できるような場を提供します。

テキスト：

適宜、案内します。

参考書：

- ・福澤諭吉；『西洋事情』（慶應義塾大学出版会）
- ・伊藤英一；『マルチメディアの新世紀』（丸善）
- ・Daya Kishan Thussu; “International Communication” (Arinold)

授業の計画：

1. 地球と世界地図
2. 国際コミュニケーション論の理論的傾向
3. グローバル化とメディア/コミュニケーション
4. フランス革命と情報インフラ
5. カナダのバランス感覚と国際コミュニケーション
6. 映画が創造するコミュニケーション カンヌ映画祭
7. 海を越えるコミュニケーション
8. 国境を越える共通語・感覚の共振
9. ファッションの世界とコミュニケーション
10. 広告・広報活動と国際コミュニケーション
11. CNN と情報 TV の歴史
12. Al Jazeera アラブの声を聴く
13. 成功するプレゼンテーションとは？

履修者へのコメント：

コミュニケーションとは、“『共(友)』になる” ことです。年代を越えて、良きコミュニン(コミュニティ)の仲間になって下さい。

成績評価方法：

受講して下さる皆さんと、相談して決めたいと思います。

質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問や相談を寄せて下さい。

国際コミュニケーション論 (秋)

異文化を繋ぐコミュニケーション

伊藤英一

授業科目の内容：

21 世紀はグローバル化、情報化の時代であるとも言われます。同時に、文化や社会の枠を越えた地球規模のコミュニケーションの重要性も指摘されています。

しかし、メディアの高度化・迅速化が、必ずしもコミュニケーションの精度や密度を高める方向に働いているとも言い切れません。

国際コミュニケーションの様々な問題をケース・スタディの題材として取り上げながら、枠に捉われないコミュニケーションの素晴らしさを、諸君と共に、探ってみます。

テキスト：

適宜、案内します。

参考書：

Fred E. Jandt; “An Introduction to Intercultural Communication” (Sage)

授業の計画：

1. コミュニケーションと国際的な価値
2. 異文化コミュニケーション論の潮流
3. 言語力とメディア・コミュニケーション
4. 劇場型のコミュニケーション効果と環境要件
5. 多様な文化とコミュニケーション
6. グローバル化の中のローカル・コミュニケーションと生命線
7. 文化と認識
8. 非言語的コミュニケーション
9. 言語の壁を克服する
10. 異文化の出会い
11. 姿、形のコミュニケーション 外見の重要性
12. 国際コミュニケーションを俯瞰する
13. 異文化コミュニケーションのプロになる

履修者へのコメント：

コミュニケーションとは、“『共(友)』になる” ことです。年代を越えて、良きコミュニン(コミュニティ)の仲間になって下さい。

成績評価方法：

受講して下さる皆さんと、相談して決めたいと思います。

質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問を寄せて下さい。

メディア社会論 (秋)

メディア・コンテンツへの物語論的接近 藤田真文

授業科目の内容：

この授業では、物語論という方法を中心にメディア・コンテンツを分析していきます。授業の約 3 分の 2 は、『ギフト』(1997 年放送)というテレビドラマを分析対象にして、物語構造、映像表現、メディア特性、社会的コード、視聴者による読解など多様な観点からテレビ・テキストの分析を試みます。残りの約 3 分の 1 は、ニュースや CM など他のコンテンツに物語分析を応用していきます。

各回の前半に分析方法を解説し、後半にはドラマの映像を見ながら分析を実践していきます。

テキスト：

藤田真文『ギフト、再配達』せりか書房(近刊)

補助的に毎回授業中にプリントを配布します(原則として再配布はしません)。

授業の計画：

1. テレビ・テキストの進行 統辞構造 [構造主義・物語論・記号論]
2. テレビ・テキストの時間 ストーリーとプロット [物語論・文学理論]
3. テレビ・テキストの人物関係 範疇構造 [構造主義・物語論・記号論]
4. テレビ・テキストの映像表現 [映像論・映像記号論]
5. テレビ・テキストにおける語りと視点 [映像論・文学理論]
6. テレビ・テキストのメディア特性と相互テキスト性 [メディア論・構造主義]
7. テレビ・テキストと社会的コード ジェンダー/階級 フェミニズム論・社会学・記号論]
8. テレビ・テキストにおける登場人物と役者 [精神分析・身体論・映像論・演劇論]
9. テレビ・テキストと視聴者読解 意味をめぐる相互作用・闘争 [読者論・カルチュラル・スタディーズ]
10. テキストの責任/視聴者の責任 『ギフト事件』をめぐる [作家論/読者論・メディア倫理]
11. 他のテキストへの応用 物語としてのニュース
12. 他のテキストへの応用 物語としてのCM
13. まとめ

履修者へのコメント：

テレビドラマは比較的近いものがある分析対象ですが、この授業によって常識的なテレビドラマ観を超えてメディア・コンテンツについての新たな視点を提供できればと思っています。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価（定期試験期間中に実施。評価の50%）
- ・レポートによる評価（授業の中間で課題を与える。評価の50%）

メディア法制（春）

表現・メディアの自由と民主主義の法理論 佐々木 秀 智

授業科目の内容：

この講義は、メディア（マス・メディアとパーソナル・メディア双方を含む）に関する法の基本構造を概観し、その前提となる憲法上の原理、特に表現・メディアの自由、民主主義の観点からいかに位置づけられるかを考えていきたい。なお、法律学の履修を前提としない。

テキスト：

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会・2005年）

参考書：

松井茂記『マス・メディア法入門（第3版）』（日本評論社・2003年）

授業の計画：

- (1) イントロダクション（1回）
- (2) メディアに関する法の基本構造（3回）
- (3) 表現の自由の諸法理（3回）
- (4) 表現の自由の限界（名誉毀損、プライバシー侵害、著作権侵害など）（3回）
- (5) 民主主義とメディア（情報公開、アクセス権など）（計3回）

履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある学生の受講を歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

hsasaki@kisc.meiji.ac.jp まで、授業終了後も可

メディア法制（秋）

IT社会における表現・メディアの自由 佐々木 秀 智

授業科目の内容：

この講義は、ITの発達によって、これまでのメディアに関する法構造がいかなる影響をうけたのかを概観し、またIT社会への移行に伴

う法制度の変化における基本的視点をふまえたうえで、特に表現・メディアの自由がIT社会においていかに位置づけられるべきかを考えていきたい。なお、履修するためには、事前に履修することが望ましい。

テキスト：

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会・2005年）

参考書：

松井茂記『マス・メディア法入門（第3版）』（日本評論社・2003年）

授業の計画：

- (1) IT基本法及びその他の新規立法・法改正動向（2回）
- (2) コンテンツ規制のあり方（3回）
- (3) コンデュイト規制のあり方（3回）
- (4) パーソナルメディアに関する法的問題（1回）
- (5) ケーススタディ（プロバイダ責任法、個人情報保護法など）（3回）
- (6) 解釈論と立法論（1回）

履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある学生の受講を歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

hsasaki@kisc.meiji.ac.jp まで、授業終了後も可

ジャーナリズム論（春）

ジャーナリズムと「表現の自由」 伊藤 高 史

授業科目の内容：

ジャーナリズムが抱えている問題点や課題を、「表現の自由」との関連で解説する。ジャーナリズムについて、一般にどのような問題点が指摘されているのかを整理し、「表現の自由」は今日、どのような状況に置かれているのかを理解させることが目的である。

テキスト：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版、近刊）

参考書：

授業中に指示する

授業の計画：

ガイダンス

「表現の自由」概論とジャーナリズムの定義、存在意義など（日本国憲法における「表現の自由」の位置づけなど）（3回）

ジャーナリズムと人権を巡る問題（メディアによる人権侵害、差別表現など）（3回）

ジャーナリズムの組織に関わる問題（記者クラブ、メディアの経営問題など）（3回）

「表現の自由」に関わる法律上の動き（司法判断の流れなど）（3回）

履修者へのコメント：

教科書はもちろんのこと、指定した参考書など、本をよく読んで授業にのぞむこと

成績評価方法：

試験の結果による評価（原則として、試験のみで成績をつける。教科書の持込は可の予定）

質問・相談：

随時受け付けます

ジャーナリズム論（秋）

ジャーナリズム研究と社会学理論 伊藤 高 史

授業科目の内容：

ジャーナリズム論の内容を踏まえて、ジャーナリズムを社会学理論との関連で考える。具体的にどのような報道活動が社会を動かし、そのような報道活動がいかにして生み出されたのかを、実証的かつ理論的に考える力を養成するのが目的。

テキスト：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版、近刊）

参考書：

授業中に指示する

授業の計画：

ガイダンス

権力理論とジャーナリズム(2回)

情報操作とジャーナリズム(2回)

ブルデューの社会理論とジャーナリズム(2回)

アジェンダ構築モデルとジャーナリズム(3回)

「表現の自由」とジャーナリズム(3回)

履修者へのコメント：

教科書はもちろんのこと、指定した参考書など、本をよく読んで授業にのぞむこと。

成績評価方法：

試験の結果による評価(原則として、試験のみで成績をつける。教科書の持込は可の予定)

質問・相談：

随時受け付けます

世論 (春)

世論の機能と形成メカニズム

小川恒夫

授業科目の内容：

現在民主主義社会において世論に期待される役割と阻害要因を考察しながら、マスコミ報道によって世論がどのように操作的に形成される可能性があるかをマスコミ効果論の立場から理論的に把握できるようにします。

テキスト：

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版/2005年/2,700円

参考書：

使用しません/随時授業内で資料を提示します。

授業の計画：

(1) ガイダンス

(2) 理想的世論と現実的世論

(3) 歴史的イベントにおいて世論の果たした役割を概観する

(4) 世論形成の垂直的影響(マスコミ)と水平的影響(口こみ)

(5) 受け手は主体的に世論を形成するという見方

(6) 受け手は常に操作的に世論を形成するという見方

(7) 受け手は主体的にも操作的にも世論を形成するという見方

(8) 受け手の置かれた社会状況と世論形成

(9) 広告論からみた世論形成

(10) 学習・教育論からみた世論形成

(11) 情報処理過程モデルからみた世論形成

(12) マスメディアの社会的責任と世論

(13) 全体のまとめと残された課題

履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。授業には「教科書」を持参してください。

成績評価方法：

学期末試験の結果による評価。

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

世論 (秋)

世論形成の現状と対策を具体的事例から考える

小川恒夫

授業科目の内容：

20世紀後半から近年に至る具体的事例から、どのような性格の争点があるか、誰によって、どのような統制メカニズムが利用されてマスメディアが操作され、なぜ多くの有権者がそれを信じて世論を形成し、どのような社会的問題が発生し、それに対する対策の可能性を、順次一連の課題として見ていきます。この作業を通じて、理想的世論と現実的世論との間の距離を考えます。

テキスト：

使用しません。

参考書：

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版/2005年/2,700円

授業の計画：

(14) ガイダンス

(15) 戦争報道と世論

(16) 犯罪報道と世論

(17) 科学報道と世論

(18) 経済報道と世論

(19) 海外報道と世論

(20) 民族間報道と世論

(21) 政治報道と世論

(22) 法的規制の危険性と可能性

(23) ジャーナリスト教育とメディアリテラシー教育の可能性

(24) オンブズマン制度の可能性

(25) 残された課題

(26) 全体のまとめ(質問受付)

履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。

成績評価方法：

学期末試験の結果による評価

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

情報行動論 (春)

ケータイの社会心理学

川浦康至

授業科目の内容：

携帯電話に限定して、パーソナルメディアと対人コミュニケーションのかかわりを考える。

テキスト：

特になし

参考書：

授業中、随時紹介する。

授業の計画：

1. ガイダンス：授業の進め方など

2. ケータイの歴史

3. メールと通話

4. メールアドレス

5. メール文体

6. 対人過程とケータイ

7. 対人関係とケータイ

8. モノとしてのケータイ

9. ケータイのある生活

10. ネットとケータイ

11. ケータイと社会摩擦

12. ケータイライフの今後

13. まとめ

履修者へのコメント：

授業は受講者自身の経験から体験談をまじえながら進めるので、積極的な参加を期待する。授業が自らのケータイライフを相対化する機会になればうれしい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価(毎回、課題を出すので、その提出状況による)

質問・相談：

講義前後、およびメールでも受け付けます。

異文化間コミュニケーション（秋）

異文化接触における心理メカニズム 浅井 亜紀子

授業科目の内容：

異文化との出会いにより、個人は異なる文化的様式（価値観や行動パターン）に接し、それを取り込んだり抵抗しながら自分を新しく作っていく。本授業では、異なる文化における様々なコミュニケーションスタイルの違いに目を向け、そのような異文化に接した時に、どのように心理や行動が変化していくか、異文化接触の具体事例を通して学ぶ。

テキスト：

プリント配布

参考書：

- ・宮原哲「コミュニケーション入門」松拍社
- ・箕浦康子「子どもの異文化体験」思索社

授業の計画：

- (1) 授業内容説明 異文化間コミュニケーションの背景、文化の定義
- (2) コミュニケーションの定義
- (3) 認知と文化
- (4) イメージとステレオタイプ
- (5) ステレオタイプの間関係への影響
- (6) 言語コミュニケーション：自己開示への文化的影響
- (7) 言語コミュニケーション：自己開示動機をめぐる要因
- (8) 非言語コミュニケーション（表情、空間利用、身体接触）
- (9) 異文化適応シミュレーション：Banga, 認知・行動・情動
- (10) 異文化ストラテジー：映画を素材として
- (11) 子どもの異文化体験
- (12) 青年の異文化体験
- (13) 全体のまとめ

履修者へのコメント：

海外経験に関心のある学生、異文化における人間関係に関心のある学生を歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度

質問・相談：

講義前後の教室・教員室で質問・相談を受け付けます。メールでも可。

メディア文化論（春）

岩 淵 功 一

授業科目の内容：

多文化状況が深まる現代社会における、メディア文化の諸問題を検討して、より開かれた社会の構築に向けたメディア文化の役割と可能性を模索する。

テキスト：

詳細は授業時に指示する。

「沖縄に立ちすくむ」(岩淵・多田・田仲編著，せりか書房 2004 年)

参考書：

授業時に指示する

授業の計画：

前期はメディア・文化研究の基本的概念・理論・方法論を学ぶ。「沖縄」に関するメディアテキストの具体的事例から文化と社会における不均衡な力関係について考察する。

- ・イントロダクション（1回）
- ・メディアの表象・生産・消費（6回）
- ・「沖縄」ケーススタディー（4回）
- ・グループプレゼンテーション（1回）
- ・まとめ（1回）

履修者へのコメント：

講義だけでなく、プレゼンテーションや討論を含めた双方向な授業を目指すので積極的な参加を期待する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・プレゼンテーション・グループプロジェクト

メディア文化論（秋）

岩 淵 功 一

授業科目の内容：

グローバル化が深まる現代社会における、メディアと文化の諸問題を検討して、より開かれた社会の構築に向けたメディア文化の役割と可能性を模索する。

テキスト：

詳細は授業時に指示する。

「トランスナショナル・ジャパン」(岩淵功一，岩波書店 2001 年)

参考書：

授業時に指示する

授業の計画：

後期はグローバル化の中で促進されている資本・情報/イメージ、人間の国境を越えた流れと移動が、どのような新たなつながりと不均衡をもたらしているのかを考察する。

- ・イントロダクション（1回）
- ・文化のグローバル化とローカル化（3回）
- ・メディア・移民・トランス/ナショナルなつながり（3回）
- ・東アジアの越境メディア文化（4回）
- ・グループプレゼンテーション（1回）
- ・まとめ（1回）

履修者へのコメント：

講義だけでなく、プレゼンテーションや討論を含めた双方向な授業を目指すので積極的な参加を期待する。メディア文化論を履習していることが望ましい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・プレゼンテーション・グループプロジェクト

メディア産業と政策（春）

メディア政策基礎理論と映像産業政策 菅 谷 実

授業科目の内容：

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論、後半は映画を中心とした映像コンテンツ産業の構造と政策を取り上げます。

テキスト：

菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』(丸善，2002年)

授業の計画：

本年は以下の予定で講義を進めます。

オリエンテーション (1)

- 基礎理論 (5)
 - 1 メディア政策
 - 2 政府規制
 - 3 メディア市場
- 映像コンテンツ産業 (6)
 - 4 映像コンテンツと映画
 - 5 映画産業の発展
 - 6 映像振興政策 (欧州，米国，日本)
- まとめ (1)
 - 7 メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント：

コンテンツ産業，映画産業に興味ある学生の履修を歓迎します

成績評価方法：

基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する。

質問・相談：

毎回講義終了時に質問，相談を受け付けます

授業科目の内容:

メディア産業に関する政策の動向と今後の課題について日米の比較を行いながら学習していく。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

- ・宿南達志郎『情報メディア政策』NTT 出版, 2006 年
- ・鈴木健二『地方テレビ局は生き残れるか』日本評論社, 2004 年
- ・谷脇泰彦『融合するネットワーク』かんき出版, 2005 年

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) 放送メディア政策 (4 回)
 - マスメディア集中排除原則
 - 番組の質と報道の信頼性
 - NHK のあり方
 - 放送のデジタル化
- (3) 通信メディア政策 (3 回)
 - ユニバーサルサービスと競争政策
 - 周波数政策
 - 放送と通信の融合
- (4) コンテンツ政策 (2 回)
 - 著作権保護政策
 - 作り手の育成と国際競争力強化
- (5) 情報メディア政策 (2 回)
 - デジタル・デバイドの解消
 - インターネット・ガバナンス
- (6) まとめ

履修者へのコメント:

情報メディア産業に関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容:

メディア産業について、産業構造、経営戦略、利便性などの観点から、歴史的経緯や今後の課題などについて概要を学びます。ビデオなどを活用して理解しやすく講義します。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

- ・宿南達志郎など著『メディア産業論』有斐閣, 2006 年
- ・電通総研編『情報メディア白書 2005』ダイヤモンド社, 2005 年
- ・総務省編『情報通信白書 平成 17 年版』ぎょうせい, 2005 年

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) メディア産業の歴史 (2 回)
- (3) 各産業分野の現状と将来
 - コンピュータ業界 (2 回)
 - 通信業界 (2 回)
 - 放送業界 (2 回)
 - 新聞業界 (1 回)
 - 出版業界 (1 回)
 - 音楽業界 (1 回)
- (4) まとめ

履修者へのコメント:

情報メディア産業に関する関心がある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容:

インターネット・ビジネスについて、その特徴や伝統的ビジネスへの影響などを学びます。また、携帯やデジタル放送などを活用した新しいビジネスモデルの可能性についても学びます。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

- ・(財)インターネット協会編著『インターネット白書 2005』インプレス社, 2005 年
- ・加藤秀雄『ネットワーク経営情報システム インターネット・ビジネスモデル』共立出版, 2004 年
- ・宿南達志郎『e エコノミー入門』PHP 研究所, 2000 年

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) インターネット・ビジネスの理論的背景 (2 回)
- (3) インターネットによるビジネスモデルの革新 (5 回)
 - 金融業
 - 流通業
 - 製造業
 - 旅行業
 - エンターテインメント産業
- (4) インターネットビジネスの事例研究 (5 回)
 - 楽天
 - アスクル
 - インデックス
 - Amazon
 - Yahoo
- (5) まとめ

履修者へのコメント:

インターネット・ビジネスに関心がある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容:

本講座は、朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど、ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト:

なし

参考書:

授業中に指定する。

授業の計画:

朝日新聞の記者の方など、外部の方々をお招きし、約 1 時間程度講義していただき、その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第 1 回目の授業の際に発表する。なお、平成 18 年度の授業日程は、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトを参照されたい。

履修者へのコメント:

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されていることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム総合講座（秋）	荒田茂夫
朝日新聞社寄附講座	萩原滋
	伊藤高史

授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど、ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に指定する。

授業の計画：

朝日新聞の記者の方など、外部の方々をお招きし、約1時間程度講義していただき、その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。なお、平成18年度の授業日程は、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトを参照されたい。

履修者へのコメント：

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されていることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

マス・コミュニケーション論（日吉）	
マス・コミュニケーションと社会	川端美樹

授業科目の内容：

現在われわれの日常生活に深く関わっているマスメディアがどのようにして誕生し、発達してきたのか。また、社会にどのような影響を与え、その中でどのように機能してきたのか。さらに、マス・コミュニケーションは人間の社会的行動や心理にどのような影響を与えているのか。

本講義の目的は、以上のようなトピックについて学び、理解した上で現在の自分を取り巻く現状を見直し、マス・コミュニケーションをめぐる状況について客観的・批判的に考え、分析することである。

テキスト：

大石裕『コミュニケーション研究（第2版）』慶應義塾大学出版会、2006年

参考書：

授業時に必要に応じて指示する。

授業の計画：

以下のような内容で授業を進めていく予定である。

1. マス・コミュニケーションの基礎的諸概念
2. マス・コミュニケーションの発達と社会
3. マス・コミュニケーションとその影響

履修者へのコメント：

講義で取り上げる内容について興味を持ち、批判的に考える意欲のある学生の受講を期待する。

成績評価方法：

期末試験の結果を総合点の70%とし、授業中の提出物や参加度に対する評価を30%として、全体の成績評価とする。

社会心理学（日吉）	
社会的認知と対人行動	萩原滋

授業科目の内容：

春学期は、自分たちの社会的環境をいかにして把握するかという問題を取り上げる。すなわち「社会的認知」と呼ばれる研究領域を中心に、均衡理論、認知的不協和理論、帰属理論など社会心理学の代表的な理論枠組について概説し、それに依拠して行われた実験など具体的な研究事例を詳しく紹介する。また対人魅力など、対人行動の基礎となる問題も取り上げることにする。

テキスト：

使用しない

参考書：

- ・山本真理子他編（2001）「社会的認知ハンドブック」北大路書房
- ・唐沢稯・池上知子・唐沢かおり・大平英樹（2001）「社会的認知の心理学 社会を描く心のはたらき」ナカニシヤ出版

授業の計画：

ガイダンス（1回）

社会心理学の研究手法（1回）

社会的認知の研究領域概観（1回）

印象形成の古典的実験（1回）

帰属理論と実証的研究（3回）

認知的一貫性の諸理論（1回）

認知的不協和理論と実証的研究（3回）

対人行動の基礎（2回）

履修者へのコメント：

特になし。

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

最初のガイダンスの時にお尋ねください。

社会心理学（日吉）	
メディアとコミュニケーション	萩原滋

授業科目の内容：

州学期は、対人コミュニケーションからマス・コミュニケーションまで幅広く「コミュニケーション」過程に関わる諸問題を取り上げる。対人コミュニケーションに関しては「説得効果」、マス・コミュニケーションに関しては「テレビの社会的機能、对人的影響」に焦点を当てて、新旧取り混ぜて社会心理学的研究成果を紹介する。

テキスト：

使用しない。

参考書：

- ・萩原滋・国広陽子編（2004）「テレビと外国イメージ メディア・ステレオタイプ研究」頸草書房
- ・萩原滋編著（2001）「変容するメディアとニュース報道 テレビニュースの社会心理学」丸善
- ・田中義久・小川文弥編（2005）「テレビと日本人 「テレビ50年」と生活・文化・意識」法政大学出版局

授業の計画：

対人コミュニケーションとマス・コミュニケーション（1回）

説得的コミュニケーションと態度変容（2回）

説得の技法（1回）

テレビのメディア特性（1回）

日本におけるテレビ放送小史（1回）

テレビの社会的影響概観（1回）

テレビの視聴効果（1）：暴力や反社会的行動への影響（3回）

テレビの視聴効果（2）：現実の社会認識への影響（3回）

履修者へのコメント：

特になし。

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

授業時間中、あるいは授業後にお尋ねください。

【研究会】

研究会(～)(春)(秋)
メディアと社会行動

萩原 滋

授業科目の内容：

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。履修者数に応じて運営方法を多少とも調整する必要があるが、本年度も、基本的には従来の個人研究のスタイルを継続するつもりである。

テキスト：

田中義久・小川文弥編「テレビと日本人」(法政大学出版局、2005年、3800円)

授業の計画：

春学期

ガイダンス(1回)

テキスト講読(6回)

個人研究テーマの設定、発表(6回)

(夏合宿にて継続して各自の発表を行う)

秋学期

三田祭論文に向けて(2,3年生の個人研究発表,6回)

修了論文に向けて(4年生の中間報告,3回)

次年度に向けての研究計画発表(2,3年生,4回)

履修者へのコメント：

自分の発表だけでなく、他の人たちの発表にも興味をもって、質問やコメントをしてもらいたい。

成績評価方法：

・平常点：出席状況および授業態度による評価

・三田祭論文、修了論文

質問・相談：

適宜、研究室に来てくだされば、お答えするつもりです。

研究会(～)(春)(秋)
メディア産業論を考える

菅谷 実

授業科目の内容：

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネット、映画などのコンテンツ産業を含むメディア産業全体を対象にその産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめます。

例年、春学期は、共同研究に関連するテーマに関わる文献レビューを中心とした個人発表、秋学期は、三田祭で発表する共同研究報告書に関わる調査と報告書作成、および4年生の修了論文発表を中心に進めます。(2005年度の共同研究テーマは、東アジアのメディア・コンテンツ流通)

また、夏合宿、OGOB会、異業種交流勉強会なども行っています。ゼミ活動の詳細は研究会ホームページ(<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/sugaya/toppage.htm>)を参照してください。

テキスト：

春学期のはじめに紹介します

参考書：

春学期のはじめに紹介します

授業の計画：

各学期のはじめに詳細なシラバスを配布するが、春学期は、授業でのレポートを中心とし、秋学期は、三田祭に向けた共同研究が中心となる。

履修者へのコメント：

履修者は、授業はもちろんのこと、合宿、論文報告会、その他のゼミイベントにはすべて出席すること

成績評価方法：

授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。なお研究会は修了研究の発表および論文による評価。

研究会(～)(春)(秋)

宿南 達志郎

授業科目の内容：

放送メディアのあり方について、マスメディア集中排除原則、民法とNHKの2元体制、NHKの受信料問題、地方局の存在意義などの政策的課題や経営課題を中心として研究を行う予定です。

テキスト：

松田浩『NHK 問われる公共放送』岩波新書、2005年

参考書：

- ・宿南達志郎『情報メディア政策』NTT出版、2006年
 - ・田原茂行『視聴者が動いた 巨大NHKがなくなる』草思社、2005年
 - ・舟田正之・長谷部恭男編『放送制度の現代的展開』有斐閣、2001年
- 授業の計画：

春学期は、教科書や参考書を中心として、放送メディアのあり方について議論を行っていきます。

主なテーマとしては、以下のようなものを考えています。

放送法に規定されている番組調和原則やユニバーサルサービス義務などについて

NHKのあり方について(番組の質、適正な事業規模、受信料問題など)

民法のあり方について(キー局と地方局の関係、BSデジタル放送との関係、広告収入はこれからも確保できるのかなど)

秋学期は、各個人あるいはグループでテーマを設定して研究を行ってもらう予定です。

履修者へのコメント：

放送メディアについて関心のある学生の履修を歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会(～)(春)(秋)

身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する

金山 智子

授業科目の内容：

本研究会では、自分たちの興味や関心をもとにメディアに関するテーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。メディアに関しては特定せず、新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、インターネットといった一般的な媒体から、ダンス、建物、空間といった媒介にいたるまで、広義の意味でのメディアを対象とします。研究は、文献だけでなく、アンケート、内容分析、インタビュー、そして参与観察といった方法を使って実際に調査を実施し、データを集め、分析を行なっていきます。

テキスト：

特に指定しません。

授業の計画：

個人またはグループでメディア・コミュニケーションに関連する研究を実施してもらいます。一連の研究プロセスは、担当教員との個別コンサルティングを交えながら、ステップ・バイ・ステップで身に付けられるよう指導します。4年生に関しては、修了論文を中心に個別で指導します。

春学期

テーマ設定、文献調査、仮説設定、調査法選定

秋学期

調査実施、データ分析、報告、発表(三田祭)

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会(～)(春)(秋)

グローバルイゼーションと持続可能なメディアのデザイン

小川 葉子

授業科目の内容:

環境と身体をとりまく科学的知識と文化の創発に関するコミュニケーションを考察する。本年度は、プロダクトおよびコンテンツのデザインとファッション・ジャーナリズムにおける知識生産の接点を比較したい。それによって、ウェアラブル・メディアやオンライン・ショッピング等の影響も考えつつ、健康とサステナビリティに基づいたライフスタイルにおける未来のメディア・コミュニケーションのありかたを模索したい。

テキスト:

M.リー著『ファッション中毒』(NHK出版,2004年)その他ハーバード・ビジネススクールにおけるマーケティングのテキスト等を使用予定。

参考書:

M.フェザーソン著,川崎賢一・小川葉子編著『消費文化とポストモダニズム』(上・下巻,恒星社厚生閣,2002年)

授業の計画:

春学期

- (1) ガイダンスおよび導入(2~3回)
- (2) ファッション・ジャーナリズムと科学ジャーナリズム(2~3回)
- (3) デザイン言語とマーケティング戦略(2~3回)
- (4) デザイン・コミュニケーションをめぐる産業と流通の構造プロセス(2~3回)
- (5) グローバルな市場と規制およびNPO等の役割(2~3回)
- (6) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(記事タイトル)設定を発表,春学期のまとめ(1~2回)

秋学期

- (1) 秋学期全体のスケジュールと作業プランニング(1~2回)
- (2) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(記事タイトル)設定と発表(2回)
- (3) フィールドワーク(2回)
- (4) 個人あるいはグループプロジェクトによる記事および作品の制作(2回)
- (5) (4)のプレゼンテーションおよび専門家によるコメントと相互批評(2回)
- (6) 三田祭発表とフィードバック
- (7) まとめ,未来のデザイン・コミュニケーションとは(1~2回)

履修者へのコメント:

フィールドワークは,経済産業省,環境省のファッションおよび新製品発表イベントへの参加を考えています。日頃から各国のジャーナリズムや映画批評に親しんでおいて下さい。

成績評価方法:

- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
 - ・ファッション・ジャーナリズム記事かそれにかかわる作品による評価
- 質問・相談:

授業終了直後,あるいは履修者に指示するオフィス・アワーに受け付けます。

研究会(～)(春)(秋)

情報化と近代化

伊藤 陽一

授業科目の内容:

「情報化」(情報技術が発達し,マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し,情報流通量が增大する現象として定義される)が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には,「近代」の特質である民主主義,合理主義,個人主義,資本主義が,「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか,あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

テキスト:

・伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」関口一郎(編)『コミュニケーションのしくみと作用』大修館,1999年

・その他講読する論文を授業で配布する。

参考書:

- ・有吉広介(編)『コミュニケーションと社会』芦書房,1990年
- ・津田幸男・浜名恵美(共編)『アメリカナイズーション:静かに進行するアメリカの文化支配』研究社,2004年

授業の計画:

- 第1回 オリエンテーション:研究会の目的,求められる心構え,基礎理論に関する講義等
- 第2回 先学期の学生の期末レポート内容の報告
- 第3回 先学期の学生の期末レポート内容の報告
- 第4回 以降は,指定された論文講読を行う。講読する論文は履修者の関心,専門分野を知った上で決めたい。

履修者へのコメント:

研究会では積極的に発言することが大切です。普段からの勉強と準備が教室での適切な発言を可能にします。歴史や理論に強い人,関心を持っている人を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価(「三田祭参加論文」と期末レポート)
- ・授業における発言の頻度と質は重要です。

質問・相談:

随時受け付けます。

この研究会は2008年3月で終了となりますので2年生は注意して下さい。

研究会(～)(春)(秋)

ジャーナリズムを考える

大石 裕

授業科目の内容:

最初の数回は,ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み,それ以降は班分けし,新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

テキスト:

大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書:

田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社

授業の計画:

[前期]

- 1~2回 基本的な文献の講読。
- 3~13回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

[後期]

- 1~10回 2,3年生を中心とした研究発表と討議
- 11~13回 4年生の修了論文発表

履修者へのコメント:

新聞のみならず,ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

成績評価方法:

平常点による。

研究会(～)(春)(秋)

メディア融合時代のクリエイティブ産業に関する研究

金正勲

授業科目の内容:

クリエイティブ(creative industries)とは,映画,放送,音楽,広告,出版,ゲームなど人間の創造性に基盤をおく産業です。本研究会では,デジタル革命やメディア融合が既存のクリエイティブ産業にもたらす産業的・社会的・政策的インプリケーションについて研究します。

テキスト:

特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書:

授業中に適宜指示する。

授業の計画:

- (1)春学期
ガイダンス(計1回)

共通テーマと関連する文献の輪読(計12回)
其々独自の研究テーマを設定の上、夏休み中の合宿での研究発表

(2) 秋学期

毎回数人ずつ研究発表と討論(計11回)
企業訪問(計2回)

履修者へのコメント:

本研究会では、自ら発想し、積極的にディスカッションすることを大事にします。常に自分の視点(perspectives)を持ち、他者とコミュニケーションすることで相互に高め合う、創発的なコミュニティとしての研究会を目指します。社会のネクストステージを自らデザインすることに意欲のある学生を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価。
- ・平常点:出席点および授業態度による評価。

【特殊研究】

放送特殊講義 ・ (春)(秋)
テレビニュースは何が出来るか? 安倍 宏 行

授業科目の内容:

テレビニュースの制作の実際。テレビ報道記者の取材活動とは。テレビニュースの問題点と今後の姿を探る。後期は、ドキュメンタリーや調査報道などニュース以外の制作にも触れます。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

特に指定しない

授業の計画:

前期

- 1 ガイダンス
- 2~5 ニュース制作の流れ + 原稿スキル
- 6~10 記者レポート制作
- 11~13 レポート発表

後期

- 1~6 ドキュメンタリー制作・調査報道・企画の作り方
- 7~10 企画制作実践
- 11~13 企画発表

変更の可能性あり

履修者へのコメント:

テレビ局の仕事に興味がある人、テレビジャーナリストになりたい人、ドキュメンタリーや企画を作りたい人を歓迎します。

成績評価方法:

平常点:出席状況および授業態度による評価(クラス参加,レポート,企画などの制作によります。)

質問・相談:

講義用ブログ上にて常時受け付けます。

新聞特殊講義 ・ (春)(秋)
ジャーナリズムとは何か
木村 良一(産経新聞社 編集委員・論説委員)

授業科目の内容:

新聞記者の仕事のおもしろさを私の体験をもとに話しながら、「ジャーナリズムとは何か」をいっしょに考えていきたいと思います。

テキスト:

特に指定しません。資料を配布することもあります。

参考書:

木村良一著「移植医療を築いた二人の男 その光と影」(扶桑社, 2002年, 1400円)

授業の計画:

たとえば、脳死移植の問題、新型インフルエンザ出現の危機、医療過誤といったニュース、それにリクルート事件、日航ジャンボ機

墜落事故など過去の事件・事故も取り上げ、新聞記者がどう取材し、どう書いているかを検証しながら次のテーマを考えます。

- ・ジャーナリズムと社会
- ・伝えることの意味
- ・特ダネとは何か

関係者をゲストに招いて話を聞くことも検討しています。

履修者へのコメント:

ジャーナリストを目指す学生だけでなく、「人間」や「社会」に強い関心のある学生ならどなたでも参加してください。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価

広告特殊講義 ・ (春)(秋)
広告的な生き方とか 吉田 望

授業科目の内容:

広告・ブランドに関する講義・外部講師の講演・広告実習・課題演習など

参考書:

- ・ブランド ・ブランド (宣伝会議)
- ・会社は誰のものか(新潮社)

授業の計画:

春学期

- 1) ブランドとは何か
- 2) ブランドの歴史
- 3) 広告を見る
- 4) 広告をつくってみる

秋学期

- 1) 広告の歴史
- 2) 広告産業
- 3) 外部講師講演
- 4) 広告をつくってみる

履修者へのコメント:

boldです。よろしくです。

成績評価方法:

- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
- ・ブログへのコメント・実習など

メディア特殊講義 (秋)
民放テレビの現状と課題 工藤 卓男

授業科目の内容:

テレビ東京の体験を通じて民放テレビの実態と展望を探る。

テキスト:

特に指定はありません。

参考書:

特に指定はありません。

授業の計画:

全13回を通して民法テレビ局の概略が把握出来るようにしたい。(但、各テーマ変更の場合もある。)

オリエンテーション(1)

総論(1)

各論(10)

- (1) 番組編成のしくみ
- (2) 視聴率
- (3) コンテンツ内容
- (4) 営業現場
- (5) 娯楽番組の制作
- (6) 報道の使命
- (7) スポーツ番組の企画
- (8) メディア開発
- (9) BS, CS, WOWOW
- (10) 著作権

まとめ(1)

履修者へのコメント：

テレビ局に関心のある学生を歓迎します。
セミナー形式で積極的な意見の交換も行いたい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点

質問・相談：

授業終了後受けます。

メディア特殊講義 (秋)

映像・活字メディアの実践

高 信 彦

授業科目の内容：

毎週発生する事件についてブレーストーミング、討論を行うとともに、実際に映像、活字メディアに関しテーマを掲げて作成してもらう。

テキスト：

毎日の新聞各紙、雑誌、TV ニュース

参考書：

高信彦著「ニュースキャスターたちの24時間」(講談社 文庫)

授業の計画：

- ・2005年秋学期と同様に、活字、映像メディアの実習や現場の見学、現役記者・キャスターなどをゲストに呼んで討論などを行う。
- ・メディア・リテラシー、情報分析、収集の方法論、プレゼン、ブレーストーミング等々を実体験しながら社会教育も学んでもらう。
- ・4~5人のチームに分け、前半は新聞、雑誌の形態でテーマを決めて実際に制作し、その過程で取材、編集、討論を通じ学生同士で刺激になるような授業にしたい。
- ・後半は映像制作。これも各チームがテーマを決めるか、共通テーマで活字とは違った方法論を一緒に学びたい。
- ・詳しく知りたい人は2005年の履修者に聞くとよい。

履修者へのコメント：

- ・チームで動くから履修した以上は欠席しないこと。
- ・エキサイティングに物事を考える方法論を身につけ、人生を考えてほしい。
- ・情報の読み解き方と自己表現力を高める授業にしたい。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・毎週小感想文(葉書き2枚分)を出してもらう

質問・相談：

いつでも応ずる。

特殊研究 (春)(秋)

日本の近代化とマス・メディア

小 川 浩 一

授業科目の内容：

21世紀の日本社会の在り方を、「近代化」と「マス・メディア」をキーワードにして読みとく作業をする。ジャーナリズムが日本社会と如何にかかわったかを考える。

参考書：

- ・マス・コミュニケーションへの接近(八千代出版)
- ・ジャーナリズムの社会学(リベルタ出版)

授業の計画：

春学期

1. 日本社会の現状(階層固定化) 3回
2. 明治以後の近代化 2回
3. 戦後の近代化 2回
4. マス・コミュニケーションとジャーナリズム 4回
5. 近代化とマス・メディア 2回

秋学期

1. ポピュリズムと選挙 2回
2. 政治とマス・メディア 2回
3. 文化とマス・メディア 2回
4. 社会意識とマス・メディア 3回
5. 教育とマス・メディア 3回

6. ジャーナリズムと市民

1回

履修者へのコメント：

現在の日本を考えることは現在、将来の自分を考えることです。過去の歴史の中でジャーナリズムが如何なる状態にあったのかという点も考えて下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点

特殊研究 (春)(秋)

市民とメディア

金 山 智 子

授業科目の内容：

この10年、市民が社会の様々な問題を解決するため、自ら参加し活動していけるようなボランティアな社会が築かれつつあります。その中で、市民グループ、NPO、NGOの活動は中心的な役割を担っています。また、一般企業においても、NPO・NGOとのパートナーシップを通じた社会貢献(CSR)活動が活発になっています。このような活動において、メディアの活用がますます重要になってきています。しかし、こういった活動は社会と深く関わるだけに、常にポジティブではなくネガティブな結果を生むこともあります。市民、NPO、NGOの活動におけるメディア活用について、『ほっとけない貧しさ』キャンペーンなどの最近の事例を交えながら、現状と問題点について考えます。

テキスト：

資料を配布。

参考書：

- ・『NPOのメディア戦略』(金山智子、学文社)
- ・『コミュニケーションするPR』(小倉重男、電通)
- ・『世界の公共広告』(金子秀之、研究社出版)

授業の計画：

春学期は、市民とメディアについての基本的な考え方について学びます。毎回事例を用いながら、ディスカッション形式で進めます。また、NPOやNGO関係者を招き、現場の声を聞きながら、受講生を交えて考える機会をもちます。

秋学期は、実際にメディアを活用している市民グループ、NPO、NGOについて研究し、発表してもらいます。

履修者へのコメント：

常に問題意識をもって、積極的にディスカッションに参加することを期待します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア産業実習 (春)(秋)

インターンシップ

宿 南 達志郎

金 山 智 子

菅 谷 実

小 川 葉 子

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習を登録し、インターンシップに参加することができる。

授業の計画：

(1)春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論(新聞、放送、通信、移動通信、出版、広告、インターネット、通信販売等)

まとめ

(なお、研修先は、7月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない)
(2)秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者(前年度にメディア産業実習を履修し本年度を履修する者を含む)は、4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休み研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

【基礎演習】

時事英語 ・ (春)(秋)
英文ジャーナリズム入門

高須賀 茂 文

授業科目の内容：

英字新聞や英字週刊誌の記事などを教材に使い、時事英語の読解力を養成します。一年後には、辞書を使わずにTimeやEconomistの大意を理解できるようになるのが目標です。併せて英語でのinterviewや記事の書き方の基礎も学びます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

参考書：

The Daily Yomiuri (読売新聞が発行する日刊英字紙)
最新ニュース英語辞典(東京堂出版)

授業の計画：

まず、火事や交通事故など簡単な記事を通して英文ジャーナリズム独特の「決まり事」を勉強することから始めます。後半の授業では、評論や解説など高度な内容の英文記事に挑戦し、国際情勢への理解を深めます。また、座学だけでなく、The Daily Yomiuri編集部の見学や在日外国人特派員へのインタビューなども計画しています。

履修者へのコメント：

堅苦しい講義形式ではなく、できるだけ実践的な授業をやるつもりです。必然的に課題も多くなるので、積極的に学ぶ意欲のある塾生を歓迎します。また、英和、和英辞典はできるだけ本格的なものを用意し、授業には毎回持参して下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

文章作法 ・ (春)(秋)

目から鱗(ウロコ)が落ちる授業です 升 野 龍 男

授業科目の内容：

文章作りは、文章を書くことだけで身に付くものではありません。常日頃の目撃・観察によって情報をとらえる。そこから何故を發し、取材する。そして、何故に対する仮説(ひょっとしたら、こうではないかな?)を提示する。それを検証し、仮説を実証する。実証できねば新たな仮説を提示し、新発見に挑む。目撃・観察・洞察・発見による情報作りとプレゼンテーション。問うて、学ぶ。文字通り「学問」。これが、情報に関する升野流メソッド。この基本が身につけば、その情報を文章化、映像化、音楽化できるわけです。良いインプットがなければ、良いアウトプットもありません。

不器用な人でもこの動作を日常化すれば、文章のうまい器用な人をあつという間に凌駕できるようになります。「面白くなければ授業じゃない」。最高水準の授業を、面白く、分かりやすく展開します。

テキスト：

私の執筆文章を中心に、適切な文章や、文章作法本を適宜使用いたします。毎回、講義資料プリントを配布します。これらを束ねたものが、私のテキスト。時事問題など「旬の材料」も提供します。

参考書：

- ・野口悠紀雄著「超文章法(中公新書)」780円
 - ・鹿島茂著「勝つための論文の書き方(文春新書)」700円
- また授業中にも、講義内容をより深く理解できる参考文献を適宜紹介します。

授業の計画：

春学期

- (1)「ワクワク、どきどき授業」のガイダンス
- (2) 情報を採るために「飢えた情報ハンター化」する段階 = 目撃・観察法の体得。
目撃・観察ノートの作成と記述の日常化。
目撃・観察のための方法論 = オリジナル情報作りのため、目撃・観察対象に関する自分なりのベストポイントとベストタイムを持つ。
- (3) 情報組み立て、表現方法の体得
情報処理は誰でも身に付けられる能力。情報化社会を生き抜くパスポートです。VTR, DVD, 印刷物等、私秘蔵の優良コンテンツを駆使して、情報組み立て、表現方法を体得してもらいます。
毎回課題を出しますが受講生の優秀作品はサンプルとして配布。技術の共有化を図ります。
- (4) 以上を通じて評論、エッセイ作法を体得。テストは60分で書く課題に取り組んでもらいます。

秋学期

- (1)「自己アピール、謎解き授業」のガイダンス
- (2) 最もタフで繊細な情報作りである広告情報の演習 = 利益社会へのデビューにこれは必要不可欠
- (3) 自己プロデュース方法 = 自分の目標宣言と、そのアピール方法の体得
- (4) 洞察力の保有
目撃・観察から「何故」を發する行為の体得 = 取材、一歩踏みこむ
「何故」を解く仮説設定方法の体得 = 「ひょっとすると、こうではないか」という洞察力保有
- (5) 論文の作り方 = 目撃・観察・洞察・発見の重要性と、「謎解き情報設計」の体得
論文作りが難しくなく、この作法を身に付けることが如何に人生に役立つかを具体的に指導します。したがって最後は論文提出です。

履修者へのコメント：

何かを表現する場合、最後は文章力がモノを言います。文章を書くのが苦手な人、大歓迎。もちろん書くのが好きな人も歓迎。学期終了時に驚くほど情報作りが好きになり、上手くなった自分を發見できるでしょう。講義は一方通行ですが、毎回演習課題を出します。その指導は個別添削。メールでの質問・相談にも応じます。指導コンセプトは「発育」。ひとりひとりに潜んでいる可能性を發見し、その可能性を育む。教育指導は、その手段であると考えます。

成績評価方法：

- ・出席 40%
- ・演習課題 40%
- ・テスト 20%

課題提出が最大の評価ポイント。

質問・相談：

メールで受け付けますが、ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。それ以外は開封いたしません。

e-mail:tatsuom@mbk.nifty.com

授業科目の内容:

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきています。本講義では映像制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身に付けることを目標としています。また、映像制作過程において、いろいろな人たちとかわり、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスを大切にしながら、伝えたい人に伝えることの難しさや面白さを体験してほしいと思っています。

授業の計画:

春学期

- (1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ
基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) 映像作品を読みとく
一般市民が制作した“良い作品”を見て、「誰に何をどのように伝えるか」という意味でのメッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する
個人またはグループで企画・構成・取材・撮影・編集加工という映像制作過程を体験し、映像コミュニケーションを身に付けてもらいます。

秋学期

ドキュメンタリー作品を制作する。

また、昨年同様、市民メディアグループの放送イベント参加を通して、より規模の大きな映像制作も予定しています。

履修者へのコメント:

映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、クラス授業時間外での作業(撮影・編集)が必要になります。メディア・コミュニケーション実習はの事前履修が望ましいですが、だけの履修も可能です。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
- ・映像作品

映像コンテンツ制作 (春)

映像コンテンツ制作実践に向けた基礎ステップ

映像表現の文法・作法を習得する 金山 勉

授業科目の内容:

映像コンテンツ流通の重要性が社会的にも大きくとりあげられるようになり、総務省や通産省でもアジア諸国をはじめ、世界に向けた映像コンテンツ流通発信のための対策を検討しています。大学では情報ネットワークの拡張とテクノロジーの統合、ユビキタス環境の導入に伴う映像コンテンツ流通体制充実の必要性も指摘しています。それと同時に望まれるのがこれらの技術や政策を学ぶ学生たちが映像表現方法の基礎的な力をしっかり身に付けることです。映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作に関わる際の基本的な枠組み作り(プロダクション)の力を確実に身に付けてもらうことを目的としています。

テキスト:

金山勉・金山智子『やさしいマスコミ入門』勁草書房(2005年)

参考書:

授業時に紹介する。

授業の計画:

映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作のための基礎能力の獲得と初歩的な番組制作実践について学びます。映像表現をす

る際の事前準備の重要性について講義し、企画書、画コンテの作成、さらに屋外(フィールド)での撮影、編集までを個人レベルで取り組んでもらいます。全体の流れは以下の通りです。

映像コンテンツ制作 (春学期)

- ・映像メディア・コミュニケーションへの招待(2回)
- ・映像コンテンツ加工のための機材とその機能を知る(2回)
- ・映像コンテンツ制作のための基礎能力(2回) コンティニューティ、フレーミング
- ・番組企画とは(2回) ミニ企画プロジェクトの実践に向けて
- ・番組制作実践(5回) カメラ取材と編集

履修者へのコメント:

映像コンテンツ制作では受講生の自主性を最大限尊重し、自由な発想や可能性の追求を歓迎します。講義は春学期と秋学期でそれぞれ独立していますが映像コンテンツ制作とを連続して受講することにより、総合的な力を身につけることができるようにプランされていますので両方セットで受講することを希望します。

成績評価方法:

- ・映像コンテンツ制作のプロセスと番組完成度に対する評価 (60パーセント)
- ・出席と平常制作準備活動の評価 (40パーセント)

質問・相談:

授業終了時、および電子メールで受け付けます。

映像コンテンツ制作 (秋)

映像コンテンツ制作実践に向けた応用編

スタジオプロダクションを実験する 金山 勉

授業科目の内容:

本講座では映像コンテンツ制作への取り組みを通じて、映像コンテンツ中に含まれる独特の映像作法、メディア環境、さらに映像文化について考察すると共に、スタジオでの映像コンテンツ制作を通じて映像メディア・コミュニケーションの実践プロジェクトに携わることが制作者に感動と興奮を生むことを体験してもらいます。コンテンツ制作の感動を求めるがあまり、制作者が個人の主張や意図を一方的に発信したくなるなど、映像コンテンツ制作の中から生まれるメディアの課題もみずから体験することになると考えます。これらの経験が受講生のメディア・ジャーナリズムへの考察を深化させることにつながることを期待します。

テキスト:

金山勉・金山智子『やさしいマスコミ入門』勁草書房(2005年)参考書:

授業時に紹介する

授業の計画:

映像コンテンツ制作では編集加工された取材コンテンツ映像(編集VTR)を活用したスタジオの企画番組制作に取り組みます。全体の流れは以下の通りです。

映像コンテンツ制作 (秋学期)

- ・映像メディア・コミュニケーション力のアップに向けて(2回)
- ・フィールドカメラ素材を取り込んだ映像メディアコンテンツ制作(1回)
- ・スタジオカメラを利用した映像メディアコンテンツ制作(2回)
- ・番組企画プロジェクトチームの結成と番組企画の実践(2回)
- ・番組制作実践とプリプロダクション(4回)
- ・番組制作リハーサルと本番収録(2回)
*フィールドカメラによる自主素材を交えた番組制作

履修者へのコメント:

映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作で蓄積した映像構成の基礎理解や番組企画のノウハウをさらに発展させることを狙っています。講義は春学期と秋学期でそれぞれ独立して完結しますが、映像コンテンツ制作とを連続して受講することを希望します。

成績評価方法:

- ・映像コンテンツ制作のプロセスと番組完成度に対する評価 (60パーセント)
- ・出席と平常制作準備活動の評価 (40パーセント)

質問・相談：

授業終了時、および電子メールで受け付けます。

メディア・ネットワーク実習 ・ (春)(秋)
「放送と通信」融合のしくみ・導入編 田 辺 浩 介

授業科目の内容：

コンピュータ・ネットワーク技術について、解説と基礎的な実習を行います。「放送と通信の融合」に対する技術的な理解を高めることを目標とします。

テキスト：

特に指定しませんが、IT 関連のニュースサイトには目を通しておくようにして下さい。

参考書：

特に指定しませんが、IT 関連のニュースサイトには目を通しておくようにして下さい。

授業の計画：

1. コンピュータの基礎（ハードウェア、ソフトウェア）
2. ネットワークの基礎（IP、DNS、各種プロトコル）
3. Webの基礎（HTML、WEB上のファイル形成）
4. ネットワークの構築（配線、サーバー設定）
5. 音声・映像配信の実践（ライブストリーミング、Podcasting）
6. 動的 Web サイトの構築（CMS）

履修者へのコメント：

- ・実習の多くはMWRのアカウントを利用して行います。
- ・映像制作の講義と同時に受講することをおすすめします。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時電子メール、または講義用 Web ページで受け付けます。

電子ネットワーク調査法（秋）(日吉)
ネットワーク上のメディア情報を探索する 菅 谷 実

授業科目の内容：

ネット上には全世界の多様な情報が膨大な数存在していますが、どこにどのような情報が存在しているかを熟知している人は多くありません。ここでは、はじめにメディア、ネットワーク産業、情報通信政策に関わる情報を収集するために必要な探索法とサイトの利用法を紹介します。さらに、受講者の興味に従い特定のテーマで情報を収集し、それをプレゼンする効果的方法を学びます。

テキスト：

特に使用しません

授業の計画：

本年は以下の予定で講義を進めます（カッコ内は授業回数）。

オリエンテーション (1)

ネット情報探索法 (8)

インターネットとは

日本のメディア・ネットワーク産業

日本の情報通信政策

海外情報の探索

調査・研究サイト

情報収集実践とプレゼン (3)

受講者のプレゼン

まとめ (1)

履修者へのコメント：

ネットワークの情報検索に興味ある研究生の受講を歓迎します

成績評価方法：

平常点で評価する。

質問・相談：

毎回講義終了時に質問、相談を受け付けます。

時事英語 ・ (春)(秋)(日吉)
英文記事から学ぶ世界情勢 運 実 潔

授業科目の内容：

速報を重視する外国通信社や米有力紙の記事を教材に使い時事英語の読解力を養うとともに、世界情勢の現況と背景を学ぶ。

テキスト：

特に指定しない。できるだけ直近の報道をテキストにする

参考書：

特に指定しない

授業の計画：

ガイダンス（1時限）

比較的読みやすい通信社（AP 通信など）の配信記事読解（1時限）

主に米紙の記事を教材とし、米国の政治、議会、司法制度、経済の動向などを学ぶ（5時限）

中国や欧州、中東情勢に関する外国メディアの報道をフォローし、日本メディアとの視点の相違などに注意を払う（4時限）

、 、 ではナマの出来事を追いながら国際情勢の理解に必要な基本認識を深める

主要米紙の論説 (editorial) を読み、「主張するメディア」の在り方を探る（2時限）

後期も ~ のプロセスをほぼ踏襲する

履修者へのコメント：

完全なバイリンガルは別として、いくら英文記事を読めても、それを他人にも分かる滑らかな日本語に「変換」できなければニュースへの理解は浅いものにとどまる。講義中、いくら辞書を引いても構わない。積極的質疑を期待する。

成績評価方法：

レポートによる評価

文章作法 ・ (春)(秋)(日吉) 浜 村 寿 紀

授業科目の内容：

文章作成技術の基本を固める。企業などの競争試験に備えるとともにジャーナリスティックな視点の涵養を図る。

参考書：

随時指定する。

授業の計画：

テーマを提示した作文演習が中心。文章作成の前提となる情報収集（取材）についても実習を含めた技術指導を行う。インターネットエイジのコミュニケーションに関するエクササイズも実施する。

履修者へのコメント：

メディア業界希望者はもちろん他の業種希望者にも役立つ講義にするつもりです。

成績評価方法：

随時提出の作文による評価

質問・相談：

講義時間、および E-mail。受講者の希望があればブログ等も活用する。

体 育 科 目 (三田設置) (体育研究所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板(西校舎)に、日吉設置科目については、体育科目掲示板(日吉 J11 番教室前)にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目(日吉)の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A(ウィークリー・スポーツ)が、8科目(テニス、バレーボール、フットサル、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス)開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の4科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください(学事センターで閲覧できます)。

(1) 体育学講義 (2単位).....「身体」「健康」「運動」等に関する講義。

(2) 体育学演習 (1単位)..... 講義+実習による演習形式の授業。

(3) 体育実技 A (1単位).....「身体活動」実技 A~Dの4段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

(4) 体育実技 B (1単位).....「身体活動」実技 P(合)・F(否)(Pass/Fail)の2段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

体育実技には「体育実技 A」と「体育実技 B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。なお、「体育実技 A」と「体育実技 B」、ともにウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツがあります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ.....週1回半年(春学期または秋学期)の授業。

シーズン・スポーツ.....夏季休業中(7月~9月)または春季休業中(2月)の7日間の授業。ただし、合宿科目は原則として3泊4日。

3 2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 三田設置科目履修申告までの流れ

4月7日(金)

体育科目ガイダンス(三田)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内と時間割を持参のうえ出席してください。
1限および2限 522番教室(いずれの時限も同内容)

4月7日(金)
~20日(木)

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間	9:00~12:30	14:00~15:30	受付時間	9:00~12:30	14:00~15:30
4月7日 金	女子(10時開始)	男子	4月14日 金	男子	男子
8日 土	男子	男子	15日 土	女子	女子
9日 日			16日 日		
10日 月	女子	男子	17日 月	男子	男子
11日 火	男子	男子	18日 火	男子	女子
12日 水	男子	女子	19日 水	女子	男子
13日 木	男子	女子	20日 木	男子	

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口申し出てください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月10日(月)
~14日(金)

体育研究所許可証の取得

体育科目時間割に従い、第1週目の授業で体育研究所許可証を発行します。秋学期科目も同授業で発行します。発行数は定員分までです。

第1週目の授業に出席できない者のために、各日12時30分から14時まで、三田綱町グランド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行する時間を設けていますが、発行するのはその時点で定員に達していない授業だけです。

第1週目の授業に定員以上の履修希望者が集まった場合は、その場で抽選を行い、定員分の体育研究所許可証取得者を決定します。

4月14日(金) 8:30
~15日(土) 15:00
4月17日(月)
8:30~15:00

Webによる履修申告期間

学事 Web システムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

履修者数の調整について

体育研究所許可証を取得した学生は、履修申告すれば、必ずその科目を履修できます。体育研究所許可証を未取得であっても、履修申告はして構いません。ただし、許可証取得者が優先され、それでも定員に不足が生じた場合に限り、未取得者の中で抽選が行われます。

4月22日(土)

履修者数調整結果発表

9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板

10時30分 三田 西校舎共通掲示板

追加履修を受け付ける、定員に余裕のある科目も同時に発表します。

追加履修は抽選で外れた場合のみ、外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

追加履修のためには、体育研究所許可証の取得と修正申告の手続きが必要です。

三田設置科目の体育研究所許可証は各授業で発行します。各授業で許可証を取得し、定められた期間に学事センターで修正申告を行なってください。

5 日吉設置科目履修申告までの流れ

**4月5日(水)
~7日(金)**

体育科目ガイダンス(日吉)
体育科目の履修を希望する場合は、履修案内、講義要綱・シラバス、体育科目時間割を持参のうえ出席してください。

4月5日 10:45 541・613・623 番教室
6日 10:45 J11・J21・39 番教室
7日 10:45 613・614・623 番教室

**4月7日(金)
~20日(木)**

定期健康診断を受診(日吉)
実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)
実施場所: 日吉記念館

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口に出してください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

**4月10日(月)
~14日(金)**

体育科目ガイダンス週間(日吉)
体育科目の時間割どおりに実施します。
ただし、実技科目はこの期間のみ、すべて日吉記念館スタンドで行います(時間割の実施場所ではありません)。
各時限とも同一内容のガイダンスを、前半・後半の2回行います。
シーズン・スポーツの科目は個別のガイダンスはありません。日吉記念館(総合案内)で担当教員の説明を受けてください。

科目ガイダンス	場 所
体育学講義	時間割指定教室
体育学演習	時間割指定教室
ウィークリー・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館スタンド
シーズン・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館(総合案内)

レベルの高低や、自己の都合などによる履修の取消、変更はできません。

**4月14日(金) 8:30
~15日(土) 15:00
4月17日(月)
8:30~15:00**

Web による履修申告期間
学事 Web システムによる履修申告が必要です。
履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。
各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。
秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

 4月22日(土) 	<p>履修者数調整結果発表</p> <p>9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板</p> <p>10時30分 三田 西校舎共通掲示板</p>
--	---

体育実技 A, 体育実技 B, 体育学演習では, 履修希望者が定員を上回った場合, 抽選による履修者数の調整を行います。履修申告した者は, 履修の可否を必ず確認してください。ただし, 体育学講義は, 抽選による履修者数の調整は行いません。

シーズン・スポーツのアウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット, 水泳(オープンウォータースイミング)の履修者は後述の実技費用納入の手続きを行ってください。

 4月24日(月) ~5月10日(水)	<p>追加履修について</p> <p>履修調整の結果, 定員に余裕のある実技科目・演習科目は追加履修することができます。</p> <p>追加履修は抽選で外れた場合のみ, 外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。</p>
5月8日(月) ~10日(水)	<p>追加履修するためには, 体育研究所許可証の取得と, 修正申告期間中の修正申告の2つの手続きが必要です。</p> <p>履修調整結果を再確認し, 誤りのないようにしてください。</p>

体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について, 以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	申込場所
4月24日(月) 9:15~11:30, 12:30~16:00	体育研究所
4月25日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00	
4月26日(水)~5月10日(水)(平日のみ) 受付時間 8:45~17:00 (最終日 16:00終了)	日吉学事センター総合窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は, 必ず24・25両日中に体育研究所許可証を取得してください。26日以降は取得できません。

修正申告の手続き

で受け取った体育研究所許可証を持参し, 定められた期間に学事センターで履修申告を行ってください。

いずれの手続が不足しても追加履修はできません。また, 所属する学部が追加履修を認めていない場合は, 行っても修正申告の手続はできません。

6 シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

(1) シーズン・スポーツのうち, 以下の合宿形式7科目については, 指定期間内に実技費用の納入が必要です。

実技費用納入科目 アウトドアレクリエーション・山岳・スキー・スケート・
馬術・ヨット・水泳(オープンウォータースイミング)

実技費用納入日時	受付時間	受付場所
4月24日(月)~4月27日(木)	8:45~17:00	日吉学事センター総合窓口(納入用紙交付)

上記科目は, 履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は, 総合窓口に申し出てください。申し出なく期間内に納入しなかった場合は, 履修放棄として取り扱います。(DまたはF評価)

(2) 実技費用納入締め切り後, なお人員に余裕がある科目については, 追加履修を受付けます。

体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

球技

体育実技 A (テニス) 月曜 1 限
(上級) 堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット, シューズ (ハードまたはオールコート用)

〔授業の計画〕

1 限 (90 分) の計画

05 準備体操

10 球出しによるウォーミングアップ, フォア・バックハンド
ストローク

30 サービス, シングルス・ダブルスポジションにて

40 ペアーボレーボレー

50 ダブルスゲーム, MIX・男子・女子

85 総括

半期 13 回の計画

毎週, 毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが, 参加者数により, ラリー (クロス・ストレート), シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。

ストローク・サービス・ボレーの各ショット別練習中に, 以下ポイントに沿ったアドバイスを個別または全体に与える。

1 ~ 3 週: 腕の振り

4 ~ 6 週: 身体のバランス

7 ~ 10 週: 足捌き (フットワーク)

11 ~ 13 週: 総括および戦術

〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて, 全世界 120 か国以上に普及した国際的スポーツです。また, 国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も, 5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ, 腕を競い合っています。正にグローバル化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に, 是非手習いをしておきたいスポーツです。

〔成績評価方法〕

平常点: 出席状況および授業態度による評価 (出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。)

体育実技 A (テニス) 水曜 2 限
(初級) 村松 憲

〔実施場所〕

綱町グラウンド (屋外ハードコート) 三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度

〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ, テニスラケット (シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1~2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習

3~6 回目 ボレー, サービス, グラウンドストローク, スマッシュの基礎練習

7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また, 少し経験はあるけれども基礎を確認したい, という方も歓迎します。

かなり経験を積んだ方が参加しても構いませんが, あくまで, 初級者にレベルを合わせて授業をすすめますので, あらかじめご理解下さい。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A (テニス) 水曜 3 限
(中級) 村松 憲

〔実施場所〕

綱町グラウンド (屋外ハードコート) 三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度

〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ, テニスラケット (シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1~3 回目 サービス, ボレー, グラウンドストローク, スマッシュ, リターン等, 基礎技術の確認と練習

4~6 回目 回転をかけるサービス, ジャンピングスマッシュなど, 試合を有利にすすめる上で役立つ応用技術の確認と練習

7 回目以降 クロスコートでのサービスからのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

このクラス (中級) では, 「技術レベルがどこまで到達したか」 (どの程度向上したか, だけでなく) という点も成績評価の対象とします。したがって, 「打ち合いで安定して 10 往復以上続けることができる (相手が打ちやすいボールを出してくれた場合) こと」が難しい方にはおすすりできません。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A (テニス) 火曜 1 限
(初中級) 加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

〔授業の計画〕

2回をセットとして、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、を技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。3回の技術力テストを行う。雨天時は当日の朝、掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（テニス） 火曜2限
（中上級）

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と、ルールの習得ならびに、テニスにおける戦術の指導。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット、テニスシューズ、運動ができるウェア

〔授業の計画〕

戦術的な説明をしつつ、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレー、スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。実践的な練習が多い予定です。雨天時は当日の朝、掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（バレーボール） 木曜1限・2限

野口 和行

〔授業の目的〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装・屋外シューズ

〔授業の計画〕

1. 個人の技術レベルの向上（4回）
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解（4回）
サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践
個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（フットサル） 水曜2限・3限

須田 芳正

〔授業の目的〕

フットサルの技術、戦術を習得し、ゲームの中でフットサルの魅力、楽しさを体験することを目的とする。

〔参考書〕

- フットサル教本（松崎康弘、須田芳正著、大修館書店）
- フットサル攻略マニュアル100（須田芳正著、NHK出版）

〔授業の計画〕

- 1回、ガイダンス（場所は銀座 de フットサル 田町スタジアム）
- 2~4回、技術練習とゲーム形式
テーマ：ボールフィーリング、パス&コントロール、シュート
- 5~8回、戦術練習とゲーム形式
テーマ：4対2、フォーメーショントレーニング
- 9回以降、ゲーム形式
テーマ：チームを固定してのリーグ戦

〔履修者へのコメント〕

積極的に授業へ参加する学生を歓迎します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等についてはガイダンス時に説明する。

〔質問・相談〕

実施場所は銀座 de フットサル 田町スタジアム
所在地：港区芝5-36-7 札の辻パーキング2F
JR 田町駅 三田口 西口、都営地下鉄三田駅より徒歩3分

武道

体育実技A（合気道） 木曜2限

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通して、心と身体からだの正しい使い方しんしんとういつ（心身統一）を習得する。
心身統一を日常生活で活用できるように習得する。
大切な場面での心の落ち着きを習得する。危険に対する察知と対応を習得する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

道着は貸与。Tシャツ（女子のみ）・タオル（汗をふくため）・道着を持ち運ぶバッグ等。

〔授業の計画〕

- 半期前半
 - ・合気道基本技
 - ・心が身体を動かす（心身統一）
 - ・正しい姿勢（自然に安定した姿勢）
 - ・安全な受身と間合い
- 半期後半
 - ・合気道応用技
 - ・正しいリラックス（虚脱状態との違い）
 - ・大切な場面での心の落ち着き
 - ・危険に対する察知と対応

春学期と秋学期ではテーマは同じですが、内容は異なります。半期が基本ですが、通年で履修をすると理解がさらに深まります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から確実にお伝えしますので、合気道を初めて学ぶ方でも安心して学べます。

半期で一通りのことを学ぶことが出来ますが、しっかりとした習得には通年での履修をおすすめします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。）

体育実技A(弓術) 火曜1限・2限 小笠原 清忠

〔授業の目的〕

和弓に親しみながら、的中に興味を持たせる。
弓術を修練することにより礼節を身に付ける。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館(正己弓道場)

〔服装・携行品・その他〕

服装は運動の出来る服装(ボタンや胸ポケットのないもの)

〔授業の計画〕

- 1 道場内での礼儀作法。弓具の取り扱い。
- 2 素引き練習
- 3 習熟度合いにより距離を離して行射を行う。
- 4 正規の距離で行射を行う。

〔履修者へのコメント〕

雨天でも授業は行います。靴下又は足袋を必ず持参すること。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。）

体育実技A(剣道) 水曜2限・3限

吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館(剣道場)

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴(運動に相応しい服装も可)・手ぬぐい
剣道具(防具)・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- 1 ガイダンス剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎
- 2 素振りのバリエーション 五行の構え 対人的足さばき
- 3 基本の復習 日本剣道形の導入・1本目
- 4 日本剣道形1~2本目 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方
- 5 日本剣道形1~3本目 基本的な技の打ち方 防具の着け方
- 6 日本剣道形1~4本目 手の内の刃えについて 正中線の意味 切り返し
- 7 日本剣道形1~5本目 一本打ちの技
- 8 日本剣道形1~6本目 連続技(二・三段打ちの技)払い技 捲き技
- 9 日本剣道形1~7本目 応じ技(すり上げ技・返し技)
- 10 日本剣道形1~7本目 応じ技(抜き技・打ち落とし技)
- 11 日本剣道形小太刀1~3本目 出頭技
- 12 日本剣道形復習試合規則の確認 試合形式の実践
- 13 紅白試合まとめ

〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席60%、技術10%、態度20%、理解10%の割合で点数化して評価する。

体育実技A(柔道) 月曜2限・3限
(初心者、経験者を問わない~男女共習) 安藤 勝英

〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。また、見る柔道の立場から、国際、国内ルールを説明する。更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館(柔道場)

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣(希望者には貸与する)、タオル、Tシャツ(女子のみ)

〔授業の計画〕

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作(礼法、受身、体捌き)
- 3 投げ技と受身の反復練習(大外刈、大内刈等)
- 4 投げ技と受身の反復練習(大腰、背負投等)
- 5 投げ技と受身の反復練習(送足払、払釣込足等)と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古
- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技(抑込技、絞技、関節技)の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古(立技、寝技)
- 13 試合方法、審判法(国内、国際ルール)の説明。

〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。
〔成績評価方法〕

平常点:出席状況および授業態度による評価(出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。)

個人種目

体育実技A(ダンス) 金曜2限・3限
ボールルームダンス 入門 初級 篠原 しげ子

〔授業の目的〕

種目ごとのリズムの特徴を理解し男女で組んで踊れるようになる。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館(剣道場)

〔定員〕

男性10名 女性10名

〔服装・携行品・その他〕

動きやすい服装 綱町道場の剣道場で行うためシューズは着用せず、ソックスを持参

〔授業の計画〕

金曜2時限目

春学期 ラテン入門 (ジルバ ルンバ チャチャチャの基礎を4~5週間ずつ行う)

秋学期 スタンダード入門（ブルース タンゴ ワルツの基礎を
4～5週間ずつ行う）

金曜3時限目

春学期 初級・タンゴ

秋学期 初級・ワルツ

それぞれの種目を半期間と押して行う

1～3週 種目の特徴（リズム、姿勢、ホールド）を理解する

4～8週 数種類のフィギュアをつなげて一曲踊りとおせるよう
になる。

9～12週 さらにフィギュアの数を増やすとともに正確な踊りを
目指す

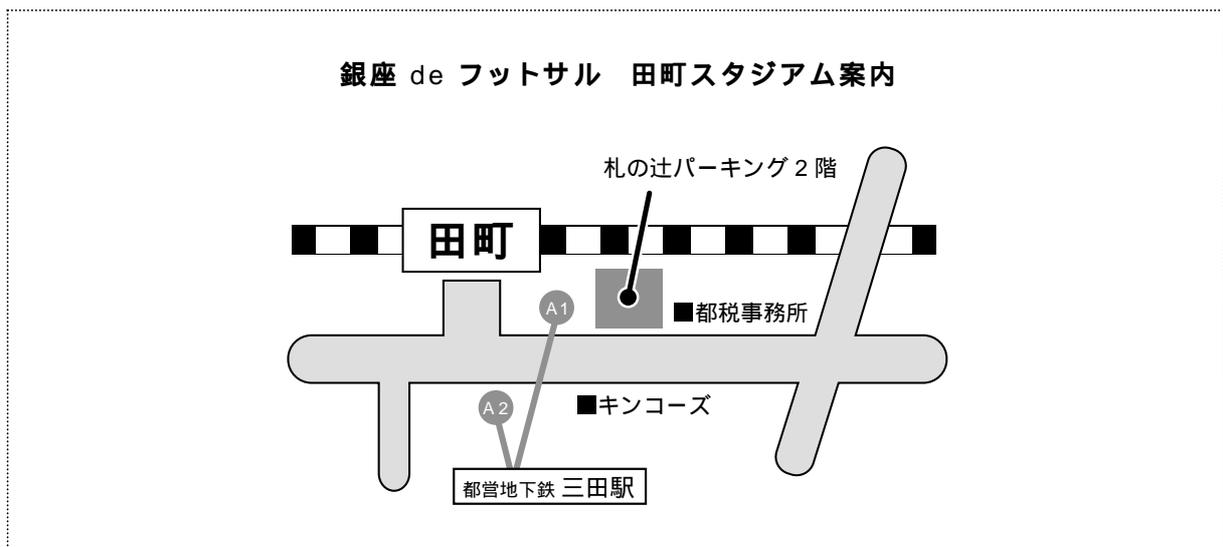
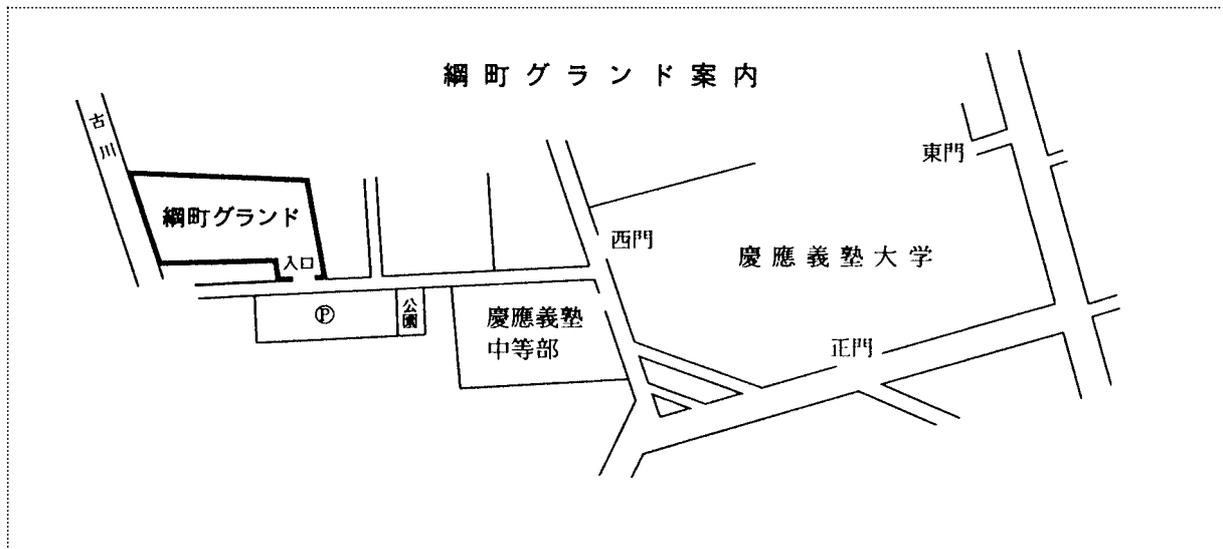
13～ 自分で好きな順番でつなげて踊れるように工夫する

〔履修者へのコメント〕

ガイダンス週間に種目のビデオを見ながら、それぞれの踊りの説
明をします。必ず参加して内容を把握して選択してください。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（各時限に簡単なレ
ポート提出により、理解度 20、授業態度 20、出席状況 60 で採点）



福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからでもあります。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることに直接的にも間接的にもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』・資料集・叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、23名の所員、11名の顧問、26名の客員所員、7名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが、提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の学術的な成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会をつくることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反発するものにとっても、面白く刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は以下の6講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

(慶應義塾福澤研究センターのホームページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>)

近代日本研究 (春学期)(2)

『学問のすゝめ』とその時代

法学部教授 岩谷 十郎
経済学部教授 小室 正紀
名誉教授 坂井 達朗
教職課程センター教授 米山 光儀

授業科目の内容:

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編にわけて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制頒布、新橋・横浜間鉄道開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正条例公布、民選議院設立の建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱などの制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の時期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけではなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置付けることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト:

福澤諭吉『学問のすゝめ』をテキストとするが、同書には様々な版がある。どの版でもかまわないが、受講者は必ず、同書を用意すること。

参考書:

- ・福澤諭吉『福翁自伝』(各種の版があります)
- ・慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年。
- ・石河幹明『福沢諭吉伝』岩波書店

授業の計画:

- 第1回 はじめに(小室正紀)
- 第2~4回 『学問のすゝめ』初編~4編
- 第5~7回 『学問のすゝめ』5編~8編
- 第8~10回 『学問のすゝめ』9編~13編
- 第11~13回 『学問のすゝめ』14編~17編

履修者へのコメント:

毎回、講義で取り上げる編をあらかじめ読んでおくこと。

成績評価方法:

レポートによる評価

質問・相談:

授業時間内に受け付けるとともに、コーディネーターの小室正紀のオフィス・アワーに質問を受け付ける。

近代日本研究 (秋学期)(2)

福澤研究センター助教授 西澤 直子

授業科目の内容:

福澤諭吉が近代社会に問いかけた「一身独立」そして「独立自尊」とは何であったのか。まずいくつかのトピックスを中心に生涯を通じて考察し、更に「土族社会」「家族論」をキーワードに再考を試みる。

テキスト:

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書:

- ・『福澤諭吉書簡集』(岩波書店、2001~2003年)
 - ・『福澤諭吉著作集』(慶應義塾大学出版会、2002~2003年)
- 他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画:

- 1 序論 授業テーマの説明および「一身独立」「独立自尊」に関する予備的考察
- 2 福澤諭吉の生涯と「一身独立」「独立自尊」
中津の学問的伝統
滞米滞欧体験
著作権確立運動
交詢社の設立
時事新報の創刊

朝鮮留学生

3 福澤諭吉と中津土族社会

「中津留別之書」「旧藩情」「福翁自伝」
中津市学校と土族授産

4 福澤諭吉の家族論

女性論
男性論
家族論

5 まとめ 授業を通して考察したことについての意見交換

履修者へのコメント:

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(論述形式)
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価(出欠は取りませんが、積極的な参加は評価に加えたいと思います。)

質問・相談:

授業後。あるいは文書でも受け付けます。

近代日本研究演習 (春学期)(2)

法学部教授 寺崎 修

授業科目の内容:

この演習では福澤諭吉の政治思想を学ぶため、「分権論」、「通俗民権論」、「通俗国権論」などを読む。

テキスト:

『福澤諭吉著作集』第7巻(慶應義塾大学出版会)

参考書:

授業中に適宜紹介する。

授業の計画:

1. 序
2. 「分権論」を読む
3. 「分権論」の意義
4. 「通俗民権論」を読む
5. 「通俗民権論」の意図
6. 「通俗国権論」の読み方
7. 「国会論」を読む

履修者へのコメント:

履修条件は毎時間出席できる者。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

随時。

近代日本研究演習 (秋学期)(2)

福澤書簡の研究

講師 松崎 欣一

授業科目の内容:

福澤および近代日本研究の基礎史料としての福澤書簡について「授業の計画」に示す視点からの検討を行う。あわせて、写真版等により原書簡の読解演習を実施したい。

テキスト:

『福沢諭吉の手紙』(岩波文庫)

参考書:

- ・『福澤諭吉書簡集』全9巻(岩波書店刊)
- ・『福澤諭吉著作集』全12巻(慶應義塾大学出版会刊)
- ・富田正文『考証福澤諭吉』上・下(岩波書店刊)

授業の計画:

- 1) 福澤書簡概観...『書簡集』編纂の経緯、名宛人、年次別発信数等について。
- 2) 古文書学的視点からの検討...福澤書簡の形状、文体、用字、用語、筆跡等。
- 3) 福澤の伝記史料としての検討...新たな「福澤年譜」編成のための基礎的作業として。

- 4) 近代日本の同時代史的史料としての検討...福澤書簡の名宛人は約 600 人に及ぶ。その多くは、福澤と名宛人相互の私的な通信にとどまらず、周辺の人事やその時々、社会的諸事象に話題が及んでいる。いくつかのテーマを設定して検討する。
- 5) 書簡の読解演習...『福沢諭吉の手紙』(岩波文庫)をテキストとし、また原書簡の写真版等により読解の実習を行う。福澤研究センター所蔵の原書簡に触れる機会も作りたい。

履修者へのコメント：

「授業の計画」の具体的な展開は、受講者の所属、専攻、研究課題等を確認してあらためて考慮したい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・出席状況による評価

質問・相談：

随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉 (春学期)(2)

福澤研究センター助教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。

福澤の女性論・家族論は、同時代のみならず大正期・昭和期に入っても、たとえば与謝野晶子、本間久雄、山高しげりなど多くの人々に高い評価を得ながら、読み継がれてきた。それは福澤の指摘が今日的であり続けたからであり、つまりは近代化の過程において、福澤が提示した課題が克服され得なかったことを示している。近代日本において形成された女性像・家族像は、福澤の構想とは異なるものであった。

この授業では、福澤の著作を読むとともに、同時代の他者による女性論を比較講読しながら、福澤の意図はどこにあったのか、また最終的に社会的規範として受け入れられていった女性論がいかなるものであったのかを考察し、その視点から近代日本について考えたい。

授業は通常講義形式で行い、演習の時間は履修者による意見発表を行う。(履修者は最初の1時間の講義ののち、各自が参加する演習を決定する) では明六社、自由民権運動活動家、福澤諭吉の明治10年代までの女性論を扱う。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻(慶應義塾大学出版会、2003年)
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 明六社の女性論
 - 1) 森有礼「妻妾論」・加藤弘之「夫婦同権ノ流弊論」・津田真道「夫婦同権弁」
 - 2) 福澤諭吉「男女同数論」
 - 3) 演習
- 3 自由民権運動の中の女性論
 - 1) 土居光華『文明論女大学』
 - 2) 岸田俊子「同胞姉妹に告ぐ」・福田英子『妾の半生涯』
 - 3) 植木枝盛『東洋の婦女』
 - 4) 演習
- 4 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 「中津留別の書」『学問のすゝめ』
 - 2) 「日本婦人論」『日本婦人論後編』
 - 3) 『男女交際論』『男女交際余論』
 - 4) 演習
- 5 まとめ

履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(授業中に意見発表の時間があります。)

質問・相談：

授業後。あるいは文書でも受け付けます。

明治期日本女性論と福澤諭吉 (秋学期)(2)

福澤研究センター助教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。明治期日本女性論と福澤諭吉を参照のこと。

授業は通常講義形式で行い、演習の時間は履修者による意見発表を行う。(履修者は最初の1時間の講義ののち、各自が参加する演習を決定する) では明治20年以降の福澤の論説およびキリスト教主義者、儒教主義者の女性論を扱い、また福澤女性論の系譜について考える。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻(慶應義塾大学出版会、2003年)
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 『日本男子論』
 - 2) 『女大学評論・新女大学』
 - 3) 演習
- 3 キリスト教主義の女性論
 - 1) 矢島楯子『東京婦人矯風雑誌』『婦人矯風雑誌』より
 - 2) 潮田千勢子『婦人新報』より
 - 3) 演習
- 4 儒教主義の女性論
 - 1) 丹靈源『国母論』・大江スミ子『女房説法鉄砲三ぼう主義』
 - 2) 井上哲次郎ほか『女大学の研究』
 - 3) 演習
- 5 福澤女性論・家族論の系譜
 - 1) 深間内基『男女同権論』・鎌田栄吉『鎌田栄吉全集』より
 - 2) 日原昌造 福澤研究センター所蔵『時事新報』社説原稿より
- 6 まとめ

履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(授業中に意見発表の時間があります。)

質問・相談：

授業後。あるいは文書でも受け付けます。

外国語教育研究センターでは、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、インドネシア語、アラビア語、およびイタリア語の9外国語について、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行います。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています。

外国語教育研究センターでは、夏休みに慶應立科山荘で行う外国語集中セミナーや春休みに行う海外短期語学研修、および高校生から大学院生を対象としたアカデミック論文コンテストなどを

企画しています。詳細が決定し次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者を募る予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター設置科目の一覧を掲載します。ガイダンス、履修の手続き、および各科目の詳細な講義内容ならびに併設科目については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

なお、『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』は4月6日(木)に行われるガイダンスおよび外国語教育研究センター事務室でも配布します。

ガイダンス日程：4月6日(木) 12:30 ~ 531 番教室

各科目の履修希望者が定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。なお、外国語教育研究センターが履修を許可した科目は、必ず履修申告しなければなりません。

外国語教育研究センター設置科目一覧(三田・日吉)

経済学部では、以下の ・ のとおり外国語教育研究センター設置科目の履修を認めています。

全ての科目について外国語教育研究センターにて実施する事前登録が必要です。 詳細は「外国語教育研究センター設置科目履修案内・講義要綱」(別冊)にて確認してください。事前登録をしない場合には履修できません。

ただし、履修申告は、経済学部時間割に掲載の登録番号を申告してください。(99~学則者)

* 科目名に(ⅸ)と表記されている科目は春()と秋()のどちらかひとつを履修してもあるいは両方履修することも可能です。

経済学部 外国語科目(選択A)として履修できる科目

語 種	科 目 名	レベル目安	授業形態	開講地区
英語	英語最上級 アドバンスト英語(aⅸb)	超上級	通年	三田・日吉
	英語異文化トレーニング(aⅸb)	中級	通年	日吉
	英語ドラマ(aⅸb)	中級	通年	日吉
	英語翻訳(aⅸb)	中級	通年	三田・日吉
	英語テスト対策 TOEFL(ⅸ)	中級	半期	三田・日吉
	英語テスト対策 TOEFL(Writing)	中級	半期	日吉
	英語テスト対策 TOEIC(ⅸ)	中級	半期	三田・日吉
	英語テスト対策 TOEIC(ⅸ)(上級)	上級	半期	日吉
	英語テスト対策 IELTS(ⅸ)	中級	半期	日吉
	英語 経済・金融(ⅸ)	中級	半期	三田
	英語 法律・法務(ⅸ)	中級	半期	三田
	英語アカデミック・ライティング(ⅸ)	中級	半期	三田・日吉
ドイツ語	ドイツ語表現技法1(aⅸb)(初級発音・聴解練習)	中級	通年	日吉
	ドイツ語表現技法2(aⅸb)(ボキャブラリー・トレーニング)	中級	通年	日吉
	ドイツ語表現技法3(aⅸb)(初級文章表現法)	中級	通年	日吉
	ドイツ語表現技法4(aⅸb)(中・上級聴解・口頭表現)	上級	通年	三田
	ドイツ語表現技法5(aⅸb)(中・上級文章表現法)	上級	通年	三田

語種	科目名	レベル目安	授業形態	開講地区
フランス語	フランス語表現技法 1(Ⅹ) 課題作文	中級	半期	日吉
	フランス語表現技法 2(Ⅹ) DELF 第 1 段階対応クラス	中級	半期	三田
	フランス語表現技法 3(Ⅹ) DELF 第 2 段階対応クラス	上級	半期	三田
	フランス語表現技法 4(Ⅹ) DALF 対応クラス	超上級	半期	三田
ロシア語	ロシア語聴解 (aⅩb)(ロシア語の音のシャワーを浴びよう)	初・中級	通年	日吉
	ロシア語表現技法 1(Ⅹ Ⅹ 映画とドラマでロシア語を学ぼう)	中・上級	半期	三田
	ロシア語表現技法 2(Ⅹ Ⅹ ロシア語で発信しよう)	中・上級	半期	三田
中国語	中国語聴解 1(Ⅹ)(上級)	上級	半期	日吉
	中国語表現技法 1(Ⅹ)(上級)	上級	半期	日吉
	中国語聴解 2(Ⅹ)(最上級)	超上級	半期	三田
	中国語翻訳 (Ⅹ)(最上級)	超上級	半期	日吉
	中国語表現技法 2(Ⅹ)(最上級)	超上級	半期	三田・日吉
スペイン語	スペイン語表現技法 1(aⅩb)(初級)	初級	通年	日吉
	スペイン語表現技法 2(aⅩb)(中級)	中級	通年	日吉
	スペイン語表現技法 3(Ⅹ)(上級)	上級	半期	三田
インドネシア語	インドネシア語ベーシック 1(aⅩb)	初級	通年	日吉
	インドネシア語ベーシック 2(aⅩb)	中級	通年	三田
アラビア語	アラビア語 (aⅩb)	初級	通年	日吉
イタリア語	イタリア語ベーシック (Ⅹ)	中級	半期	日吉

経済学部 自由科目として履修できる科目

以外の外国語教育研究センター設置科目は自由科目として履修できます。

2 年生以上の履修を選択必修科目として認定します。

1 年生の履修を選択科目として認定します。

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季および春季休業中に海外で在外研修プログラムを開講しています。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、本学の教職員が同行する講座もあります。

また、現地への出発前には事前研修を実施します。(事後研修を実施する場合もあります。)

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

ガイダンス 4月4日(火) 藤沢 12教室 16:10~17:40 4月6日(木) 矢上 14-201教室 13:00~14:30
4月5日(水) 三田 519教室 13:00~14:30 4月6日(木) 日吉 J11教室 17:00~18:30

夏季講座募集期間: 4月12日(水), 13日(木) 一次合格発表: 4月20日(木)

面接審査: 4月22日(土) 夏季講座選考結果発表: 4月28日(金)(予定)

慶應義塾大学 ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義、ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション、エッセイの作成・提出を中心としており、ケンブリッジ大学の教員が指導にあたります。

〔現地研修期間〕

2006年8月7日(月)~9月6日(水)(予定) 5月~7月に三田キャンパスにて事前研修を2回程度行います。

〔開講予定科目〕 6科目の中から3科目を選択して履修。

English Literature, History of Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior (Zoology).

〔研修内容〕

講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後)、エッセイ作成・提出(週末)

〔単位数〕

4単位 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕 60名

慶應義塾大学 ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション等で構成されています。また、大学内での寮生活や、講演会、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

〔現地研修期間〕

2006年7月28日(金)~8月15日(火)(予定) 4月下旬より事前研修(6回程度)、帰国後には事後研修(2回程度)を行います。

〔研修内容〕

ウィリアム・アンド・メアリー大学の教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイなど。

〔単位数〕

4単位 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕 40名

慶應義塾大学 パリ政治学院春季講座

パリ政治学院は、フランスのエリート養成機関『グランゼコール』の1つで、フランス現大統領のシラク氏をはじめ、歴代の政界・財界の著名人の母校として大変有名です。

本講座は、加盟国の増大により拡大するEUの政治・社会・財政・文化の問題のみならず、EU対アジアやEU対米国の関係など、様々なテーマを取り扱う非常に中身の濃いプログラムになっています。

プログラム期間中に、各自が決めた研究テーマに沿ってエッセイを書き、プログラム修了時には、パリ政治学院からディプロマが授与されます。また、最終週にはベルギーの首都ブリュッセルにあるEUの諸機関を実際に訪問し、EUの組織に対する理解を深める機会が設けられています。

講義はすべて英語で行われますが、午後にはフランス語の授業もありますので、2カ国語を同時にマスターできるのもこの講座の魅力となっています。

プログラムの詳細は、11月ごろ国際センターホームページで発表します。

〔現地研修 2005年度参考〕 2006年2月19日(パリ)～2006年3月18日

〔講義内容 2005年度参考〕

1. "The History of Europe: Once upon a time..."
2. "An introduction to European Institutions"*
3. "European public Space and Democracy"*
4. "National political parties and Europe: are they European?"
5. "The values of the European(s)"
6. "The latest EU enlargement: transition processes and successes of the integration of formerly Socialist countries"
7. "The Challenges of a Common Immigration Policy"*
8. "Joining the EU: is Turkey specific?"
9. "European welfare states"
10. "Is there a European capitalism?"
11. "The growth performances of European economies"
12. "Monetary governance in Europe"
13. "Fiscal governance in Europe"
14. "Public services in Europe"
15. "US/EU conflicts of values and/or conflicts of interest"*
16. "The challenges of a European security policy"*
17. "Europe and the Middle East Conflict"*
18. "Ageing and generational equality in Europe"

単位取得：4単位（卒業に必要な単位として認められることがあります。ただし、次年度春学期設置科目として認定の為、参加時に最終学年の場合は対象外となります。）

定員：30名（うち10名は上智大学生）

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国/地域は、米国、カナダ、オーストラリア、アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、政治、経済、産業、文学、芸術、思想など幅広い側面から日本を探究します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生，大学院生，ならびに別科生（原則として新入生を除く）
2. 単位 各科目2単位
（なお，医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）
3. 手続方法
履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。
学部・大学院が設置主体の科目については，学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は，三田，日吉の国際センターで相談してください。
4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は，三田の国際センター掲示板に掲示されます。

国際研究講座 (International Studies Courses)

設置主体	学期	曜日	時限	科目名(Course Title)	担当者名(Lecturer)
国際センター	春	月	3	東南アジア世界の諸相	野村 亨
	Spring	Mon	3	WORLD OF SOUTHEAST ASIA	Nomura, Toru
	春	月	4	異文化と自己理解	ショールズ, ジョセフ
	Spring	Mon	4	CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	Shaules, Joseph
	春	火	3	オーストラリア政治の今日的課題	テリー, レス
	Spring	Tue	3	CURRENT ISSUES IN AUSTRALIAN POLITICS	Terry, Leslie
	春	火	5	世界政治におけるラテンアメリカ	アントリネス, マリオ
	Spring	Tue	5	LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	Antolinez, Mario
	春	水	4	現代の国際問題と国連の役割	マリク, ラビンダー
	Spring	Wed	4	CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	Malik, Rabinder
	春	水	5	国際人権法	細谷 明子
	Spring	Wed	5	INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW	Hosotani, Akiko
	春	木	5	アフリカン イシューズ	近藤 英俊
	Spring	Thu	5	AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	Kondo, Hidetoshi
	春	金	3	グローバルビジネスにおける革新と戦略	トビン, ロバート I.
	Spring	Fri	3	INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS	Tobin, Robert I.
	春	金	3	現代ロシア研究	ナコルチェフスキー, アンドリイ
	Spring	Fri	3	UNDERSTANDING RUSSIA	Nakortchevski, Andrei
	春	金	4	アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策	ウィリアムス, ムケーシュ
	Spring	Fri	4	AMERICAN STUDIES: AMERICAN HISTORY, CULTURE AND FOREIGN POLICY	Williams, Mukesh
春	金	5	現代中国社会	ファーラー, グラシア	
Spring	Fri	5	CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	Farrer, Gracia	
秋	月	4	ドイツ文化と社会	ワニェク, ヤクリーン	
Autumn	Mon	4	GERMAN CULTURE AND SOCIETY	Waniek, Jacqueline	
秋	月	5	比較映画論: 映画における歴史の表象	エインジ, マイケル	
Autumn	Mon	5	VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM	Ainge, Michael W.	
秋	火	4	グローバルヴィレッジ構築に向けて	フリードマン, デビッド	
Autumn	Tue	4	BUILDING THE GLOBAL VILLAGE	Freedman, David	
秋	火	5	カナダという国とカナダの国際的な役割	イエローリーズ, ジェームズ	
Autumn	Tue	5	CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	Yellowlees, James	
秋	水	2	文化・文化適応とアイデンティティ	横川 真理子	
Autumn	Wed	2	CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY	Yokokawa, Mariko	
秋	水	4	国際関係	セツト, アフターブ	
Autumn	Wed	4	INTERNATIONAL RELATIONS	Seth, Aftab	
秋	水	5	開発と社会変容	倉沢愛子	
Autumn	wed	5	DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	Kurasawa, Aiko	
秋	金	3	アジア諸国におけるビジネスマネジメント	トビン, ロバート I.	
Autumn	Fri	3	BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES	Tobin, Robert I.	
秋	金	4	国際開発協力論	後藤 一美	
Autumn	Fri	4	INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	Goto, Kazumi	
秋	金	5	現代インド事情	西村 祐子	
Autumn	Fri	5	INDIA TODAY	Nishimura, Yuko	
経済学部	秋	金	1	EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ	嘉治 佐保子
Fall	Fri	1	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	Kaji, Sahoko	
商学部	春	水	1	産業史各論(科学技術政策史)	林 秀毅
Spring	Wed	1	HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY	Hayashi, Hideki	
文学研究科	春	水	3	倫理学特殊講義演習 I B(*)	ルイス, ジョナサン
Spring	Wed	3	SEMINAR: LECTURE OF ETHICS 1(*)	Lewis, Jonathan	
法学研究科	秋	木	5	プロジェクト科目・欧州統合(*)	樽井 正義
Fall	Thu	5	PROJECT: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION(*)	Tarui, Masayoshi	
商学研究科	春	木	4	会計学(*)	エアトル, ヴォルフガング
Spring	Thu	4	ACCOUNTING(*)	Ertl, Wolfgang	
秋	火	2	金融特論(*)	田中 俊郎	
Fall	Tue	2	ADVANCED STUDY OF FINANCE(*)	Tanaka, Toshiro	
秋	木	5	国際経済(*)	細谷 雄一	
Fall	Thu	5	INTERNATIONAL ECONOMY(*)	Hosoya, yuichi	
					伊藤 眞
					Ito, Makoto
					深尾 光洋
					Fukao, Mitsuhiro
					小島 明
					Kojima, Akira

(*)この科目は、学部生履修不可(This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students.)

日本研究講座 (Japanese Studies Courses)

設置主体	学期	曜日	時限	科目名(Course Title)	担当者名(Lecturer)
国際センター	春 Spring	月 Mon	5	異文化コミュニケーション1 INTERCULTURAL COMMUNICATION 1	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
	春 Spring	火 Tue	3	英国と米国のマスコミに描かれた日本 JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	キンモンズ, アール Kinmonth, Earl H.
	春 Spring	水 Wed	3	源氏物語への道 THE TRAIL OF GENJI	アーマー、アンドルー Armour, Andrew
	春 Spring	水 Wed	3	日本の経営 JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	梅津 光弘 Umezu, Mitsuhiro
	春 Spring	木 Thu	4	日本人の心理学(1):コンフリクト・マネイジメント JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1): CONFLICT MANAGEMENT	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
	秋 Fall	月 Mon	3	芸術と戦争 THE ART OF WAR	ドーシー, ジェームズ Dorsey, James
	秋 Fall	月 Mon	4	近代日本の対外交流史 MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD	太田 昭子 Ohta, Akiko
	秋 Fall	月 Mon	5	異文化コミュニケーション2 INTERCULTURAL COMMUNICATION 2	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
	秋 Fall	火 Tue	3	日本キリスト教史 CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY	ボールハチェット, ヘレン Ballhatchet, Helen
	秋 Fall	火 Tue	4	多民族社会としての日本 MULTIETHNIC JAPAN	柏崎 千佳子 Kashiwazaki, Chikako
	秋 Fall	火 Tue	5	政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交 JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA: DECISION-MAKING, HISTORICAL MEMORY AND RACE	飯倉 章 Iikura, Akira
	秋 Fall	水 Wed	3	日本の文学 JAPANESE LITERATURE	アーマー、アンドルー Armour, Andrew
	秋 Fall	水 wed	4	20世紀の日本と欧米の小説 TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION	レイサイド、ジェイムス Raeside, James M.
	秋 Fall	水 wed	5	家族の近代 THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	ノッター, デビッド Notter, David
	秋 Fall	木 Thu	3	国際経営比較 INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS	吉田文一 Yoshida, Fumikazu
	秋 Fall	木 Thu	4	日本の経済システムとその特殊性 STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM	伊藤 規子 Ito, Noriko
	秋 Fall	木 Thu	4	日本人の心理学(2):「甘え」再考 JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2): 'AMAE' RECONSIDERED	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
	秋 Fall	木 Thu	5	美術を「よむ」 - 日本美術史入門 INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	河合正朝 Kawai, Masatomo 村井 則子 Murai, Noriko
	秋 Fall	金 Fri	3	日本の宗教: 救済の探求 RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION	ナコルチェフスキー、アンドリイ Nakortchevski, Andrei
	秋 Fall	金 Fri	4	日本経済の展望 ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN	市川 博也 Ichikawa, Hiroya
経済学研究科	秋 Fall	土 Sat	3	エコノミー・オブ・ジャパン(*) ECONOMY OF JAPAN(*)	吉野 直行 Yoshino, Naoyuki 嘉治 佐保子 Kaji, Sahoko
商学研究科	春 Spring	木 Thu	5	ジャパニーズ・エコノミー JAPANESE ECONOMY	小島 明 Kojima, Akira
理工学研究科	秋 Fall	金 Fri	2	科学技術文化特論(*) SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE(*)	ドウウルフ、チャールズ De Wolf, Charles

(*)この科目は、学部生履修不可(This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students.)

東南アジア世界の諸相

(春学期) (Spring)

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨

総合政策学部教授

Toru Nomura

Professor, Faculty of Policy Management

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Text Books:

None. Handouts will be given from time to time.

Reference Books:

Several books will be suggested during the class.

Class Schedule per week:

1. Orientation
2. What is SEA ?
3. SEA & Japan
4. SEA & European Power
5. Nature and Climate of SEA
6. Languages of SEA
7. Music of SEA
8. Politics of SEA
9. Other aspects of SEA

Please note that above order may change with short notice. For further information, please ask the professor directly.

Message to those taking this Course:

Students are recommended to bring along a map of Asia and / or Southeast Asia in every session.

Classroom rules will be indicated at the first session.

Grading Methods:

In class Exams, Attendance, Participation

Questions, Requests:

Should be forwarded to : nomura@sfc.keio.ac.jp

No petition on scores will be acceptable.

異文化と自己理解

(春学期) (Spring)

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

シヨールズ, ジョセフ

国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Reference Books:

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
- 2) Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

Class Schedule per week:

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture — Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture — The onion model.

4. Student presentations
5. Cultural in human relations — independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression — How we show feelings
7. Culture and status — Who is important and why ?
8. Student presentations
9. Culture and gender — Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time — polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

Message to those taking this Course:

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised — in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

Grading:

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

オーストラリア政治の今日の問題

(春学期)(Spring)

CURRENT ISSUES IN AUSTRALIAN POLITICS

テリー , レス

国際センター講師 (ビクトリア工科大学文学部助教授)

Leslie Terry

Lecturer International Center (Senior Lecturer, Faculty of Arts, School of Social Sciences, Victoria University of Technology)

Course Description:

This offering will explore the changing face of government in contemporary Australia. Students will be introduced to the basic structures and workings of this country's political culture, the nature of its political parties and lobby groups, as well as the key debates in current government policy. A major focus of this unit will be to highlight the impact of the recent shift from post-1945 social-welfare policies to market-driven forms of governance in the 1990s. Central to the course will be a discussion of the 'public' versus the 'private' forms of citizenship in Australia. Students will be introduced to a range of current debates around multiculturalism, innovations in education and changing industrial relations. The course will use a variety of sources including current material from the media to provide students with the opportunity to compare issues of governance in Australia and Japan.

Class Schedule per week:

- Week 1 Lecture and discussion: Introduction <Articles>
- Week 2 Lecture and discussion: Key issues in Australian government <Articles, charts demographic material>
- Week 3 Video: *The Castles* or *The Bootman*: The Australian state in transition <Video>
- Week 4 Lecture/presentation: Governing the Australian citizen 1 (Social democracy) <Articles>
- Week 5 Lecture/presentation: Governing the Australian citizen 2 (Liberalism and Neo-Liberalism) <Readings, articles>
- Week 6 Lecture/presentation: Oppositional Social Movements and political parties <Readings, articles>
- Week 7 Film: *Looking for Alibrandi*: Governing Cultural identities and ethnic difference <Readings, articles>
- Week 8 Lecture/presentation: Multiculturalism and its future <Readings, articles>
- Week 9 Lecture/presentation: Managing the population: debates on the immigration (refugees, ageing population) <Articles, readings>
- Week 10 Lecture/presentation: Shaping the citizen: debates in education <Articles, readings>
- Week 11 Lecture/presentation: Changing working life in Australia <Readings, articles>
- Week 12 Lecture and discussion: Overview of the issues <Notes and readings>
- Week 13 Test and Evaluation

Grading Methods:

Exam, Report, Attendance, Participation, Other

世界政治におけるラテンアメリカ

(春学期)(Spring)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス , マリオ

国際センター講師

Mario Antolinez

Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Books:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Reference Books:

Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.

Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.

Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.

Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.

Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.

Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.

Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.

Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.

Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.

Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.

Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.

Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.

Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.

Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Class Schedule per week:

PART I

Session 1: Introduction

Session 2: The Actors

Session 3: The Inter-American System

Session 4: Latin American Integration and Association

Session 5: Economic Outlook

Session 6: International Relations

Session 7: Latin America and the United States

PART II

Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants

Session 9: Cuba: The Socialist Way

Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery

Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy

Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution

The Caribbean: Colonies and Micro-states

Session 13: Final Exam

Grading:

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

現代の国際問題と国連の役割

(春学期)(Spring)

CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS

マリク ,ラビンダー 国際センター講師 (元国連大学学長室長)

Rabinder N. Malik Lecturer, International Center (Former Executive Officer, Office of the Rector, United Nations University)

Sub-title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and to formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance their trans-cultural literacy and competence and enable

them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world. Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

Text Books:

No specific text books. Photocopied handouts will be distributed as appropriate and relevant. Students will be encouraged to get into the habit of reading a daily newspaper or a weekly magazine and catch the news on radio and television so that they can participate actively and meaningfully in the discussion of contemporary issues. Group discussions and assignments will rely heavily on material obtained from such sources.

Reference Books:

- (1) Charter of the United Nations, UN, New York
 - (2) UN Millennium Declaration, Resolution 55/2, UN General Assembly, 55th Session, Sept. 2000
 - (3) A More Secure World: Our Shared Responsibility; Report of the High-Level Panel on Threats, Challenges and Change, UN, December 2004
 - (4) In Larger Freedom: Towards Development, Security and Human Rights for All, UN Secretary-General, April 2005
 - (5) Relevant publications, reports and documents issued by the United Nations and United Nations University
 - (6) Newspaper articles and journals related to the topics covered by the course
- (Some of the above documents can be accessed through the website <http://www.un.org>)

Class Schedule per week:

- Week 1:* INTRODUCTION TO THE COURSE AND OVERVIEW OF THE CURRENT GLOBAL SCENARIO
Week 2: GLOBAL INTERCONNECTEDNESS AND NEED FOR INTERNATIONAL COOPERATION
Week 3: THE UNITED NATIONS AND ITS ORGANS (UNITED NATIONS CHARTER)
Week 4: THE UNITED NATIONS AND ITS ORGANS (Continued)
Week 5: OTHER INTERNATIONAL AND REGIONAL ORGANIZATIONS
Week 6: INTERNATIONAL PEACE AND SECURITY
Week 7: SOCIAL AND ECONOMIC DEVELOPMENT (MILLENNIUM DEVELOPMENT GOALS)
Week 8: GLOBAL ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY
Week 9: HUMAN RIGHTS (UNIVERSAL DECLARATION OF HUMAN RIGHTS)
Week 10: WOMEN AND DEVELOPMENT
Week 11: AGING SOCIETY
Week 12: REFUGEES AND MIGRATION
Week 13: FINAL REPORTS AND EVALUATION

Message to those taking this Course:

This course is good for those who wish to improve their ability to communicate in English and be able to discuss about international issues with confidence. Regular attendance and active participation in the class discussions will be important. Students should do some prior reading or internet search on the topics under discussion as I would expect students to make comments, ask questions and speak freely in the class.

Grading Method:

- (1) There will be no examination but all students will be expected to write a final report based on readings, lectures and discussions covered during the period.
- (2) Participation in group discussions and individual assignments will also be considered in grading.
- (3) Attendance will be an important part of the consideration for grading.

Requests, Questions:

If students have any questions or problems in the course, they should feel free to talk to me before or after the class or send me an email at: rabindermalik@hotmail.com

I look forward to working with you this semester!

国際人権法

(春学期)(Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Subject of the class:

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human

- Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
 - (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
 - (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

The principal book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3rd ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

Assignments:

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 12: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 19: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 26: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 10: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights ?
- May 17: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 24: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable ?; Guest speaker, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- May 31: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding
Fact-Finding role play, or Guest Speaker to be announced
- Jun. 7: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries ?
- Jun. 14: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- Jun. 21: Chapter 12: European Human Rights System
- Jun. 28: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- Jul. 5: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- Jul.12: Questions & Answers for reviewing the exam

Comment on the Class:

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

Grading Policy:

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

Office Hours:

Wednesday, 1-3 p.m. or by appointment

アフリカン イシューズ : アフリカにおける近代と危機の意味

(春学期)(Spring)

AFRICAN ISSUES

近藤英俊

国際センター講師 (関西外国語大学助教授)

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Sub Title:

The Challenge of Communities — Beyond Postcolonial Situation

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on problems and possibilities associated with communities in contemporary Africa. From political conflicts to development projects, many of social issues seem to have increasingly been revolving around communities in Africa over the last few decades. The saliency of communities seems to have much to do with so called postcolonial situation in which the decline of state power has contributed to the activation of various communal ties and there exists complex flow of plural cultures and identities. But communities here does not necessarily subscribe to the conventional view of closed social groups. They harbour contradictory features: some are fluid, ephemeral and borderless while others are exclusive, sustainable and concerned with boundary.

Using wide range of academic disciplines, we will examine: (1) theoretical issues on communities, (2) the features of communities and their changes in the light of postcolonial situation in Africa, (3) relationships between conflicts and communities, and (4) relationships between development and communities. The course attempts to highlight not only despair but also hope that African communities promise.

Text Books:

Texts will be distributed in due course.

Reference Books:

References will be suggested in due course. However the following will be included:

1. Trager, L. 2001 *Yoruba Hometowns*. Linne Tienner
2. 野元美佐 2005 『アフリカ都市の民族誌』 明石書店
3. 松田素二 1996 『都市を飼い慣らす』 河出書房新社
4. Kondo, H. 2003. 'Illness in Between'. *Japanese Review of Cultural Anthropology* 4

Class Schedule:

- I. Introduction: Communities in Postcolonial Africa (1 session)
- II. The Making and Unmaking of Communities (4 sessions)
 1. Communities without Boundary
 2. Invention of Kingdom
 3. Plural and Shifting Identities
- III. Conflicts, Identity Politics and Communities (4 sessions)
 1. Instrumental Ethnicity vs Cultural Tradition
 2. Politics over Autochthony
 3. Religious Fundamentalism and the Youth
 4. Crises of Trust and Identities
- IV. Development and Communities (4 sessions)
 1. Voluntary and Saving Associations
 2. Elite and Local Development
 3. International Organizations, State and Communities in the arena of Development

Message to those taking this Course:

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course!

Grading Methods:

Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(春学期)(Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン , ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

Text Books:

- Leading the Revolution by Gary Hamel
- Supplementary Reading Materials and Case Studies
- Additional Book To Be Assigned

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

Class Schedule per week:

- List of Topics:
 - Introduction: Time of Change & Innovation
 - Trends In International Business Leadership /and Strategy

- Encouraging Ideas / Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships
- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Grading:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

現代ロシア研究

(春学期)(Spring)

UNDERSTANDING RUSSIA

ナコルチェフスキー , アンドリイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

The main purpose of this course is an attempt to understand contemporary Russia, to understand people who live in this still somewhat enigmatic land in the context of its own history of contacts with other nations. This course will not be a standard course in history and culture. We will talk more about things which usually remain unsaid in academic papers — about how average Russians live, what they like and dislike, what they value and what they hate. We will try to comprehend a legendary “enigmatic soul” of Russians, to enter theirs inner world and look at it from within. We will also discuss general features of unique Russian civilization developed geographically and culturally between East and West. We will try to understand Russia escaping any distortions as best we can, using a lot of video materials as illustrations and sometimes as a base for discussion.

What does it mean to be a Russian ? This will be the main question to which we will try to find an answer during these classes.

Class Schedule:

1. Introduction
2. The starting point of Russian history: the problem of Kievan Rus heritage
3. Orthodox Christianity: its origin and role in Russian history
4. Traditional Moscovia and imperial Russia: choices of Alexander Nevski and Peter The Great
5. Russia and Europe: Slaphophiles and Westernisers
6. Ukraine: the alternative model of development
7. Russian classical literature: main features and ideas
8. Russian Idea: utopia or self-indulgence
9. 19th century failed modernization and 1917 Revolution
10. New empire: the socialist experiment
11. Perestroika: new possibilities or disaster ?
12. Future of Russia in a geopolitical perspective

Grading Methods:

Presentation and participation

AMERICAN STUDIES

ウィリアムス, ムケーシュ 国際センター講師

Mukesh K. Williams Lecturer International Center

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

Course Outline: The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: 'Old' and 'New' immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock'n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865-1917); Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920-2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war on terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and evolving notions of national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?
- f) Is the rise of the modern West a pure or impure concept? (Chris Bayly and Bernal)

Aims: The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

Text Books:

<TEXTBOOK> Howard Zinn, *A People's History of the United States 1492-Present (Perennial Classics)*, (New York: Harper Perennial, 2003); Price 12.89 USD.

<REFERENCE BOOK> David Colbert ed., *Eyewitness o America: 500 Years of American History in the Words of Those Who Saw it Happen*, (New York: Vintage, 1998); Price 12.21 USD.

Reference Book:

Short selections from the following books and essays:

Richard J. Bernstein, *Radical Evil: A Philosophical Interrogation*, (Cambridge: Polity Press, 2002)

The New Constellation: Ethical-Political Horizons of Modernity/Postmodernity, rpt., 1998; (Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1992).

Julia Kristeva, *Nations Without Nationalism*, (New York: Columbia University Press, 1993)

Samuel Huntington, *The Clash of Civilization and the Remaking of World Order*, (New York: Touchstone, 1997).

Clifford Geertz, *The Interpretation of Culture*, (New York: Basic Books: 1973).

Available Light: Anthropological Reflections on Philosophical Topics, (Princeton: Princeton University Press, 2000).

Todd Gitlin, *The Twilight of Common Dreams: Why America is Wracked By Culture Wars*, New York: Henry Holt & Company, 1995).

David A. Hollinger, *Postethnic America*, (New York: Basic Books, 1995).

Giles Gunn, "Introduction: Globalizing Literary Studies," *The Modern Language Association of America*, 2001, pp. 16-31.

Rober Young, *White Mythologies: Writing History and the West*, rpt 2003; (London: Routledge, 1990).

Tzvetan Todorov, *The Conquest of America: The Question of the Other*, (Norman: The University of Oklahoma Press, 1999).

Stuart Hall, *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, (London: Sage, 1997).

David Reisman, *The Lonely Crowd*, (New Haven: Yale University Press, 2001).

Werner Sollors ed., *Theories of Ethnicity: A Classical Reader*, (London: Macmillan Press, Ltd., 1996).

Charles Taylor, *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*, (Princeton: Princeton University Press, 1994).

Class Schedule per week:

- 1st Week: Shopping
- 2nd Week: Introduction to the course, handouts, a short reading list; Imagining the nation—European and Native American ideas. Extract from Todorov's *The Conquest of America*; Sollors, *Theories of Ethnicity*; de Tocqueville, *Democracy in America*,
- 3rd Week: 3 Worlds Meet—Europe, West Africa and Native Indian—Video Script. Disney imagining Pocahontas—multicultural, racial (anti-British and anti-Indian) and feminist issues
- 4th Week: Immigration and Cultural Change, video; OMD Directive 15. Immigrant writers such as Saul Bellow/Malamud Isaac Singer/Anzia Yezzeriska, Toshio Mori, Hisaye Yamamoto, John Okada, Jhumpa Lahiri, Amy Tan et. al. Handout: Giles Gunn, "Globalizing Literary Studies."
- 5th Week: A brief discussion of topics of presentation such as European pioneers, Native American concept of land/music/family life/politics, immigrants/ multiculturalism/working class life in big cities (Reisman, *The Lonely Crowd*); personal is political, civil rights movement—Malcolm X/Martin Luther King/FBI; Japanese Americans/Internment camps/loyalties etc. Choose topics for presentation.
- 6th Week: Make small groups (about 2/3 students) to discuss presentation topics followed by question-and-answer discussion session. Summing up—representation of social and political reality. Create a format for presentation/outline.
- 7th Week: World Wars I and II/Postwar America. Extracts from Gitlin and Hollinger; Show all three videos (if time permits).
- 8th Week: Readings from speeches of Malcolm X and Martin Luther King Jr., A discussion of Harlem and the First Abyssinian Church, New York; Handout from Stuart Hall, *Representation*; Taylor and Appiah, *Multiculturalism*.
- 9th Week: American Foreign Policy: Show video US and the World (1865-1917); extract from Huntington's *The Clash of Civilization*.
- 10th Week: Henry Kissinger and others on American Foreign Policy
- 11th Week: End-Semester Presentation and 4-page final report
- 12th Week: End-Semester Presentation and 4-page final report
- 13th Week: End-Semester Presentation for latecomers/course evaluation

Message to those taking this Course:

Please read the handouts and textual material at home so that you are better prepared to discuss topics in class more enthusiastically and creatively.

Grading Methods:

1. End-Semester Class research-based presentation in class (60% credit)
2. End-semester 4-page report on the topic chosen for presentation (20 % credit), homework based on the text/supplementary material (10% credit)
3. Attendance, Participation 10 % credit

現代中国社会

(春学期) (Spring)

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

ファーラー , グラシア

国際センター講師

Gracia Liu Farrer

Lecturer, International Center

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. This class covers topics such as regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal

and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

Text Books:

Wenfang Tang and William L. Parish.2000. *Chinese Urban Life under Reform: The Changing Social Contract*. University of California Press.

Deborah Davis.2002. *The Consumer Revolution in Urban China*. University of California Press.

Electronic copies of *China Quarterly*, *Journal of Contemporary China*, and other social science journals that would be sent to student via email.

Reference Books:

Solinger, Dorothy J. 1999. *Contesting Citizenship in Urban China: Peasant Migrants, the State, and the Logic of the Market*. Berkeley: University of California Press.

Class Schedule per week:

Week 1. Class Orientation

1. Introduction of the course
2. Collect topics of interests
3. Brief introduction of pre-1949 Chinese history

Week 2. Mao, social movements and the transformation of Chinese society- overview of China between 1949-1978

1. Brief review of the political campaigns and social changes that transformed the Chinese society in the 1950s,1960s and 1970s
2. The rural and urban divide
3. Social mobility

Week 3/4. The State and Society in Post-Reform China

1. The changing social structure: 1978 to present
2. The work-unit system and the organized dependency
3. The rise of the individual and the decline of collectivism

Week 5/6. Reforms and Urban Social Change

1. The impacts of market economy on urban space
2. Growth and unemployment
3. Changing patterns of consumption

Week 7. Mid-term

Week 8. The plight of Rural Population

1. Economic restructuring and rural poverty
2. The development of rural economy
3. The problem of social welfare

Week 9. The Internal Rural Urban Migration

1. The floating population and the social problems

Week 10. Women in Post-reform China

1. Women and Urban Socio-Economic Change
2. Women in Rural Development

Week 11. Family Planning and One Child Policy

Week 12. The Changing Popular Culture

Week 13. Out-migration and Transnationalism

Grading Methods:

1. Exam: One mid-term exam 25% and one final exam 25%
2. Reports: One 10-page research paper on one specific issue area covered in the course. 25%
3. Class Participation : 25%

ドイツ文化と社会

(秋学期)(Fall)

GERMAN CULTURE AND SOCIETY

ワニェク, ヤクリーン

国際センター講師

Jacqueline Waniek

Lecturer International Center

Sub Title:

Introduction to German culture, educational and political system, and historical challenges

Course Description:

The objective of this course is an introduction to the history, social, political and educational systems of Germany. Emphasis will be placed on

contemporary public issues such as the German reunification, Germany's role in the international community and Germany's aging society. By means of discussions, lectures, reading, writing and class presentations, students will reflect the German national character with that of contemporary Japanese.

Text Books:

O'Dochartaigh, P. (2004). *Germany Since 1945 (Studies in Contemporary History)*. New York: Palgrave Macmillan.
<http://www.deutschland.de/home.php>

Reference Books:

Flippo, H. (2002). *When in Germany, Do as the Germans Do*. McGraw-Hill

Class Schedule per week:

1. Introduction
 2. Demographic data, geography, climate
 3. History of Germany
 4. Challenges through German reunification
 5. Germany and Europe
 6. Social structure
 7. Demographic changes
 8. Political System
 9. Educational System
 10. Science and Technology
 11. Culture and Traditions 1
 12. Culture and Traditions 2
- Final class

Message to those taking this Course:

Students are strongly encouraged to contribute to the class by active participation in group work, and discussions.

Grading Methods:

1. Exam (Final Exam 30%)
2. Reports (none)
3. Attendance, Participation (regular attendance 50%)
4. Other (group project presentation 20%)

比較映画論:映画における歴史の表象

(秋学期)(Fall)

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

エインジ , マイケル W.

経済学部助教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries. Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media. We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories? How does film effect memory, both collective and personal? These and other questions will constitute the core of our discussions.

Text Books:

Readings on the periods and/or episodes depicted in the films, as well as on the historical film. Copies will be distributed in class

Class Schedule per week:

Unit & Dates	Topic(s)Film Title	Readings
1. Sept.25	Introduction: Representing History in Text and on Film	
2. Oct.2-16	Hollywood Styles I: The Documentary	<i>Hearts & Minds</i> (ハーツ・アンド・マインズ)(USA, 1975)
3. Oct.23-30	Hollywood Styles II: The Historical Drama	<i>The Last Samurai</i> (ラスト・サムライ)(USA, 2003)
4. Nov.6-13	Non-Hollywood Styles I: Tropicalism	<i>Quilombo</i> (キロンボ)(Brazil, 1984)
5. Nov.27-Dec.4	Non-Hollywood Styles II: Griot	<i>Ceddo</i> (チェド)(Senegal, 1978)
6. Dec.11-18	Anti-Hollywood Styles I: Post-modernism	<i>Walker</i> (ウォーカー)(UK, 1987)
7. Jan.8-15	Anti-Hollywood Styles II: Personal Essay	<i>Sans Soleil</i> (サン・ソレイユ)(France, 1982)

Grading Methods:

1. Reports (**Short essays, 10%; Final Paper 50%**)
2. Attendance, Participation (**40%**)

Course Description:

[HTTP:// WWW.SFC.KEIO.AC.JP/SOUTHAFRICA/](http://www.sfc.keio.ac.jp/southafrica/)

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturnomics” was coined to define how various intellectual disciplines need to combine in order to offer a fuller world view. This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

The course will focus the geo-political area of southern Africa, and the issues that such regions face as they plan seek to integrate their local economies and to connect to the “global village.” Speakers from the various embassies of the S.A.D.C. group will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. Two years ago at the third Tokyo International Conference on African Development Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. This government interest has led to a variety of efforts to make the connections between southern Africa and Japan more multi-dimensional, and include both large-scale and small scale investment, tourism and educational connections and N.G.O. endeavors. (http://www.ajf.gr.jp/old/english/ajf_update.htm)

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their focus country and Japan. As a final project, each group will present a tentative plan to further develop the connections between Japan and their research country.

Class schedule per week:

- Class 1: Introduction and Organization (all students planning to register must choose a study group on this day.)
- Class 2: A Short History of Africa / form country research groups
- Class 3: The economic consequences of Colonialism in Africa
- Class 4: TICAD / Japanese aid and large-scale investment projects – their value and impact in S.A.D.C.
- Class 5: Japan/ Africa tourism eco and main-stream / cultural and economic impact
- Class 6: mid-term, project check
- Class 7: Alternative models of small-scale investment (crafts and culture as export items)
- Class 8: N.G.O.s / education and other “cultural” contacts as components of Japan / Africa economic ties
- Class 9: Symposium prep
- Class 10: Evaluation of the symposium and some thoughts for the future
- Class 11-13 student presentations and final paper

Grading:

As this is a lecture class attendance will be an important part of the grade. If a student is absent for 3 classes without an official excuse his/her grade will be lowered one level. If more than 4 class are missed, the student cannot pass the class. Along with the group work and presentation, each student will be expected to hand in a 3-4 page paper (single space, 12pt font separate bibliography) on the last day of class. The paper will focus on one aspect of Japan/Africa relations covered in the course.

Resources:

Although there is no text, the following sites are required “surfing” for all students

<http://www.gca-cma.org/>

<http://www.southafrica.info/>

<http://allafrica.com/>

<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm> * this site is required viewing before the second meeting!

African Health Resources

<http://www.sul.stanford.edu/depts/ssrg/africa/health.html>

[HTTP://WWW.LOVELIFE.CH/STOPAIDS.PHP](http://WWW.LOVELIFE.CH/STOPAIDS.PHP)

[HTTP://WWW.MALIDOMA.COM/MALIDOMA/](http://WWW.MALIDOMA.COM/MALIDOMA/)

SADC Symposium 2005

<http://sadcsympo.sfc.keio.ac.jp/>

Note:

The exact schedule of speakers and participating embassies will be announced at the first class.

カナダという国とカナダの国際的な役割

(秋学期)(Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

Text Books:

None, will be using handouts

Reference Books:

None, will be using handouts

Class Schedule per week:

1. Introduction to Canada/What are Your Impressions of Canada ?
2. Canada's International Reputation and Role
3. Canadian Politics
4. Decentralized Canada
5. Canadian History
6. Contemporary Canada
7. The Canadian Economy
8. Canadian Business
9. Canadian Society
10. Comparisons Between Canada, Japan and America
11. About First Nations/Inuit People
12. About Canadian Culture- Multi-culturalism
13. Quebec
14. Prepare for Reports

Message to those taking this Course:

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada, please consider taking this course.

Grading Methods:

1. Reports (A five page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Cultures)
2. Attendance, Participation

文化・文化適応とアイデンティティ

(秋学期)(Fall)

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

横川真理子

国際センター講師

Mariko Muro Yokokawa

Lecturer, International Center

Sub Title:

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

How communication and understanding are affected by culture

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice. The instructor will provide basic guidelines on how to conduct ethnographic (observational) research.

Text Books:

Text to be announced . Other materials to be handed out in class.

Reference Books:

- Faith Edise and Nina Sichel (Eds.). *Unrooted Childhoods: Memoirs of Growing up Global*. Intercultural Press, 2004.
 Richard Brislin and Tomoko Yoshida. *Intercultural Communication Training: An Introduction*. Sage Publications, Inc., 1994.
 Ruth Van Reken and David Pollock. *The Third Culture Kid Experience*. Intercultural Press, 2001.

Class Schedule per week:

1. Introduction: What is culture? Cultures, subcultures, values, and culture learning
2. Truth or belief? Beliefs, faiths, and differences in values
3. What's happening to me?—Models of cultural adjustment
4. How do I deal with this?—Culture shock and coping
5. Who am I? Where do I come from? Culture and Identity. TCK and Global Nomad Identity (2 sessions)
6. Is this really home? Re-entry, re-learning culture, and re-defining identity (Case of returnees)
7. Am I what I speak? Language, culture, and identity (Sapir/Whorf; BICS/CALP hypotheses)
8. Presentations on ethnographic studies (3-4 sessions depending on enrollment)
9. Analysis of critical incidents and role plays

Message to those taking this Course:

Japanese returnees and international students are both welcome. The instructor is herself a returnee and Global Nomad educated at international schools in Afghanistan and Egypt, and has done her doctoral research on Japanese children abroad. Active participation and contribution by the students is crucial.

Grading Methods:

1. Reports (Ethnographic Study)
2. Attendance, Participation (Prompt arrival, full attendance, and active participation obligatory)
3. Other (Presentations and comments on presentations)

Questions, Requests:

Students are encouraged to ask questions during class, as this generates good discussions.

国際関係

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セット, アフターブ

Aftab Seth

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Professor, Keio University Global Security Research Center

Sub Title:

Public Speaking / Debate / Art of Conversation, etc.

Course Description:

The course will seek to expose students to the multidimensional nature of international interaction – including debate and literature

1. The course will focus on the importance of communication in the conduct of international relations at all levels; governments, NGOs, Multi-National Corporations, multilateral organizations and at the level of artists, journalists and academicians.
2. The course will include the art of public speaking, social intercourse, the technique of debate, the appreciation of poetry and literature and the importance of a multicultural approach to international affairs.
3. The course will be designed as an interactive one with students, encouraged to actively participating in all the activities described in the proceeding paragraph.

Text Books:

None

Reference Books:

None

Class Schedule per week:

1. Communication in its various aspects – an overview
2. The art of conversation
3. Negotiation – its techniques and strategies
4. Debate – its forms and techniques
5. Drama as a vehicle of views
6. Music as communication
7. Art as a universal communicator
8. Poetry – appreciation, recitation, as communication
9. Silence – its uses as communication
10. Inter-cultural communication – the pitfalls and rewards
11. A diplomat as a communicator
12. A politician as a communicator
13. Examination

Message to those taking this Course:

Those interested in learning about communication may attend.

Grading Methods:

1. Exam(in class exam)
2. Attendance, Participasion

開発と社会変容

(秋学期)(Fall)

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ? Critical analysis and evaluation are most welcome.

Text Books:

give you hand-out

Reference Books:

倉沢愛子 『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社 2001年

Class Schedule per week:

- (1) Introduction on Indonesia
- (2) Suharto's development policy and foreign aid (national level analysis)
- (3) Development policy in economic sector
- (4) Development policy in health sector (2 times)
- (5) Development policy in education
- (6) Neighborhood Association and Control of people
- (7) Increased flow of Information
- (8) Strengthening of Muslim belief (2 times)
- (9) Emergence of new urban middle class
- (10) Globalization and flow of pop culture
- (11) Definition of "prosperity"

Message to those taking this Course:

Read several books on developing countries in Southeast Asia

Grading Methods:

Reports (4-5 pages (A4) of essay), Attendance,Participasion (requires 70% attendance)

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

(秋学期)(Fall)

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン , ロバート I.

商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

Text Books:

Text TBA

Additional assigned articles, case studies and supplementary readings

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

Class Schedule per week:

Introduction
 How to Succeed in Asian Markets
 Asian Market Leaders
 Hybrid Management Styles
 Leading Foreign Firms Successfully
 Local Company and Country Trends
 Country Information Presentations
 Pan-Asia Strategy
 Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Style
 Political and Economic Risks in Asia
 Executive Development and HR
 Challenges in Asia
 Competition with Family Businesses
 Business in Frontier Markets
 Company Presentations
 Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries in this region. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

Evaluations:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.
 Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

 国際開発協力論

(秋学期)(Fall)

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

後藤一美

国際センター講師 (法政大学教授)

Kazumi Goto

Lecturer, International Center, (Professor of International Cooperation, Faculty of Law, Hosei University)

Course description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Text Books:

Textbook is not used in particular. Resume and list of reading materials will be available during the course and via e-mail.

Reference Books:

- David Arase, Japan's Development Aid: An International Comparison (Contemporary Japan), Routledge, 2005.
 - David Arase (ed.), Japan's Foreign Aid: Old Continuities and New Directions, Routledge, 2005.
 - Ramesh Thakur, Andrew F. Cooper, John English (eds.), International Commissions and the Power of Ideas, United Nations University Press, 2005.
- Anthony Payne, Global Politics Of Unequal Development, Palgrave Macmillan, 2005.
- Jeffrey D. Sachs, The End Of Poverty: Economic Possibilities for Our time, The Earth Institute: Columbia University, 2005.

- Report of the UN Secretary-General, In Larger Freedom: Towards Development, Security and Human Rights for All, United Nations, 2005. <<http://www.un.org/largerefreedom/>>
- Report of the UN Millennium Project (Jeffrey D. Sachs, Director), Investing in Development: A Practical Plan to Achieve the Millennium Development Goals, United Nations, 2005. <<http://www.unmillenniumproject.org/>>
- Report of the Secretary-General's High-level Panel, A More Secure World: Our Shared Responsibility, Department of Public Information, United Nations, 2004. <<http://www.un.org/secureworld/>>
- Margaret P. Karns, Karen A. Mingst, International Organizations: The Politics and Processes of Global Governance, Lynne Rienner Pub, 2004.
- Michael Edwards, Future Positive: International Cooperation in the 21st Century, Stylus Pub Llc, 2004.
- John Keane, Global Civil Society ?, Cambridge University Press, 2003.
- Akitoshi Miyashita, Limits to Power: Asymmetric Dependence and Japanese Foreign Aid Policy, Rowman & Littlefield Pub Inc, 2003.
- John Degenbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, Aid: Understanding International Development Cooperation, Palgrave-Macmillan, 2003.
- Finn Tarp, Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future (Routledge Studies in Development Economics), Routledge, 2000.
- 後藤一美・大野泉・渡辺利夫 (編著) 『日本の国際開発協力』 <シリーズ国際開発: 第4巻> 日本評論社, 2005年。
- 後藤一美 (監修) 『国際協力用語集』 <第3版>, 国際開発ジャーナル社, 2004年。

Class Schedule per week:

- 第1回: Orientation
- 第2回~第3回: Introduction to international development cooperation
- 第4回~第6回: Major issues (Part 1: Theory)
- 第7回~第9回: Major issues (Part 2: Practice)
- 第10回~第12回: Major issues (Part 3: Actor)
- 第13回: Prospects of international development cooperation

Message to those taking this Course:

Active participation in class discussions is required.

Grading Methods:

Some short essays are requested to be submitted during the course. Evaluation will be made, based on the final report (five pages of A4 size) submitted at the end of the course, with the following criteria: originality; logic; and persuasiveness.

Questions, Requests:

Should you have any inquiries, feel free to contact with the following address:<k-goto@i.hosei.ac.jp>

現代インド事情
INDIA TODAY

西村祐子

Yuko Nishimura

セツ, アフターブ

Aftab Seth

国際センター講師 (駒澤大学教授)

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Professor, Keio University Global Security Research Center

(秋学期)(Fall)

Sub Title:

The Indian Middle Class : Where are they from and where are they going ?

Course Description:

This course is aimed at describing India through the eye of 'the middle class': In this course, participants will learn where India's new middle class come from, how they are different from the 'traditional middle class'. How globalization influences Indian new middle class, etc. We will study caste, class, kinship, and gender from the post-modern perspective. We will learn the cultural difference between the North and the South, similarities and differences between Indian middle class and other Asian counterparts. We will also cover issues surrounding 'dowry' problems in India. We will discuss these issues in the class and students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will also focus on understanding the modernity and Asia.

Textbooks:

Appadurai, A. 1996 Modernity at Large, Univ. of Minnesota Press.

Das, G. 2002 India Unbound, Oxford Univ. Press. (In the class, a few websites will be also suggested).

Reference Books:

J. Nehru 1946 The Discovery of India, Oxford Univ. Press.

Varma, P. 1996 The Great Indian Middle Class, Penguin Books.

Y. Nishimura 1998 Gender, Kinship, and Womanhood in South India, Oxford Univ. Press.

Breckenridge, C. 1995 Consuming Modernity, Univ. of Minnesota.

Robinson, R. & Goodman, D. 1996 The New Rich in Asia, Routledge.

Class Schedule per week (The order of topics may change):

Each class will have 60-minute-lecture and 30-minute-discussion.

1. Introduction to India Today: What is Modernity ?
2. British Raj and the appearance of India's middle class.
3. Brahma Samaj and Arya Samaj: the West and the Other
4. Emergence of the Independence Movement and the Middle Class: What is the Congress ?
5. The Middle Class in Power: Industrialization and India
6. Kinship and Marriage: What is Kulinism ? Emergence of 'Dowry'
7. Family Law and Gender : Property Rights, Dowry, and Marriage in Post colonial India
8. Shar Bano and Nisha Sharma : Women, property rights, Marriage, and Divorce.
9. Migrating Indians: Case Study of Kerala.
10. Economic Liberation and the 'New Middle class' : who are they ?
11. The Middle Class women vs. Working Class Women: what is the difference ?
12. Modernity and the New Middle Class in Asia: People and Migration.
13. Epilogue: Globalization and the Indians : Can the New Middle Class save India ?

Message to those taking this Course:

You will be asked to do three short reports during the session (about 1000 words each), and a 3000 word final report at the end of the course. You may participate in a trip to South India in mid Feb. for 2 weeks (this is not part of the course work and is completely optional).

Grading Methods:

Reports (60%)

Attendance, Participasion (40%)

Questions, Requests:

Please ask questions during the discussion. Or if you have further questions, you may email: yukon@b1b2.org (you must mention your name and student ID in the subject column. Otherwise, my 'spam' filter may delete your message before I see it).

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS

(秋学期)(Fall)

嘉治 佐保子

経済学部教授

Kaji, Sahoko

Professor, Faculty of Economics

林 秀毅

経済学部非常勤講師

Hayashi, Hideki

Part-time Lecturer, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, with emphasis on the economic aspects. Each lecture will be based on different chapters of Gilson (2000) and additional materials as necessary. Powerpoint will be used for exposition. Students are expected to participate actively with questions and comments.

At the end of each lecture, the topic to be discussed the following week will be announced. A set of questions related to that topic will also be given out. Students must write a report on one of the questions and submit it at the beginning of the next lecture. By writing this weekly report, students are to familiarise themselves with the next topic before coming to the lecture.

Text Books:

Julie Gilson, (2000) 'Japan and the European Union. A Partnership for the Twenty-First Century', Palgrave Macmillan, 2000. (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

For lighter reading, students can turn to Kaji, Hama and Rice (1999) "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books.

References:

Kaji, Hama and Rice, "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books, 1999.

Class Schedule (Subject to change):

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)
- Chapter 2 Developing Cooperation 1950s - 80s (2)
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan (3, 4)
- Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan (5, 6)
- Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7, 8)
- Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (9, 10)
- Chapter 7 Addressing Global Agendas (11, 12)
- Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century (13)

Message to Those Taking This Course:

Knowledge of other European languages is welcome, but not essential.

Evaluation:

End-of-term essay (on any related topic), weekly reports, class participation.

Questions and consultation:

Anytime during the class, also by e-mail.

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス，ジョナサン 商学部非常勤講師（一橋大学助教授）

Jonathan Lewis

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses the roles of the states, in promoting and regulating scientific research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students preferences.

Reference Books:

- Mani, S. (2002). Government, innovation, and technology policy: an international comparative analysis. Cheltenham, UK; Northampton, MA, Edward Elger Pub.
- Rogers, E. M. (2003). Diffusion of innovations. New York, Free Press.
- Neufeld, M. J. (1995). The rocket and the reich; Peenemünde and the coming of the ballistic missile era. New York, Free Press.
- Dyson, G. (2001). Project Orion: the true story of the atomic spaceship. New York, Henry Holt and Co.
- McCurdy, H. E. (1990). The space station decision: incremental politics and technological choice. Baltimore, Johns Hopkins University Press.
- Broad, W. J. (1997). The universe below: discovering the secrets of the deep sea. New York, Simon & Schuster.
- 加藤弘一 著 『電腦社会の日本語』文春新書，2000
- Lessig, L. (2004). Free culture: how big media uses technology and the law to lock down culture and control creativity. New York, Penguin Press.
- Weber, S. (2004). The success of open source. Cambridge, MA, Harvard University Press.
- Thomas, D. (2002). Hacker culture. Minneapolis, University of Minnesota Press.
- Etzkowitz, H. (2002). MIT and the rise of entrepreneurial science. London; New York, Routledge.

Class Schedule per week:

1. オリエンテーション
2. 技術政策の概要
3. イノベーションと技術普及論
4. 宇宙ロケットの開発史
5. プロジェクト・オライオン（原子力ロケット）
6. 国際宇宙ステーション
7. 海洋研究
8. 規格の役割。文字コードを例に
9. 著作権制度
10. オープン・ソース・ソフトウェア
11. コンピュータセキュリティ
12. 科学技術政策と大学
13. まとめ

Evaluation:

授業内試験の結果による評価 (in-class examination)

Inquiries:

jonathan_lewis@mac.com

日本研究講座 (Japanese Studies)

異文化コミュニケーション1 日本のコミュニケーションパターンから見た場合

(春学期)(Spring)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra

Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba

An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef

Intercultural communication :a reader (6th edition) by L.A.Samovar & R.E.Peter

Class Schedule:

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. Amae psychology: prototype of Amae and definition of Amae
7. How Amae psychology and an emphasis on Wa gets translated into Japanese communication patterns: Sasshi, Enryo and Honne vs. Tatamae
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of Sunao and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2 and Wrap-up

Message to Those Taking This Course:

You are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

To be based on the combination of Reports and Attendance and Class participation including oral presentation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

英国と米国のマスコミに描かれた日本

(春学期)(Spring)

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

キンモンズ, アール H.

国際センター講師(大正大学教授)

Earl H. Kinmonth

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and

the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

Format:

Lectures supplemented by visual materials including extracts from Hollywood films and contemporary television news coverage. Students who are unsure of their English comprehension should feel free to record the lectures or ask questions in Japanese.

Readings:

No textbook is used. A general bibliography of influential foreign writing on Japan will be distributed. Significant writing pertaining to each topic will be introduced and discussed in the lectures.

Lecture Topics:

Because the instructor encourages student comment and discussion and because topics of special interest may appear in the foreign media during the term, the number of sessions and the specific topic for each session may vary somewhat from the list below.

- 1 Japan ? Who's Japan ? When ? Where ?
- 2 Cool Japan(1) - Japanese Pop Culture in Europe and America
- 3 Cool Japan(2) - Japanese Pop Culture in Europe and America
- 4 Cruel Japan(1) - The Legacy of War in America and Asia
- 5 Cruel Japan(2) -The Legacy of War in America and Asia
- 6 Sick Japan -Japanese Social Problems Seen from Afar
- 7 Concrete Japan - The Japanese Natural Environment
- 8 Gung Ho Japan - Japan as Number One
- 9 Frightening Japan -The Rising Sun Threatens America
- 10 Sexy Japan - Japanese Women and Sex in the Foreign Imagination
- 11 Sneaky Japan(1) - Pearl Harbor and Its Legacy
- 12 Sneaky Japan(2) -Pearl Harbor and Its Legacy
- 13 Japan ? - Where is the Real Japan ?

Grading and Required Work:

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of something foreign. There will be a final examination for the course based on the lectures. In principle the paper (report) and final examination are each weighted fifty percent but in the case of students who miss lectures because of job hunting or those with special language problems, a different weighting may be agreed upon in consultation with the instructor. The examination will be based on the lectures, video materials, and handouts. Students will be free to consult their notes or copies of the handouts during the examination. Electronic and paper dictionaries are also permitted.

Course home page:

<http://www2.gol.com/users/ehk/keio>

Email for the instrukter:

ehk@gol.com or e_kinmonth@mail.tais.ac.jp

源氏物語への道

(春学期)(Spring)

THE TRAIL OF GENJI

アーマー , アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

Written a thousand years ago, *The Tale of Genji* has won international fame as "the world's first novel". Partly because of this distinction, it is apt to be viewed as an isolated phenomenon, almost an aberration. In an attempt to correct such a perspective, this course will trace the roots of this Heian masterpiece, introducing the major extant works that preceded it. The focus is on literature, but political and cultural developments will also be covered in order to throw light on the historical background and mental atmosphere of the period.

Text Books:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/genji.htm).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;

4. Appreciate the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Message to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is an advantage.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

日本の経営

(春学期)(Spring)

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

梅津光弘

商学部助教授

Mitsuhiro Umezu

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

Recommended Reading:

TBA

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

Message to Those Taking This Course:

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

Evaluation:

Mid-Term Examination (TBA) 30%, Final Exam/ Project (TBA) 40%, Class Participation 20%, Home work 10%

手塚千鶴子
Chizuko Tezuka

国際センター教授
Professor, International Center

Sub title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

Text Book:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohren, and Patricia G. Steinhoff, University of Hawaii Press, 1990.

Japanese Culture and Society: model of interpretation edited by Kreiner and Olscheleger, Monographien 12, Deutschen Institute fur Japanstudien der Philipp-Franz-von-Siebold-Stiftung, 1996.

Das Wesen von Naikan: the essence of NAIKAN 内観の本質 edited by Prof. Akira Ishii/Shaku Yoko JOseh Hartl (Hrsg.), altes Wissen, neue Wege, 2000. (a book in German, English and Japanese)

Class schedule:

1. Orientation and test-taking on conflict management style
2. Harmony Model vs. Conflict Model of Japanese Society and orientation to writing conflict episode journal
3. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools 1
4. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools 2
5. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: *Karoushi* and *Gaman*
6. Japanese cultural values underlying non-confrontational strategies
7. How Japanese express anger
8. Cross cultural comparison of conflict management between U.S.A. and Japan
9. A case study of intercultural conflict around the *Ehimemaru* incident
10. Intercultural conflicts between Japanese teachers and int'l students
11. Japanese conflict management seen from a perspective of a bicultural writer, Kyouko Mori.
12. How to make use of anger creatively
13. Wrap-up session

Messages to those students taking this course:

Students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

Evaluation:

To be based on the combination of reports, attendance, and participation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

ドーシー, ジェームス
James Dorsey

国際センター講師(ダートマス大学助教授)
Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth College)

Sub Title:

Japanese Writers, Poets, Artists, Filmmakers and Cartoonists Under the Wartime State

Course Description:

The course will examine a variety of cultural artefacts (essays, short stories, novels, films, comics, etc) produced in Japan during the 1930s and 1940s and related, either directly or indirectly to the wars first in China and later in the Pacific. The course will focus on discovering the workings of, and relationship between, propaganda, nationalism, imperialism, colonialism, censorship, interpretive strategies, and the creative imagination.

Text Books:

- John W. Dower, *War Without Mercy: Race & Power in the Pacific War* (New York: Pantheon Books, 1986), 2000円.
- Samuel Hideo Yamashita, *Leaves from an Autumn of Emergencies: Selections from the Wartime Diaries of Ordinary Japanese* (Honolulu: University of Hawaii Press, 2005), 2500円.
- Ishikawa Tatsuz, *Soldiers Alive*, trans by Zeljko Cipris (Honolulu: University of Hawaii Press, 2003), 2500円.
- Handouts

Class Schedule per week:

- COURSE INTRODUCTION
Instructor & student introductions, course expectations, grading policy, etc.
FIRST IMPRESSIONS
Students react to painting by Fujita Tsugeharu, poem by Takamura Kotaro, short story excerpt from Dazai Osamu
- THE LIBERAL ROOTS OF THE RADICAL RIGHT (1920s)
Students read Nakano Shigeharu, “The House in the Village”
Lecture on Kobayashi Takiji, Hayashi Fusao, and the “tenko” (conversion) movement.
- “HOME IS WHERE THE HEART IS” (1930s)
Students read Kobayashi Hideo, “Literature of the Lost Home”
Lecture on the “furusato” boom and reactions to modernity in the works of Kawabata Yasunari and Sakaguchi Ango
- THE DELICATE DANCE OF WRITERS AND THE STATE (2 sessions)
Students read Ishikawa Tatsuzo, *Soldiers Alive*
Lecture on censorship and comparison with Hino Ashihei’s “Soldier Trilogy”
- “THE EMPIRE IS MUSIC TO MY EARS”: A GRAMMAR OF *GUNKA*
Students read Ishikawa Jun, “Mars’ Song”
In class we listen to various *gunka* (military songs); lecture on the role of music and composers in representing the state.
- “PURE AND SIMPLE”: PROPAGANDA THEMES AND VENUES (2 sessions)
Students read John Dower, *War Without Mercy*
Lecture on themes in, and function of propaganda; comparison with Barak Kushner, *The Thought War: Japanese Imperial Propaganda*.
- “THIS IS NO LAUGHING MATTER—OR IS IT ?”: CARTOONISTS AND THE WAR
Students read Sodei Rinjiro, “The Double Conversion of a Cartoonist: The Case of Kato Etsuro”
Lecture on the evolution of Tagawa Suiho, *Stray Blackie* (田河水泡 / 「のらくろ」) and the role of manga in normalizing the war.
- THE EVERYDAY AND THE EXTRAORDINARY: WARTIME DIARIES
Students read Yamashita, *An Autumn of Emergencies*
Lecture on everyday life in wartime Japan, comparison of writer and average citizen diaries
- RECYCLED HEROES
Students read excerpts from Yoshikawa Eiji, *Miyamoto Musashi*
In class watch clips of wartime film version of Mizoguchi’s *Genroku Chushingura*; lecture on the heroes appearing in wartime propaganda.
- THE “NINE GODS OF WAR” IN FICTION, FILM, AND JOURNALISM
Students read Sakaguchi Ango, “Pearls” and Dorsey, “Literary Tropes, Rhetorical Looping, and the Nine Gods of War: ‘Fascist Proclivities’ Made Real”
In class watch clips from Tasaka Tomosaka, *The Navy*; lecture on the Nine Gods of War phenomenon.
- SUMMARY: CREATIVITY IN A TIME OF WAR

Message to those taking this Course:

War, suicide bombers, propaganda, surprise attacks, nationalism, the West vs. the non-West. These are all very much a part of our world today, and they were very much a part of it in the 1930s and 1940s. All students willing to explore and discuss these issues in the context of Japan’s modern history are welcome. A field trip to the Yasukuni Shrine and museum will be part of the course.

Grading Methods:

1. Reports (2 two-page responses for 25%; 1 eight-page essay for 40%)
2. Attendance, Participation 35%

 近代日本の対外交流史

(秋学期) (Fall)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Textbooks:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures): General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures): the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
4. Japanese Visits Abroad (2 lectures): the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways)
5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
7. The significance of the Iwakura Mission (1 ~ 2 lectures)
8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures): comparative analysis of several primary sources
Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

異文化コミュニケーション2 異文化接触における日本人のアイデンティティ

(秋学期)(Fall)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Tsuda Umeko and Women's Education in Japan by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.

Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.

Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed.by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.

Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.

Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray

Course schedule:

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late Edo Period
3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment1: culture as mental software, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue

back in Japan

12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period:
13. Wrap-up: Challenge for both Japanese and non-Japanese in the globalizing world

Messages to students:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion.

Evaluation:

To be based on combination of Reports and Attendance and Class Participation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

日本キリスト教史

(秋学期)(Fall)

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

ポールハチエット , ヘレン 経済学部教授

Helen Ballhatchet Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

Recommended Reading:

There will be a selection of assigned readings for each class. Students will find it useful to start the course with a basic knowledge of Japanese history, Japanese religion, and Christianity. All suggestions for reading will be displayed on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

Class Schedule (Subject to change) :

1. Orientation and overview: Religion and history
2. The view from the present: Religion in Japan and images of Christianity
3. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (1) The background and the initial encounter
4. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (2) Missionary approaches to the Japanese
5. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (3) Japanese approaches to Christianity
6. Tokugawa Japan (1600-1868): (1) Government policies towards Christianity
7. Tokugawa Japan (1600-1868): (2) Christianity underground
8. Early Meiji Japan (1868-1888): Christianity and Western civilization
9. From mid-Meiji to the end of World War II (1889-1945): (1) Christianity and the dilemma of patriotism
10. From mid-Meiji to the end of World War II (1889-1945): (2) Christianity in a Japanese context
11. The second half of the twentieth century: (1) Christianity and Japanese democracy
12. The second half of the twentieth century: (2) Christianity in a Japanese context
13. Concluding remarks: Religion and history revisited

Message to those taking this Course:

I hope to attract students from a variety of backgrounds. This is because the course will gain from the combined viewpoints of people from areas which have sent Christianity missionaries to Japan, such as Portugal and the United States, and of people from areas which have played host to Christian missionaries, both in Asia (including Japan itself) and elsewhere.

I will expect students to attend all classes, on time, to do the assigned readings, and to participate in class presentations and discussions. Sessions will be organised into a combination of formal lectures and interactive seminars.

Grading Methods:

1. Oral presentations (30%)
2. Reports (At least one short and one long) (50%)
3. Attendance and Participation (20%)

Questions, Requests:

Students wishing to ask a question or arrange an appointment should talk to me before or after classes, or send an e-mail. My e-mail address is given on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

多民族社会としての日本

(秋学期)(Fall)

MULTIETHNIC JAPAN

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous ?
3. Theories of ethnic relations
4. Zainichi Koreans: past and present
5. Zainichi Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary — Rethinking Japanese society

Message to Those Taking This Course:

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

Evaluation:

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (20%), presentations (20%), and reading/writing assignments including a short essay and a term paper of 1,800+words (60%).

政策決定，歴史的記憶，人種から見る明治期日本外交

(秋学期)(Fall)

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA:DECISION-MAKING, HISTORICAL MEMORY AND RACE

飯倉 章

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Akira Iikura

Lecturer, International Center(Professor, Josai International University)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

Text Books:

No textbook will be used. Handouts will be given as reading assignments.

Reference Books:

Recommended readings will be suggested in the course of the lecture.

Class Schedule per week:

1. Introduction to the course and decision-makers in the Meiji era
2. The trauma of Japanese diplomacy: unequal treaties, the triple intervention and the Portsmouth treaty
3. The Yellow Peril and its influence on Japanese foreign relations

4. The Anglo-Japanese alliance and the question of race
5. The lessons of the Anglo-Japanese alliance: Is an alliance with an “Anglo-Saxon” state reliable ?
6. Was the war evadable or inevitable?: perception and misperception of Japanese decision-makers before the Russo-Japanese war
7. The Russo-Japanese war as an icon in historical memory
8. Wrong lessons from the “success” of the war and the “defeat” in diplomacy
9. Explaining the Russo-Japanese war through the application of Graham Allison’s decision-making theories
10. The changing views of Japan during the Russo-Japanese war: Japan from protégé to world power
11. The wars and leaders in the Meiji era that live in Japanese culture

Message to those taking this Course:

The lecturer will put special emphasis on the Russo-Japanese war of 1904–05 by showing some new scholarly works, popular history and commemorative articles on the war that appear mainly during the years 2004 and 2005, the hundredth anniversary of the war. The lecturer will illustrate the lecture by using slides and videotapes.

Grading Methods:

A short term paper on one of designated questions and a final essay will be assigned. Attendance and class participation will be particularly important.

日本の文学

(秋学期)(Fall)

JAPANESE LITERATURE

アーマー , アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

Texts:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/jlit.htm).

References:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Appreciate the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Messages to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is an advantage.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student’s research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student’s responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION: COMPARATIVE READINGS

レイサイド, ジェイムス 法学部教授

James Raeside Professor, Faculty of Law

Course Description:

In these classes we will attempt to elucidate something of the distinctive nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different literary traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story—and perhaps into literature as a whole.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by a Western writer. The texts chosen will be relatively short, wherever possible complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translation, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion. Those who do not feel their English ability is adequate to reading several pages of English each week should not take this class.

The texts will be read in roughly chronological order, starting the first decade of the 20th century and ending with the last.

Text Books:

Since the texts will be taken from various sources **photocopies** will be used. However, given the likely volume of paper, students may be charged at 10 yen per page.

Reference Books:

The Oxford Book of Japanese Short Stories. Ed. Theodore Goossen.

The Showa Anthology: Modern Japanese Short Stories, 1961-1984. Ed Van C Gessel & Tomone Matsumoto.

Weekly Class Schedule:

The following list should be considered provisional, and students are welcome to request inclusion of other authors in whom they are particularly interested. Japanese names are given without macrons.

- Week One: Orientation
- Week Two: Mori Ogai
- Week Three: Nagai Kafu
- Week Four: Muro Saisei
- Week Five: Hayashi Fumiko
- Week Six: Noma Hiroshi
- Week Seven: Ibuse Masuji
- Week Eight: Kawabata Yasunari
- Week Nine: Mishima Yuko
- Week Ten: Tanizaki Junichiro
- Week Eleven: Tsushima Yuko
- Week Twelve: Oe Kenzaburo
- Week Thirteen: Murakami Haruki

Instructors Comments for Prospective Students:

Please take to heart the final comments in the course description regarding the need to read texts in advance.

Grading Method:

Class Participation (Including Attendance) 50%

Final Report (3,000—3,500 words) 50%

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター, デビッド 経済学部助教授

David Notter Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on “modern” family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

Text Books:

Family: The Making of an Idea, an Institution, and a Controversy in American Culture by Betty G. Farrell

Class Schedule per week:

- Class 1: The Emergence of the Modern Family, Part
- Class 2: The Emergence of the Modern Family, Part
- Class 3: Class Discussion: Childhood
- Class 4: The "Invention" of Childhood
- Class 5: Childhood and Parenthood in American History
- Class 6: Class Discussion: Adolescence and Sexuality
- Class 7: Adolescence in Historical Perspective
- Class 8: Sexuality and the Family: 1600-1900
- Class 9: Class Discussion: Marriage
- Class 10: Modern Courtship and the Ideology of Romantic Love
- Class 11: Marriage and Divorce
- Class 12: Class Discussion: Old Age and Generational Relations
- Class 13: The Collapse of the Modern Family

Grading Method:

Evaluation will be based on attendance, participation in formal class discussions, and essays.

国際経営比較：日米企業を中心に

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS

吉田文一

国際センター講師 (産能大学教授)

Fumikazu Yoshida

Lecturer, International Center (Professor, Sanno University)

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the "post-bubble" period in Japan, there is a strong tendency to criticise the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems. Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

Text Books:

No particular textbook will be used.

Reference Books:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

Class Schedule per week (Subject to change):

1. Introduction to the course
2. Multinational Corporations, the main subject of the course
3. Preconditions for Japanese management system
4. Lifetime employment system (1) advantages and disadvantages
5. Lifetime employment system (2) subsystems and international comparison
6. Seniority system
7. Top management and Decision making process
8. Case study of a Japanese company in the USA (video)
9. Discussion based on the above video
10. Corporate philosophy and underlying strategy
11. Current issues of Japanese and American systems (1) employment system
12. Current issues of Japanese and American systems (2) organisation
13. Concluding remarks

Message to those taking this Course:

Students are strongly encouraged to contribute to the class by actively participating in class discussions.

Based upon the lecturer's international management experience, including 12 years of overseas assignments, many cases of international transactions and negotiations will be provided to make this course more realistic, and to broaden students' understanding of global business.

Grading Methods:

Grading will be based on attendance, class participation, and a short term paper.

Course Description :

This course aims to help participants to understand the Japanese economic system with its heavy Government involvement, specific company customs (which seemed to have worked fine during the high growth era), vested interests and social norms/behaviours. The sessions will (A) cover parts of the text book, *'Arthritic Japan'* which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems and some changes the Japanese have been facing recently, (B) involve students with some group discussions/presentations on some themes with additional journal articles, (C) show several illustrative videos and (D) have at least two special one-off guest speakers who will talk about their experiences in dealing with the Japanese bureaucratic approach/regulations/other barriers in the Japanese trade environment (all speeches will be given in English). The lecturer may sometimes explain several concepts/theories from the microeconomics' point of view whenever necessary to make it easy for the non-economics based student to understand the textbook and articles. The articles used in the sessions are most likely to be from *The Economist*, *The Japan Times* and *Japan Spotlight*.

Text Books :

- * some chapters from Edward, J. Lincoln, *Arthritic Japan: the slow pace of economic reform*, Brookings, 2001. (distributed by the lecturer)
(Now available in Japanese translation (translated by the lecturer herself) (Nippon-hyoron-sha, 2004) with the title "*Soredemo-Nippon-wa-Kawarenai*")
- * some parts from David Flath, *The Japanese Economy*, Oxford University Press, 2000.

Reference material :

Additional materials (journal articles) will be provided and documentary videos will be shown and discussed.

Class Schedule per week :

These are indicative, and may be changed dependent on (A) the availability of guest-speakers and their proposed subject matter and (B) matters of current Japanese and international interest:

1. overview and announcements (video session included)
2. introduction to the postwar system (video session and summary of chapter 2 of *Arthritic Japan*)
3. horizontal Keiretsu and corporate governance issues (presentation/discussion or a guest speaker)
4. vertical Keiretsu and other forms of vertical controls (presentation/discussion included)
5. labour markets (presentation/discussion included)
6. video session on a typical "Japanese corporate culture"
7. education issues (video and/or discussion)
8. 'industrial policy' and protectionism (discussion included)
9. a guest speaker on Japanese regulations/government interventions
10. Japanese government (both central and local and the relationship between them)
11. rent-seeking mechanisms and political overview (video included)
12. a guest speaker on the subject of entering the Japanese market
13. pressure for changes and current structural reform topics

Message to those taking this Course :

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give the students copies of journal articles as supplementary materials. The students will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles or the videos shown in the lectures. There will be an end-of-term essay to submit.

Grading Methods :

1. Reports (essays)
2. student presentations
3. attendance (minimum requirement for attending at least 8 sessions)

Questions, Requests :

Lecturer's email : noriko @fbc.keio.ac.jp

Sub title:

'Amae' Reconsidered

Course description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology ?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae needs* is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

The Anatomy of Dependence by Takeo Doi, Kodansha International, .1973.

The Anatomy of Self by Takeo Doi, Kodansha International, 1986.

Dependency and Japanese Socialization by Frank A. Johnson, New York University Press, 1993.

Course schedule:

1. Orientation to the course and the drawing task of "my relationship with my mother in my childhood"
2. Multiple definitions of *Amae*
3. Understanding *Amae* through visual images: comparison of 'Peanuts' and 'Doraemon'
4. Healthy *Amae* Interaction: mutuality and reciprocity in Japanese social relationships
5. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese companies
6. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through empirical research
7. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through children's drawings of meals and HTP test
8. Cross cultural empirical research on *Amae*
9. An American expatriate's response to *Amae* interaction in Japan
10. *Amae* in cross cultural counseling cases in Japan ..
11. Functions of healthy *Amae*: social support ?
12. *Amae* and Aggression from cross cultural perspectives
13. What do foreigners gain by learning about the concept of *Amae* contribute to peoples and wrap-up session.

Messages to those students taking this course:

Students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

Grading methods:

To be based on the combination of reports, attendance, and participation

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

美術を「よむ」 日本美術史入門

(秋学期)(Fall)

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

河合正朝

文学部教授

Masatomo Kawai

Professor, Faculty of Letters

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing the modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

Readings:

There are no textbooks for the course. A *Source Book* containing all required readings for the course will be available for purchase.

Course Schedule:

1. Introduction: Overview of the Course
2. Constructing "Japanese Art"
READING: Christine Guth, "From Temple to Tearoom," in *Art, Tea, and Industry* (1993).
3. From Edo to Meiji

READING: Ellen Conant, "Tradition in Transition, 1868-1890," in *Nihonga* (1995).

4. Okakura Kakuzō and the Aesthetic Ideology of Asia

READING: Excerpts from Okakura Kakuzō, *The Ideals of the East* (1903)

5. Body and the Nude

READING: Norman Bryson, "Westernizing Bodies: Women, Art, and Power in Meiji *Yōga*," in *Gender and Power* (2003).

6. Urban Spectacle and the Modernist Vision

READING: Miriam Silverberg, "The Modern Girls as Militant," in *Recreating Japanese Women* (1991).

7. The Colonial Gaze: Representing Otherness in Imperial Japan

READING: Kim Hyeshin, "Images of Women in National Art Exhibitions during the Korean Colonial Period," in *Gender and Power* (2003)

8. Visual Culture of Wartime and Occupied Japan

9. Action and Expression: the Gutai Association

READING: Sinichiro Osaki, "Body and Place: Action in Postwar Art in Japan," in *Out of Actions* (1998).

10. "Anti-Art" in the 60s

READING: Alexandra Munroe, "Morphology of Revenge: The Yomiuri Independent Artists and Social Protest Tendencies in the 1960s," in *Japanese Art After 1945* (1994).

11. The Postwar Unconscious: Performance and Photography

READING: Susan Klein, "The Butō Aesthetic and a Selection of Techniques," in *Ankoku Butō* (1988).

12. Architecture and the Public Space

READING: Kenneth Frampton, "Twilight Gloom to Self-Enclosed Modernity: Five Japanese Architects," in *Tokyo: Form and Spirit* (1986).

13. Image in the Age of Digital Manipulation: the 90s and beyond

READING: Norman Bryson, "Morimura: 3 READINGS," in *Morimura Yasumasa* (1996)

Bibliography:

Bibliography will be distributed on the first day of instruction.

Requirements:

1. Two short papers (4-5 double-spaced pages) based on museum visits
2. One group field trip to a museum in the area to take place on the weekend
3. Regular attendance and active participation in class discussion

Grading Methods:

The student's performance in the course will be evaluated primarily based on the two short paper assignments. Regular attendance is also mandatory, and active participation in class discussion will also be reflected in the final grade.

日本の宗教：救済の探求

(秋学期)(Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー , アンドロイ 文学部助教授

Andrei Nakortchevski Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as "Religions in Japan" and not as "Japanese Religions." Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion — Shinto and maybe some eclectic so called "new religions", and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities — art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle — "In Search of Salvation." Especially this aspect becomes important when we deliberate "new religions", including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

Class Schedule:

1. Introduction
2. Shinto
3. Visiting a Shinto shrine
4. Buddhism in general
5. Heian Buddhism: Tendai and Shingon Schools
6. Visiting a Shinto school temple
7. Kamakura Buddhism: Zen and Pure Land Schools

8. Visiting a Pure Land school temple
9. Tokugawa period: Confucianism and formation of the national religion
10. Visiting a Confucian shrine
11. New Religions
12. Visiting a shrine

Grading methods:

Report and participation

日本経済の展望

(秋学期) (Fall)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 (上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Books:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

Class Schedule per week:

1. Introduction
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" *Foreign Affairs*, November/December 1994.
3. Discuss Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press. 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp. 2003.
chapter 3 "Overcoming the dual economy — backward sectors are the key to Japan's revival".
chapter 4 "Overcoming Anorexia — the labours Sisyphus —"
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment
Richard Katz, chapter 9 "Globalization — the Linchpin of Reform-"
chapter 11 "Foreign Direct Investment — A Sea Change —".
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Usen Companies, and Regulatory Inertia." The MIT Press. 1997
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration — The Iceberg Cracks —".
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way out".
Richard Katz, chapter 13 "What is structural reform?" chapter 14 "Financial reform" chapter 15 "Corporate Reform-No competitiveness without more competition".
11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.
Chapter 4. "Mounting Downside Risks: Financial and International"
Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model" in Adam S Posen.

12. Can Japan Compete ?
 Chapter 2. "Challenging the Japanese Government Model"
 Chapter 3. " Rethinking Japanese Management",
 Chapter 5. " How Japan can Move Forward: The Agenda for Government"
 Chapter 6. "Transforming the Japanese Company" Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, "Can Japan Compete ?"
 Macmillan Press Ltd. 2000
 Richard Katz, chapter 16 "Competition policy — Not enough competition, even less policy".
13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 "deregulation and state enterprises — The Moment is Clear, the destination is not."
 Chapter 19. "Tax Reform — Don't Exacerbate Anorexia".

Message to Those Taking This Course:

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.
 High proficiency in English required: TOEFL (PB) 550+ (CB) 213+

Evaluation:

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

ジャパニーズ・エコノミー

(春学期)(Spring)

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through Video and Tapes etc.

Text Books:

METI "White Paper on International Trade," 2004, 2005

Recommended Readings:

"Japan's Policy Trap Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance", by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

"Balance Sheet Recession Japan's Struggle with Uncharted Economics and its global implications", by Richard C. Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

Various reports, working papers by Government, International organizations (IMF, OECD etc.) and by scholars are recommended as needed.

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam

Term report and occasional reports

Active participation to discussion

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月3日(月) 2時限目(10:45~12:15) 516番教室

2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。その際、学生証を提示してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月10日(月) 9:00~16:00

4月11日(火) 9:00~16:00

4月12日(水) 9:00~16:00

場 所：三田学事センター

3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込みをしないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

5 平成18年度開講科目及び受講料

設置講座は受講料が必要です。

平成18年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論	JAVA	12 A	藤村 光	通 年	50	12,000円	4
情報処理応用	統計解析	32 A	鴻巣 努	春学期	30	5,000円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(土)から開始されます。

参考：平成18年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論	C言語によるプログラミング入門	11 A	通 年	100	12,000円	4	
		11 B		50			
情報処理概論	パソコンによる情報整理学	13 A		46			
情報処理概論	JAVA	12 D	藤村 光	春学期	50	6,000円	2
情報処理応用	JAVA	12 E	藤村 光	秋学期	50	6,000円	2
情報処理応用	コンピュータグラフィックス	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(土)から開始されます。

授業科目の内容：

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、および基本的な考え方を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

テキスト：

Webサイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開。適宜更新します。

参考書：

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン、レイアウト、イベントの処理(計3回)
5. クラス変数
6. 四則演算(計2回)
7. 式、演算子、カウンタ、合計計算、最大値・最小値(計2回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. 秋学期のウォーミングアップ
11. 整列、検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理(計3回)
13. マルチスレッドと描画(計4回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング(計2回)
15. 最終演習(計2回)

履修者へのコメント：

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法：

レポートによる評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

fujimura-report@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。48時間以内に返事がない場合は、同一メールを再送してください。

授業科目の内容：

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

参考書：

- ・東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
- ・田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社
- ・室淳子、石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

授業の計画：

- 第1回 統計的手法とは
- 第2回 統計パッケージ (SPSS, SAS, JUSE, EXCEL, S)
- 第3回 SPSS によるデータ処理
- 第4回 SPSS によるデータの視覚化
- 第5回 代表値と確率分布
- 第6回 散布図と相関係数
- 第7回 区間推定
- 第8回 平均値の差の検定、ノンパラメトリック検定
- 第9回 多変量解析の基礎
- 第10回 回帰分析、重回帰分析
- 第11回 主成分分析
- 第12回 因子分析
- 第13回 判別分析

履修者へのコメント：

数学やコンピュータに関する予備知識は特に求めないが、次のような学生の参加を期待する。

- ・卒業論文を書くにあたり、科学的手法を探している。
- ・統計学の基礎は学んだが、それを運用できるまでに至っていない。
- ・多変量解析に興味があるが、どのようなデータにどの手法を使えばよいか分からない。
- ・数学には自信がないが、データを分析することは嫌いではない。

成績評価方法：

平常点および期末レポートによって評価する。

知的資産センター設置講座（平成18年度開講）

1．知的資産センター設置講座にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として1998年11月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとし広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果に対する特許保護から始め、技術の移転、起業の支援と段階的に拡充していく計画です。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化してきました。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一環として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開講しました。

2．設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の1科目を、春学期 三田キャンパスで開講します。

授業時間は水曜日 18:10～19:40、単位は2単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。

3．講義要綱

知的資産概論 知的財産の保護と活用をめぐる課題（ナテグリニド特別講座）（春学期）

コーディネーター 知的資産センター所長（商学部教授） 清水 啓 助

授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。

本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著，慶應義塾大学出版会

「特許がわかる12章」竹田著，ダイヤモンド社

「著作権の考え方」岡本著，岩波新書

授業計画の内容：

1. 知的財産の新たな時代
2. 特許の仕組み
3. 著作権の仕組み
4. 商標ブランドの価値
5. マルチメディアに関する知的財産
6. キャラクタービジネス
7. 音楽に関する著作権問題
8. 企業における知的財産戦略
9. 知的財産に関する世界の動向
10. 知的財産の紛争処理
11. ベンチャー・起業の仕組み
12. 知的財産ビジネス
13. 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

担当教員から履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点およびレポートによる評価

質問・相談：

授業の最後に質問の時間を設けます。